

令和元年度

志木市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和2年3月

目 次

1 調査の概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査期間.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 回収状況.....	1
(5) 報告書の見方.....	1
(6) 調査項目の構成.....	2
2 調査結果の要約.....	3
3 調査結果.....	5
(1) 回答者の基本属性.....	5
(2) 男女平等感について.....	21
(3) 子育てや介護について.....	36
(4) 家事について.....	42
(5) 子どもの教育について.....	62
(6) 就業について.....	64
(7) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について.....	83
(8) 社会参画について.....	85
(9) DV(ドメスティック・バイオレンス)について.....	89
(10) セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)について.....	135
(11) 人権について.....	145
(12) 男女共同参画社会実現のための施策について.....	154
(13) 自由記述.....	174
調査票.....	178

1 調査の概要

(1) 調査の目的

志木市では、「志木市男女共同参画推進条例」及び「志木市男女共同参画基本計画」に基づき、性別にとらわれることなく、能力と個性を生かして共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会の実現」を目指し、各課題に取り組んでいます。

本調査は、令和2年度に策定する第6次の「志木市男女共同参画基本計画」の基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査期間

令和元年10月1日（火）～10月31日（木）

(3) 調査方法

調査地域は市全域としました。また、調査の対象は、市内在住の18歳以上の男女として、無作為に1,000名（男女各500人）を抽出しました。

本調査から対象年齢を18歳からとしています。

なお、調査票は郵送により配布・回収を行いました。

(4) 回収状況

本調査の回収数、回収率は以下の通りです。

配布数	回収数	回収率
1,000 件	389 件	38.9%

(5) 報告書の見方

- ・図表中の「n」は、該当設問における有効回答者総数を表します。
- ・集計表の回答比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。
- ・複数回答の質問は、各々の回答数を回答者数で除した値であり、回答比率の合計が100%になりません。
- ・回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

(6) 調査項目の構成

調査項目の構成は以下の通りです。

1	回答者の基本属性	性別、年齢、居住年数、職業、世帯構成(結婚・子ども)
2	男女平等感について	男女の地位の平等感、性別による固定的役割分担意識
3	子育てや介護について	女性主体の子育てや介護、休業制度
4	家事について	家事の役割分担、男女の生き方、男女別に見た地域活動や社会参画のために必要なこと
5	子どもの教育について	性別によって区別する育て方
6	就業について	女性の就業、現在の就業状況、女性に対する不平等、女性が再就職するために必要なこと、女性自身の管理職等への登用希望
7	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	仕事と家庭の両立に必要なこと
8	社会参画について	市の施策に対する女性の意見の反映度
9	DV(ドメスティック・バイオレンス)について	DVの認知度、DVの加害・被害経験、DVの相談経験、志木市配偶者暴力相談支援センターの認知度
10	セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)について	セクシュアル・ハラスメントの経験
11	人権について	性犯罪やDVなどをなくすために必要なこと、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の認知度、性別等で悩んだ経験、セクシュアル・マイノリティが暮らしやすい社会のために必要なこと
12	男女共同参画社会実現のための施策について	男女共同参画に関する用語の認知度、男女共同参画社会実現のため優先的に実施すべき市の施策

2 調査結果の要約

(1)回答者の基本属性（報告書 5～20 ページ）

- ・回答者の性別の割合は男性 41.4%、女性 57.1%になっています。
- ・回答者の年齢は70歳以上の割合が最も高く 27.5%、次いで40～49歳が18.8%になっています。
- ・パートナーの有無は「結婚している」が最も割合が高く 66.8%となっています。

(2)男女平等感について（報告書 21～35 ページ）

- ・男女の平等感について、最も平等に感じている項目は「家庭の中では」であり、最も不平等に感じている項目は「政治の場では」となっています。性別で見ると、全ての項目で男性の方が平等と感じている割合が高くなっています。また、「家庭の中では」での「平等になっている」と「やや平等になっている」を合わせた値は、男性が 52.8%、女性が 42.4%であり、10%以上の乖離が生じています。
- ・「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そうは思わない」が最も割合が高く 66.8%になっています。平成 26 年度調査と比較すると「そう思う」の割合が減少し、「そうは思わない」の割合が増加しており、性別による固定的役割分担意識に改善の傾向があります。

(3)子育てや介護について（報告書 36～41 ページ）

- ・子育てや介護を女性が主に行っていることが多い現状については、「現実にはやむをえないと思う」が最も割合が高く 62.5%、次いで「おかしいと思う」が 26.7%となっています。平成 26 年度調査と比較すると「現実にはやむをえないと思う」の割合が減少し、「おかしいと思う」の割合が増加しており、性別による固定的役割分担意識に改善の傾向があります。
- ・男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「どちらかといえば取得した方がよい」が最も割合が高く 50.1%、次いで「取得すべきだ」が 32.6%となっています。平成 26 年度調査と比較すると「取得すべきだ」の割合が増加しており、男性の育児・介護への参加を肯定する意識が向上しています。

(4)家事について（報告書 42～61 ページ）

- ・家事、育児、介護をどの程度行っているかについて、「いつもしている」項目を性別で見ると、全ての項目で女性の方が高い割合になっており、特に「洗濯」及び「食事のしたく」では、50%以上の乖離が生じています。
- ・男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくために必要なことについて、「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」が最も割合が高く 54.2%、次いで「男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと」が 31.6%となっています。
- ・女性が就業等の社会参画をしていくために必要なことについて、「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」が最も割合が高く 60.9%、次いで「育児・介護休業制度の一層の普及」が 28.3%となっています。

(5)子どもの教育について（報告書 62～63 ページ）

- ・子育てにおいて「男の子」と「女の子」を区別した方がいいかについては、「男の子と女の子の育て方は区別するべきではない」が最も割合が高く 35.0%、次いで「男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ」が 30.6%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「男の子と女の子の育て方は区別するべきではない」が増加し、「男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ」が減少しており、子どもの育て方において、男女平等の意識が向上しています。

(6)就業について（報告書 64～82 ページ）

- ・女性が職業を持つことについては、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」が最も割合が高く 44.0%、次いで「子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい」が 35.5%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」が増加し、「出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい」が減少しており、女性の就業継続に対する意識が向上しています。
- ・結婚や出産などで退職した女性にとっての再就職しやすい環境づくりについては、「保育所、学童保育などの育児環境の充実」が最も割合が高く 57.6%、次いで「再雇用制度などを改正、充実させる」が 36.0%となっています。

(7)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について (報告書 83～84 ページ)

- ・男女が共に仕事と家庭を両立するために必要なことについては、「男性が家事・子育てなどに積極的に協力する」が最も割合が高く 26.2%、次いで「保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を整える」が 22.9%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「男性が家事・子育てなどに積極的に協力する」及び「労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する」が増加しており、男性の家庭参加や職場での対応に対するニーズが高まっています。

(8)社会参画について (報告書 85～88 ページ)

- ・市の施策における女性の意見や考え方の反映については、「わからない」が最も割合が高く 46.5%、「十分反映されている」「ある程度反映されている」を合わせた割合は 22.3%となっています。

(9)DV(ドメスティック・バイオレンス)について (報告書 89～133 ページ)

- ・パートナーからのDVの有無について、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると「大声でどなられた」の割合が最も高く 20.6%、次いで「何を言っても無視され続けた」が 17.8%となっています。
- ・パートナーから受けた行為についての相談の有無については、「相談した」が最も割合が高く 40.0%、次いで「相談しようと思わなかった」が 39.2%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「相談した」割合が増加し、「相談しようと思わなかった」が減少しています。
- ・「志木市配偶者暴力相談支援センター」の認識については、「知らない、今初めて名前を知った」が最も割合が高く 82.3%となっています。

(10)セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)について (報告書 135～144 ページ)

- ・セクシュアル・ハラスメントを「経験したことがある」は、「体に触れられた」が最も割合が高く 14.9%、次いで「宴会などでお酌や、デュエットなどを強要された」が 13.4%となっています。

(11)人権について (報告書 145～153 ページ)

- ・性犯罪やDV等の行為をなくすために必要なことについては、「法律、制度の制定や見直し」が最も割合が高く 40.6%、次いで「犯罪の取り締まりの強化」が 39.6%となっています。
- ・「セクシュアル・マイノリティ (性的少数者)」という言葉の認識については、「意味を知っている」が最も割合が高く 69.4%となっています。

(12)男女共同参画社会実現のための施策について (報告書 154～173 ページ)

- ・男女共同参画に関する言葉の認識について、「言葉や内容、意味も知っている」では、「男女雇用機会均等法」が最も割合が高く 59.1%、次いで「育児・介護休業法」が 46.8%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「ジェンダー」及び「ワーク・ライフ・バランス」の認知割合が特に増加しています。
- ・「男女共同参画社会の実現」を目指すための施策については、「保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実」が 54.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立支援」が 42.9%となっています。

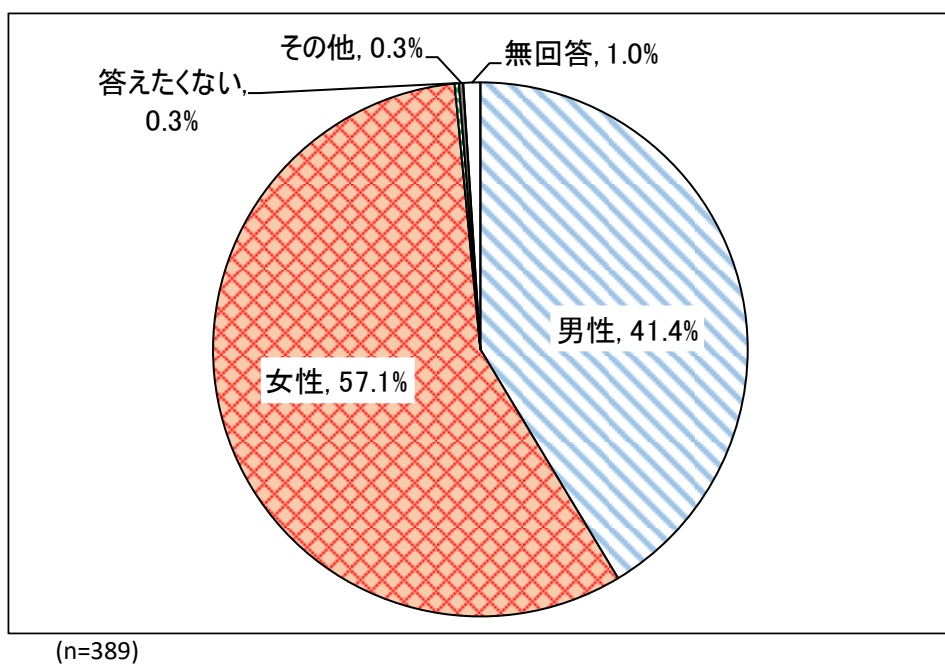
3 調査結果

(1) 回答者の基本属性

問1 あなたの性別をお聞かせください。

1. 男性 2. 女性 3. 答えたくない 4. その他

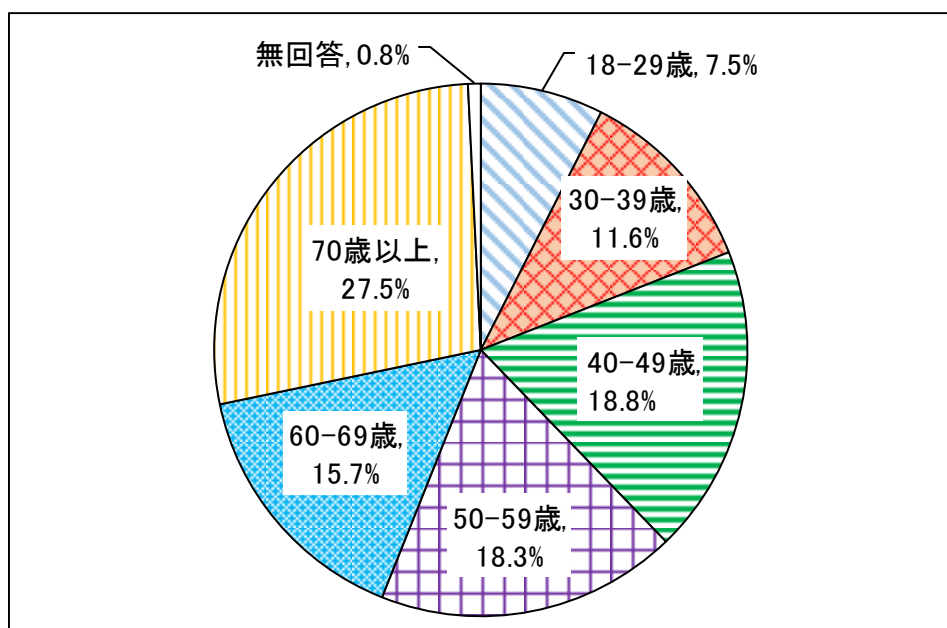
性別は、「男性」が41.4%、「女性」が57.1%となっています。



問2 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 18～29歳 | 4. 50～59歳 |
| 2. 30～39歳 | 5. 60～69歳 |
| 3. 40～49歳 | 6. 70歳以上 |

年齢は、「70歳以上」が最も割合が高く27.5%、次いで「40～49歳」が18.8%となっています。



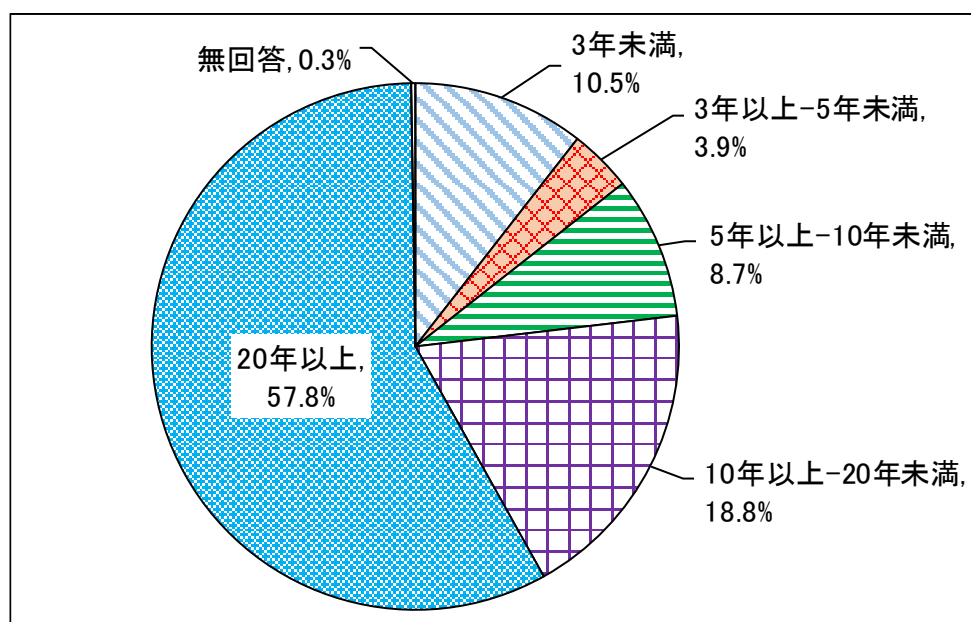
(n=389)

問3 あなたは志木市に何年間住んでいますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 3年未満 | 4. 10年以上～20年未満 |
| 2. 3年以上～5年未満 | 5. 20年以上 |
| 3. 5年以上～10年未満 | |

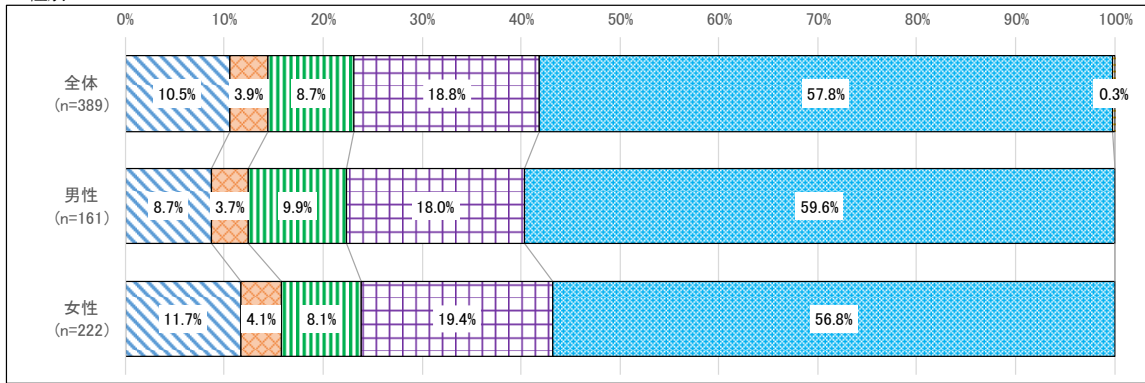
居住期間は、「20 年以上」が最も割合が高く 57.8%、次いで「10 年以上～20 年未満」が 18.8% となっています。

年代別に「20 年以上」の割合を見ると、50 歳未満では各年代で 30%前後ですが、50～59 歳では 64.8%、60～69 歳では 70.5%、70 歳以上では 84.1%となっており、年代が上昇するにつれて転入・転出が少ない傾向がみられます。

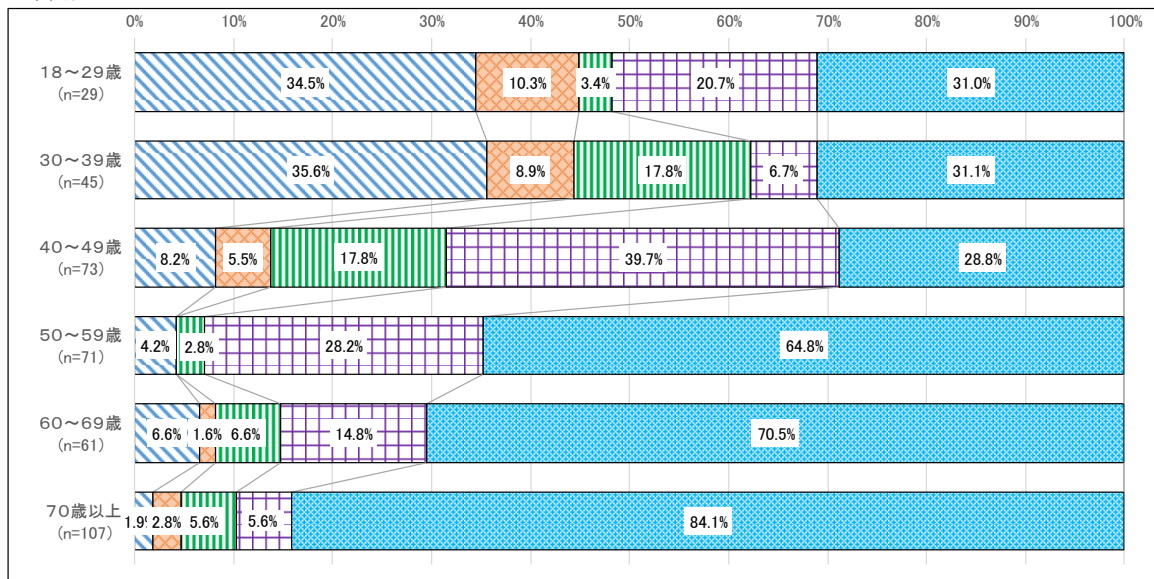


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

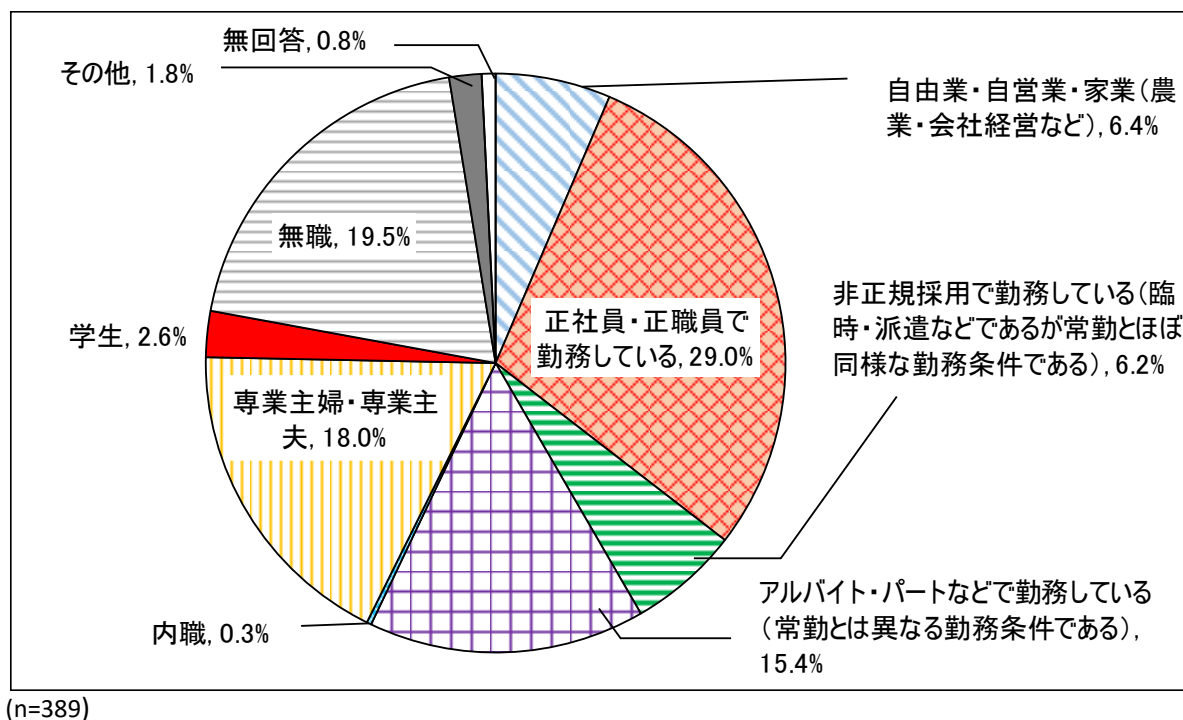
-  3年未満
-  3年以上～5年未満
-  5年以上～10年未満
-  10年以上～20年未満
-  20年以上
-  無回答

問4 あなたの主な職業は次のどれにあたりますか。

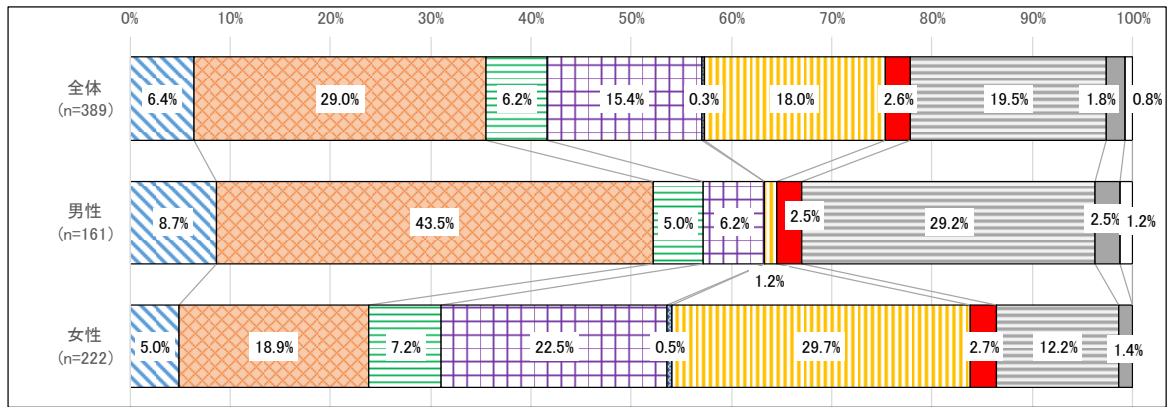
1. 自由業・自営業・家業(農業・会社経営など)
2. 正社員・正職員で勤務している
3. 非正規採用で勤務している(臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である)
4. アルバイト・パートなどで勤務している(常勤とは異なる勤務条件である)
5. 内職
6. 専業主婦・専業主夫
7. 学生
8. 無職
9. その他

職業は、「正社員・正職員で勤務している」が最も割合が高く 29.0%、次いで「専業主婦・専業主夫」が 18.0%となっています。

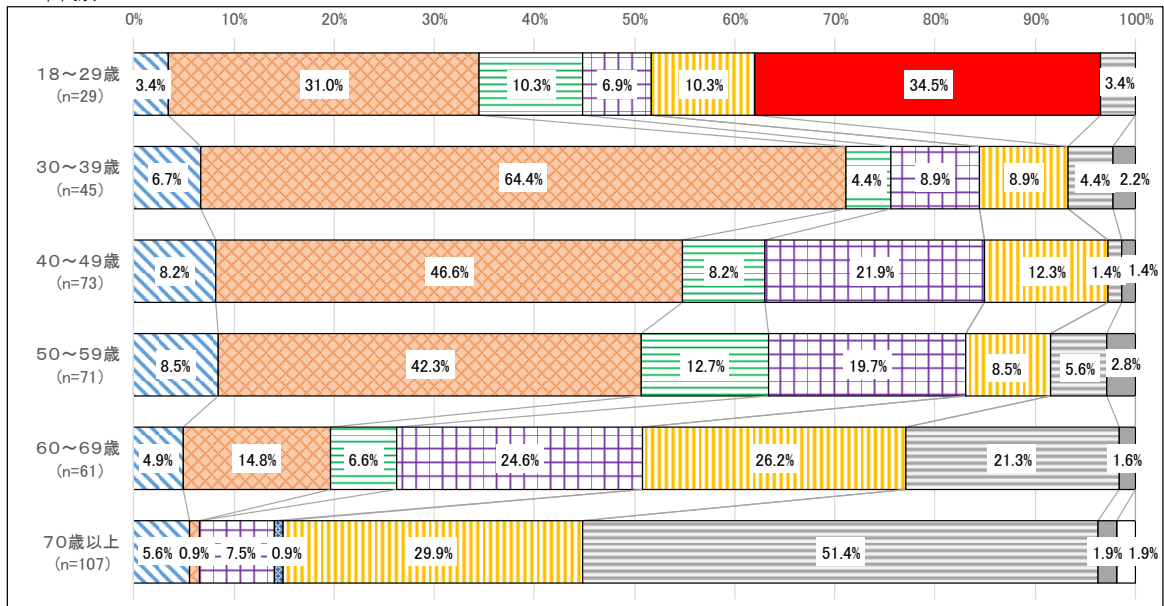
「正社員・正職員で勤務している」割合を性別に見ると、男性が 43.5%、女性が 18.9%となっています。また、「専業主婦・専業主夫」の割合を性別に見ると、男性が 1.2%、女性が 29.7%となっています。



■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

- 自由業・自営業・家業(農業・会社経営など)
- 正社員・正職員で勤務している
- 非正規採用で勤務している(臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である)
- アルバイト・パートなどで勤務している(常勤とは異なる勤務条件である)
- 内職
- 専業主婦・専業主夫
- 学生
- 無職
- その他
- 無回答

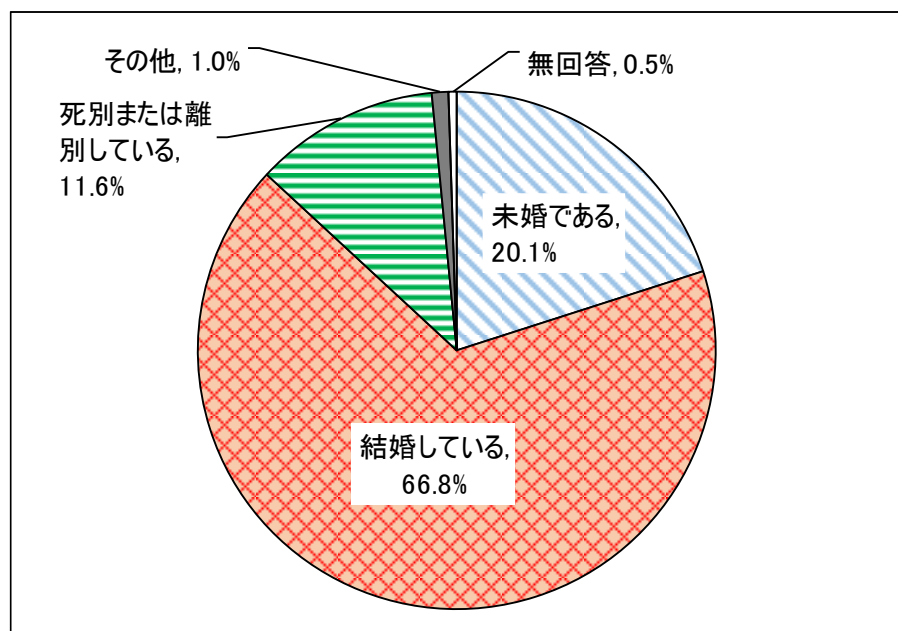
問5 あなたは、現在、結婚(事実婚も含む)していますか。

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 未婚である | 3. 死別または離別している |
| 2. 結婚している | 4. その他 |

パートナーの有無は、「結婚している」が最も割合が高く 66.8%、次いで「未婚である」が 20.1%となっています。

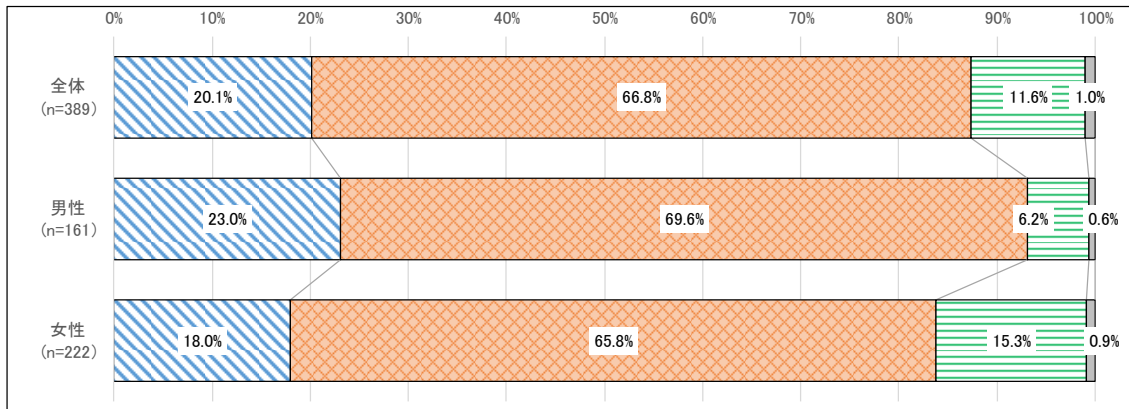
年代別に「未婚である」割合を見ると、18～29 歳の未婚者が 79.3%、30～39 歳の未婚者が 40%と、若年齢での未婚者が多く、子どもの出生数に影響することが懸念されます。

40～49 歳、50～59 歳は、それぞれ 20%前後である一方、60～69 歳は 6.6%であり、60 歳を境にして大きな差異があります。40～59 歳の年代が現在の状態で推移すると、未婚の高齢者が現在よりも多くなると考えられます。高齢夫婦及び高齢単独世帯が多数派になることでの諸問題（まちづくりやコミュニティ等）が懸念されます。

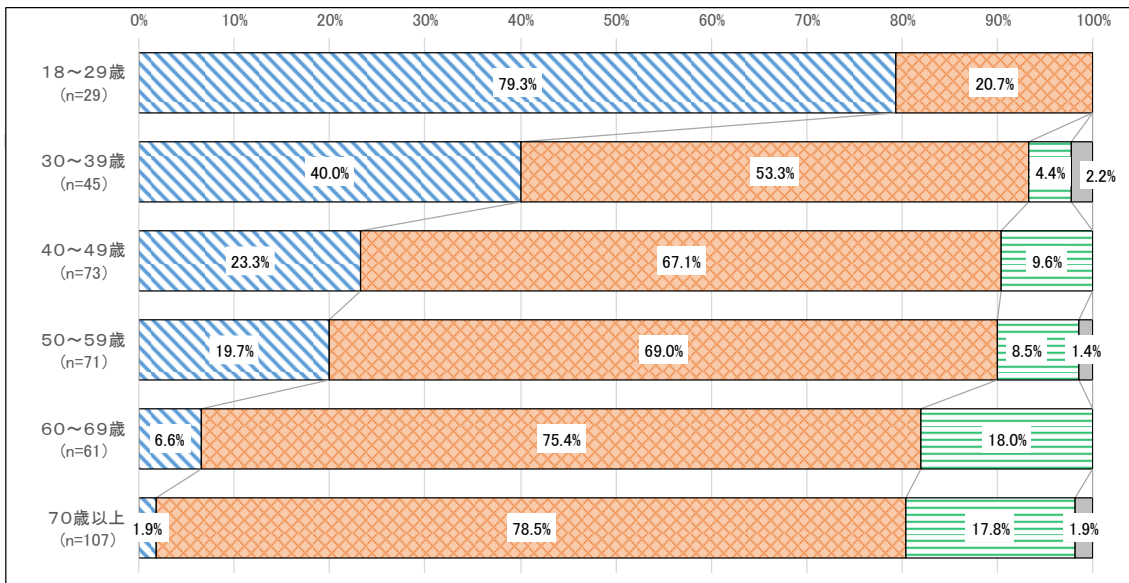


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

-  未婚である
-  結婚している
-  死別または離別している
-  その他
-  無回答

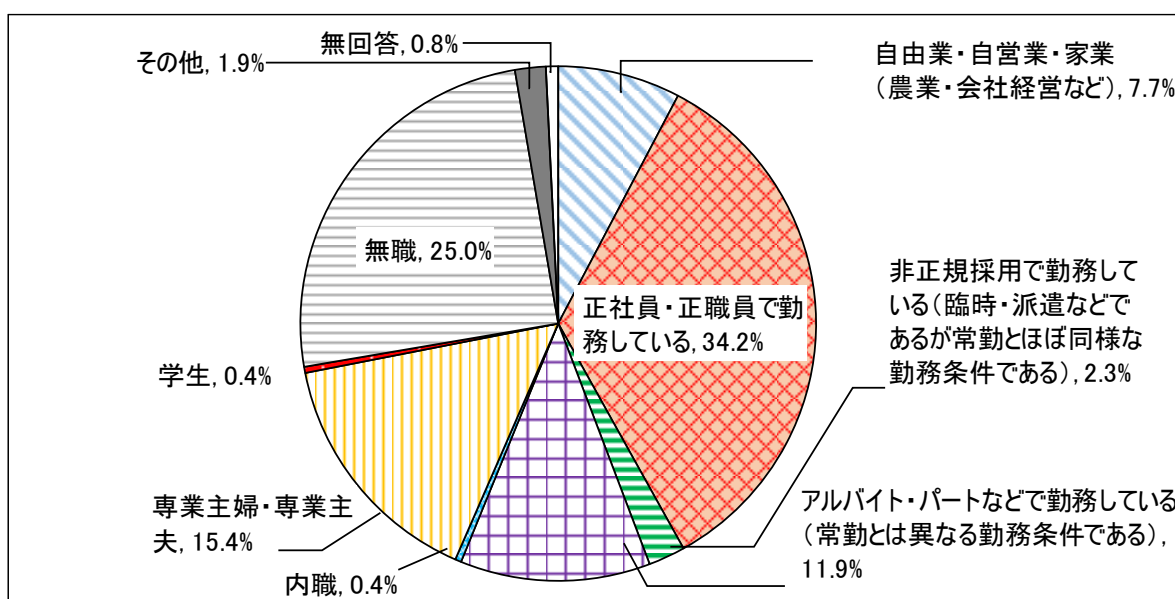
問5－1 問5で「2 結婚している」と答えた方にのみ伺います。あなたのパートナーの職業は次のどれにあたりますか。

1. 自由業・自営業・家業(農業・会社経営など)
2. 正社員・正職員で勤務している
3. 非正規採用で勤務している(臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である)
4. アルバイト・パートなどで勤務している(常勤とは異なる勤務条件である)
5. 内職
6. 専業主婦・専業主夫
7. 学生
8. 無職
9. その他

パートナーの職業は、「正社員・正職員で勤務している」が最も割合が高く 34.2%、次いで「無職」が 25.0%となっています。

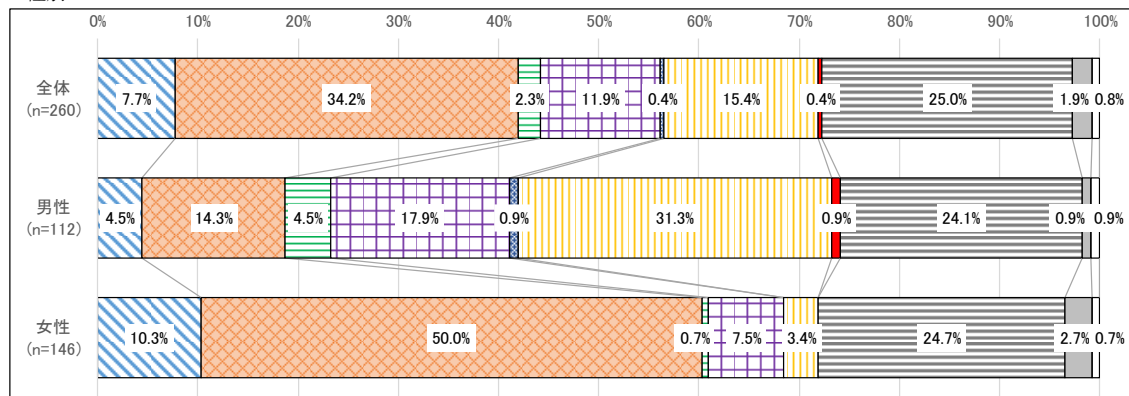
男性のパートナーは「専業主婦・専業主夫」が 31.3%と最も高く、次いで「無職」が 24.1%、「アルバイト・パートなど」が 17.9%の順となっています。

女性のパートナーは「正社員・正職員で勤務している」が 50.0%と最も高く、次いで「無職」が 24.7%、「自由業・自営業・家業」が 10.3%の順となっています。

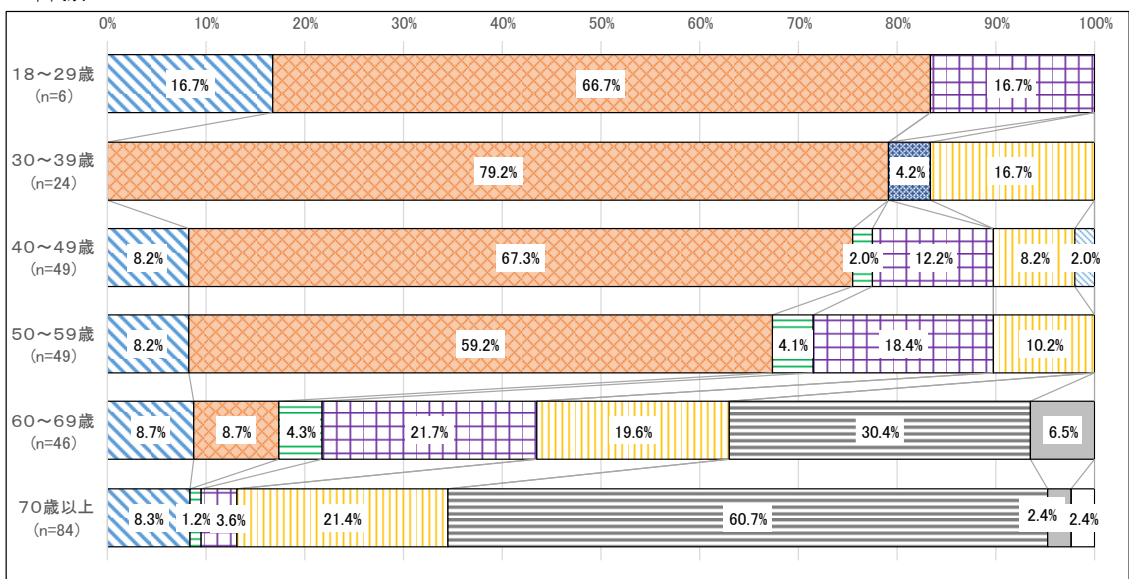


(n=260)

■性別



■年代別



< 凡例 >

自由業・自営業・家業 (農業・会社経営など)

正社員・正職員で勤務している

非正規採用で勤務している (臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である)

アルバイト・パートなどで勤務している (常勤とは異なる勤務条件である)

内職

専業主婦・専業主夫

学生

無職

その他

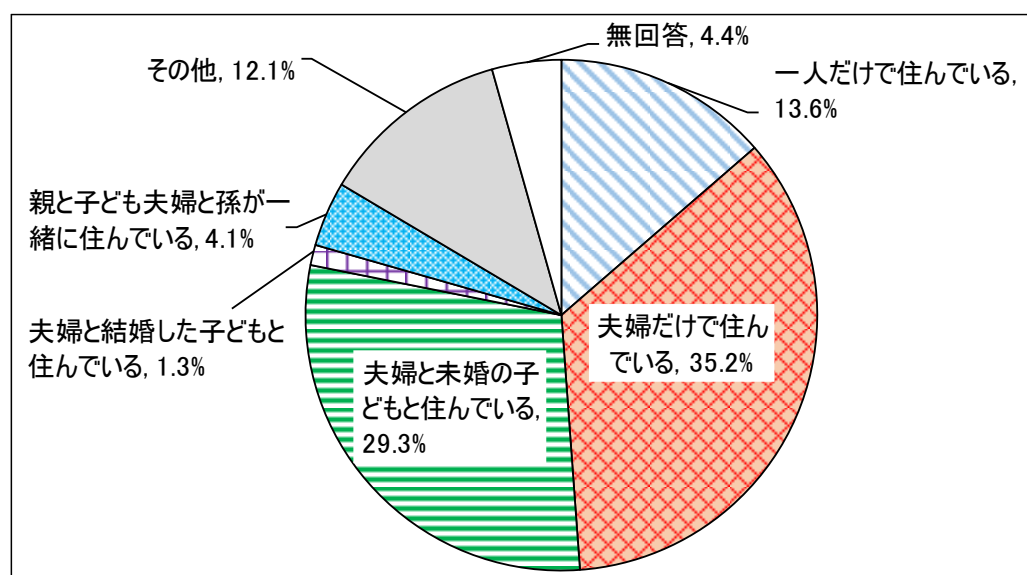
無回答

問6 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の構成は次のどれにあたりますか。

1. 一人だけで住んでいる(単身世帯)
2. 夫婦だけで住んでいる(一世代世帯)
3. 夫婦と未婚の子どもと住んでいる(二世世代世帯)
4. 夫婦と結婚した子どもと住んでいる(二世世代世帯)
5. 親と子ども夫婦と孫と一緒に住んでいる(三世世代世帯)
6. その他

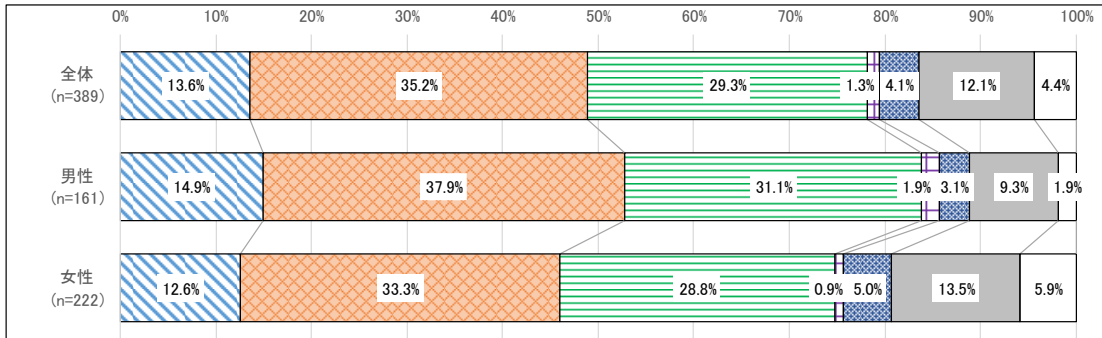
家族構成は、「夫婦だけで住んでいる」が最も割合が高く 35.2%、次いで「夫婦と未婚の子どもと住んでいる」が 29.3%となっています。

年代別に見ると、18～59 歳までは、「夫婦と未婚の子どもと住んでいる」が最も割合が高くなっています。60 歳以上では、「夫婦だけで住んでいる」が最も割合が高くなっています。また、「親と子ども夫婦と孫と一緒に住んでいる」は、50～59 歳において、他の年代と比べて高くなっています。

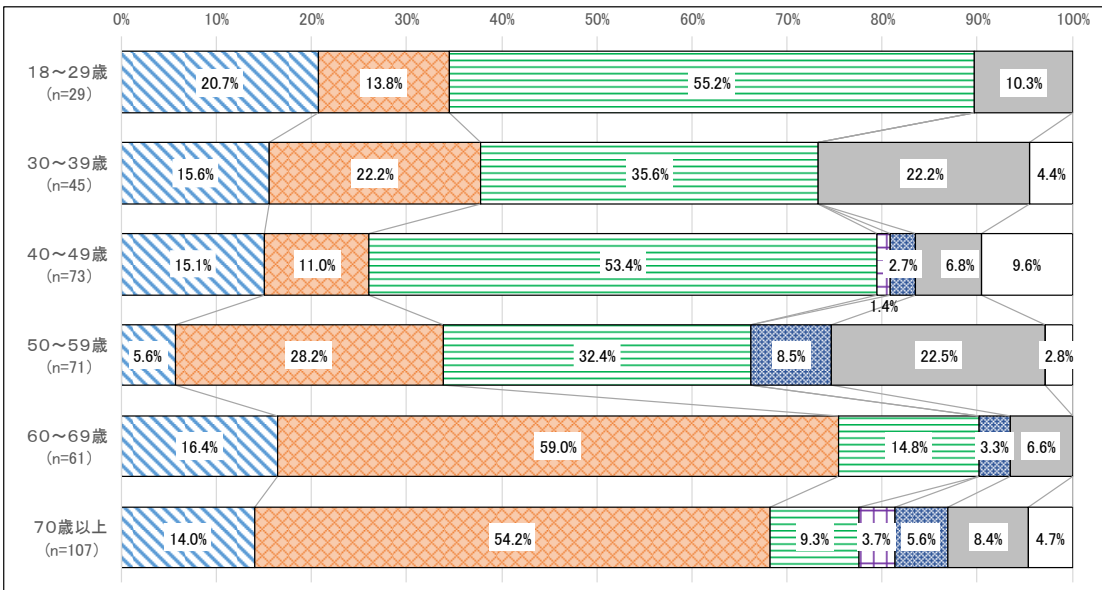


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

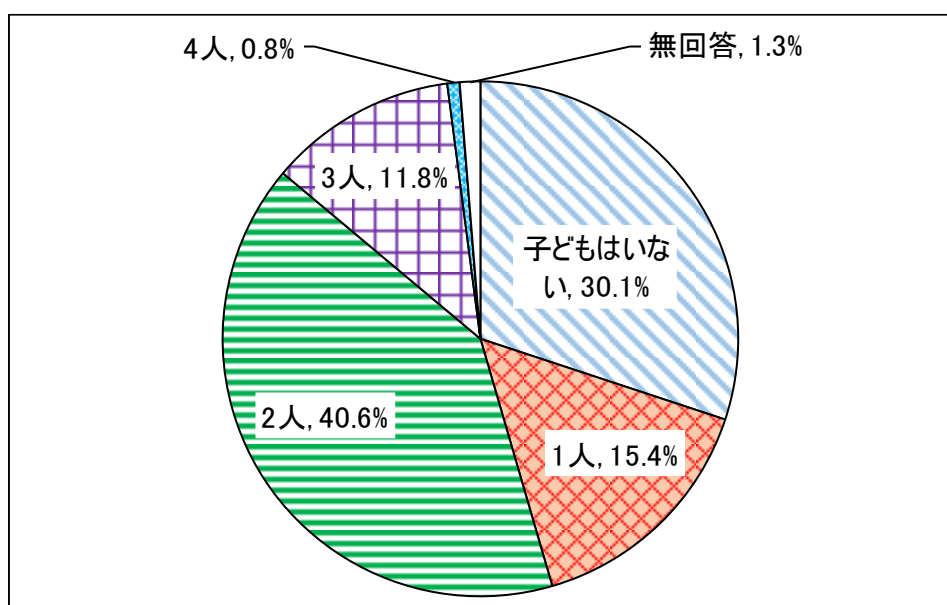
-  一人だけで住んでいる(単身世帯)
-  夫婦だけで住んでいる(一世代世帯)
-  夫婦と未婚の子どもと住んでいる(二世代世帯)
-  夫婦と結婚した子どもと住んでいる(二世代世帯)
-  親と子ども夫婦と孫が一緒に住んでいる(三世代世帯)
-  その他
-  無回答

問7 あなたには子どもが何人いますか(同居、別居を問いません)。

- | | |
|------------|---------|
| 1. 子どもはいない | 5. 4人 |
| 2. 1人 | 6. 5人 |
| 3. 2人 | 7. 6人以上 |
| 4. 3人 | |

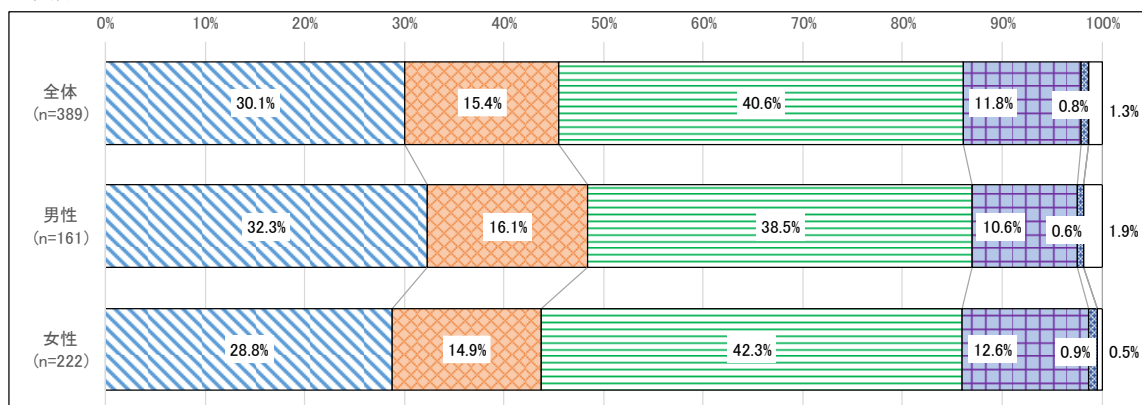
子どもの人数は、「2人」が最も割合が高く 40.6%、次いで「子どもはいない」が 30.1%となっています。

「子どもはいない」割合を年代別に見ると、30～39 歳が 57.8%、40～49 歳が 35.6%となっており、40 歳を境にして子どものいる人が多くなっています。

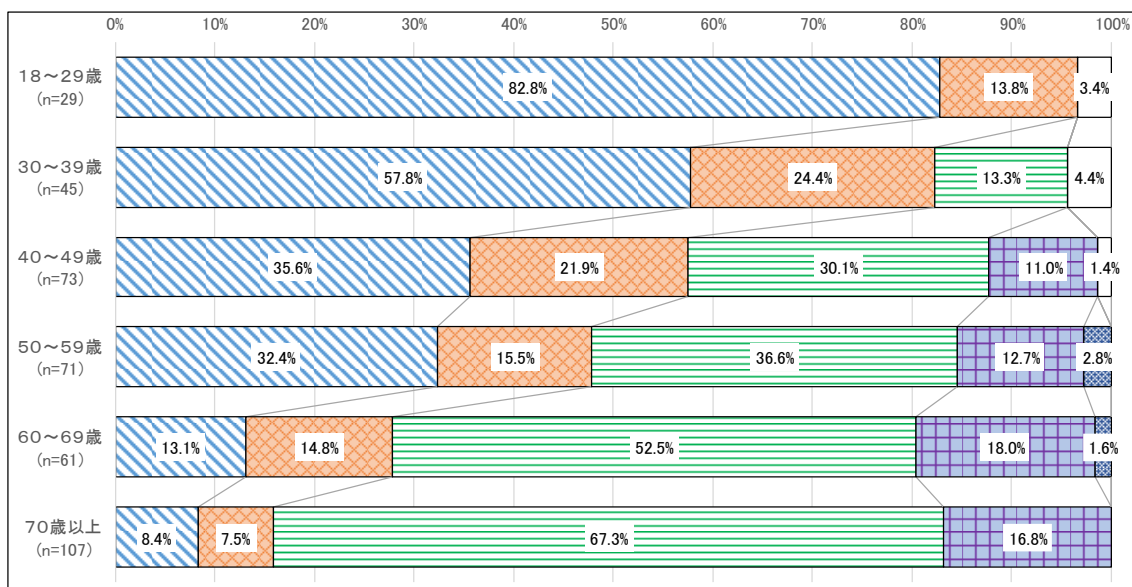


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

斜線 子どもはいない

格子 1人

縦線 2人

格子 3人

点線 4人

縦線 5人

斜線 6人以上

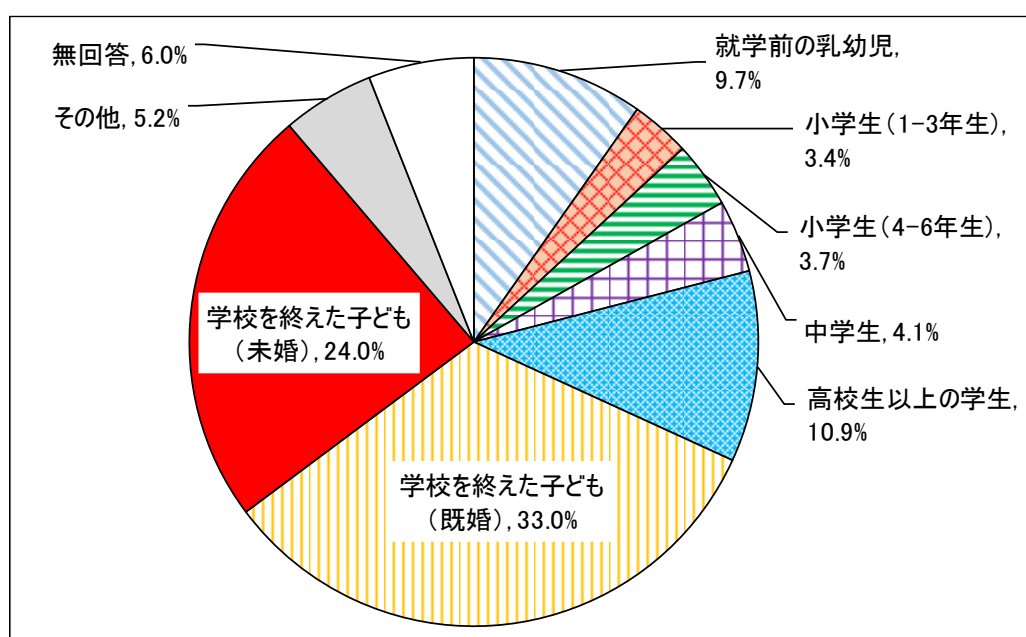
白 無回答

問7ー1 問7で2～7と答えた、子どもがいる方のみにお聞きます。あなたの一番下の子どもは次のどれにあたりますか。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 就学前の乳幼児 | 5. 高校生以上の学生 |
| 2. 小学生(1～3年生) | 6. 学校を終えた子ども(既婚) |
| 3. 小学生(4～6年生) | 7. 学校を終えた子ども(未婚) |
| 4. 中学生 | 8. その他 |

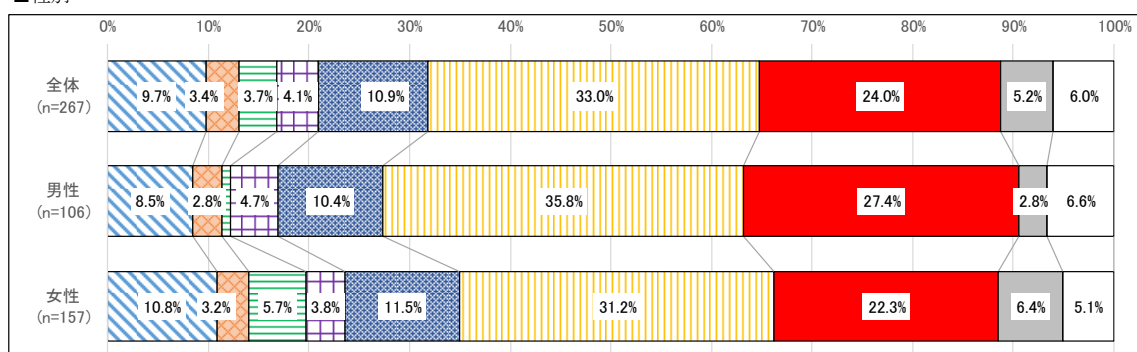
一番下の子どもの年齢は、「学校を終えた子ども(既婚)」が最も割合が高く 33.0%、次いで「学校を終えた子ども(未婚)」が 24.0%となっています。

年代別では、40歳未満で「就学前の乳幼児」が80%以上となっています。

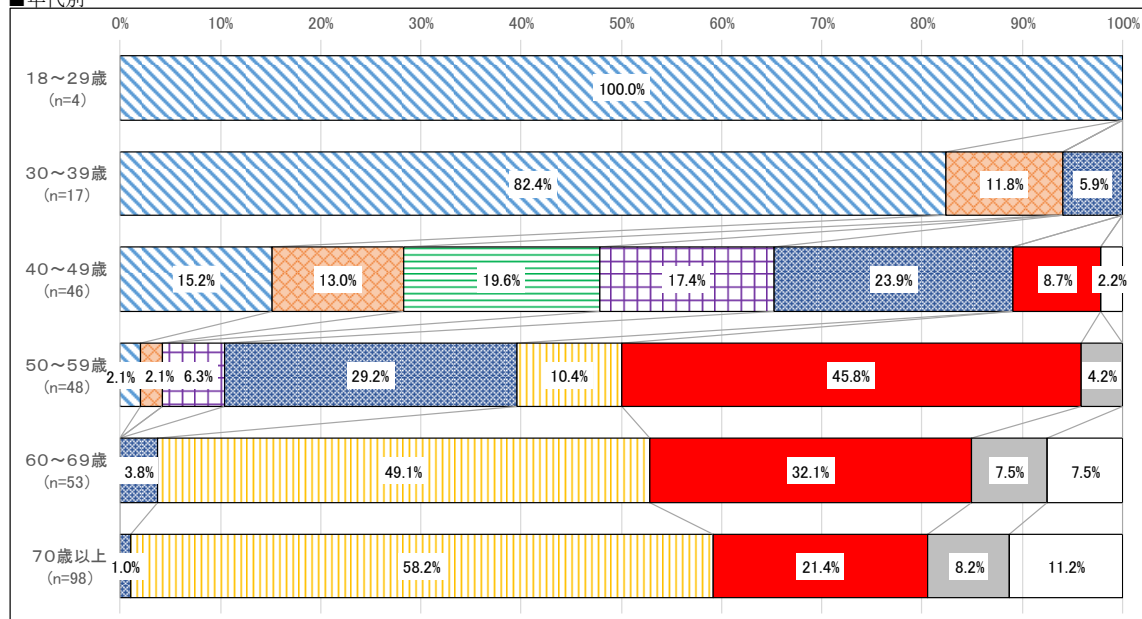


(n=267)

■性別



■年代別



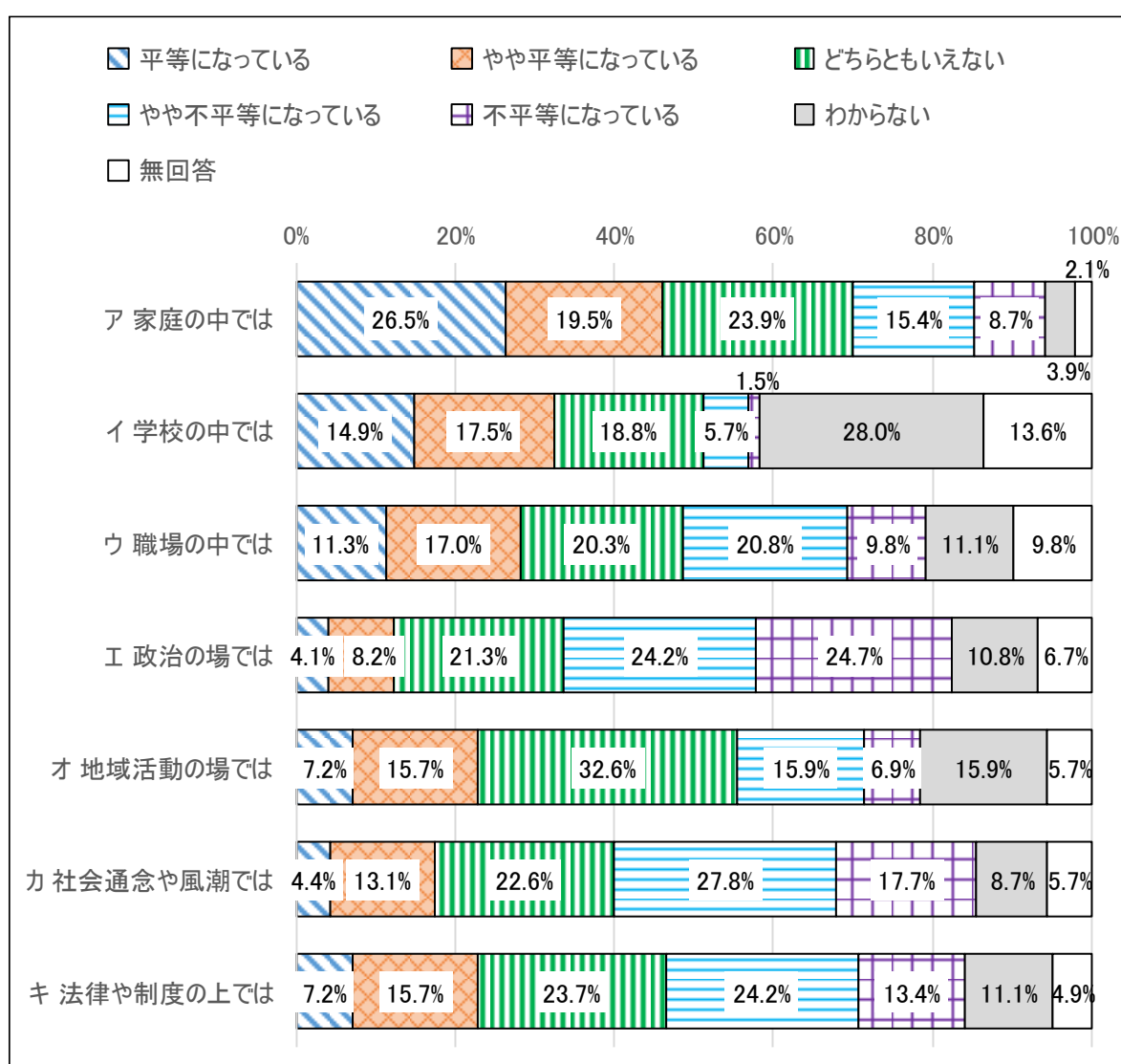
< 凡例 >

-  就学前の乳幼児
-  小学生(1～3年生)
-  小学生(4～6年生)
-  中学生
-  高校生以上の学生
-  学校を終えた子ども(既婚)
-  学校を終えた子ども(未婚)
-  その他
-  無回答

(2) 男女平等感について

問8 あなたは、次にあげるア～キの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。ア～キの各項目ごとに、1～6の中からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

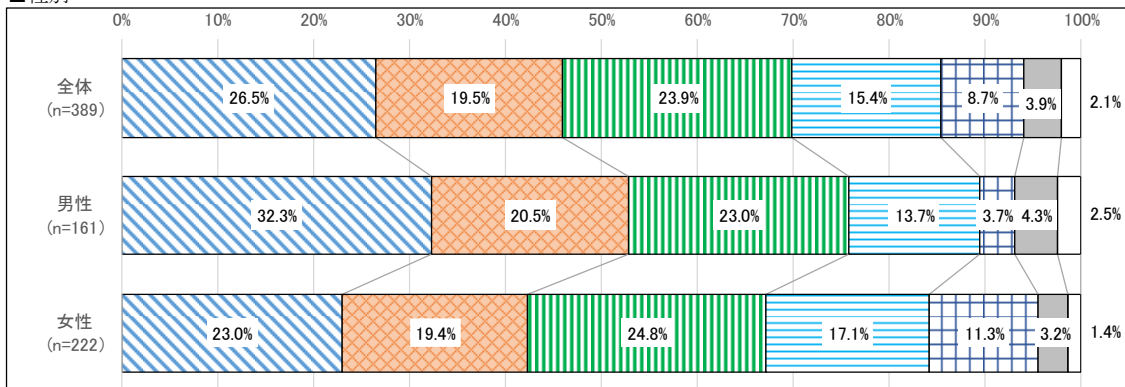
男女の平等感について、最も平等に感じている項目は「家庭の中では」で、「平等になっている」と「やや平等になっている」を合わせると46.0%となっています。一方、最も不平等に感じている項目は「政治の場では」となっています。性別で見ると、全ての項目で男性の方が平等と感じている割合が高くなっています。また、「家庭の中では」での「平等になっている」と「やや平等になっている」を合わせた値は、男性が52.8%、女性が42.4%であり、10%以上の乖離が生じています。



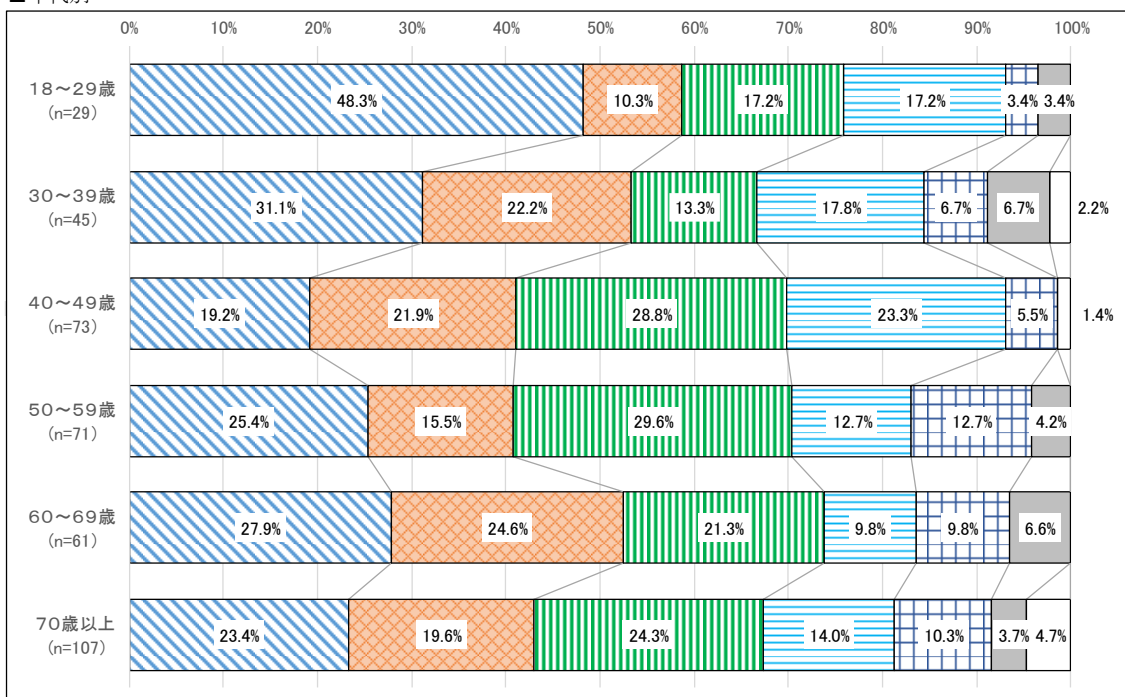
(n=389)

■ ア 家庭の中では

■ 性別



■ 年代別

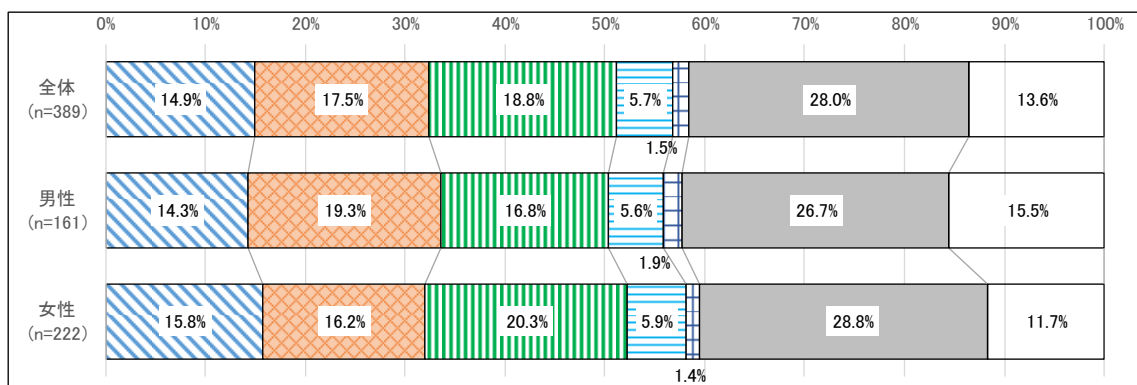


< 凡例 >

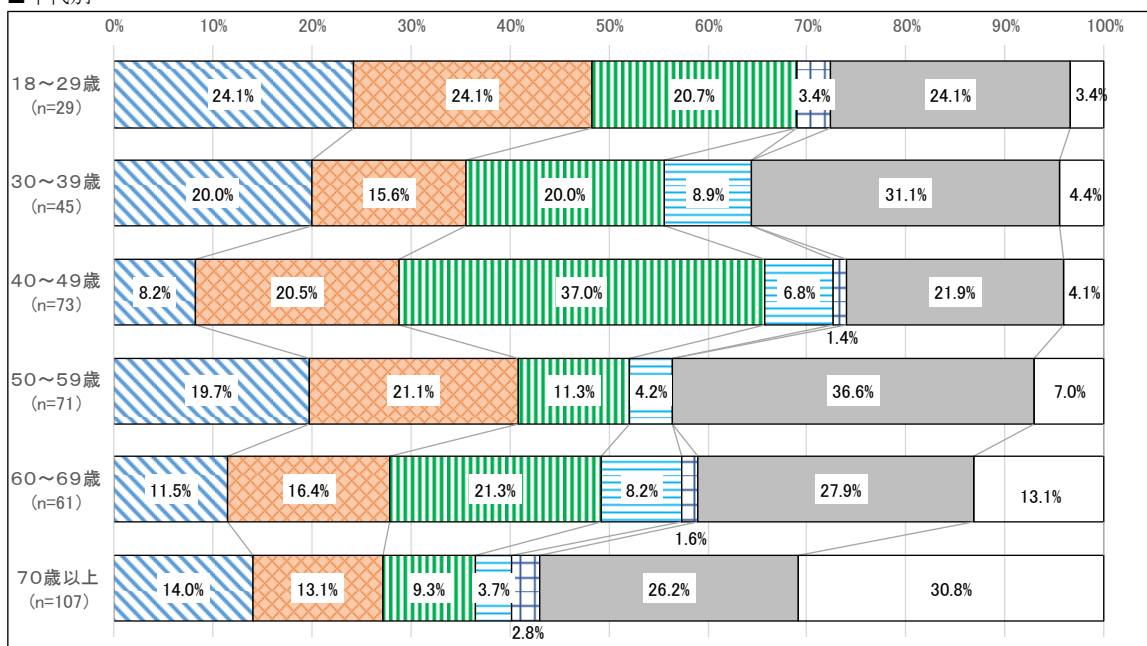
-  平等になっている
-  やや平等になっている
-  どちらともいえない
-  やや不平等になっている
-  不平等になっている
-  わからない
-  無回答

■イ 学校の中では

■性別



■年代別

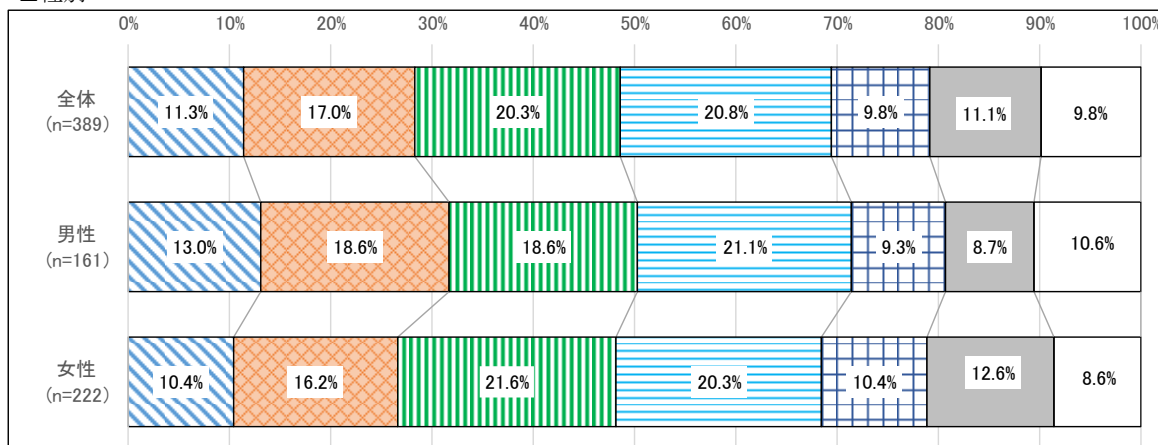


< 凡例 >

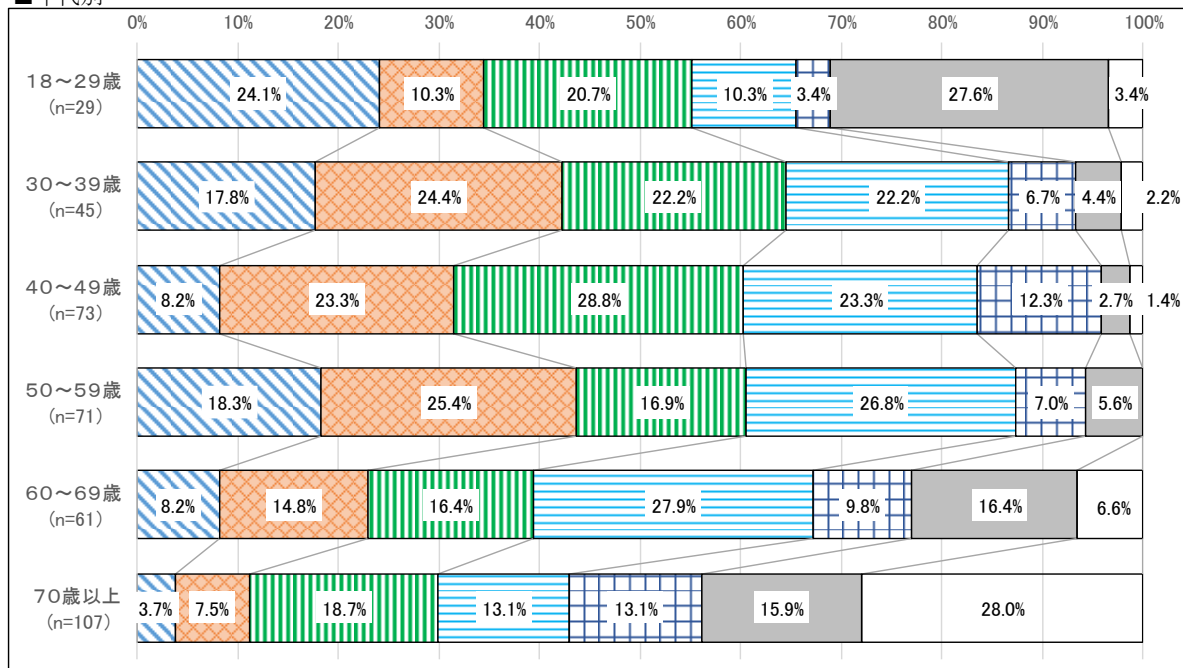
-  平等になっている
-  やや平等になっている
-  どちらともいえない
-  やや不平等になっている
-  不平等になっている
-  わからない
-  無回答

■ウ 職場の中では

■性別



■年代別

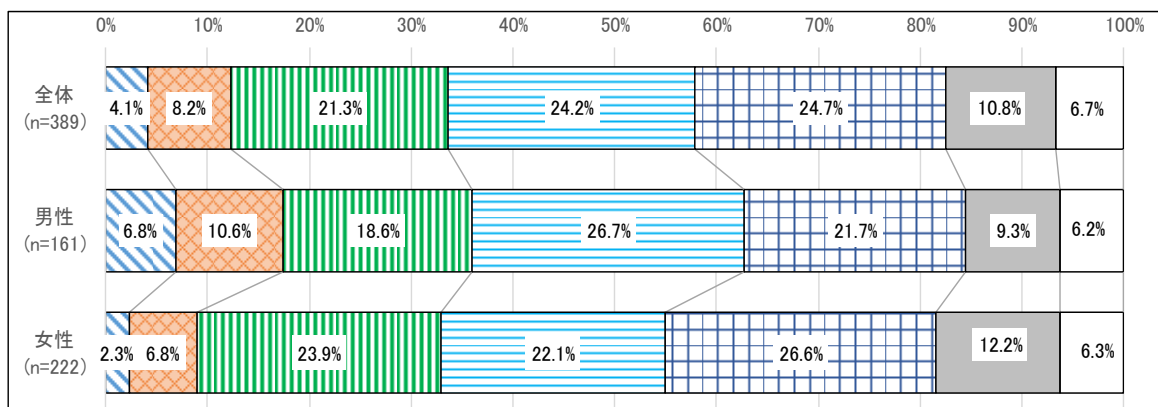


< 凡例 >

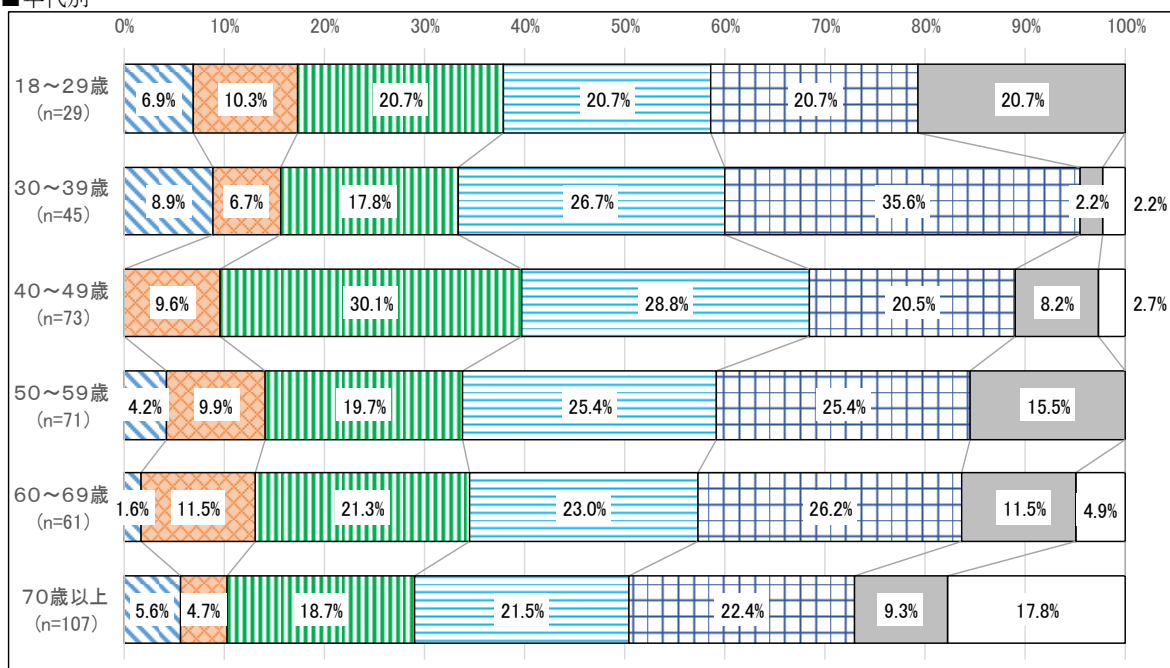
- 平等になっている
- やや平等になっている
- どちらともいえない
- やや不平等になっている
- 不平等になっている
- わからない
- 無回答

■エ 政治の場では

■性別



■年代別

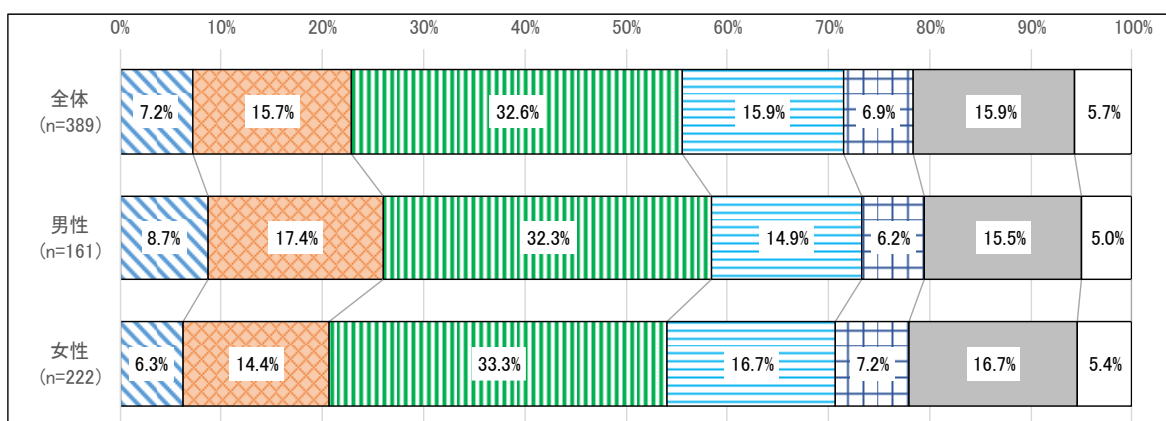


< 凡例 >

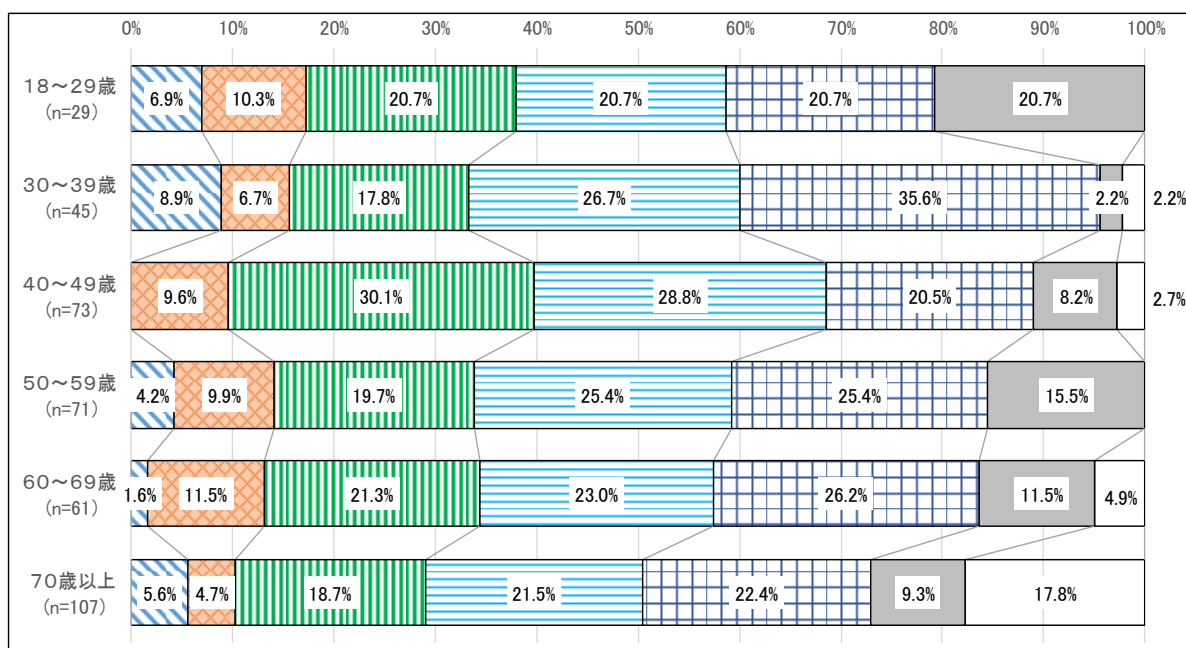
-  平等になっている
-  やや平等になっている
-  どちらともいえない
-  やや不平等になっている
-  不平等になっている
-  わからない
-  無回答

■オ 地域活動の場では

■性別



■年代別

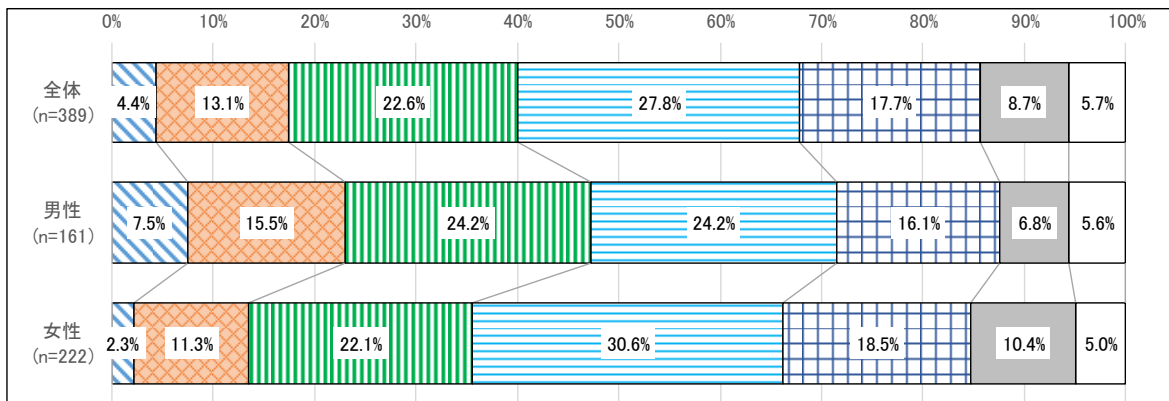


< 凡例 >

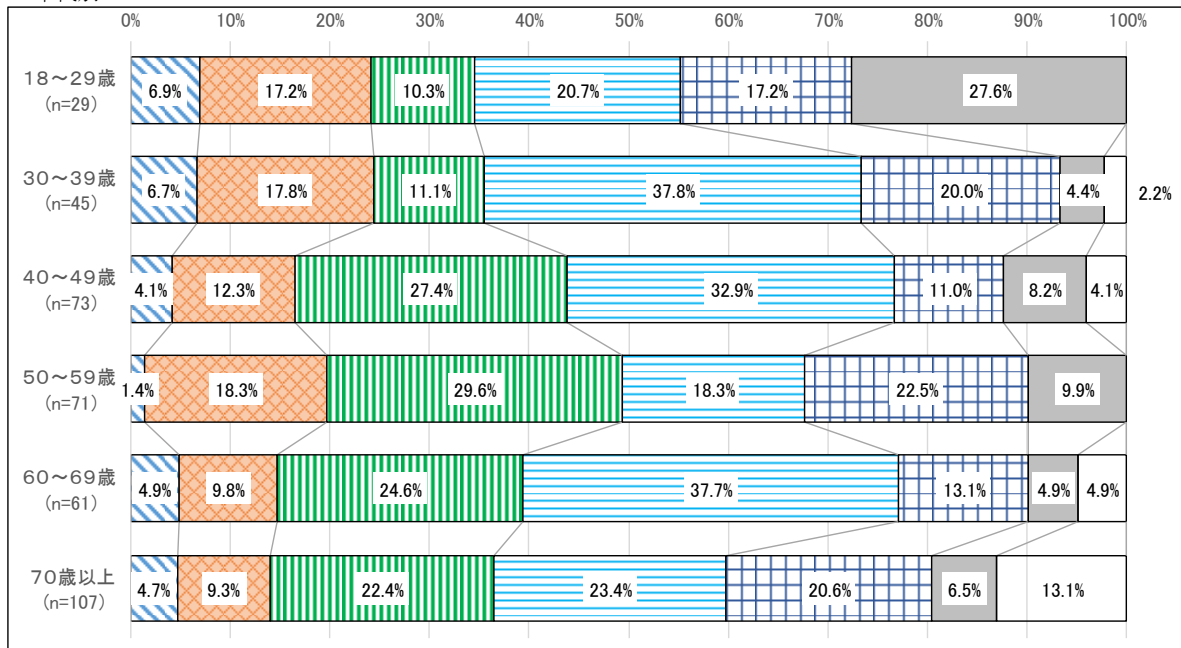
- 平等になっている
- やや平等になっている
- どちらともいえない
- やや不平等になっている
- 不平等になっている
- わからない
- 無回答

■カ 社会通念や風潮では

■性別



■年代別

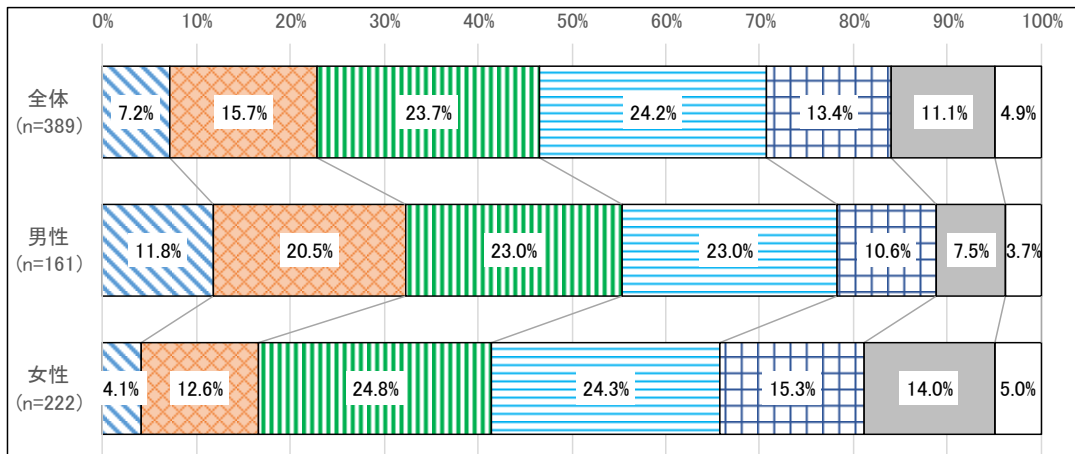


< 凡例 >

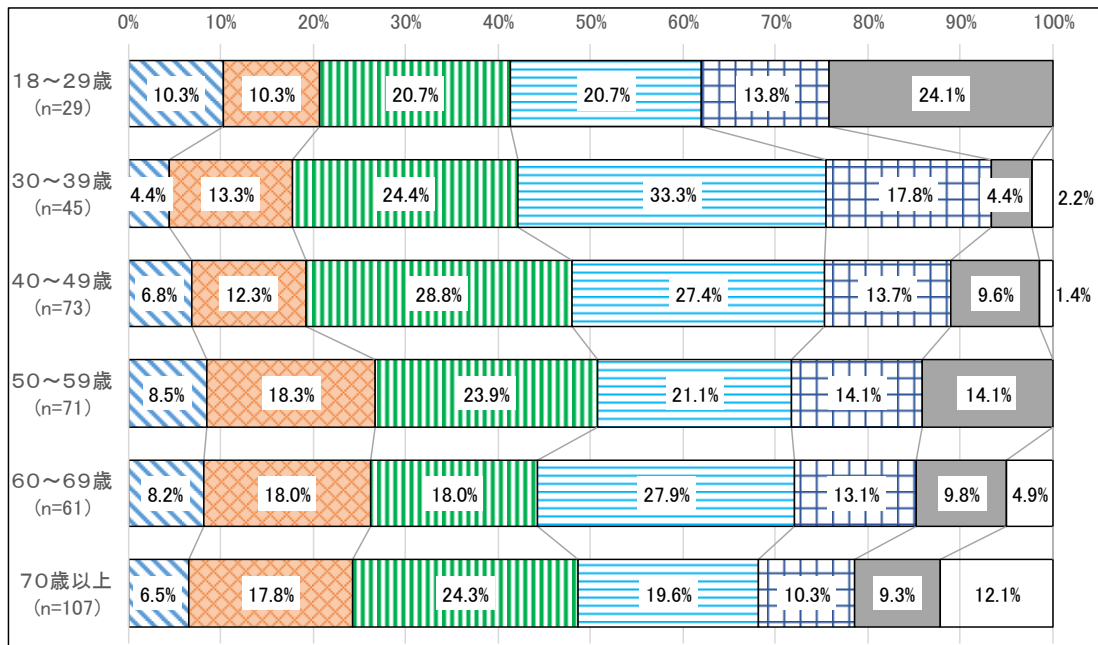
-  平等になっている
-  やや平等になっている
-  どちらともいえない
-  やや不平等になっている
-  不平等になっている
-  わからない
-  無回答

■キ 法律や制度の上では

■性別



■年代別



< 凡例 >

-  平等になっている
-  やや平等になっている
-  どちらともいえない
-  やや不平等になっている
-  不平等になっている
-  わからない
-  無回答

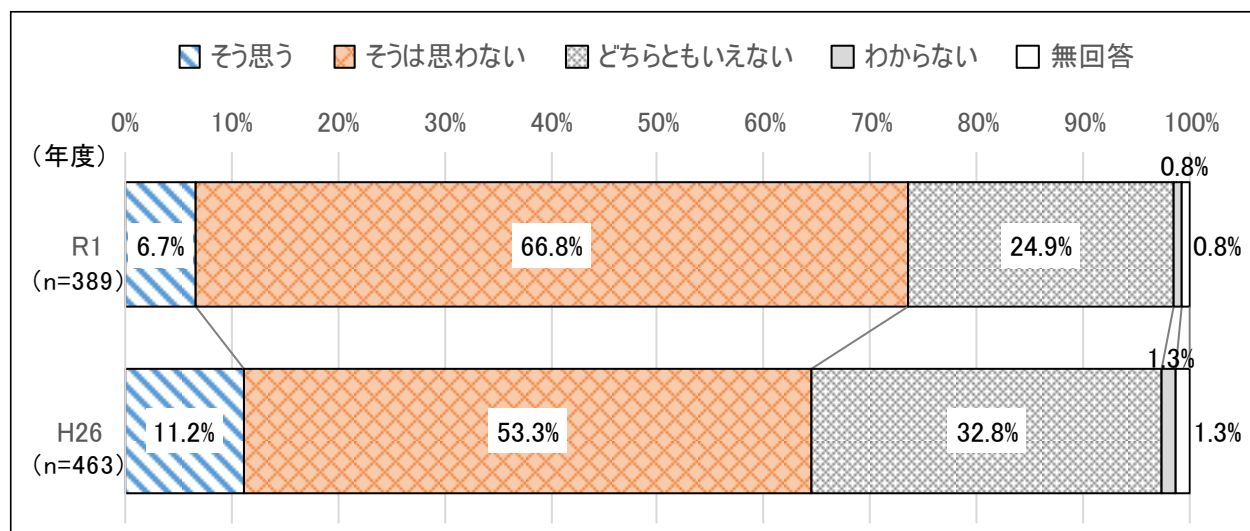
問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. そう思う 3. どちらともいえない
2. そうは思わない 4. わからない

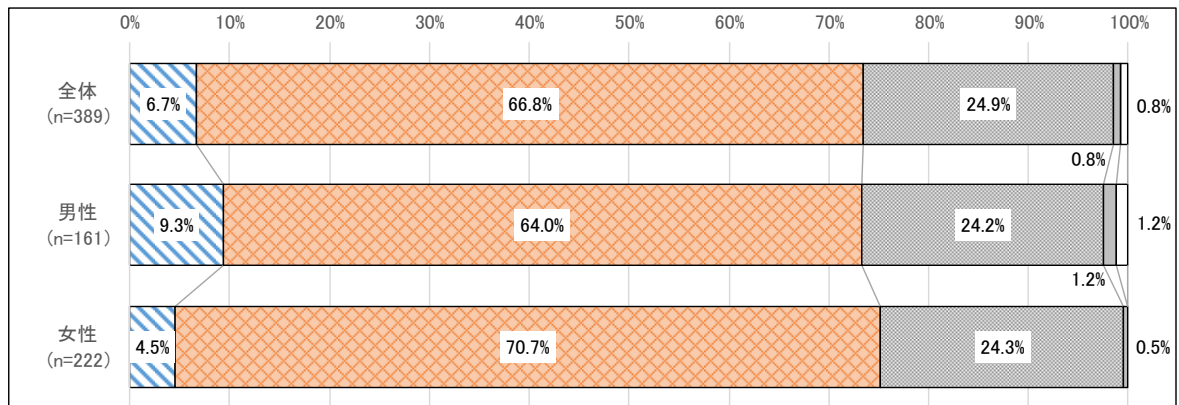
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そうは思わない」が最も割合が高く66.8%、次いで「どちらともいえない」が24.9%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると「そう思う」の割合が減少し、「そうは思わない」の割合が増加しており、性別による固定的役割分担意識に改善の傾向が見られます。ただし、「どちらともいえない」が24.9%となっており、更なる意識啓発が重要と言えます。

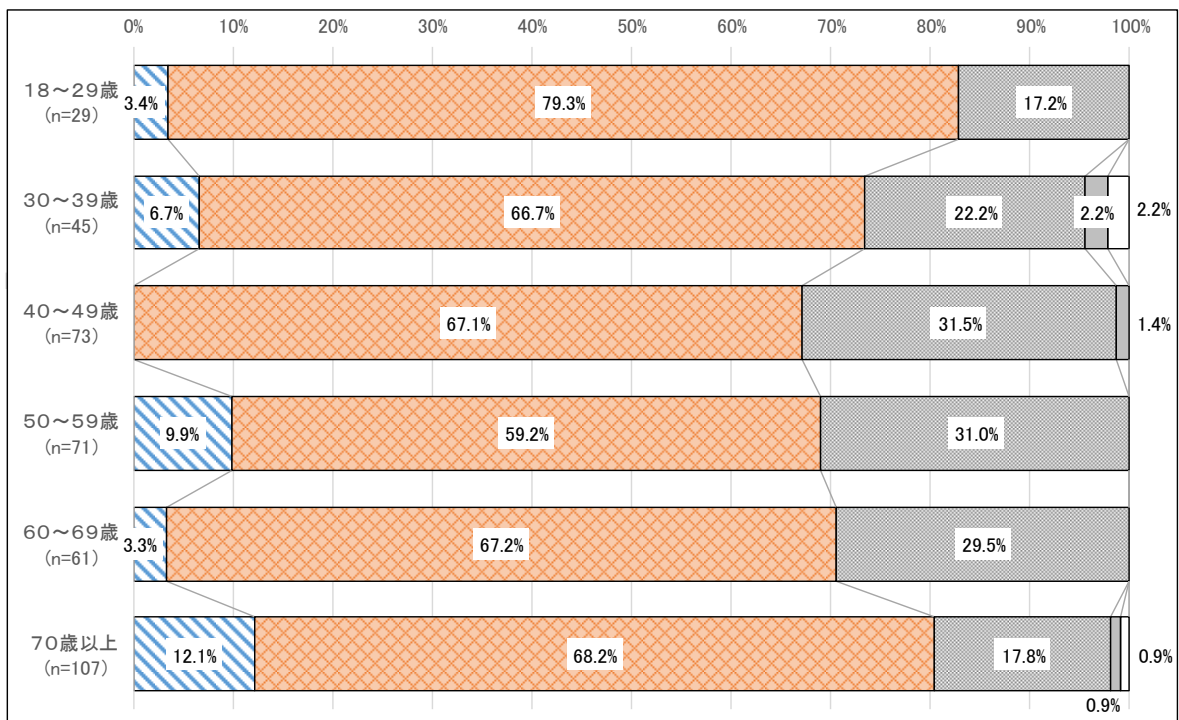
「そうは思わない」の割合を性別に見ると、男性が64.0%、女性が70.7%であり、男性の割合が女性より低くなっています。



■性別



■年代別



< 凡例 >



そう思う



そうは思わない



どちらともいえない



わからない



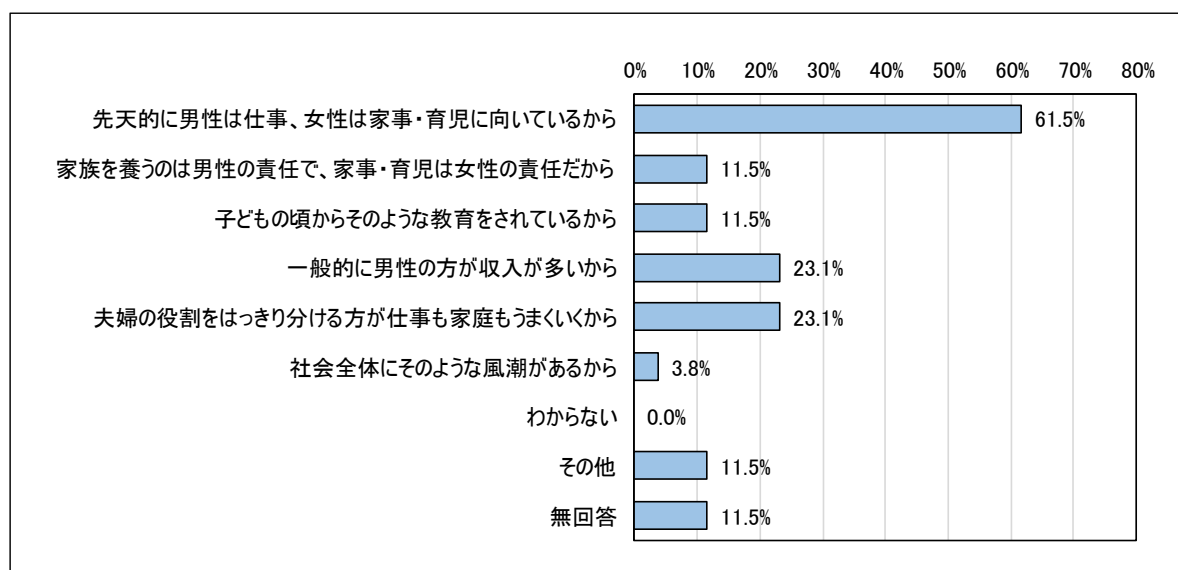
無回答

問9－1 問9で「1 そう思う」と答えた方のみにお聞きします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 先天的に男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2. 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児は女性の責任だから
3. 子どもの頃からそのような教育をされているから
4. 一般的に男性の方が収入が多いから
5. 夫婦の役割をはっきり分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
6. 社会全体にそのような風潮があるから
7. わからない
8. その他

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そう思う」と回答した理由として、「先天的に男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が最も割合が高く 61.5%となっています。

※回答者数は26名であり、基数が不足しているため参考扱いとする。



(n=26)

Category	0-9 years	10-19 years	20-29 years	30-39 years	40-49 years	50-59 years	60-69 years	70-79 years	80-89 years	90-99 years
全体 (n=26)	11.5%	11.5%	23.1%	23.1%	3.8%	11.5%	61.5%	11.5%	11.5%	11.5%
男性 (n=15)	20.0%	13.3%	20.0%	26.7%	6.7%	13.3%	53.3%	20.0%	6.7%	6.7%
女性 (n=10)	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	70.0%	10.0%	10.0%	10.0%

Age Group	Sample Size (n)	Item 1 (%)	Item 2 (%)	Item 3 (%)	Item 4 (%)	Item 5 (%)	Item 6 (%)
18~29歳	1	100.0					
30~39歳	3	100.0	33.3				
40~49歳	0						
50~59歳	7	57.1	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3
60~69歳	2	100.0					
70歳以上	13	46.2	15.4	15.4	15.4	30.8	7.7

☒ 先天的に男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから

☒ 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児は女性の責任だから

☐ 子どもの頃からそのような教育をされているから

☐ 一般的に男性の方が収入が多いから

☐ 夫婦の役割をはっきり分ける方が仕事も家庭もうまくいくから

☐ 社会全体にそのような風潮があるから

☐ わからない

☐ その他

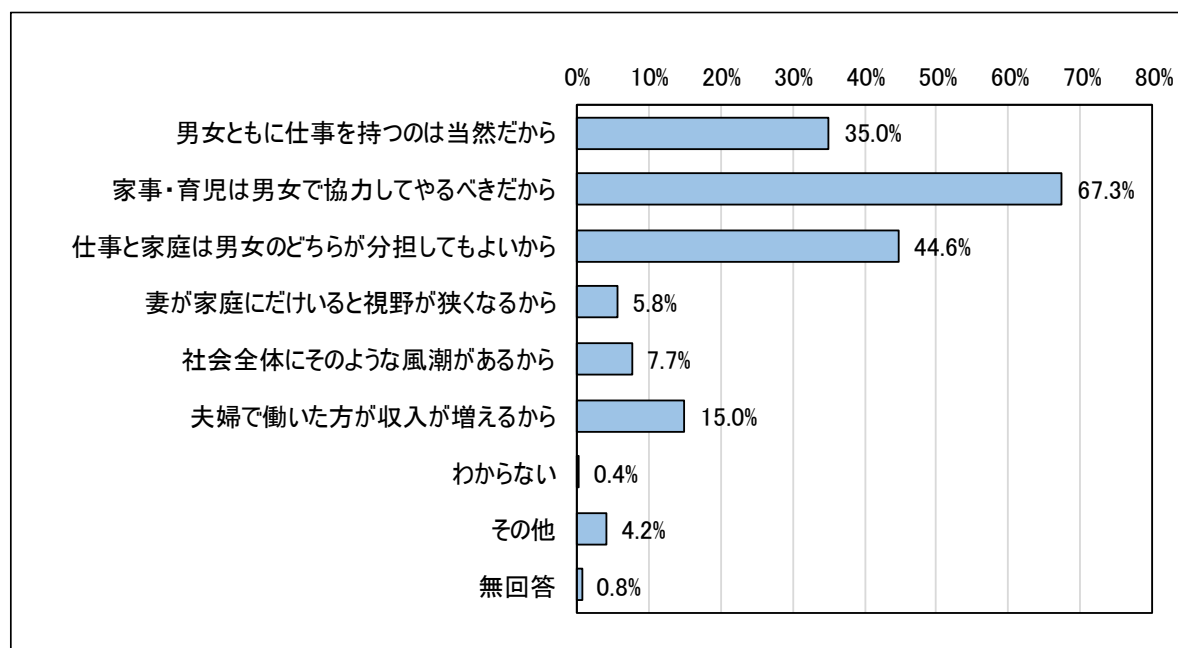
☐ 無回答

問9-2 問9で「2 そうは思わない」と答えた方のみにお聞きします。そう思わない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 男女ともに仕事を持つのは当然だから
2. 家事・育児は男女で協力してやるべきだから
3. 仕事と家庭は男女のどちらかが分担してもよいから
4. 妻が家庭にだけいると視野が狭くなるから
5. 社会全体にそのような風潮があるから
6. 夫婦で働いた方が収入が増えるから
7. わからない
8. その他

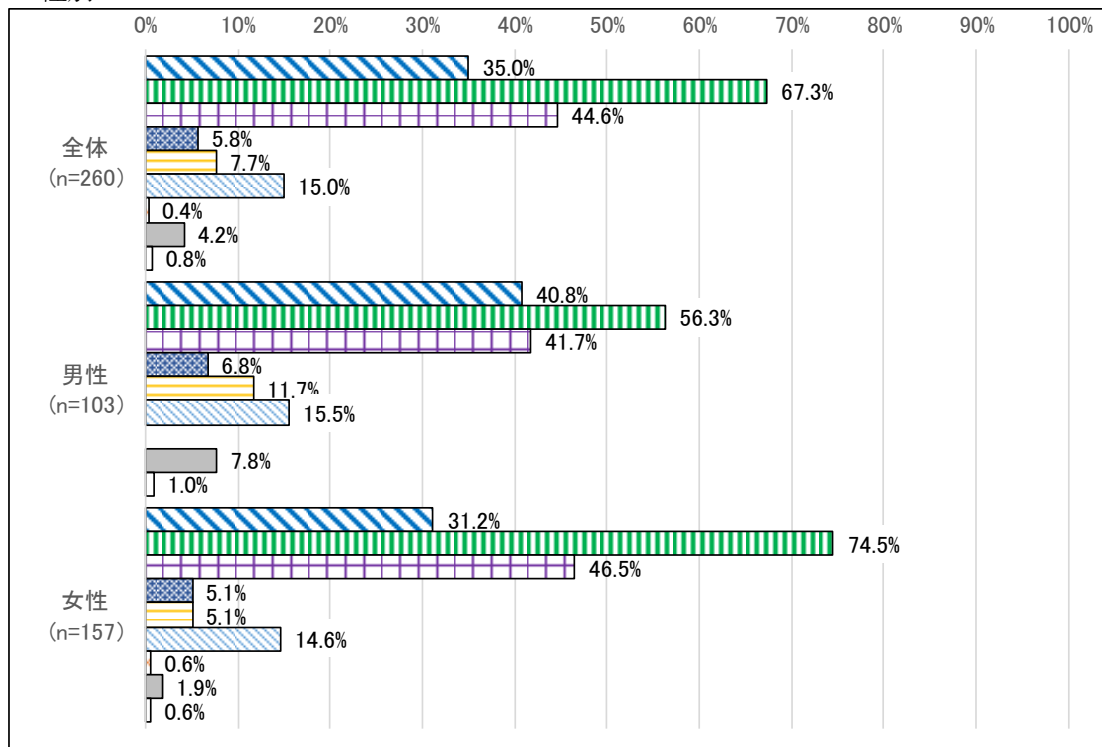
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そうは思わない」と回答した理由として、「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」が最も割合が高く 67.3%、次いで「仕事と家庭は男女のどちらかが分担してもよいから」が 44.6%となっています。

「家事・育児は男女で協力してやるべきだから」の割合を性別で見ると、男性は 56.3%、女性は 74.5%であり、協力の意識については、男性の方が女性よりも低い傾向にある。一方、「男女ともに仕事を持つのは当然だから」の割合を性別で見ると、男性が 40.8%、女性が 31.2%となっており、男性は、男女ともに仕事をもつためには家事・育児への協力も必要との意識につながっていない傾向があると考えられます。



(n=260)

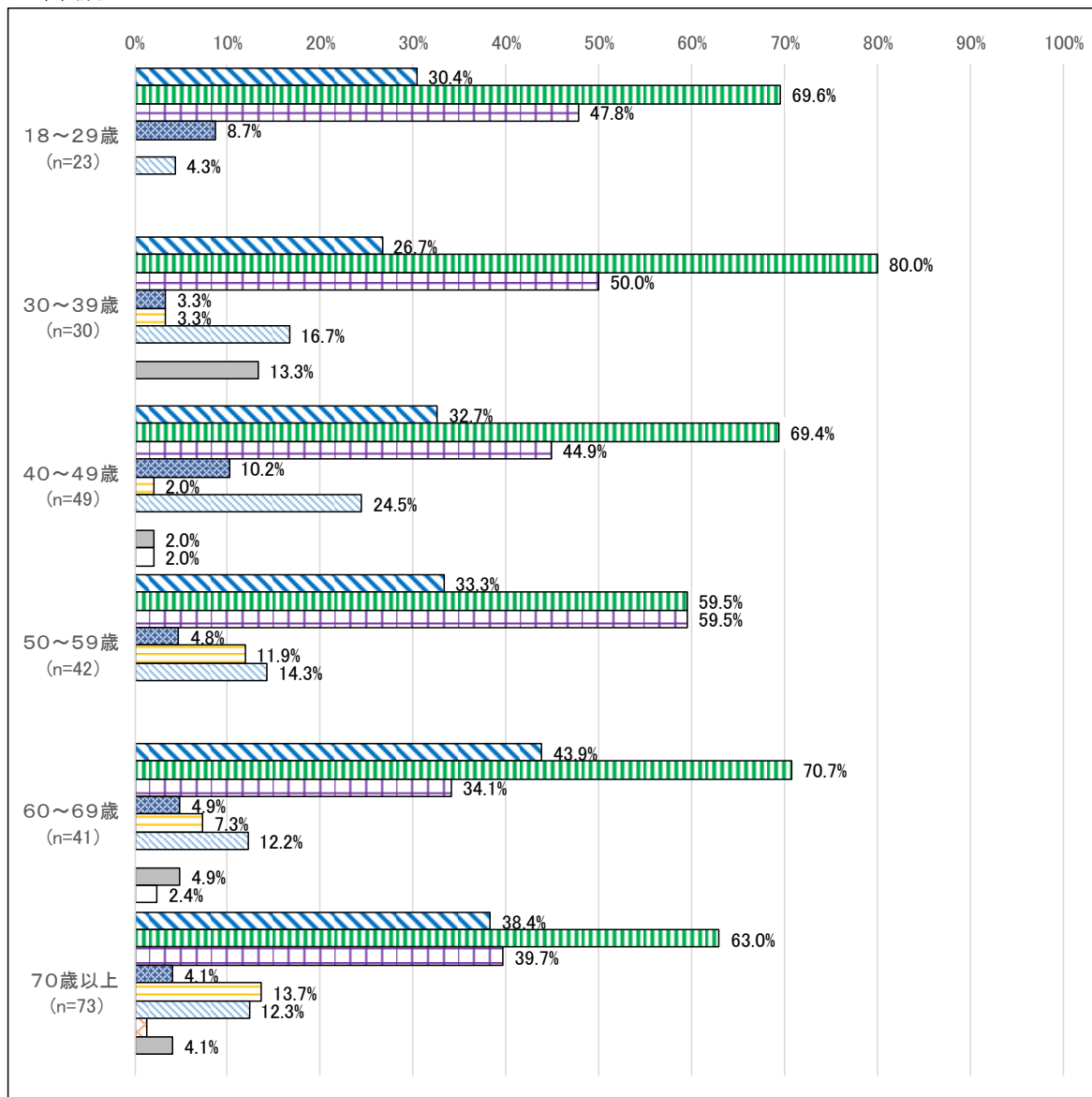
■性別



< 凡例 >

- 男女ともに仕事を持つのは当然だから
- 家事・育児は男女で協力してやるべきだから
- 仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから
- 妻が家庭にだけいると視野が狭くなるから
- 社会全体にそのような風潮があるから
- 夫婦で働いた方が収入が増えるから
- わからない
- その他(具体的に)
- 無回答

■年代別



< 凡例 >

- 男女ともに仕事を持つのは当然だから
- 家事・育児は男女で協力してやるべきだから
- 仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから
- 妻が家庭にだけいると視野が狭くなるから
- 社会全体にそのような風潮があるから
- 夫婦で働いた方が収入が増えるから
- わからない
- その他(具体的に)
- 無回答

(3) 子育てや介護について

問10 子育てや介護は、女性が主に行っていることが多い現状ですが、あなたはこれについてどのように思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

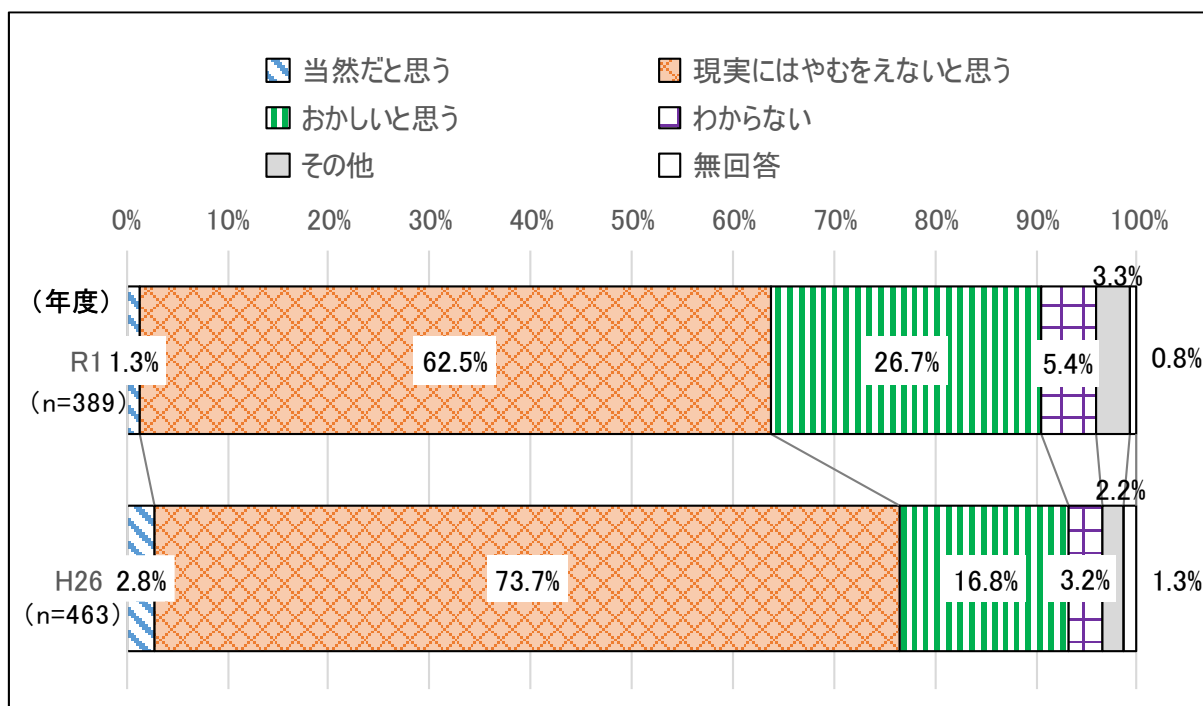
- | | |
|------------------|----------|
| 1. 当然だと思う | 4. わからない |
| 2. 現実にはやむをえないと思う | 5. その他 |
| 3. おかしいと思う | |

子育てや介護を女性が主に行っていることが多い現状については、「現実にはやむをえないと思う」が最も割合が高く 62.5%、次いで「おかしいと思う」が 26.7%となっています。

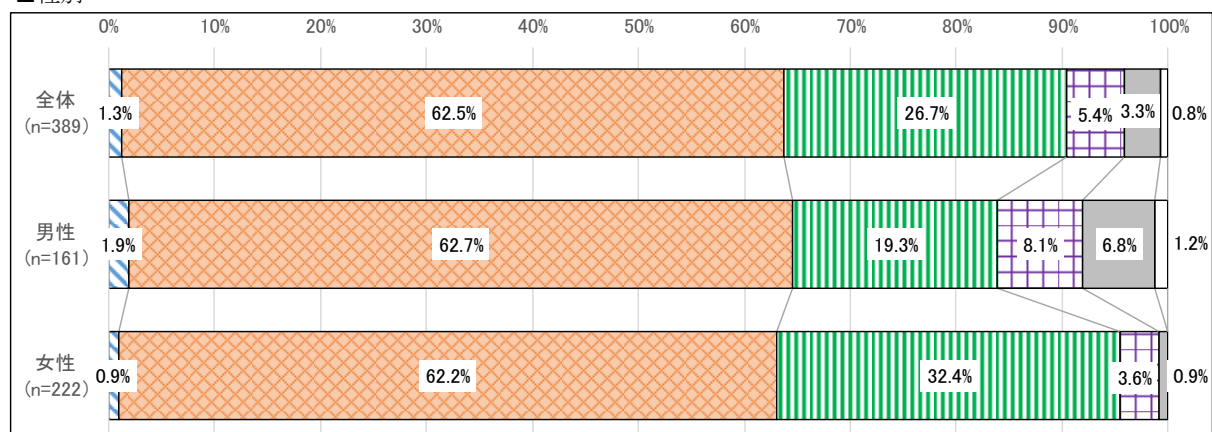
平成 26 年度調査と比較すると、「現実にはやむをえないと思う」の割合が減少し、「おかしいと思う」の割合が増加しており、性別による固定的役割分担意識に改善の傾向が見られます。一方、「現実にはやむをえないと思う」が男女ともに依然として最も高くなっていることから、更なる普及・啓発が求められます。

また、「現実にはやむをえないと思う」の割合を年代別で見ると、60 歳以上では 70%以上となっており、年齢が上がるほど高くなる傾向にあります。

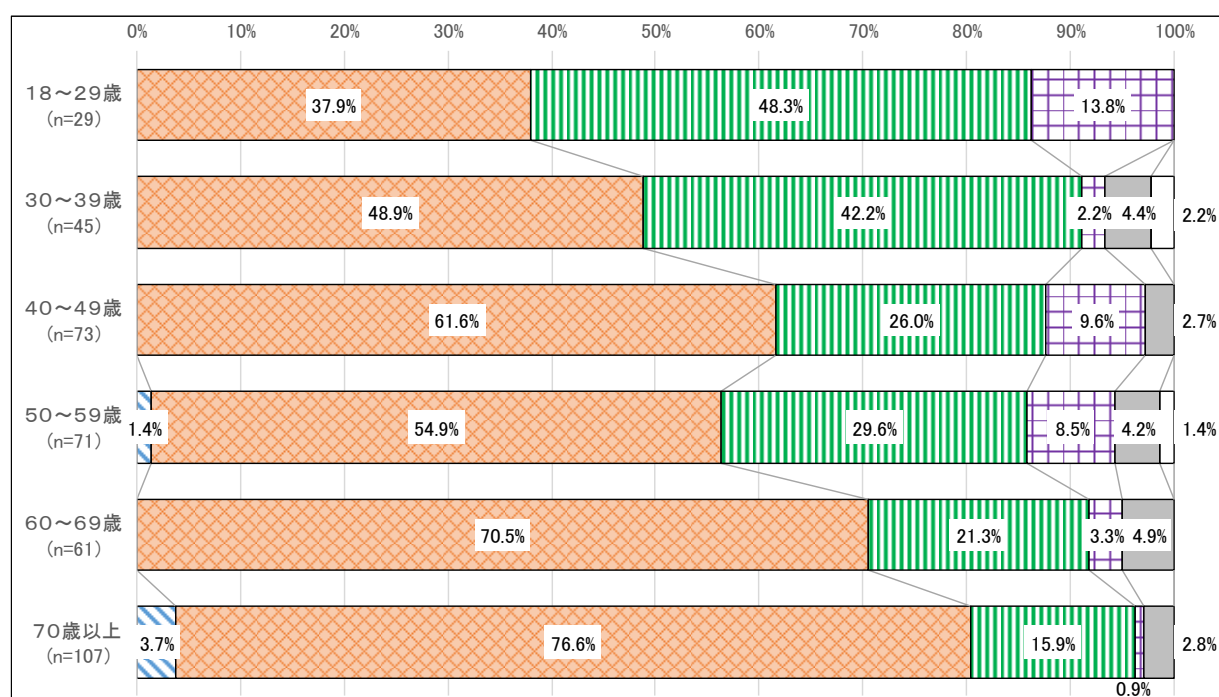
さらに、「おかしいと思う」の割合を性別で見ると、男性が 19.3%、女性が 32.4%であり、女性の割合が高い傾向にあります。



■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

-  当然だと思う
-  現実にはやむをえないと思う
-  おかしいと思う
-  わからない
-  その他
-  無回答

問 11 現在の法律では、男性も育児休業や介護休業を女性と同様に取得できるようになっています。
あなたは男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

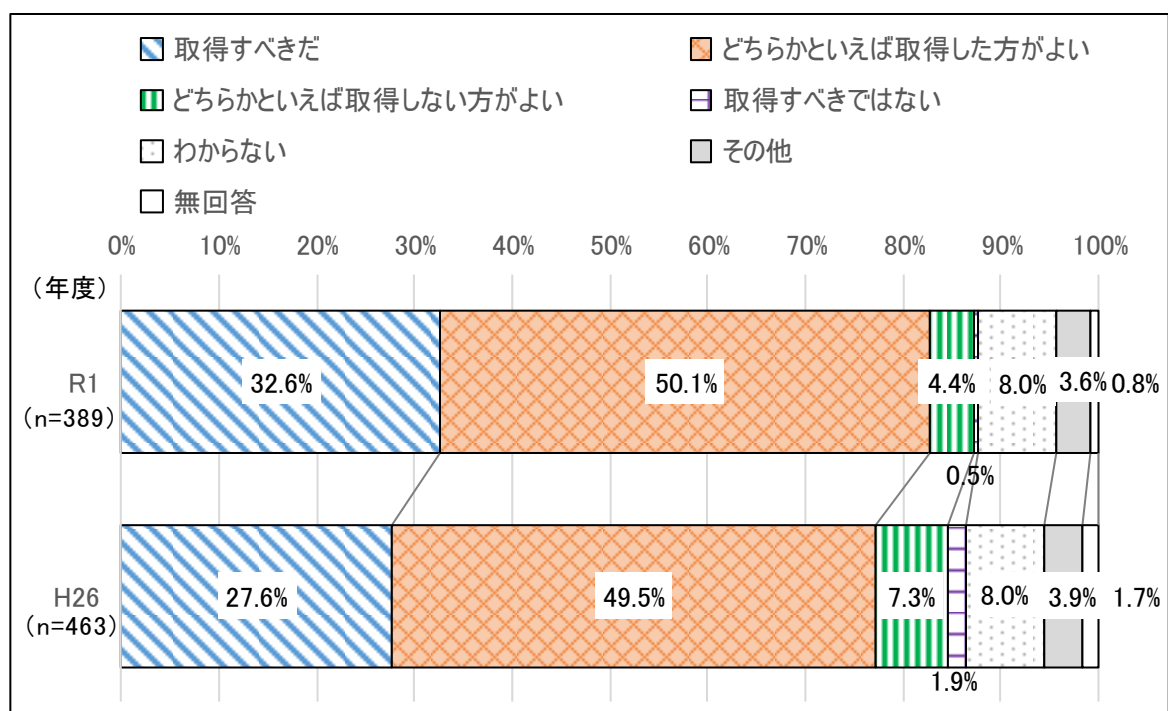
- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 取得すべきだ | 4. 取得すべきではない |
| 2. どちらかといえば取得した方がよい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば取得しない方がよい | 6. その他 |

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「どちらかといえば取得した方がよい」が最も割合が高く 50.1%、次いで「取得すべきだ」が 32.6%となっています。

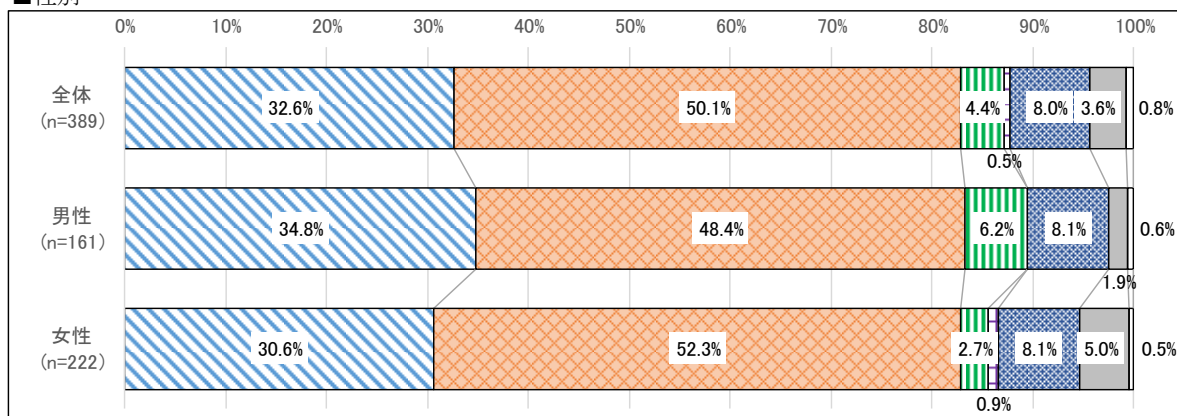
平成 26 年度調査と比較すると「取得すべきだ」の割合が増加しており、男性の育児・介護への参加を肯定する意識が向上しています。

「取得すべきだ」の割合を性別で見ると、男性が 34.8%、女性が 30.6%であり、男性の割合の方がやや高い傾向にあります。

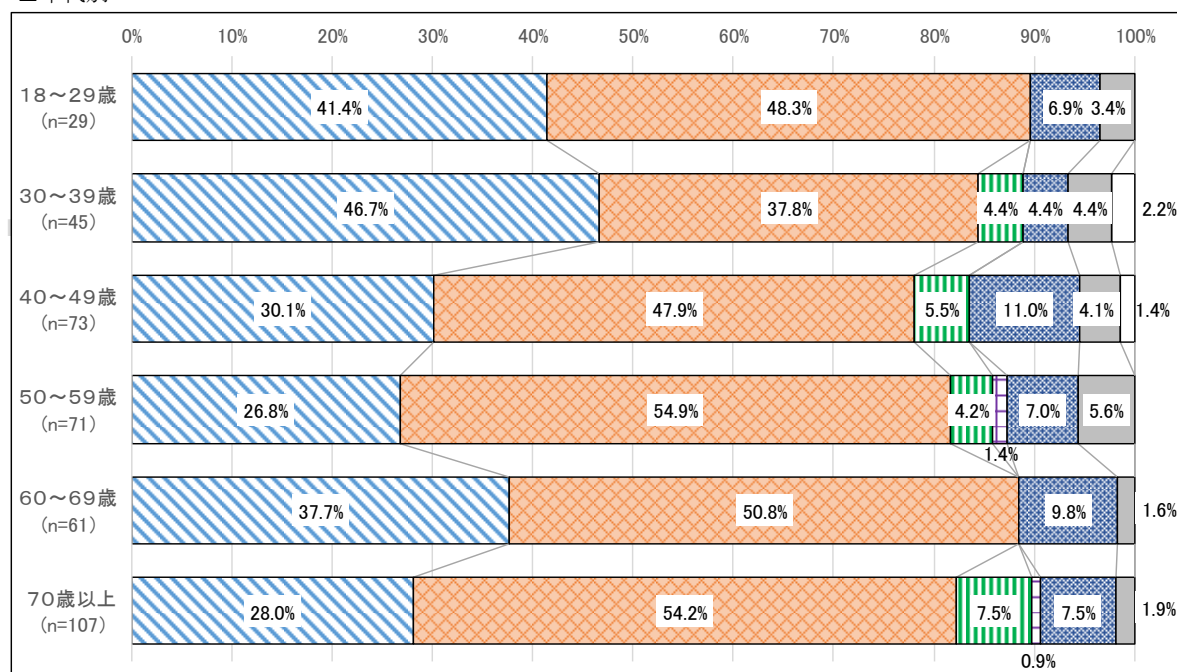
「取得すべきだ」の割合を年代別で見ると、40 歳未満は 40%以上ですが、40 歳以上は 30%前後であり、若い世代の方が、「取得すべきだ」の割合が高い傾向にあります。



■性別



■年代別



< 凡例 >

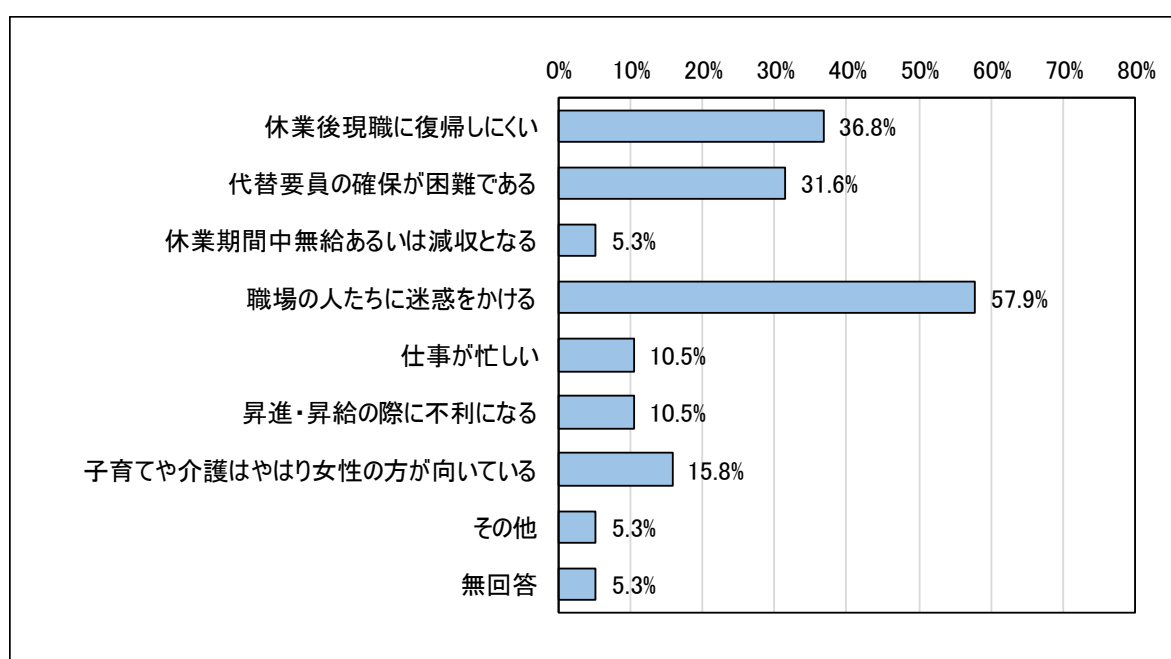
-  取得すべきだ
-  どちらかといえば取得した方がよい
-  どちらかといえば取得しない方がよい
-  取得すべきではない
-  わからない
-  その他
-  無回答

問 11-1 問11で「3 どちらかといえば取得しない方がよい」または「4 取得すべきではない」と答えた方のみにお聞きます。そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 休業後現職に復帰しにくい
2. 代替要員の確保が困難である
3. 休業期間中無給あるいは減収となる
4. 職場の人たちに迷惑をかける
5. 仕事が忙しい
6. 昇進・昇給の際に不利になる
7. 子育てや介護はやはり女性の方が向いている
8. その他

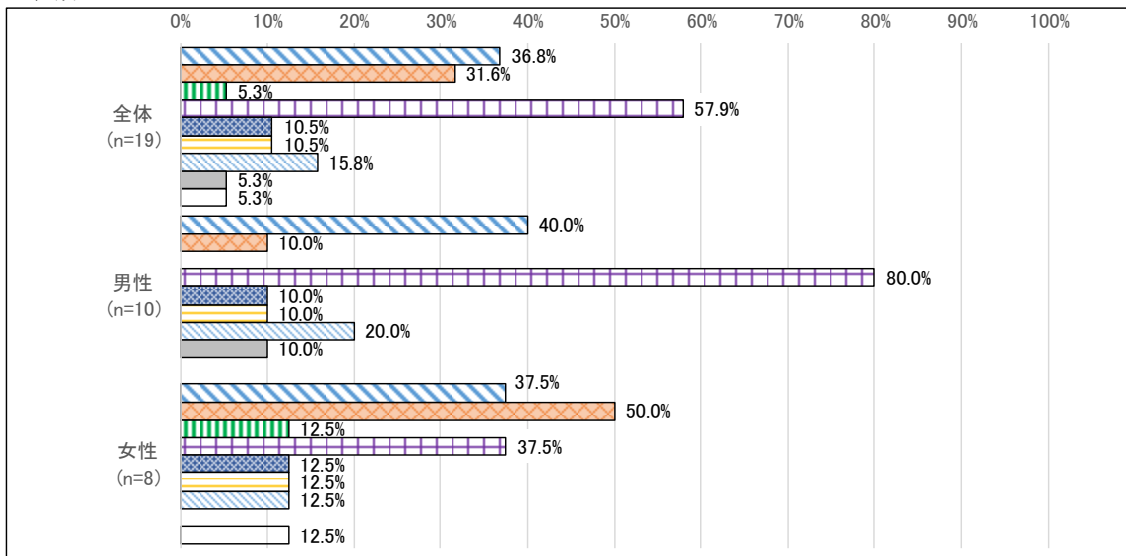
男性の育児休業や介護休業の取得について「取得しない方がよい」「取得すべきではない」と回答した理由として、「職場の人たちに迷惑をかける」が最も割合が高く 57.9%となっています。

※回答者数は 19 名であり、基数が不足しているため参考扱いとする。

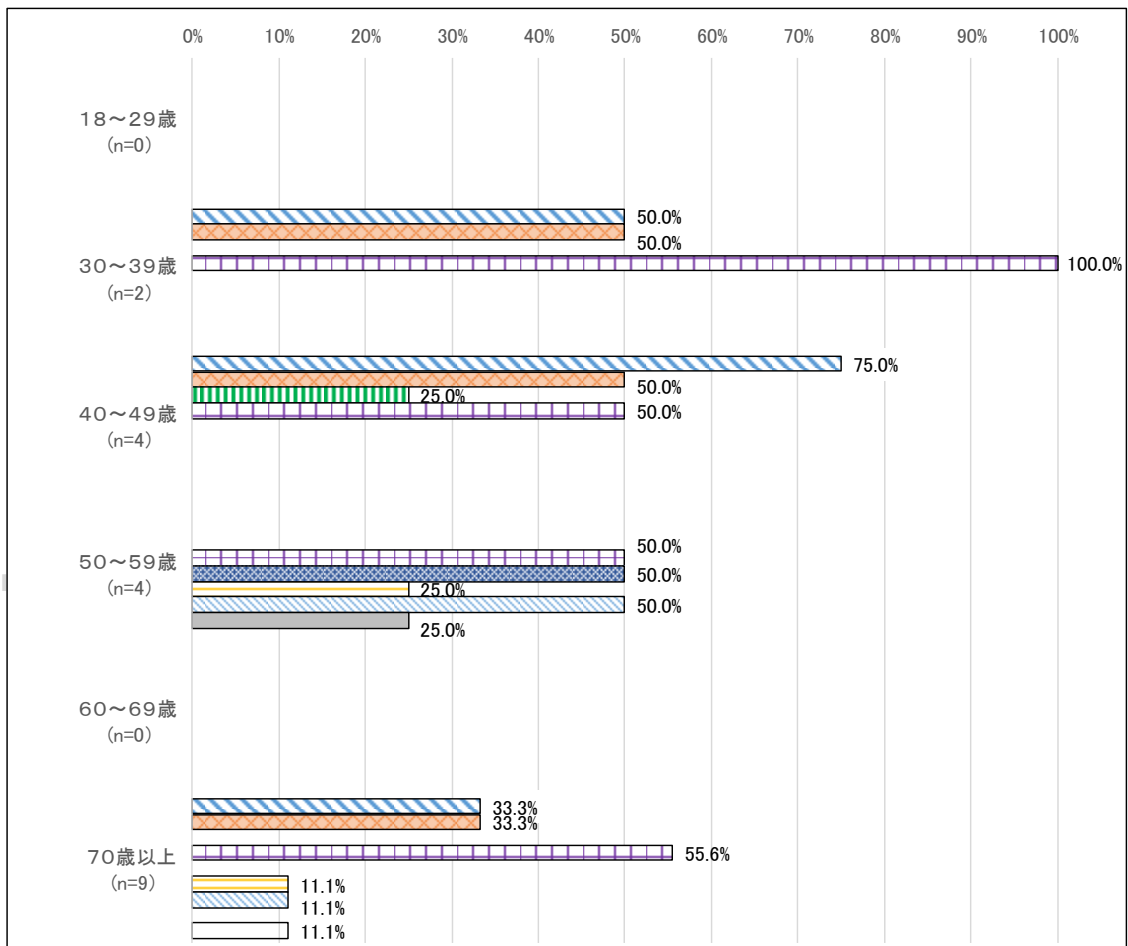


(n=19)

■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

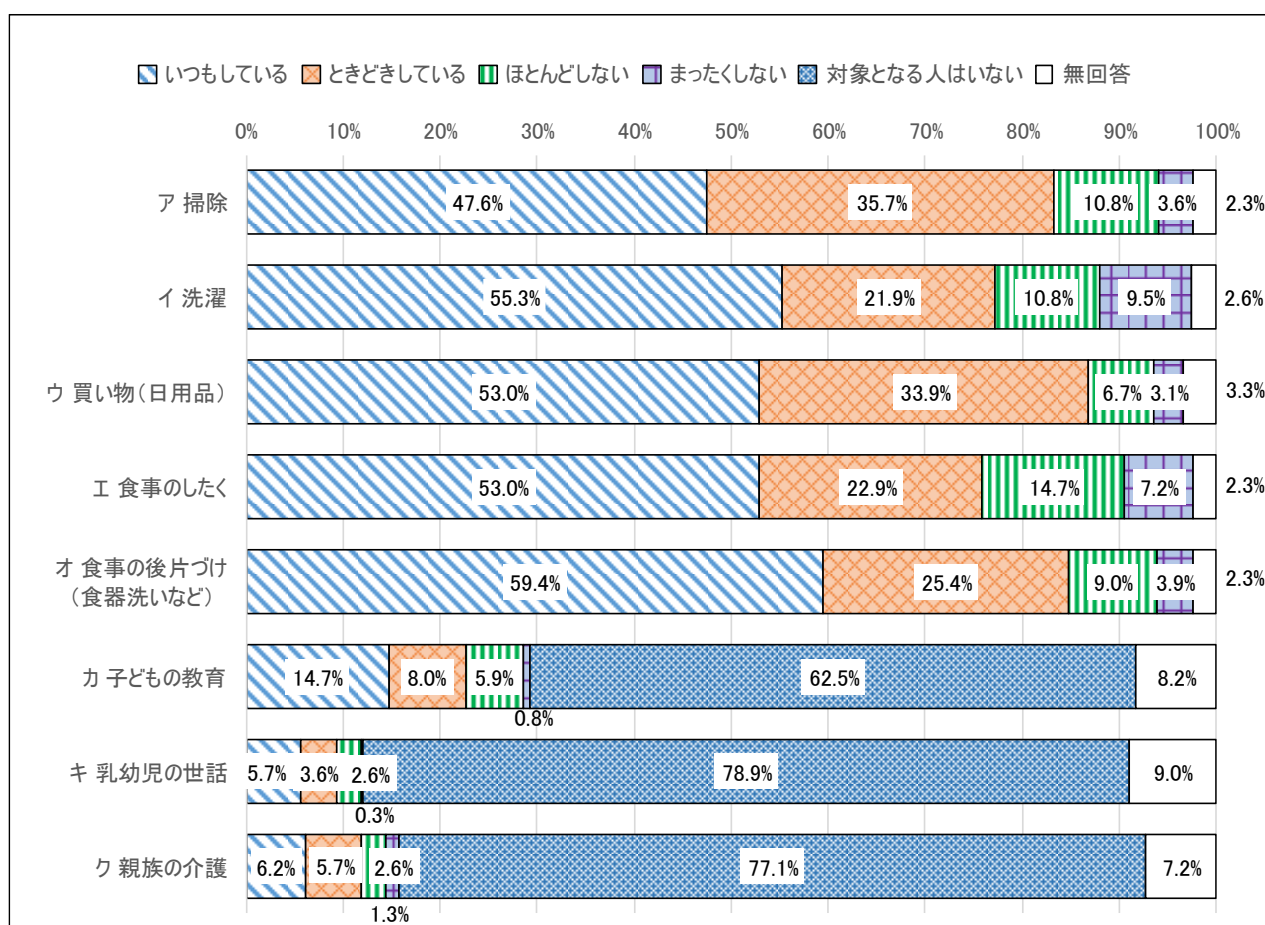
- 休業後現職に復帰しにくい
- 代替要員の確保が困難である
- 休業期間中無給あるいは減収となる
- 職場の人たちに迷惑をかける
- 仕事が忙しい
- 昇進・昇給の際に不利になる
- 子育てや介護はやはり女性の方が向いている
- その他
- 無回答

(4) 家事について

問12 あなたはご家庭の家事や育児・介護をどの程度行っていますか。ア～クの各項目ごとに、1～5の中からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

家事、育児、介護をどの程度行っているかについて、「いつもしている」では、「食事の後片づけ（食器洗いなど）」が最も割合が高く 59.4%、次いで「洗濯」が 55.3%、「買い物（日用品）」「食事のしたく」がそれぞれ 53.0%となっています。

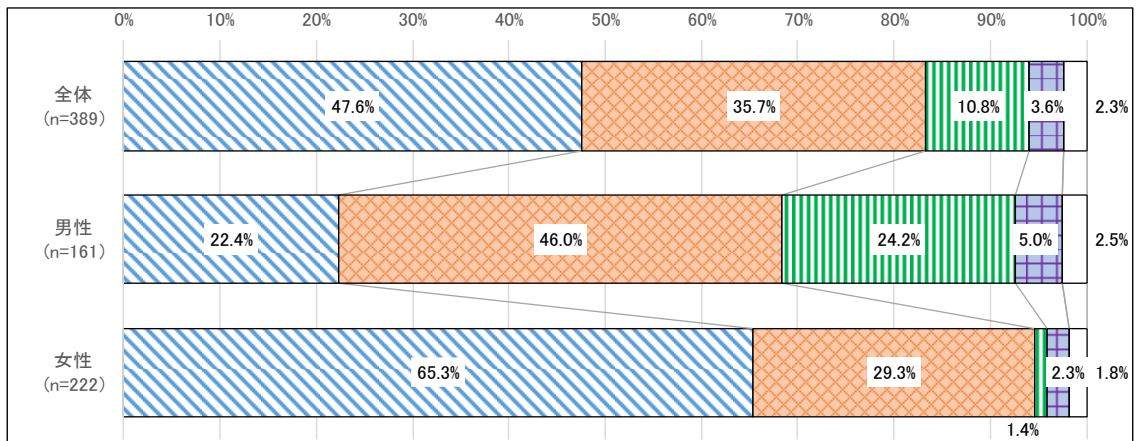
「いつもしている」項目を性別で見ると、全ての項目で女性の方が高い割合になっており、特に「洗濯」及び「食事のしたく」では、50%以上の乖離が生じています。



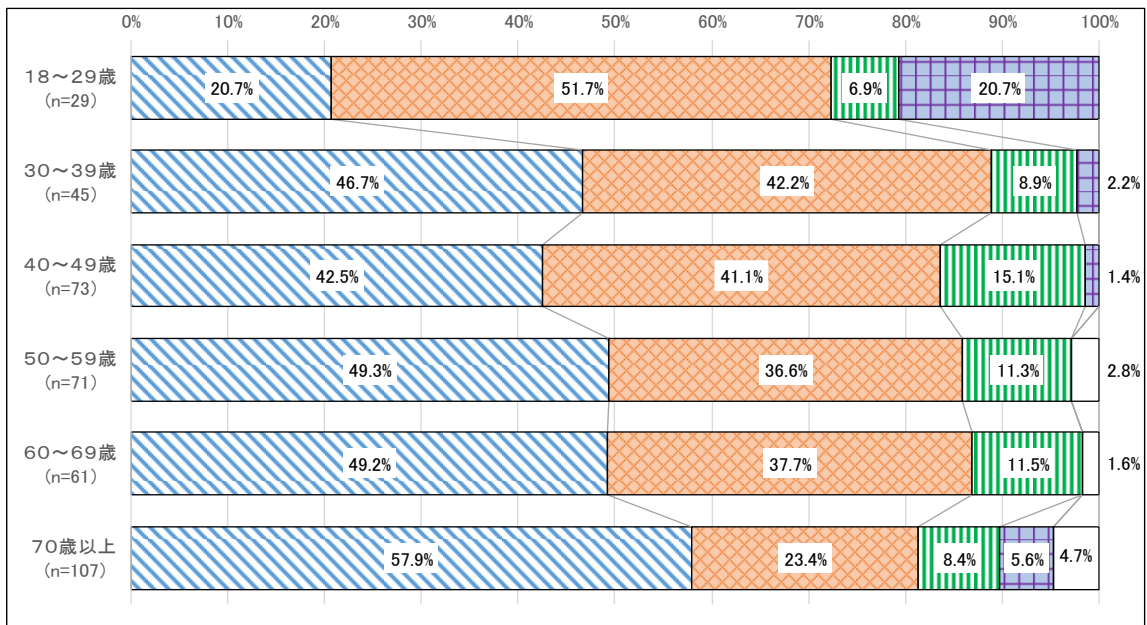
(n=389)

■ア 掃除

■性別



■年代別

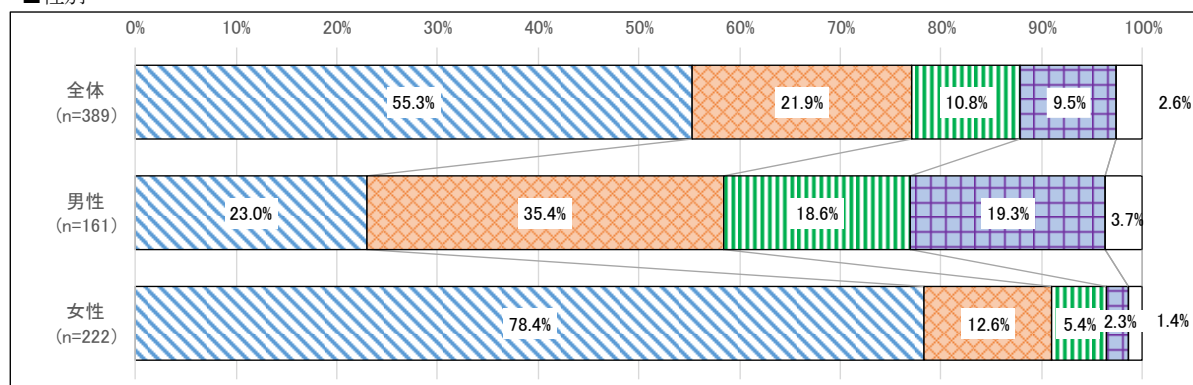


< 凡例 >

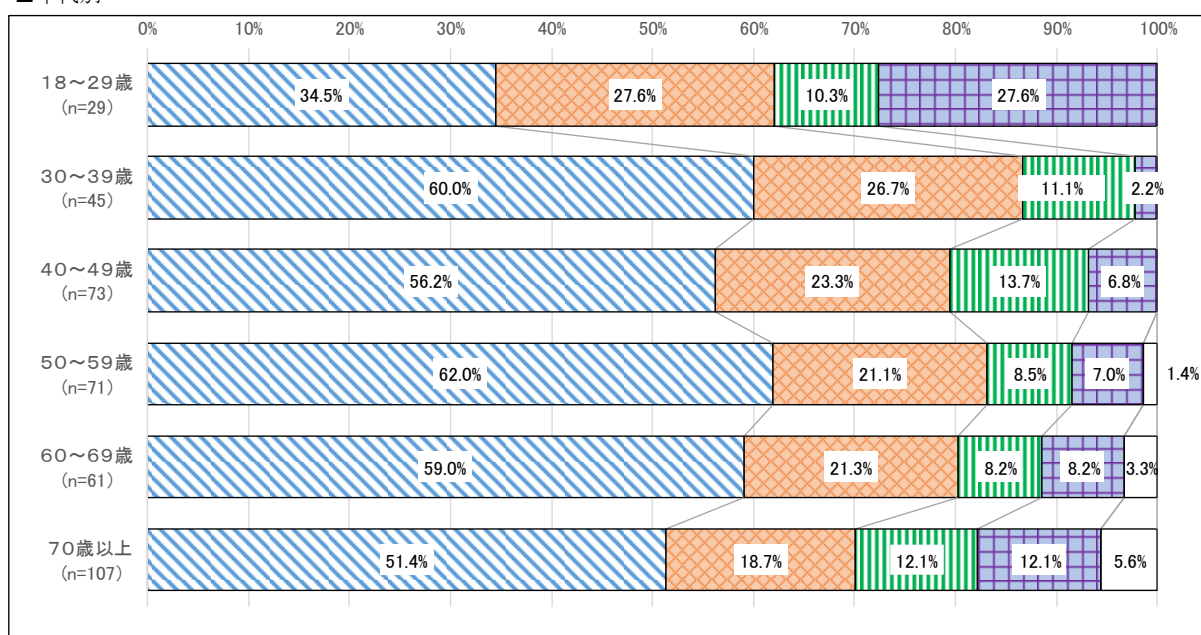
- いつもしている
- ときどきしている
- ほとんどしない
- まったくしない
- 対象となる人はいない
- 無回答

■イ 洗濯

■性別



■年代別

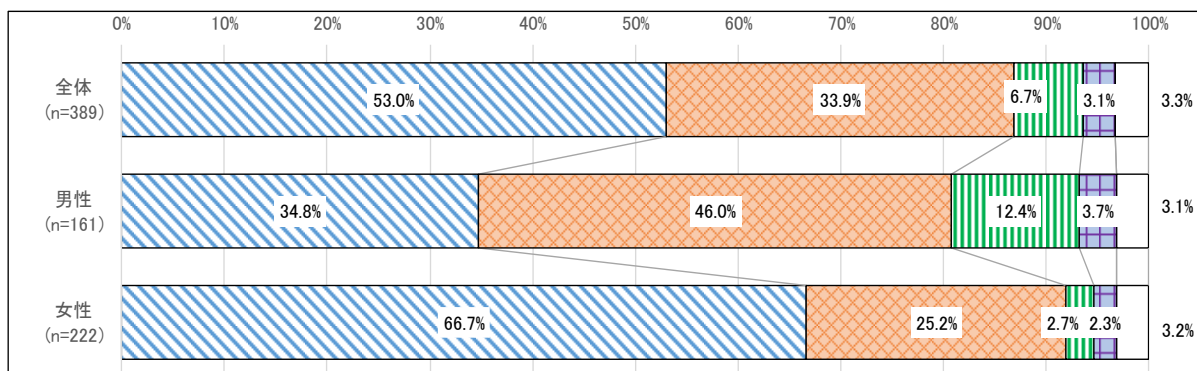


< 凡例 >

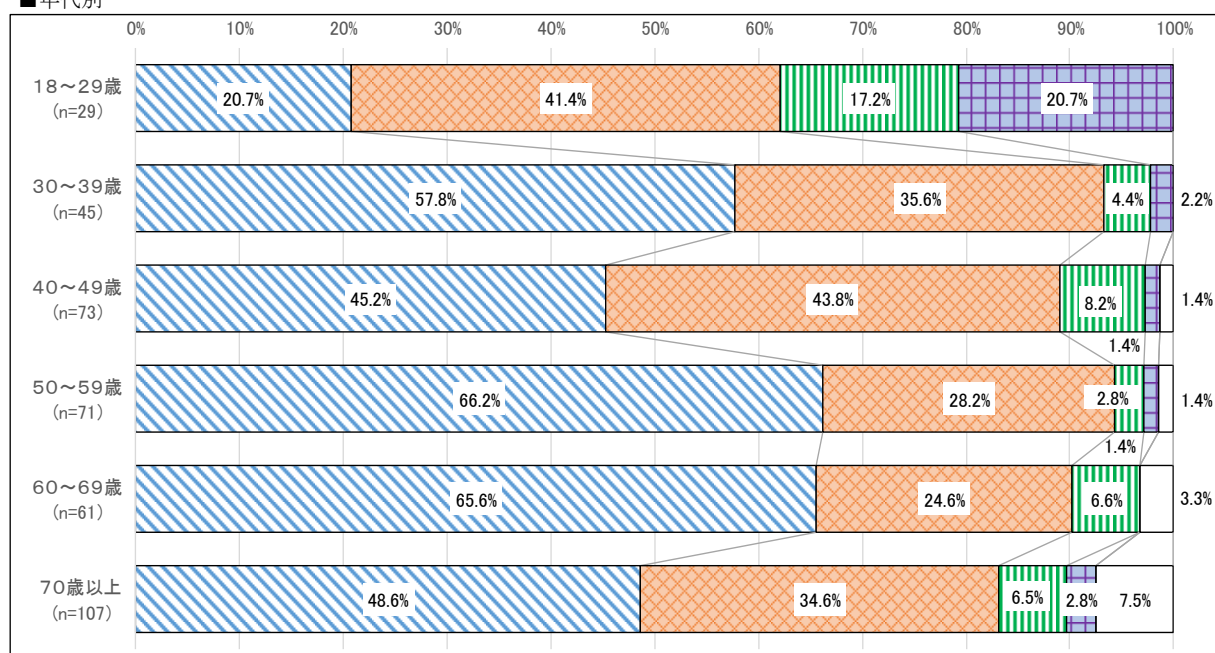
- いつもしている
- ときどきしている
- ほとんどしない
- まったくしない
- 対象となる人はいない
- 無回答

■ウ 買い物（日用品）

■性別



■年代別

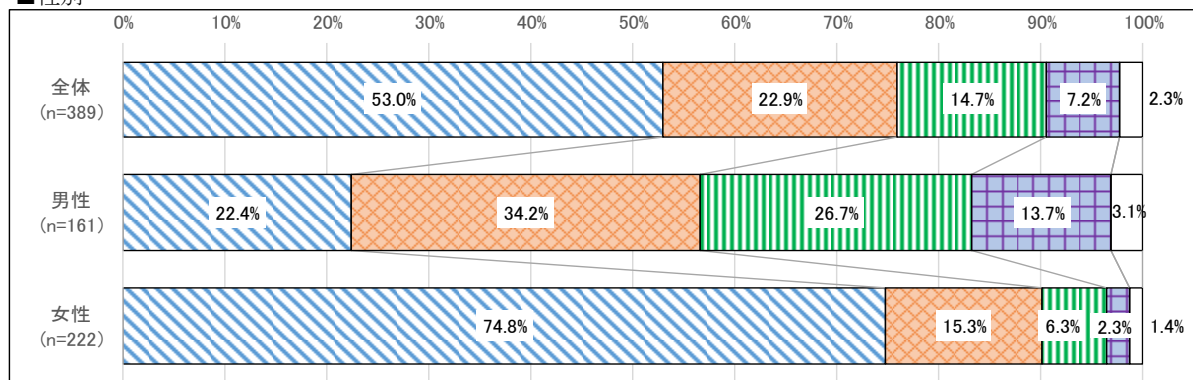


<凡例>

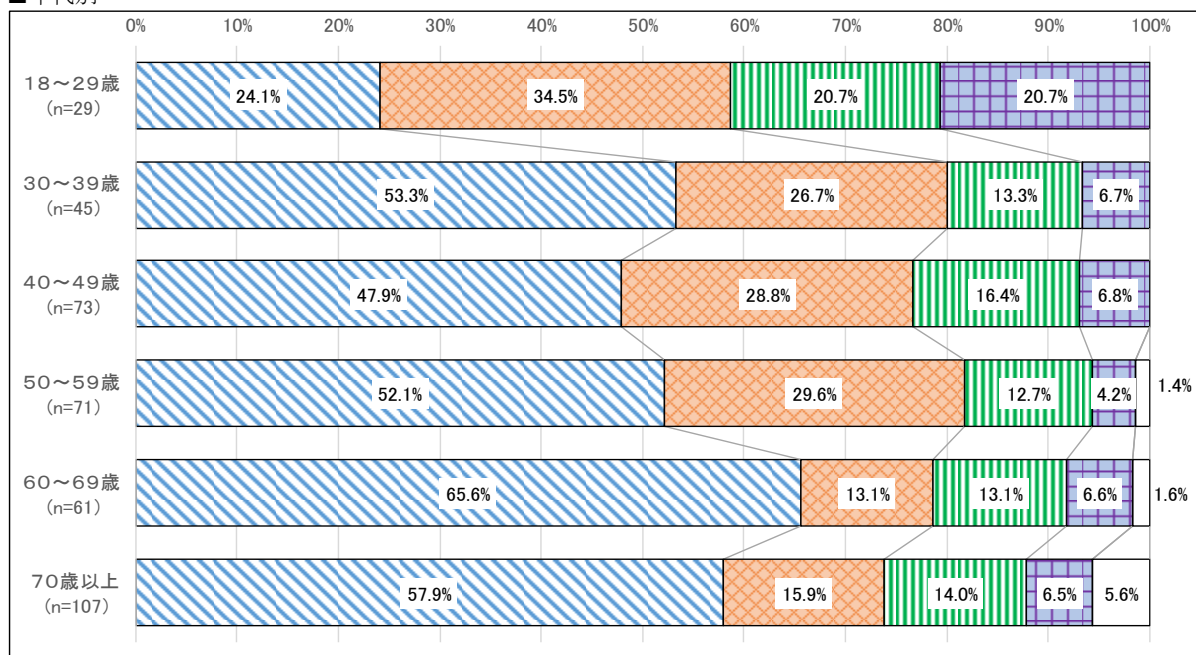
-  いつもしている
-  ときどきしている
-  ほとんどしない
-  まったくしない
-  対象となる人はいない
-  無回答

■エ 食事のしたく

■性別



■年代別

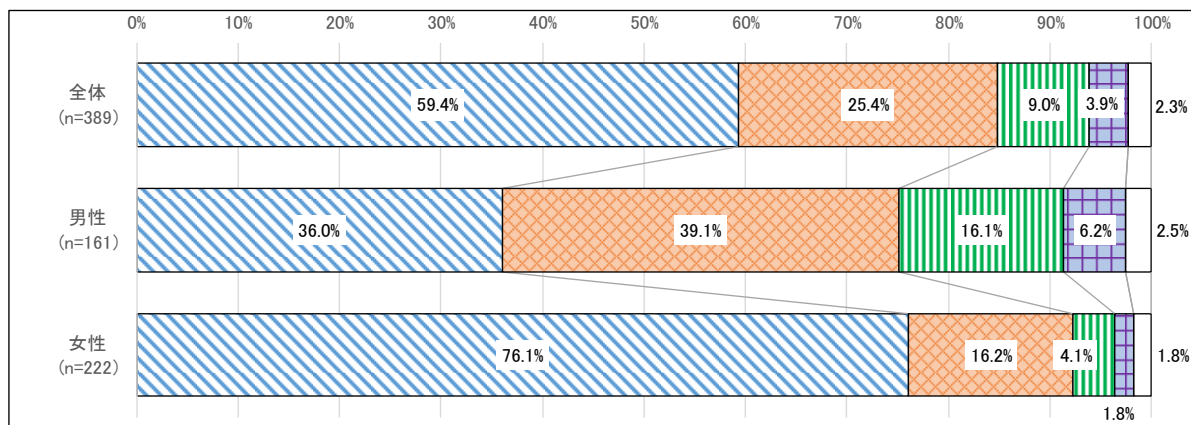


< 凡例 >

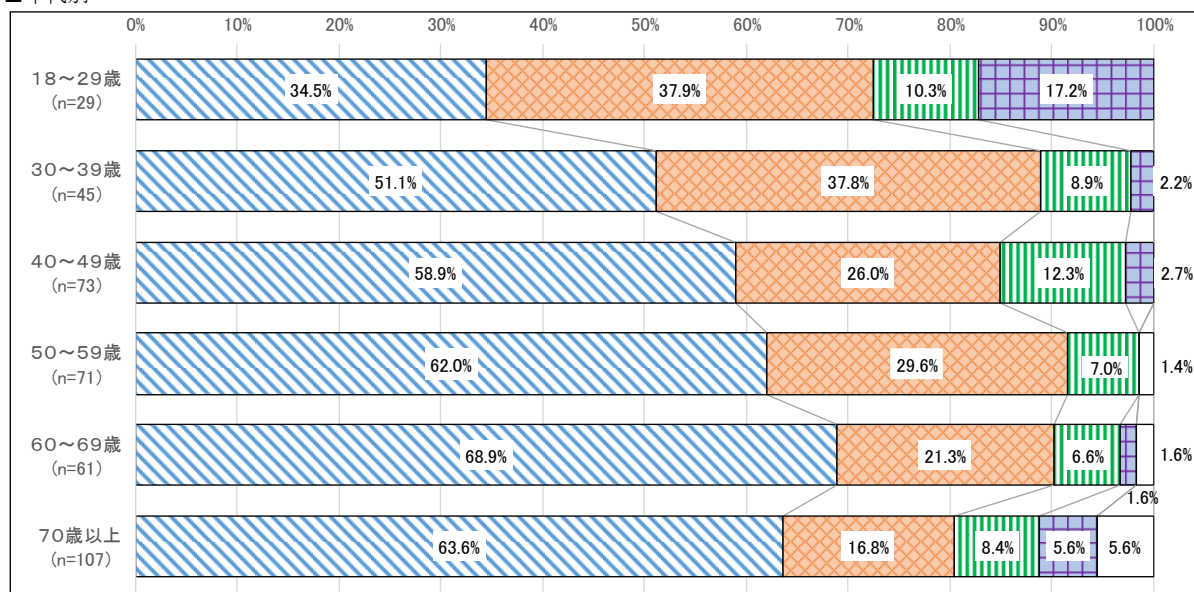
-  いつもしている
-  ときどきしている
-  ほとんどしない
-  まったくしない
-  対象となる人はいない
-  無回答

■オ 食事の後片づけ（食器洗いなど）

■性別



■年代別

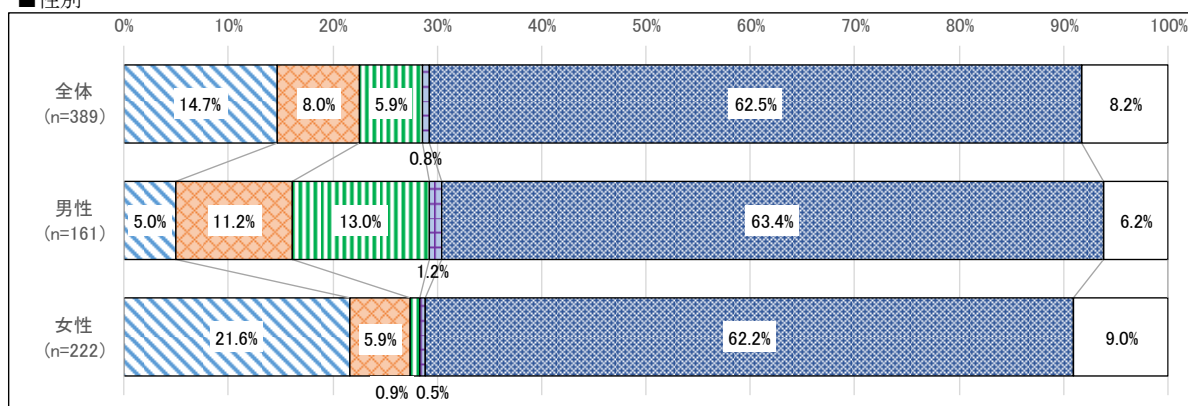


< 凡例 >

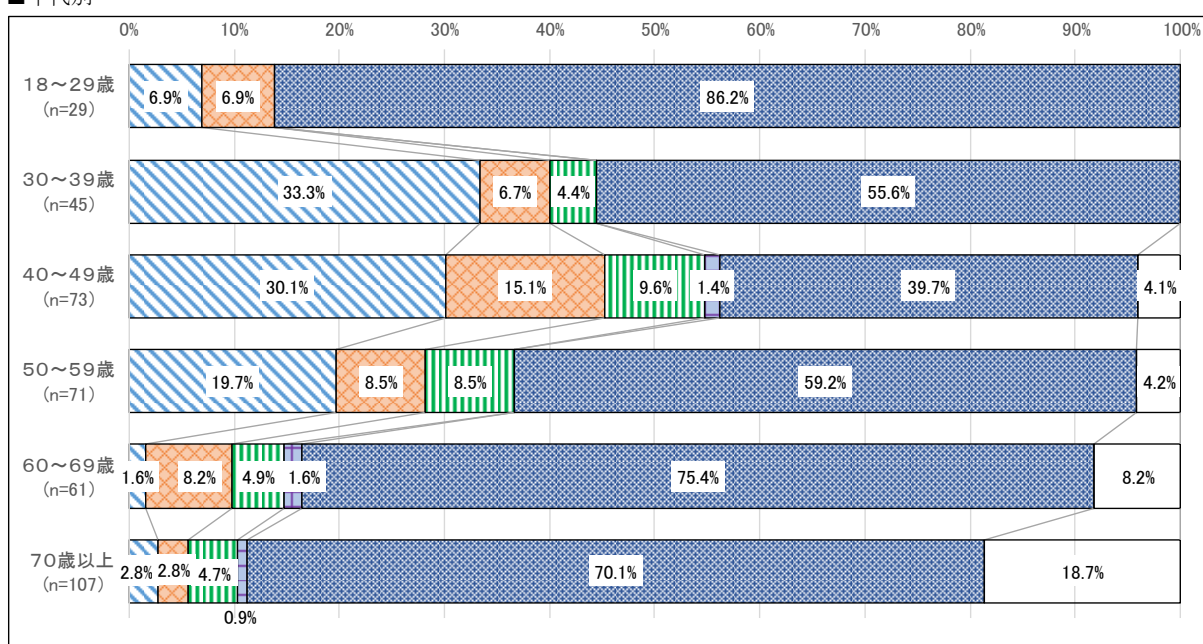
-  いつもしている
-  ときどきしている
-  ほとんどしない
-  まったくしない
-  対象となる人はいない
-  無回答

■カ 子どもの教育

■性別



■年代別



< 凡例 >



いつもしている



ときどきしている



ほとんどしない



まったくしない



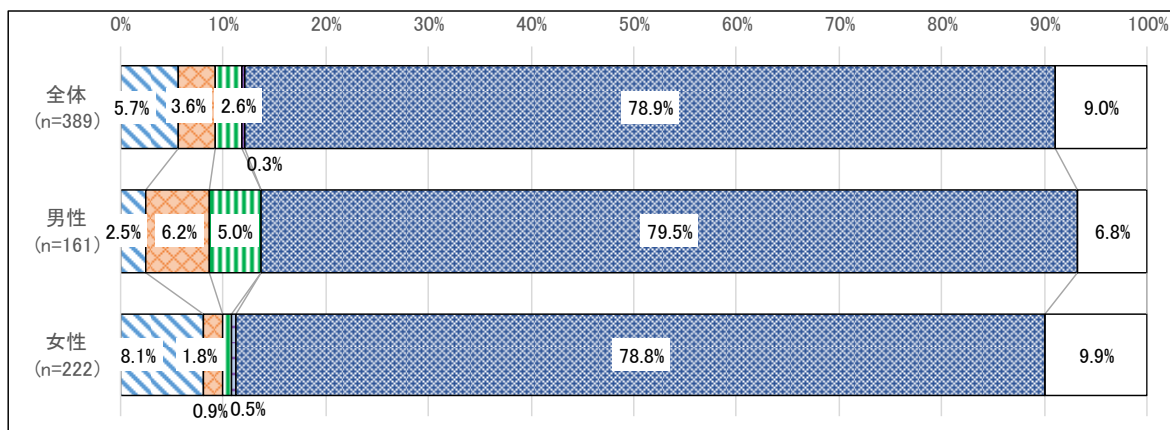
対象となる人はいない



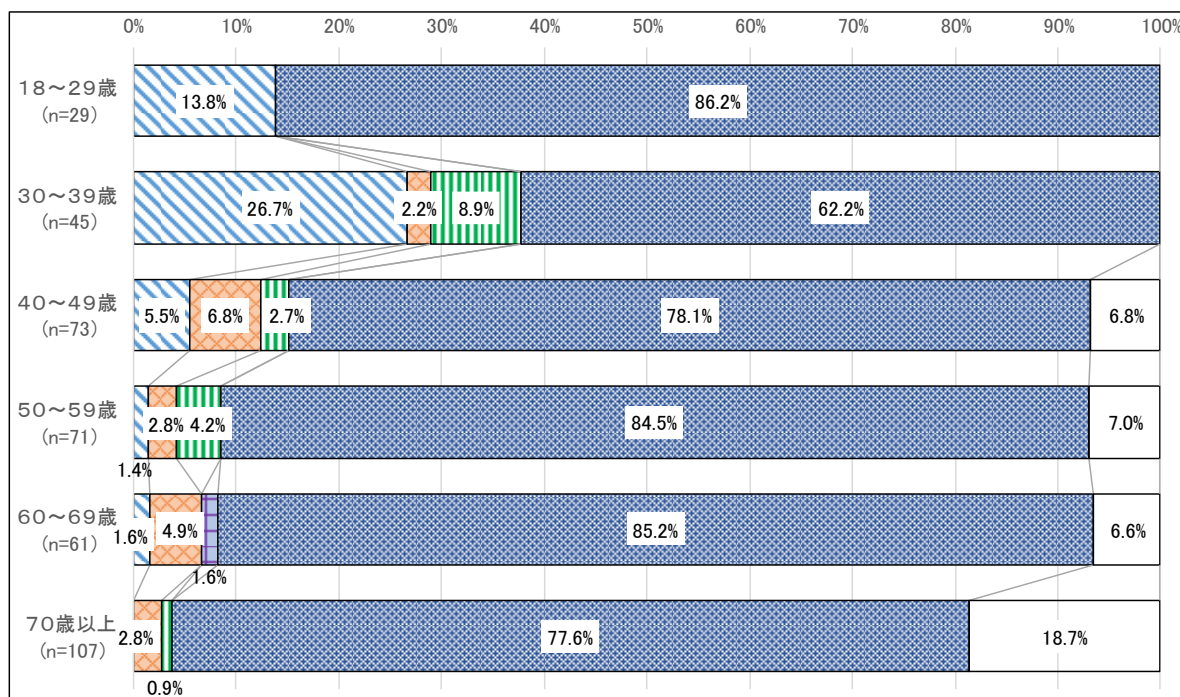
無回答

■キ 乳幼児の世話

■性別



■年代別

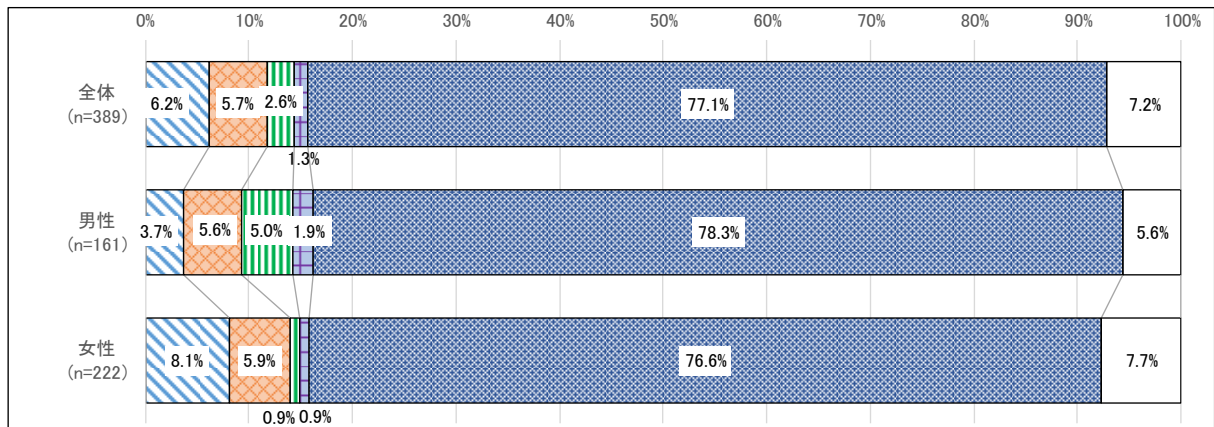


<凡例>

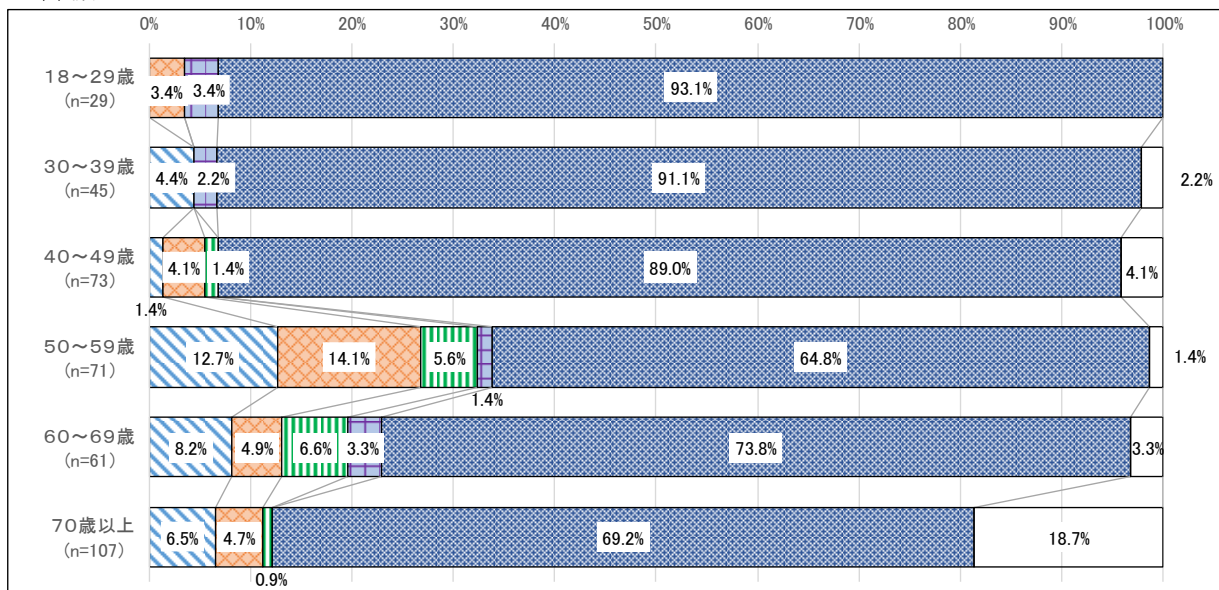
-  いつもしている
-  ときどきしている
-  ほとんどしない
-  まったくしない
-  対象となる人はいない
-  無回答

■ク 親族の介護

■性別



■年代別



<凡例>

いつもしている

ときどきしている

ほとんどしない

まったくしない

対象となる人はいない

無回答

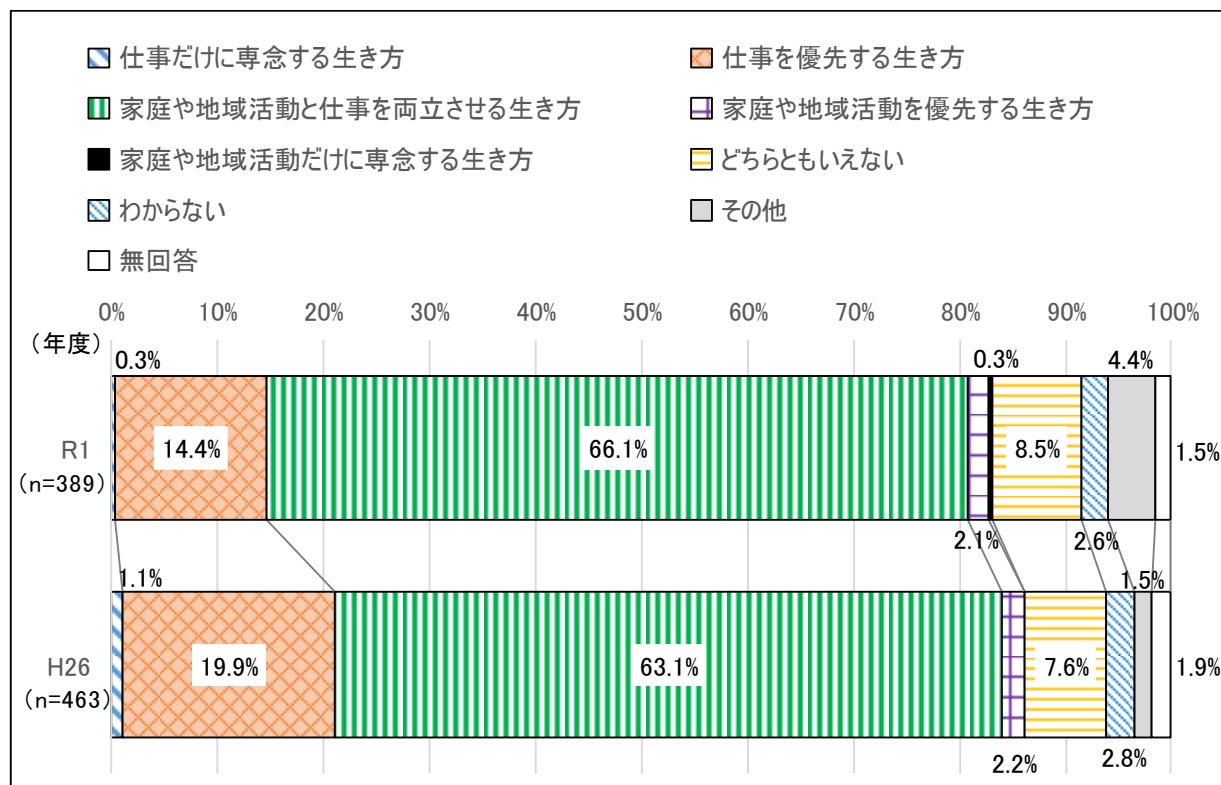
問13 男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのはどのような生き方ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 仕事だけに専念する生き方
2. 仕事を優先する生き方
3. 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
4. 家庭や地域活動を優先する生き方
5. 家庭や地域活動だけに専念する生き方
6. どちらともいえない
7. わからない
8. その他

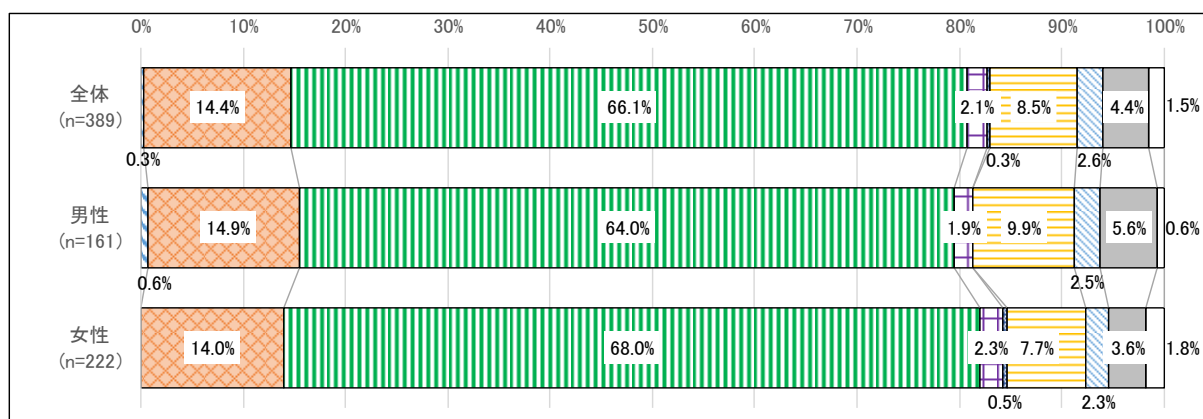
男性の生き方として望ましいと思うものは、「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」が最も割合が高く 66.1%、次いで「仕事を優先する生き方」が 14.4%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると「仕事だけに専念する生き方」や「仕事を優先する生き方」の割合が減少しています。

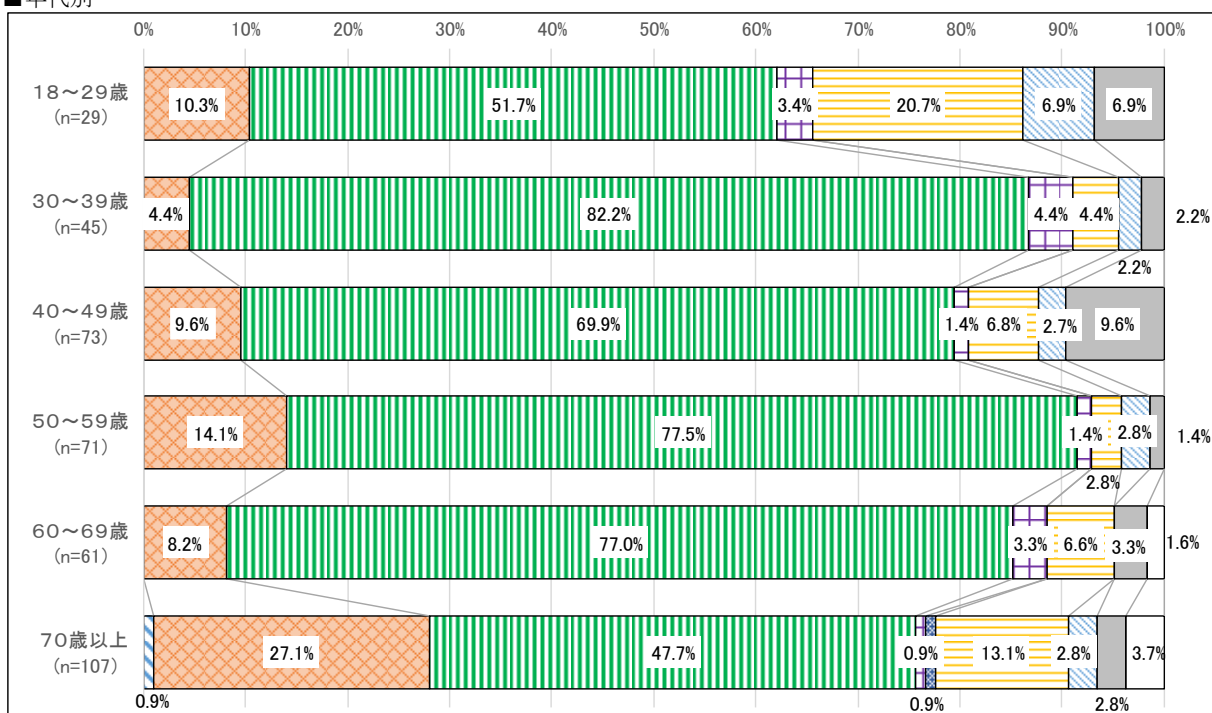
「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」の割合を年代別で見ると、18～29 歳と 70 歳以上では 50%前後となっており、他の年代と比較し、低い傾向にあります。



■性別



■年代別



< 凡例 >

-  仕事だけに専念する生き方
-  仕事を優先する生き方
-  家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
-  家庭や地域活動を優先する生き方
-  家庭や地域活動だけに専念する生き方
-  どちらともいえない
-  わからない
-  その他
-  無回答

問13-1 女性の生き方として、あなたが望ましいと思うのはどのような生き方ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

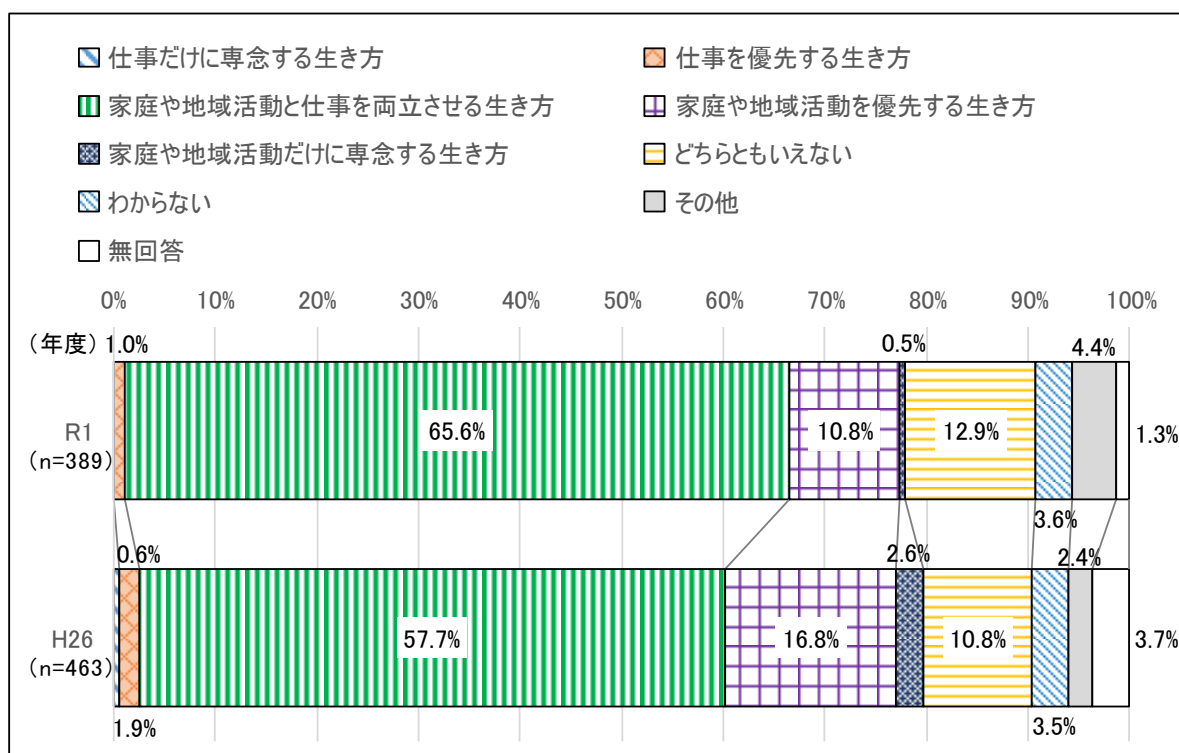
1. 仕事だけに専念する生き方
2. 仕事を優先する生き方
3. 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
4. 家庭や地域活動を優先する生き方
5. 家庭や地域活動だけに専念する生き方
6. どちらともいえない
7. わからない
8. その他

女性の生き方として望ましいと思うものは、「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」が最も割合が高く 65.6%となっています。

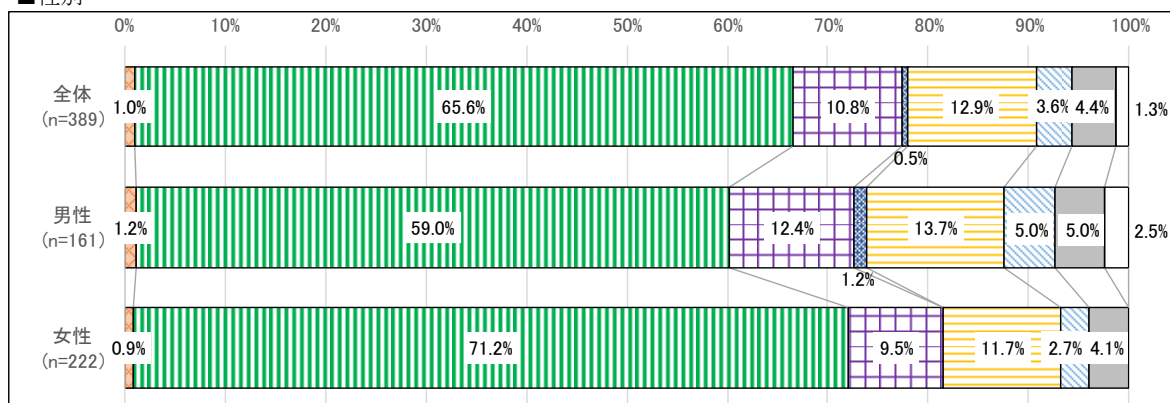
平成 26 年度調査と比較すると「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」の割合が増加し、「家庭や地域活動を優先する生き方」が減少しています。

「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」の割合を性別で見ると、男性が 59.0%、女性が 71.2%であり、女性の割合が高い傾向にあります。

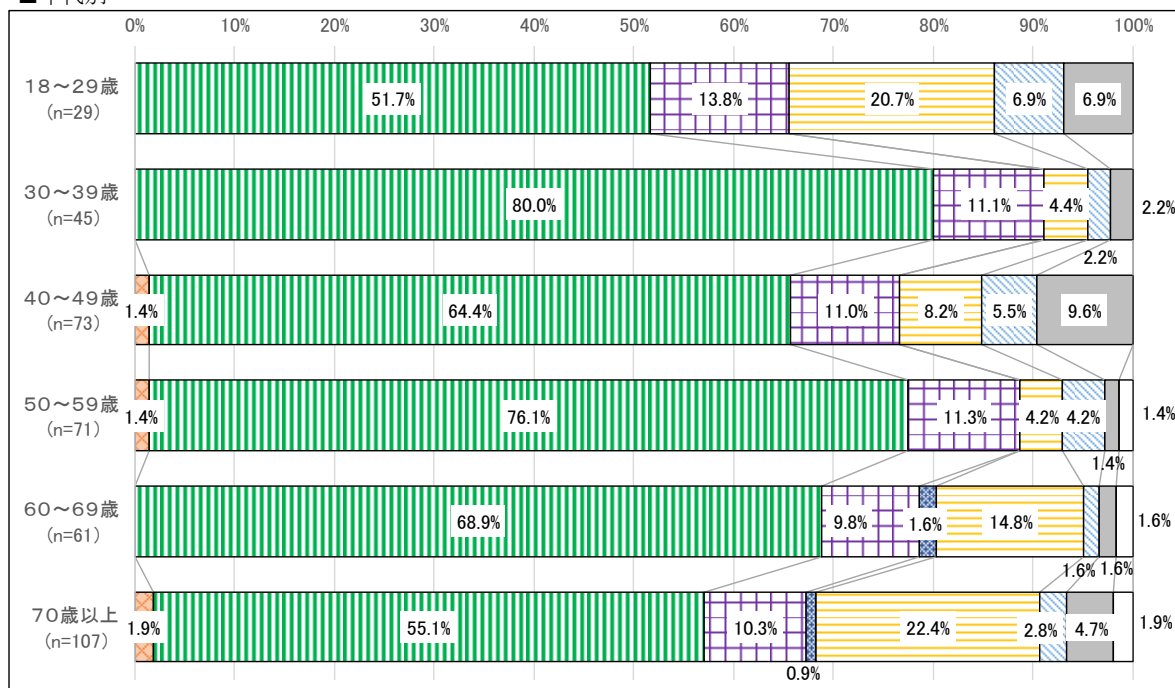
「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」の割合を年代別で見ると、18～29 歳と 70 歳以上では 50%台となっており、他の年代と比較し低い傾向にあります。



■性別



■年代別



< 凡例 >

-  仕事だけに専念する生き方
-  仕事を優先する生き方
-  家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
-  家庭や地域活動を優先する生き方
-  家庭や地域活動だけに専念する生き方
-  どちらともいえない
-  わからない
-  その他
-  無回答

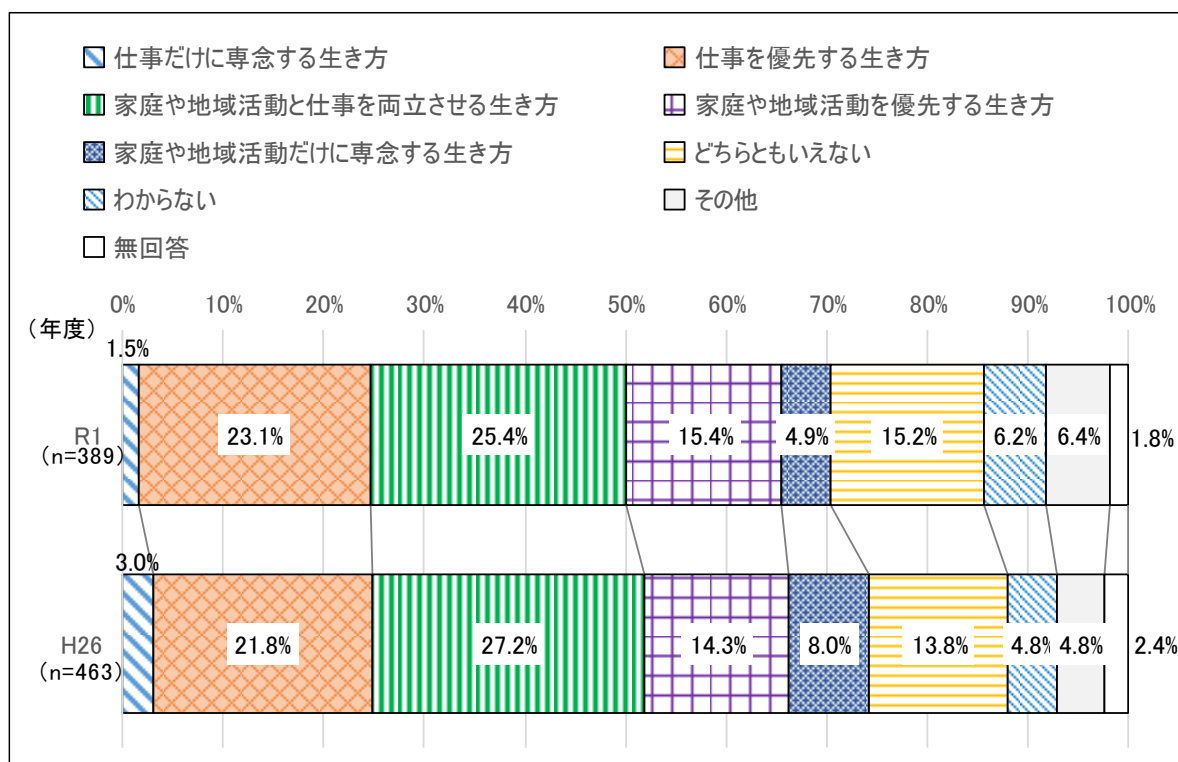
問13-2 現在のあなた自身の生き方は、下記のどの項目に一番近いと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 仕事だけに専念する生き方
2. 仕事を優先する生き方
3. 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
4. 家庭や地域活動を優先する生き方
5. 家庭や地域活動だけに専念する生き方
6. どちらともいえない
7. わからない
8. その他

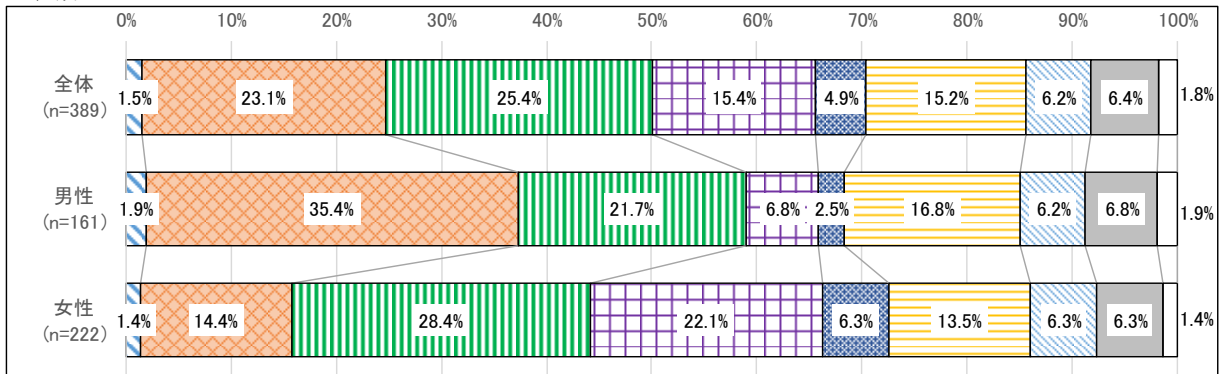
現在の自分自身の生き方は、「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」が最も割合が高く25.4%、次いで「仕事を優先する生き方」が23.1%となっています。

平成26年度調査と比較すると大きな差異はなく、先の設問で見られた意識の変化と実態との間に乖離があります。

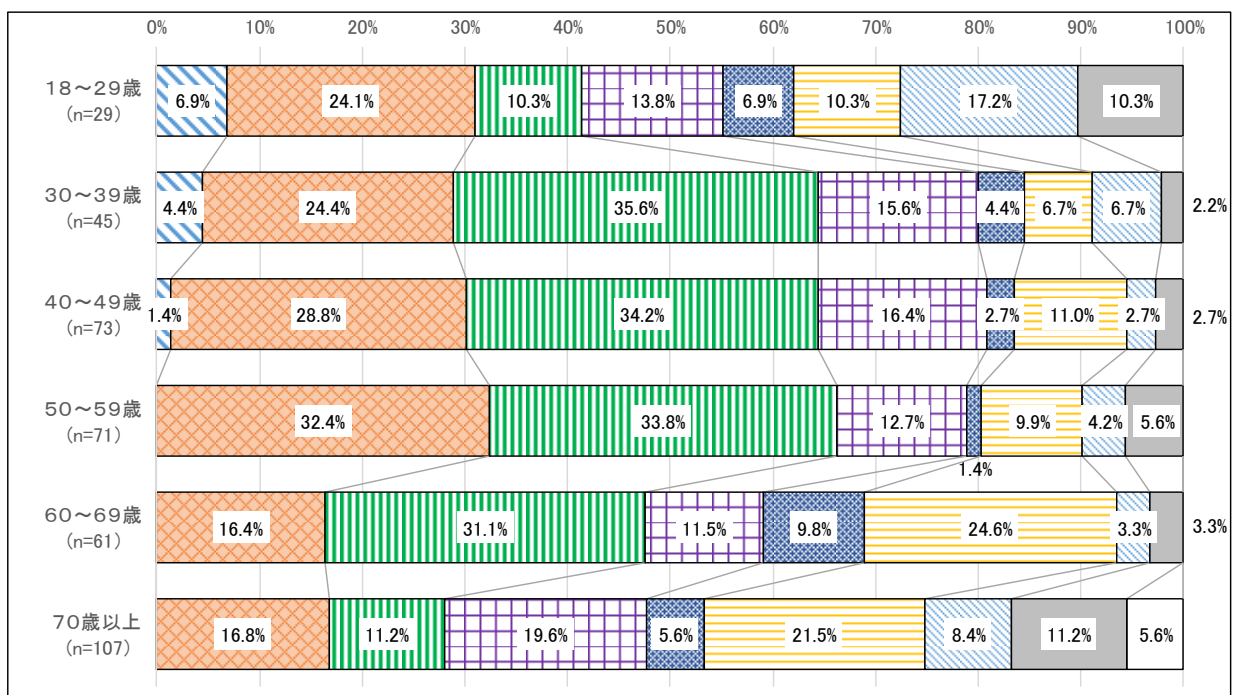
性別では、男性は「仕事を優先する生き方」が35.4%と最も高く、女性は「家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方」が28.4%と最も高くなっており、男女で差異があります。



■性別



■年代別



< 凡例 >

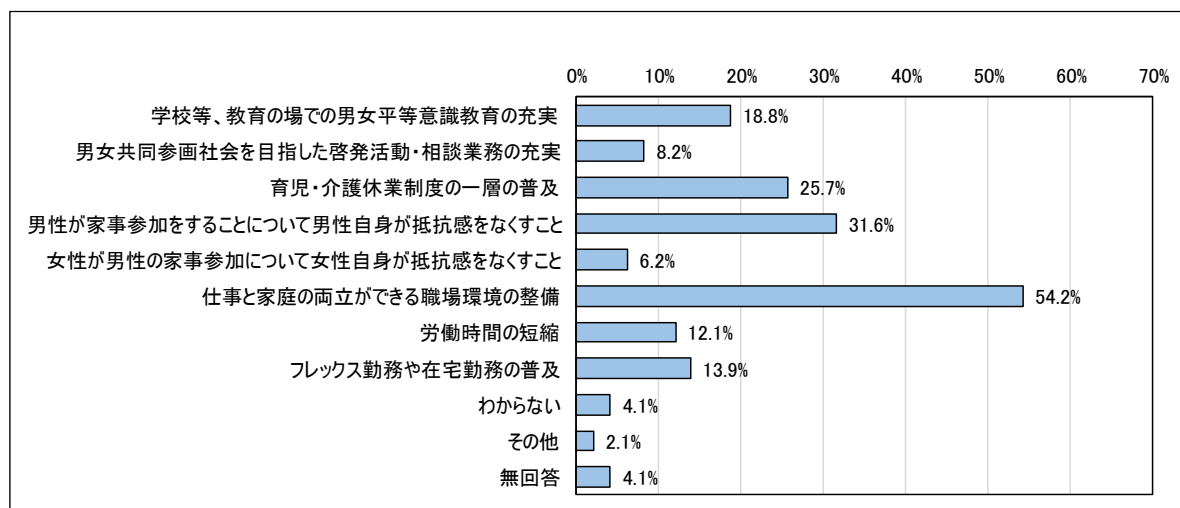
-  仕事だけに専念する生き方
-  仕事を優先する生き方
-  家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
-  家庭や地域活動を優先する生き方
-  家庭や地域活動だけに専念する生き方
-  どちらともいえない
-  わからない
-  その他
-  無回答

問14 あなたは男性が家事、育児、介護や地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
2. 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
3. 育児・介護休業制度の一層の普及
4. 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
5. 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
6. 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
7. 労働時間の短縮
8. フレックス勤務や、在宅勤務の普及
9. わからない
10. その他

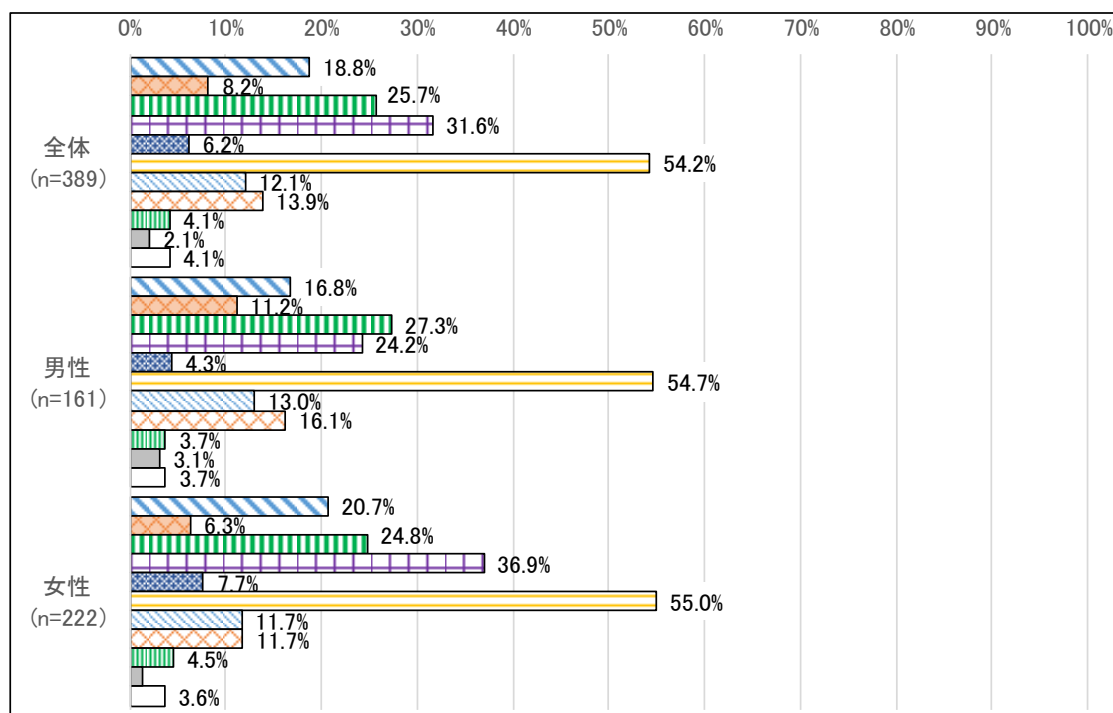
男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくために必要なことについて、「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」が最も割合が高く 54.2%、次いで「男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと」が 31.6%となっています。

「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」の割合を年代別で見ると、30～39歳の73.3%が最も高く、70歳以上の38.3%が最も低くなっています。なお、70歳未満では、すべての年代で50%以上となっています。



(n=389)

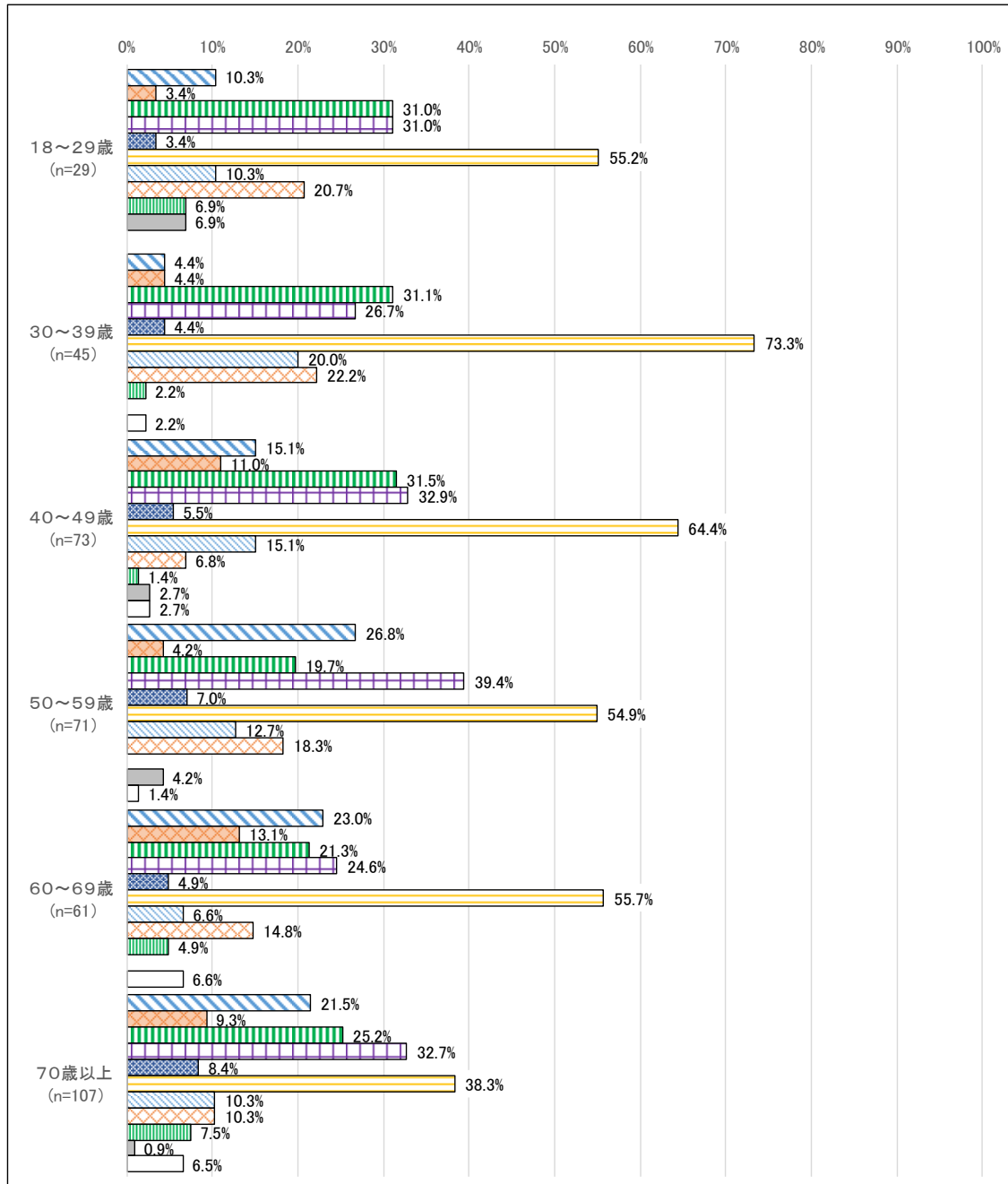
■性別



< 凡例 >

- 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
- 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
- 育児・介護休業制度の一層の普及
- 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
- 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
- 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
- 労働時間の短縮
- フレックス勤務や在宅勤務の普及
- わからない
- その他
- 無回答

■年代別



< 凡例 >

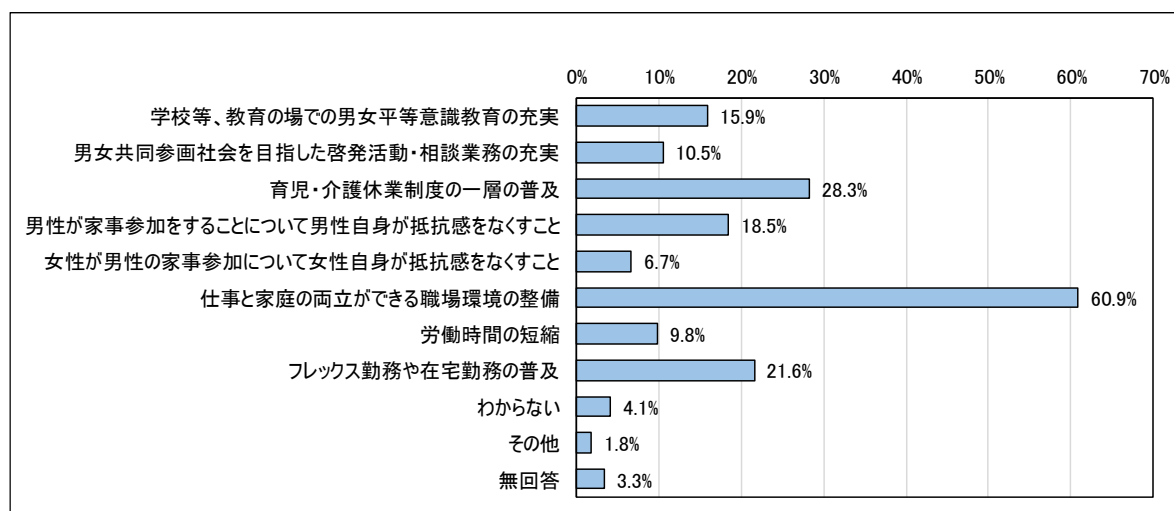
- 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
- 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
- 育児・介護休業制度の一層の普及
- 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
- 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
- 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
- 労働時間の短縮
- フレックス勤務や在宅勤務の普及
- わからない
- その他
- 無回答

問14-1 あなたは女性が就業などの社会参画をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
2. 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
3. 育児・介護休業制度の一層の普及
4. 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
5. 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
6. 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
7. 労働時間の短縮
8. フレックス勤務や、在宅勤務の普及
9. わからない
10. その他

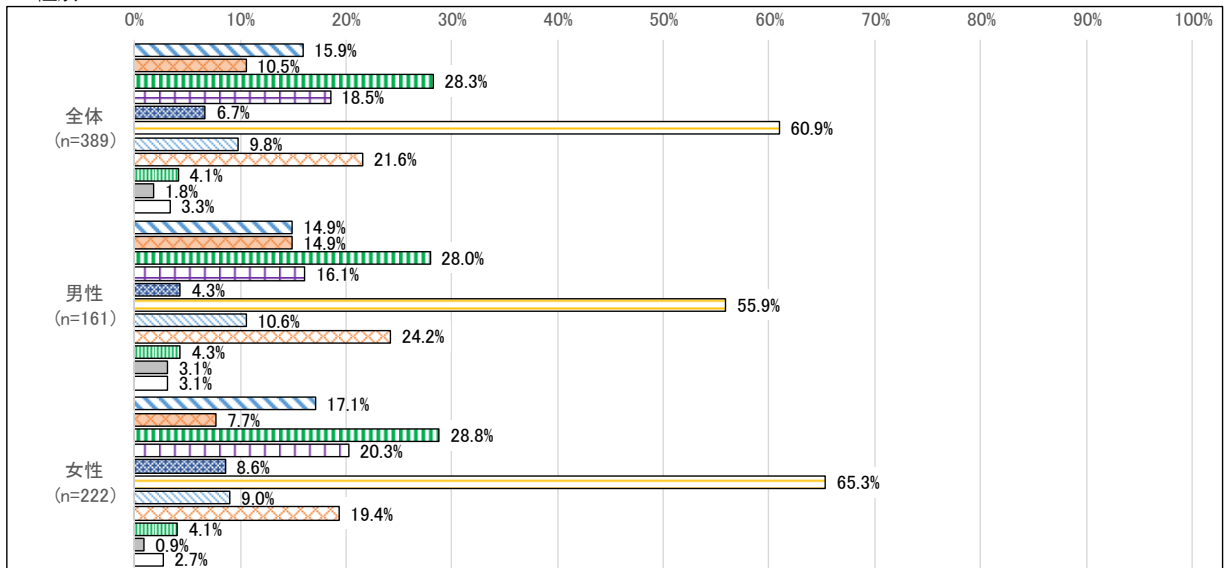
女性が就業等の社会参画をしていくために必要なことについて、「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」が最も割合が高く 60.9%、次いで「育児・介護休業制度の一層の普及」が 28.3% となっています。

性別・年代別に見ても、「仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備」の割合が最も高くなっており、特に 60～69 歳では 70.5% と高くなっています。

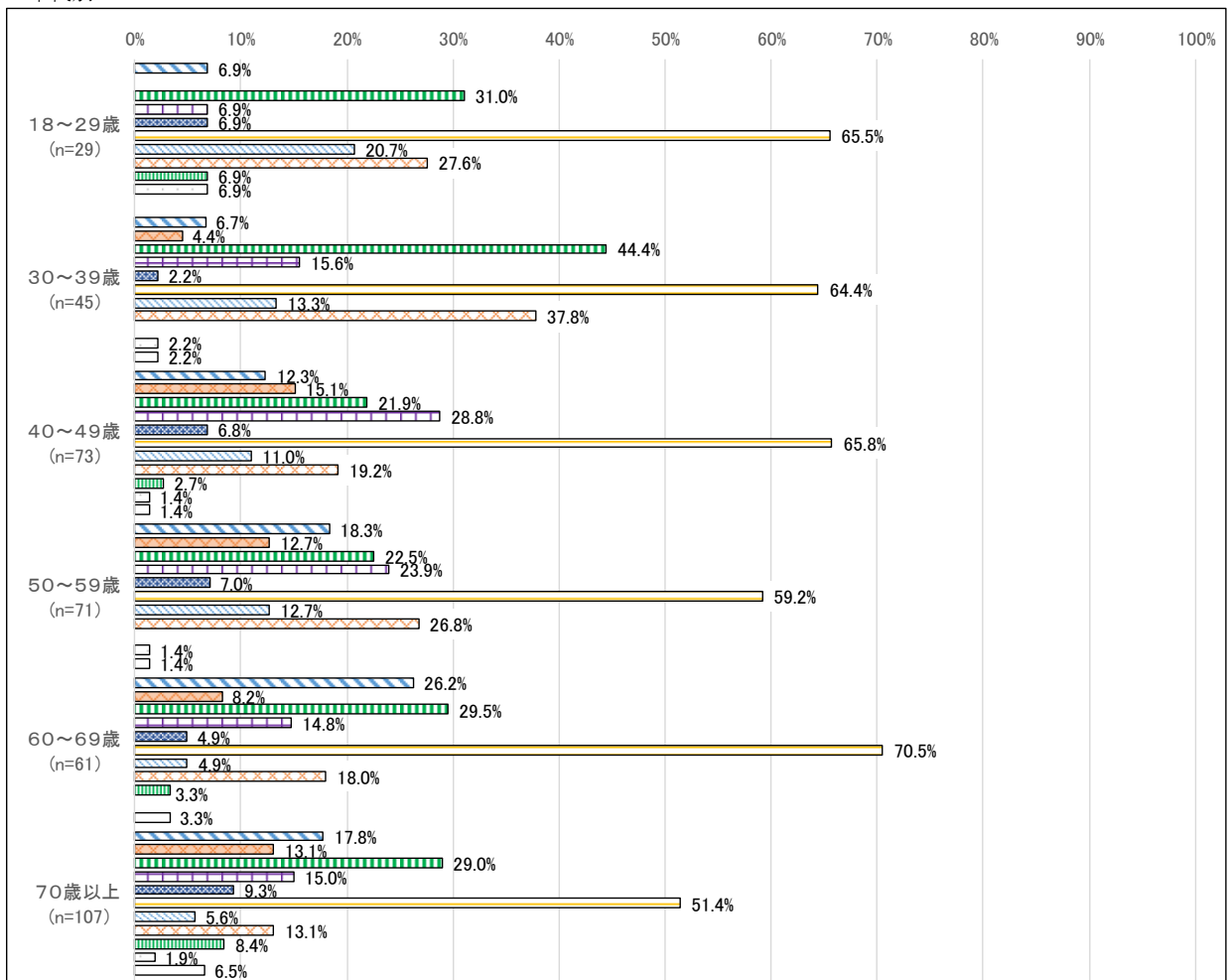


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

- 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
- 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
- 育児・介護休業制度の一層の普及
- 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
- 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
- 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
- 労働時間の短縮
- フレックス勤務や在宅勤務の普及
- わからない
- その他
- 無回答

(5) 子どもの教育について

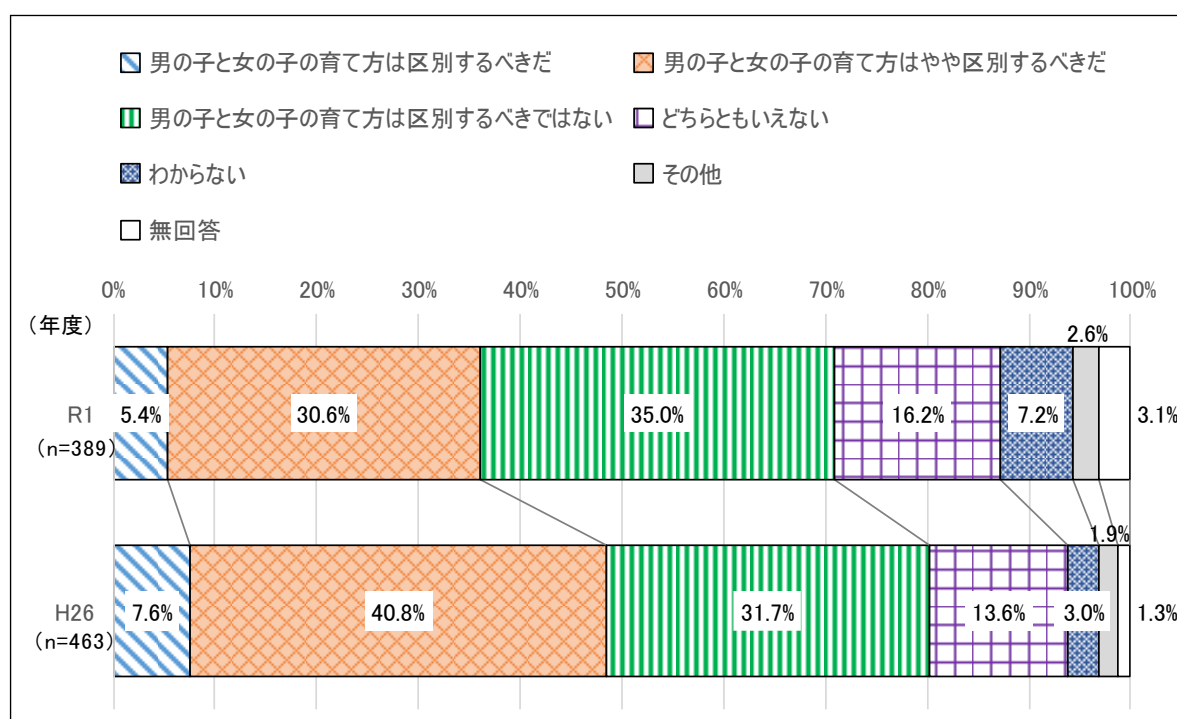
問15 あなた自身が子育てをする場合、「男の子の育て方」と「女の子の育て方」を区別した方がいいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 男の子と女の子の育て方は区別するべきだ
2. 男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ
3. 男の子と女の子の育て方は区別するべきではない
4. どちらともいえない
5. わからない
6. その他

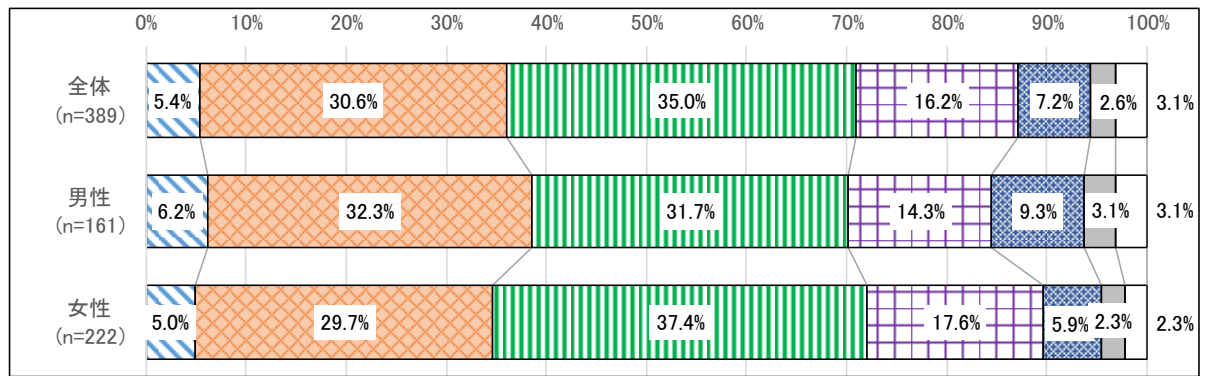
子育てにおいて「男の子」と「女の子」を区別した方がいいかについては、「男の子と女の子の育て方は区別するべきではない」が最も割合が高く 35.0%、次いで「男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ」が 30.6%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「男の子と女の子の育て方は区別するべきではない」が増加し、「男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ」が減少しており、子どもの育て方において、男女平等の意識が向上しています。

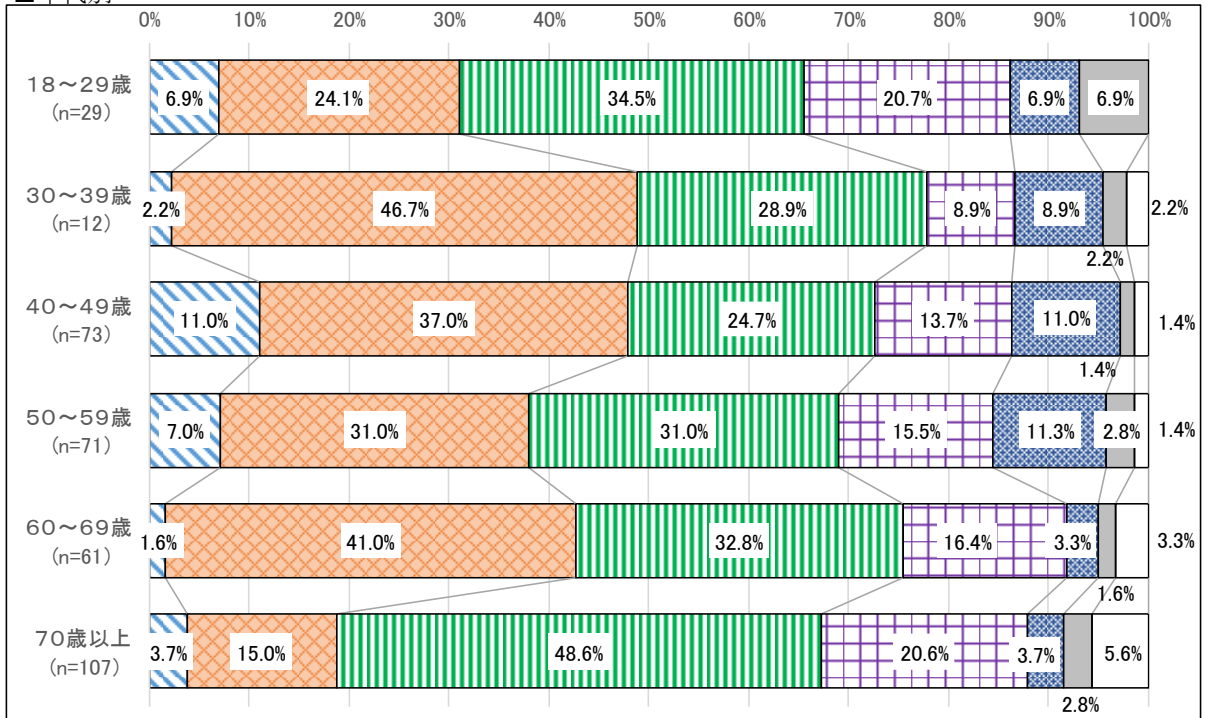
「男の子と女の子の育て方は区別するべきではない」の割合を年代別で見ると、70歳以上が 48.6%と最も高く、40～49歳が 24.7%と最も低くなっています。



■性別



■年代別



< 凡例 >

- 男の子と女の子の育て方は区別するべきだ
- 男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ
- 男の子と女の子の育て方は区別するべきではない
- どちらともいえない
- わからない
- その他
- 無回答

(6) 就業について

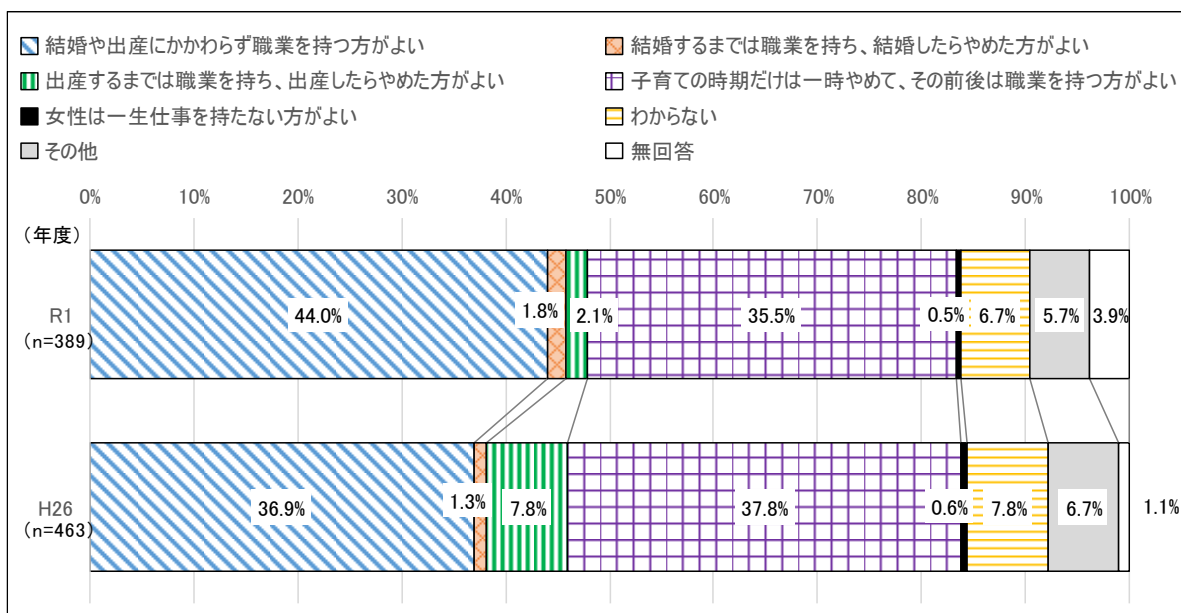
問16 あなたは女性が職業を持つことについてどのように思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい
2. 結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめた方がよい
3. 出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい
4. 子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい
5. 女性は一生仕事を持たない方がよい
6. わからない
7. その他

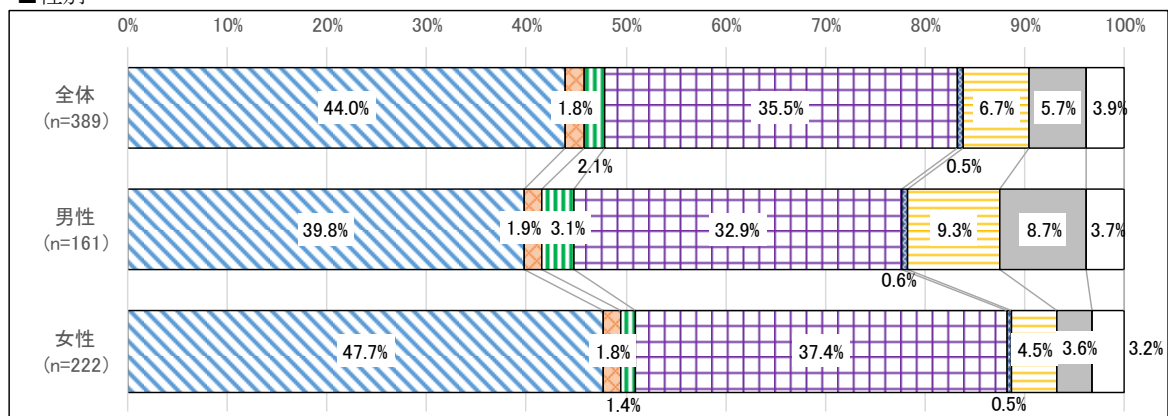
女性が職業を持つことについては、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」が最も割合が高く 44.0%、次いで「子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい」が 35.5%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」が増加し、「出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい」が減少しており、女性の就業継続に対する意識が向上しています。

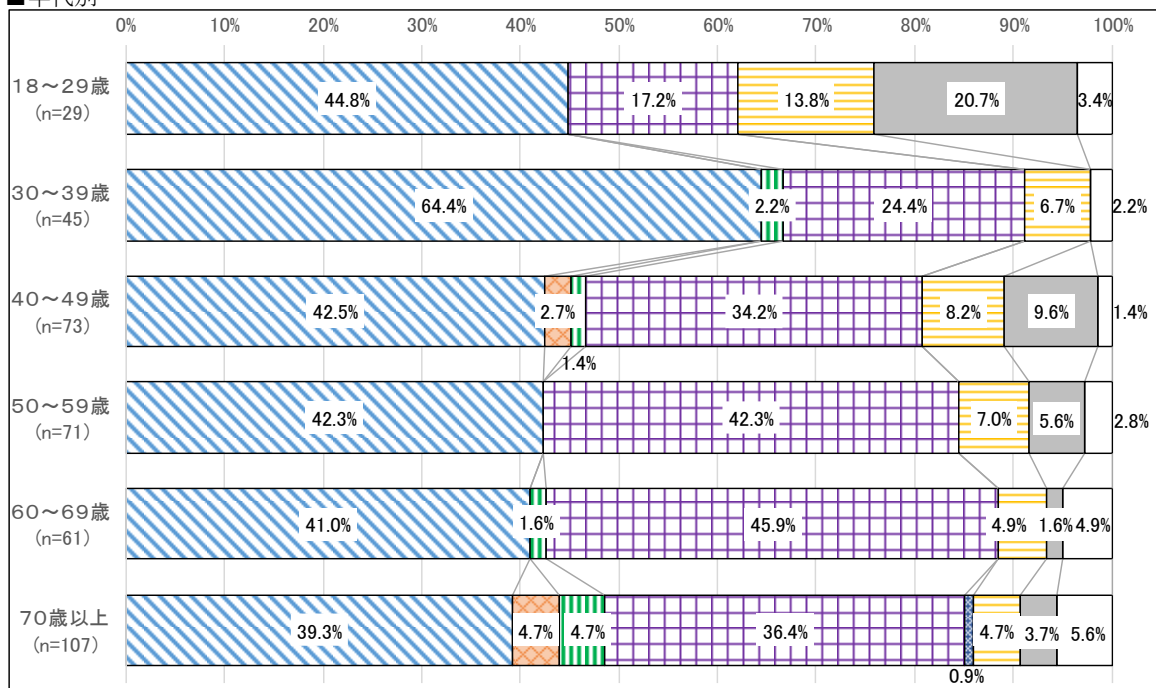
「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」の割合を性別で見ると、男性が 39.8%、女性が 47.7%であり、女性の割合が高くなっています。また、年代別に見ると、30～39 歳が 64.4%と最も高く、その他の世代では 40%前後となっています。



■性別



■年代別



< 凡例 >

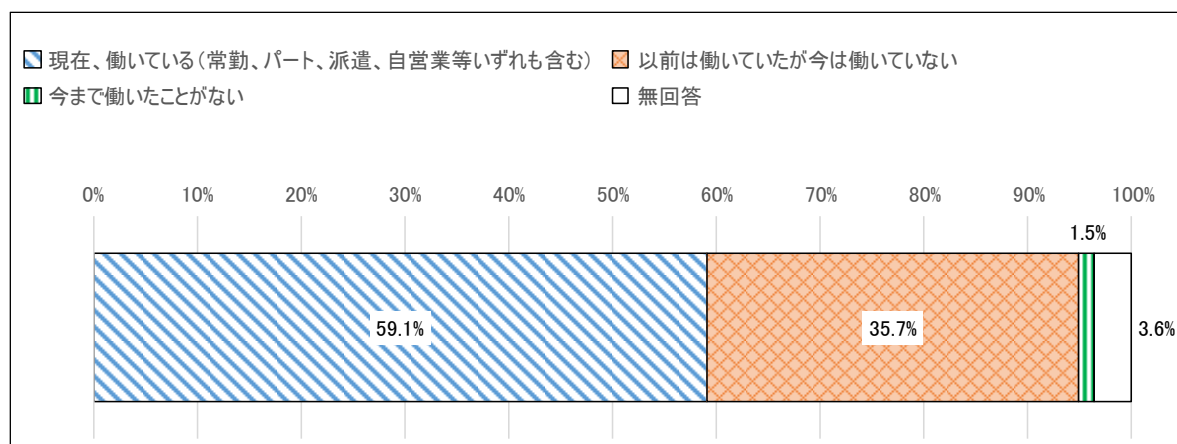
-  結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい
-  結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめた方がよい
-  出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい
-  子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい
-  女性は一生仕事を持たない方がよい
-  わからない
-  その他
-  無回答

問17 あなたは現在、仕事に就いていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 現在、働いている(常勤、パート、派遣、自営業等いずれも含む)
2. 以前は働いていたが今は働いていない
3. 今まで働いたことがない

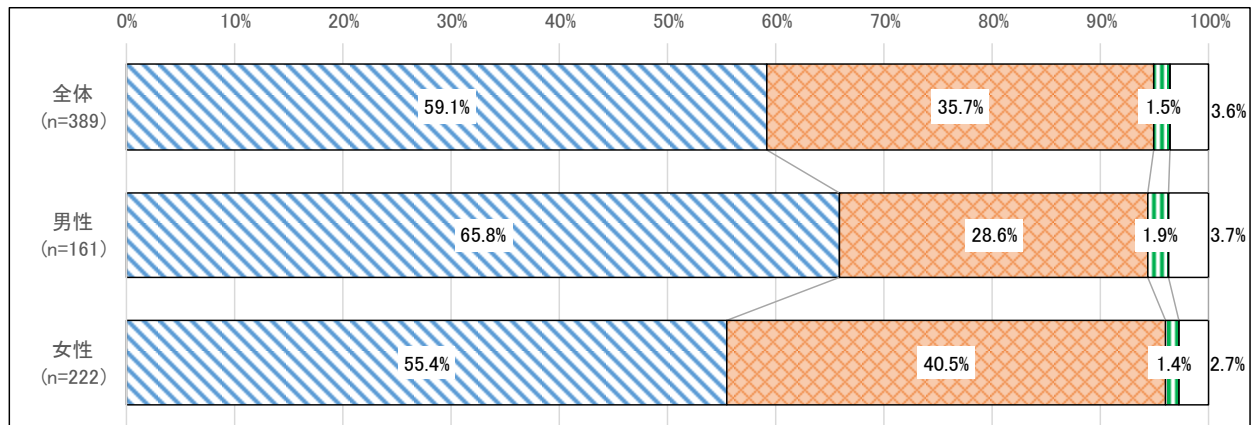
就業状況については、「現在、働いている(常勤、パート、派遣、自営業等いずれも含む)」が最も割合が高く 59.1%、次いで「以前は働いていたが今は働いていない」が 35.7%となっています。

「現在、働いている」の割合を性別で見ると、男性が 65.8%、女性が 55.4%であり、女性の割合が低い傾向にあります。

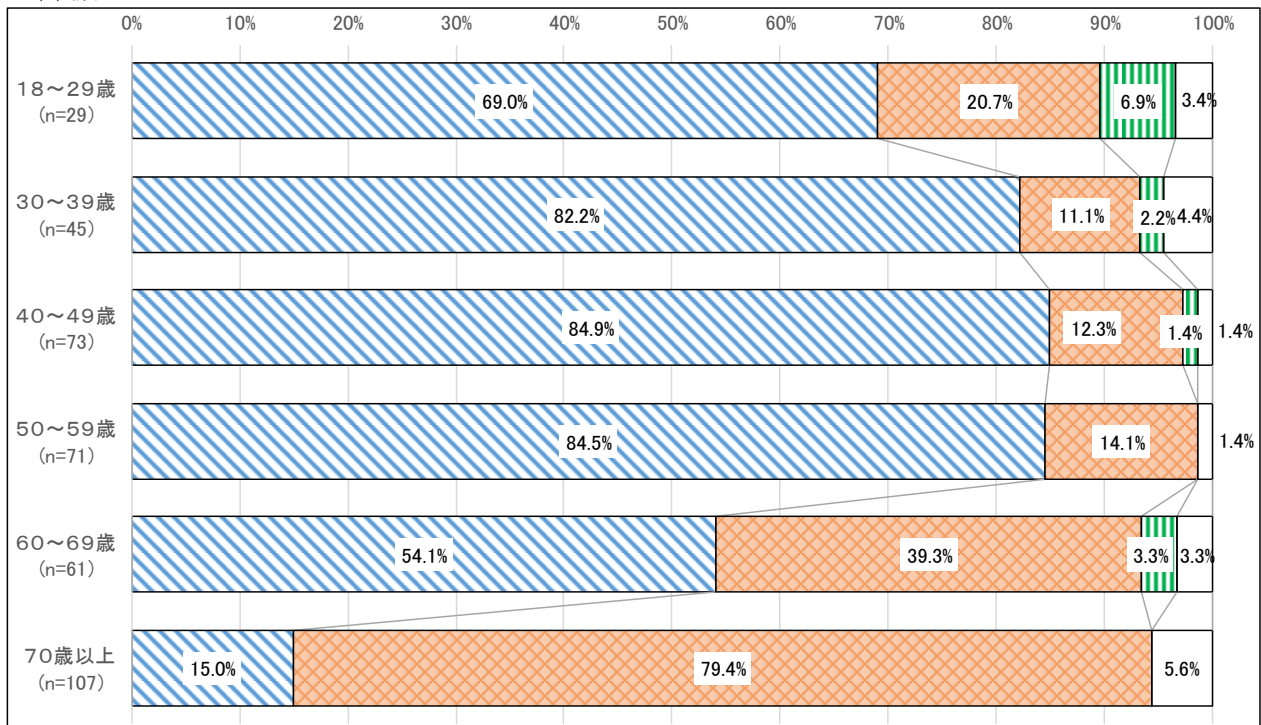


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

 現在、働いている(常勤、パート、派遣、自営業等いずれも含む)

 以前は働いていたが今は働いていない

 今まで働いたことがない

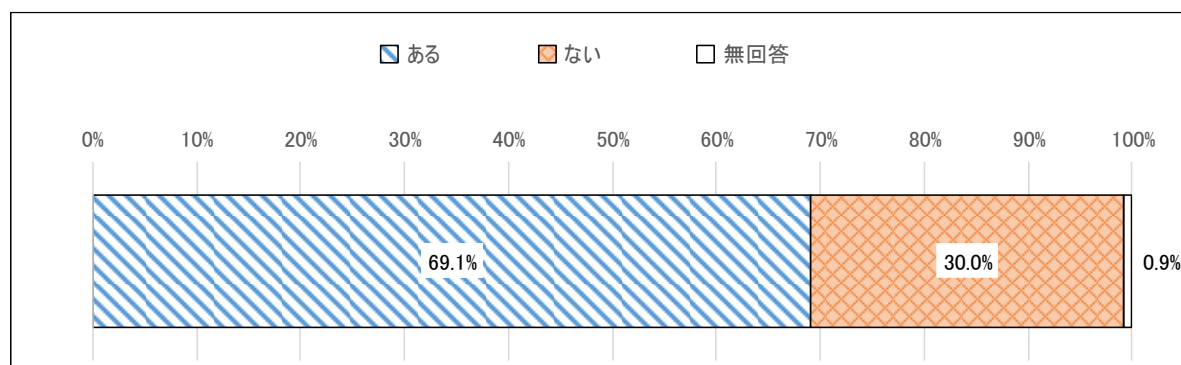
 無回答

問17-1 問17で「1 現在働いている」と答えた方のみにお聞きます。あなたは今までに、仕事をやめたり中断したり、あるいは転職したことはありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. ある
2. ない

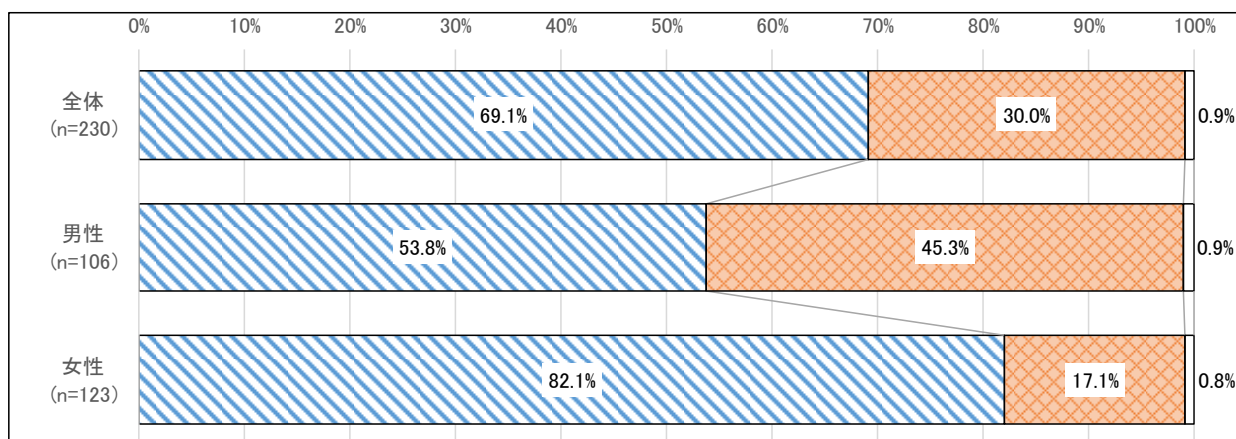
現在働いている人の退職や転職等の経験の有無については、「ある」が69.1%、「ない」が30.0%となっています。

「ある」の割合を性別で見ると、男性が53.8%、女性が82.1%であり、女性の割合が高くなっています。

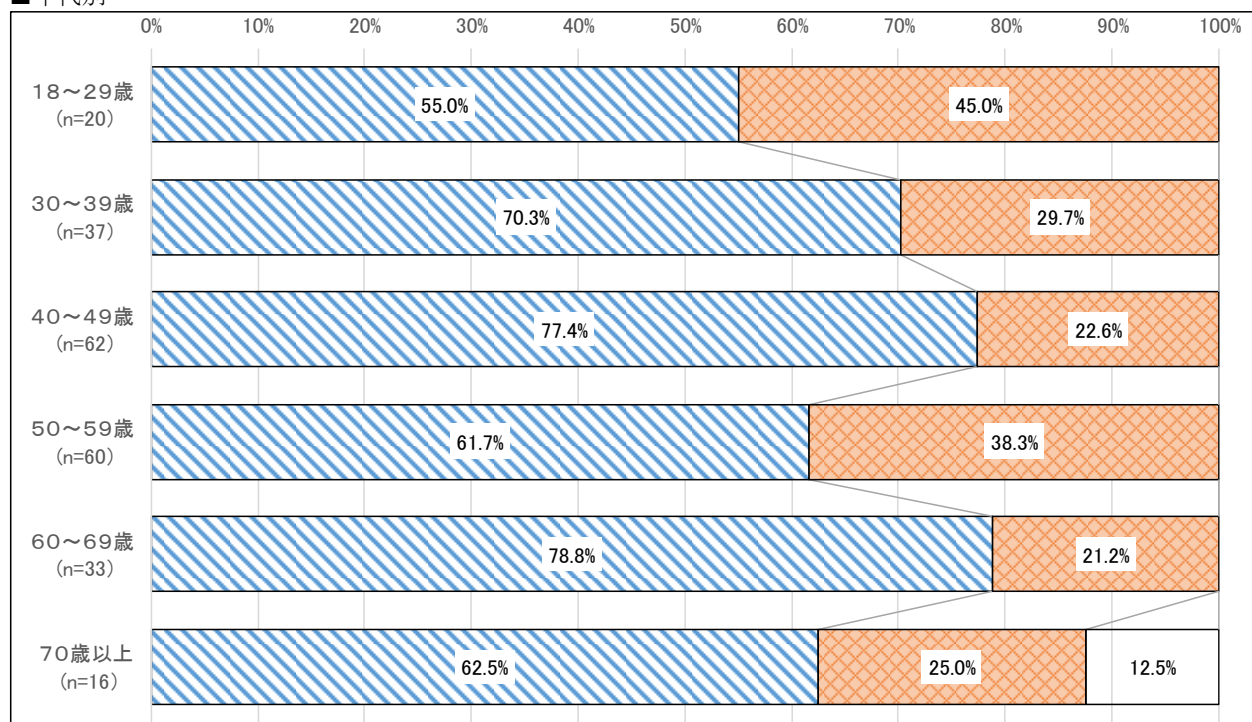


(n=230)

■性別



■年代別



<凡例>

 ある

 ない

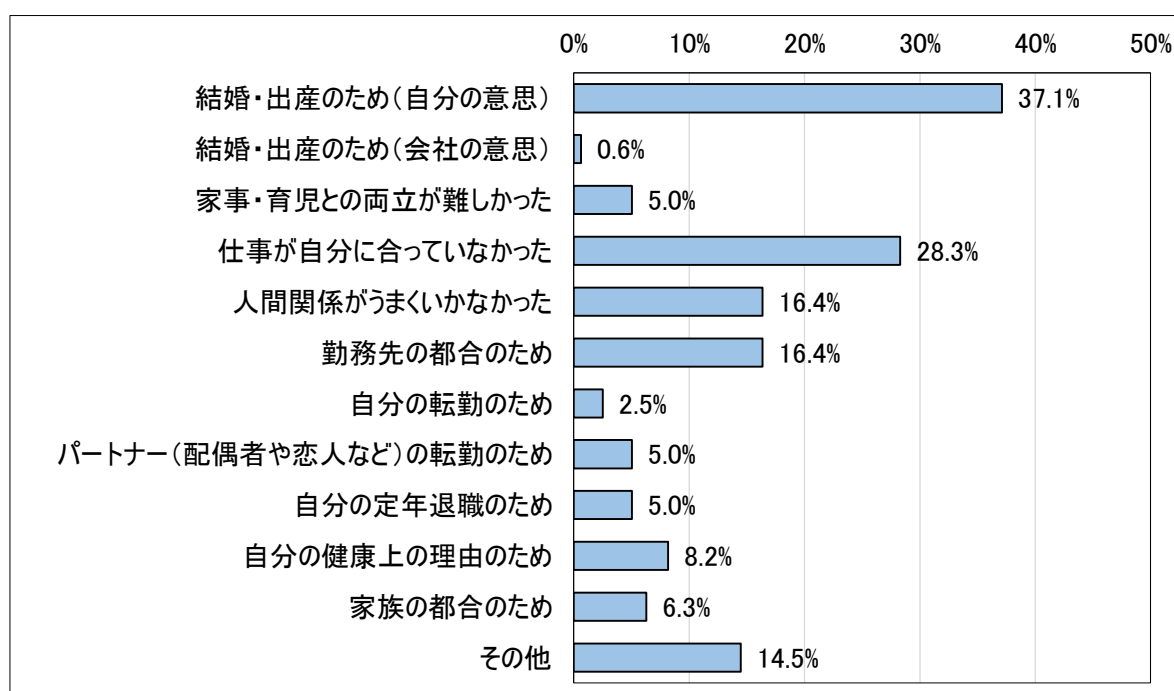
 無回答

問17-1-ア 問17-1で「1 ある」と答えた方のみにお聞きします。その主な理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 結婚・出産のため(自分の意思) | 7. 自分の転勤のため |
| 2. 結婚・出産のため(会社の意思) | 8. パートナー(配偶者や恋人など)の転勤のため |
| 3. 家事・育児との両立が難しかった | 9. 自分の定年退職のため |
| 4. 仕事が自分に合っていなかった | 10. 自分の健康上の理由のため |
| 5. 人間関係がうまくいかなかった | 11. 家族の都合のため |
| 6. 勤務先の都合のため | 12. その他 |

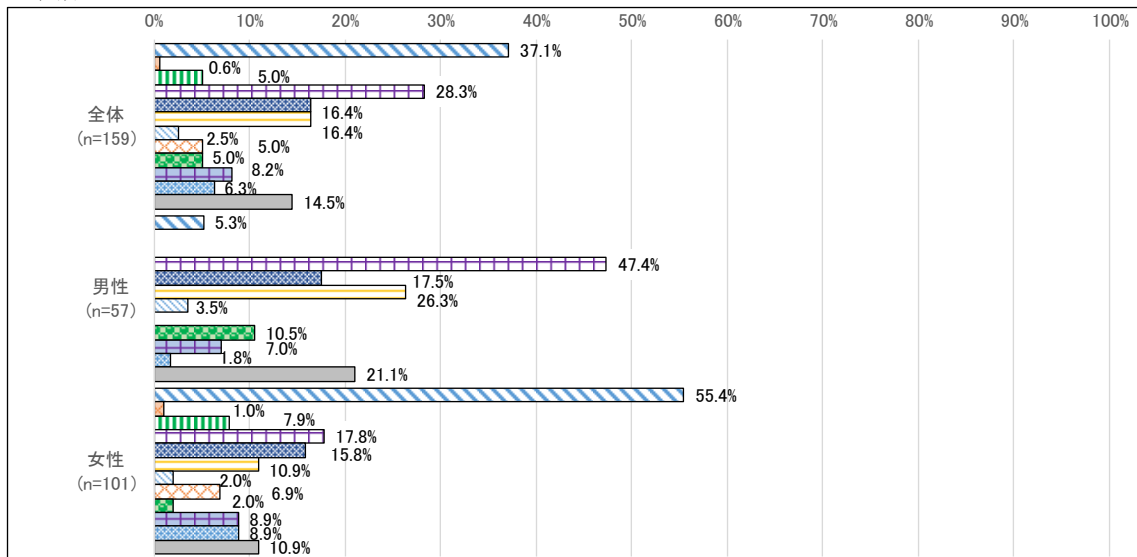
退職や転職の理由は、「結婚・出産のため(自分の意思)」が最も割合が高く 37.1%、次いで「仕事が自分に合っていなかった」が 28.3%となっています。

性別では、男性は「仕事が自分に合っていなかった」が 47.4%と最も高く、女性は「結婚・出産のため(自分の意思)」が 55.4%と最も高くなっています。

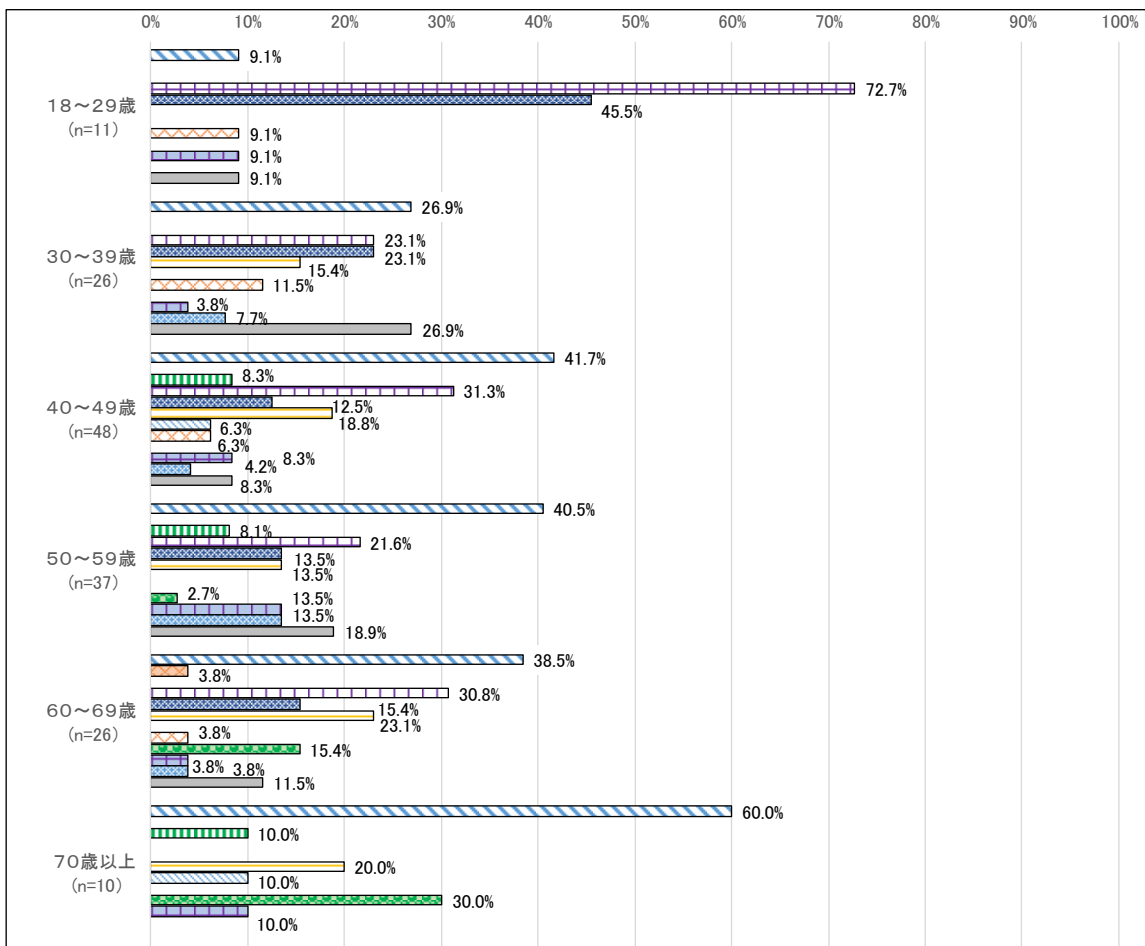


(n=159)

■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

- 結婚・出産のため(自分の意思)

 結婚・出産のため(会社の意思)
- 家事・育児との両立が難しかった

 仕事が自分に合っていなかった
- 人間関係がうまくいかなかった

 勤務先の都合のため
- 自分の転職のため

 パートナー(配偶者や恋人など)の転職のため
- 自分の定年退職のため

 自分の健康上の理由のため
- 家族の都合のため

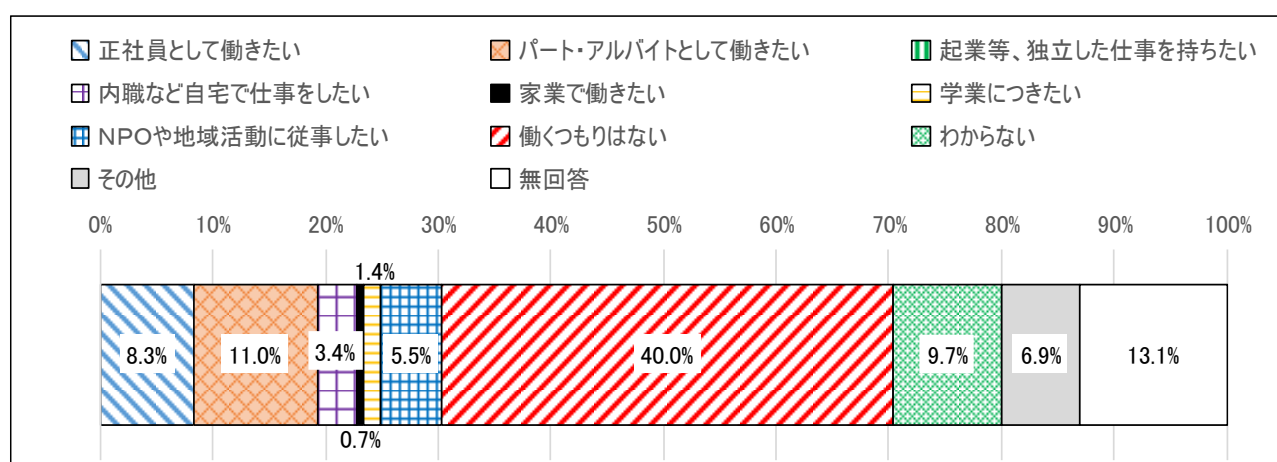
 その他

問17-2 問17で「2 以前は働いていたが今は働いていない」または「3 今まで働いたことがない」と答えた方のみにお聞きします。あなたは今後どのような仕事や活動に従事したいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 正社員として働きたい | 6. 学業につきたい |
| 2. パート・アルバイトとして働きたい | 7. NPOや地域活動に従事したい |
| 3. 起業等、独立した仕事を持ちたい | 8. 働くつもりはない |
| 4. 内職など自宅で仕事をしたい | 9. わからない |
| 5. 家業で働きたい | 10. その他 |

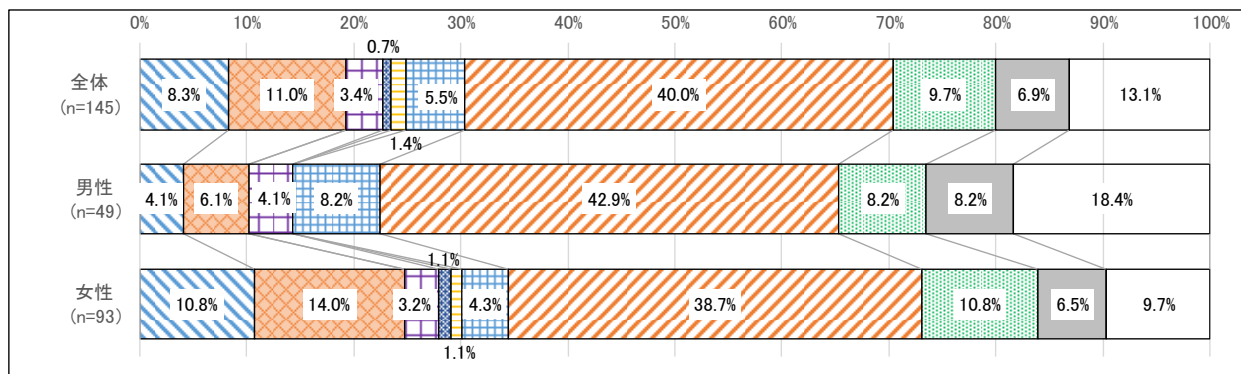
今後の仕事や活動の希望については、「働くつもりはない」が最も割合が高く 40.0%、次いで「パート・アルバイトとして働きたい」が 11.0%となっています。

年代別では、60 歳以上で「NPO や地域活動に従事したい」の割合が他の年代より高くなっています。

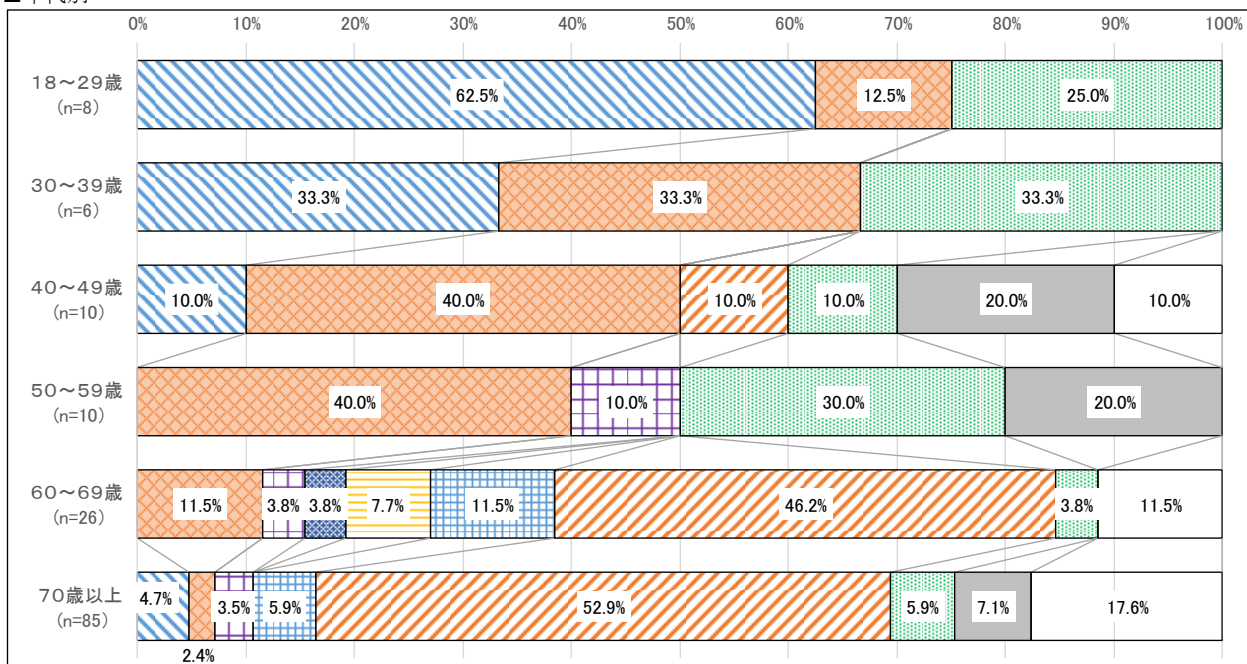


(n=145)

■性別



■年代別



< 凡例 >

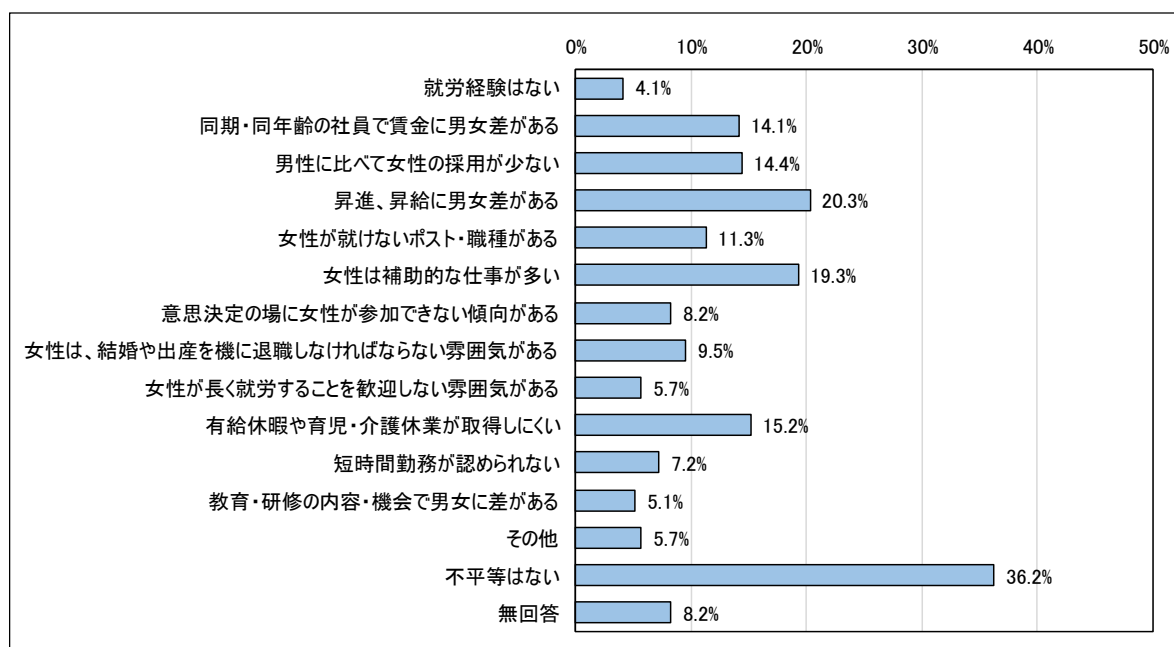
- 正社員として働きたい
- パート・アルバイトとして働きたい
- 起業等、独立した仕事をしたい
- 内職など自宅で仕事をしたい
- 家業で働きたい
- 学業につきたい
- NPOや地域活動に従事したい
- 働くつもりはない
- わからない
- その他
- 無回答

問18 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して不平等なことがありますか(ありましたか)。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 就労経験はない
2. 同期・同年齢の社員で賃金に男女差がある
3. 男性に比べて女性の採用が少ない
4. 昇進、昇給に男女差がある
5. 女性が就けないポスト・職種がある
6. 女性は補助的な仕事が多い
7. 意思決定の場に女性が参加できない傾向がある
8. 女性は、結婚や出産を機に退職しなければならない雰囲気がある
9. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
10. 有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい
11. 短時間勤務が認められない
12. 教育・研修の内容・機会に男女に差がある
13. その他
14. 不平等はない

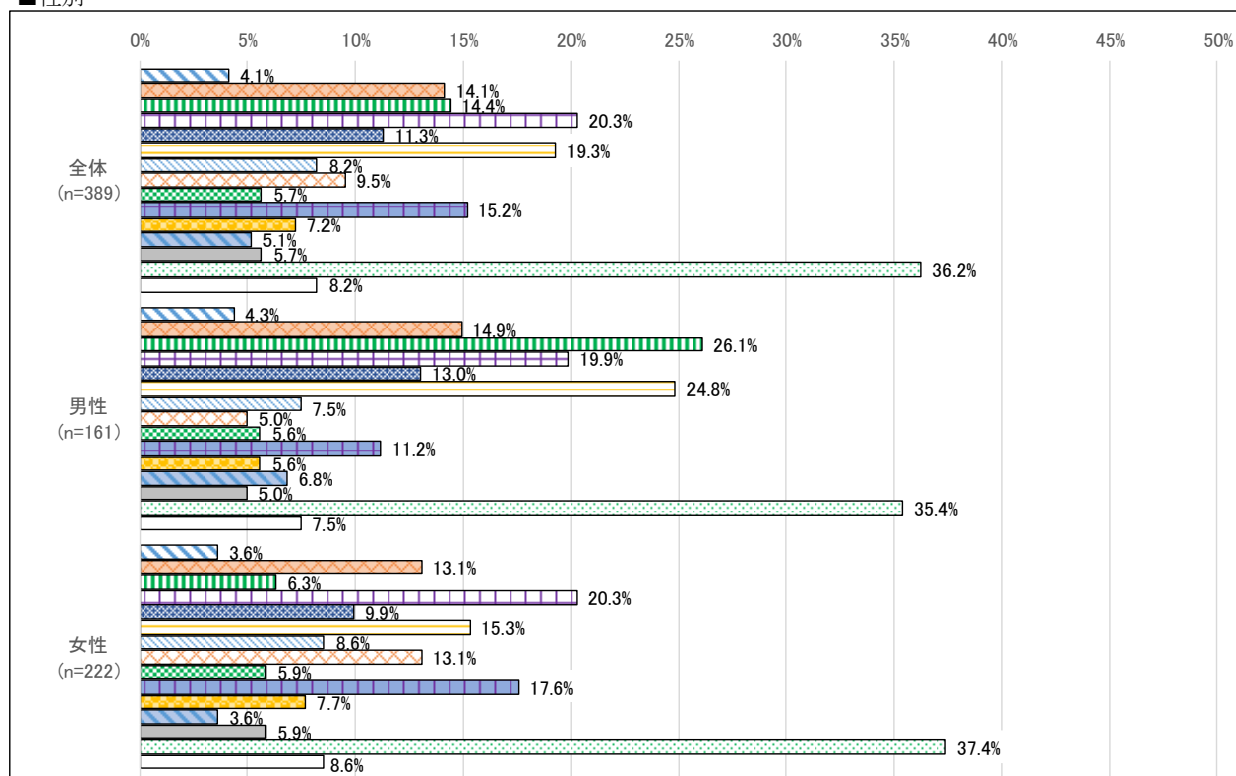
仕事の内容や待遇面における女性に対する不平等については、「不平等はない」が最も割合が高く36.2%、次いで「昇進、昇給に男女差がある」が20.3%となっています。

「昇進、昇給に男女差がある」の割合を年代別で見ると、50歳未満では10%台ですが、50歳以上では20%台であり、年齢が上がるにつれて男女差が顕在化していると考えられます。



(n=389)

■性別



< 凡例 >

就労経験はない

男性に比べて女性の採用が少ない

女性が就けないポスト・職種がある

意思決定の場に女性が参加できない傾向がある

女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある

短時間勤務が認められない

その他

無回答

同期・同年齢の社員で賃金に男女差がある

昇進、昇給に男女差がある

女性は補助的な仕事が多い

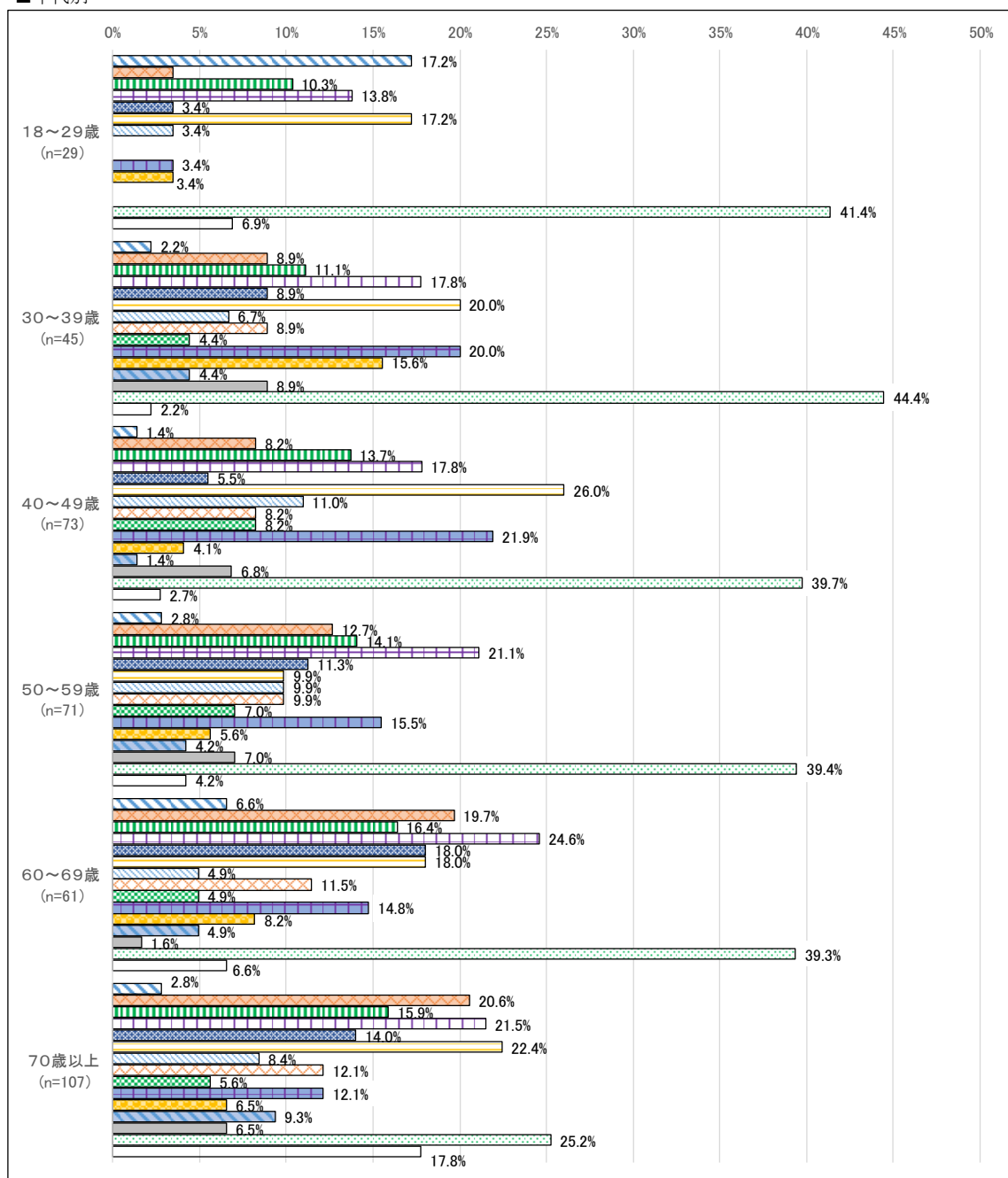
女性は、結婚や出産を機に退職しなければならない雰囲気がある

有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい

教育・研修の内容・機会に男女に差がある

不平等はない

■年代別



< 凡例 >

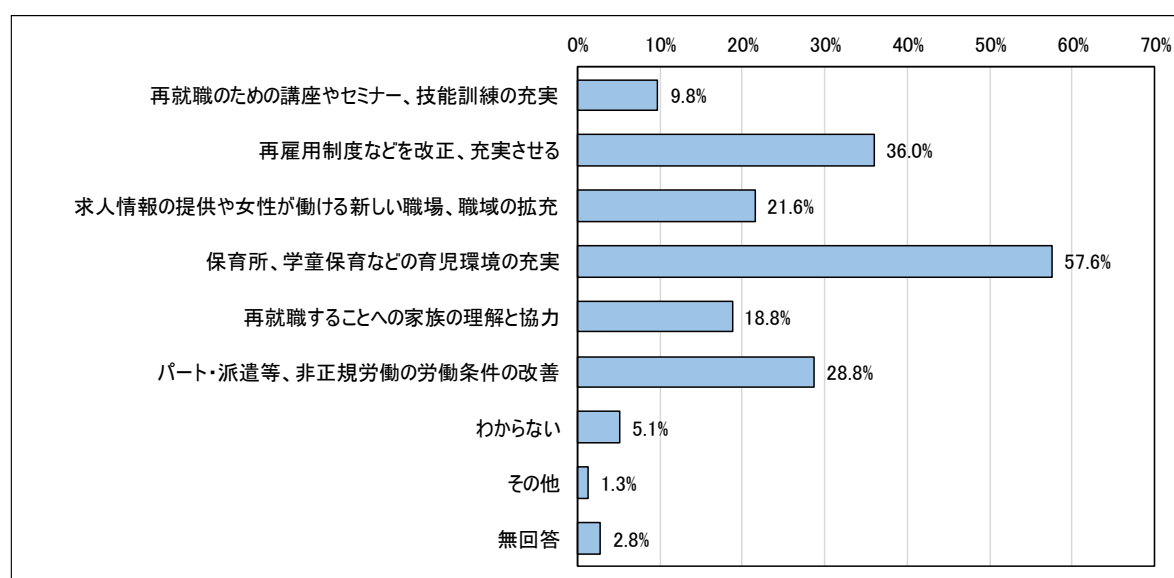
- 就労経験はない
- 同期・同年齢の社員で賃金に男女差がある
- 男性に比べて女性の採用が少ない
- 昇進、昇給に男女差がある
- 女性が就けないポスト・職種がある
- 女性は補助的な仕事が多い
- 意思決定の場に女性が参加できない傾向がある
- 女性は、結婚や出産を機に退職しなければならない雰囲気がある
- 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
- 有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい
- 短時間勤務が認められない
- 教育・研修の内容・機会に男女に差がある
- その他
- 不公平はない
- 無回答

問19 あなたは結婚や出産などで退職した女性が、再就職しやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 再就職のための講座やセミナー、技能訓練の充実
2. 再雇用制度などを改正、充実させる
3. 求人情報の提供や女性が働ける新しい職場、職域の拡充
4. 保育所、学童保育などの育児環境の充実
5. 再就職することへの家族の理解と協力
6. パート・派遣等、非正規労働の労働条件の改善
7. わからない
8. その他

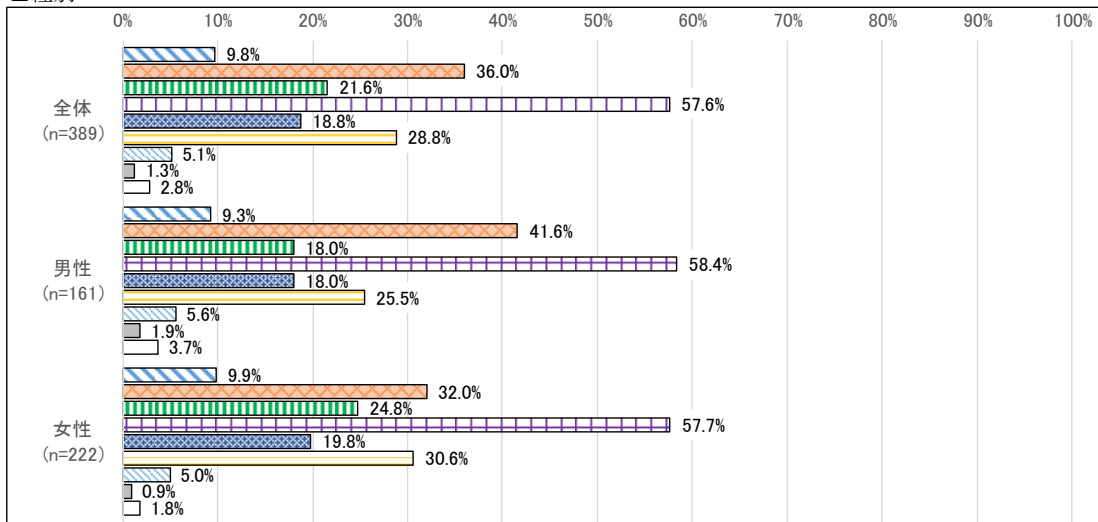
結婚や出産などで退職した女性にとっての再就職しやすい環境づくりについては、「保育所、学童保育などの育児環境の充実」が最も割合が高く 57.6%、次いで「再雇用制度などを改正、充実させる」が 36.0%となっています。

性別・年代別に見ても、「保育所、学童保育などの育児環境の充実」の割合が最も高くなっており、特に 30～39 歳では 75.6%と高くなっています。

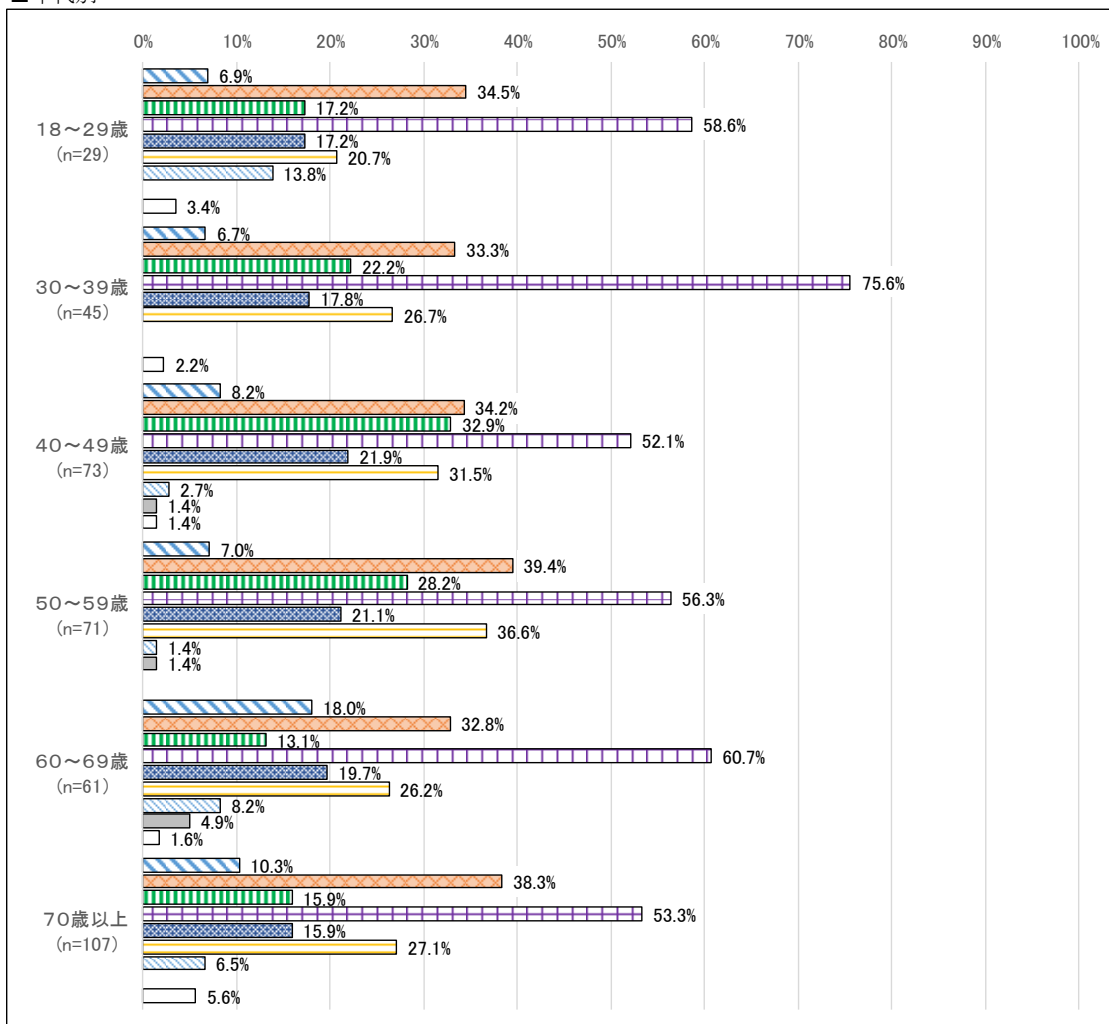


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >

- 再就職のための講座やセミナー、技能訓練の充実
- 再雇用制度などを改正、充実させる
- 求人情報の提供や女性が働ける新しい職場、職域の拡充
- 保育所、学童保育などの育児環境の充実
- 再就職することへの家族の理解と協力
- パート・派遣等、非正規労働の労働条件の改善
- わからない
- その他
- 無回答

問20 女性の方のみにお聞きします。

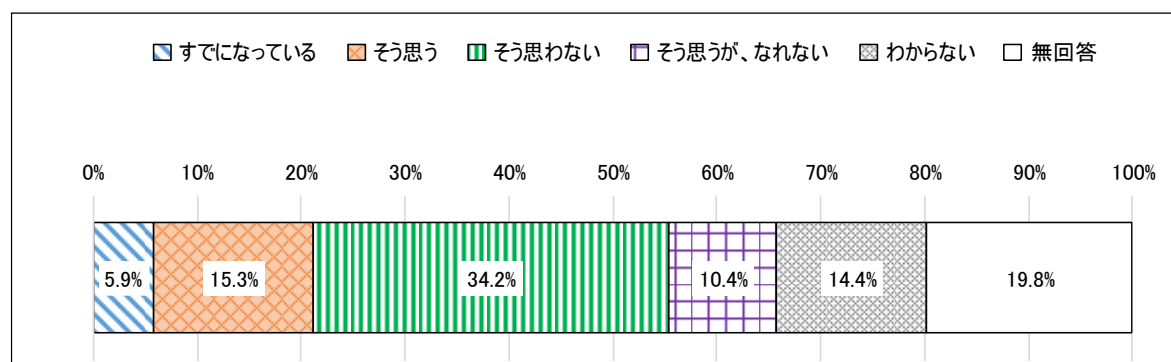
あなたは職場において、管理職など組織の意思決定に加わる立場になりたいと思いますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. すでになっている | 4. そう思うが、なれない |
| 2. そう思う | 5. わからない |
| 3. そう思わない | |

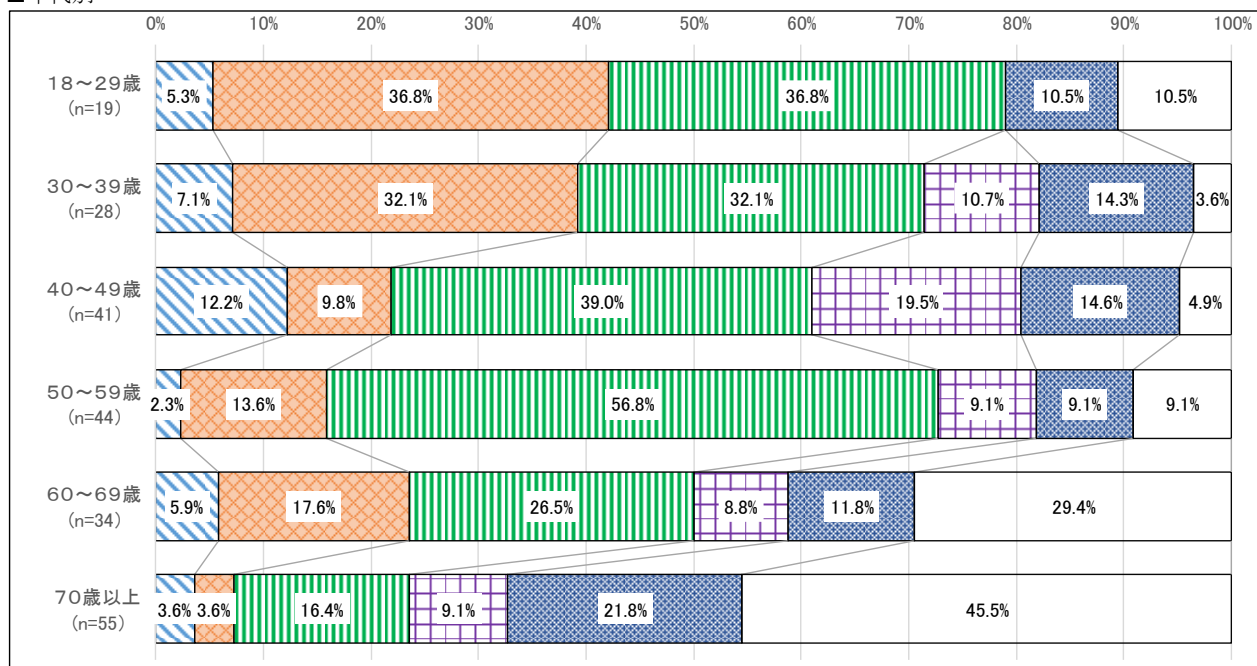
管理職など組織の意思決定に加わる立場への意向については、「そう思わない」が最も割合が高く 34.2%となっています。一方、「すでになっている」「そう思う」「そう思うがなれない」を合わせた値（意思決定に加わる立場になることを肯定している意見の合計）は 31.6%となっています。

年代別では、50～59 歳と 70 歳以上を除く年代において、意思決定に加わる立場になることを肯定している意見の合計が、「そう思わない」を上回っています。



(n=222)

■ 年代別



< 凡例 >



すでに知っている



そう思う



そう思わない



そう思うが、なれない



わからない

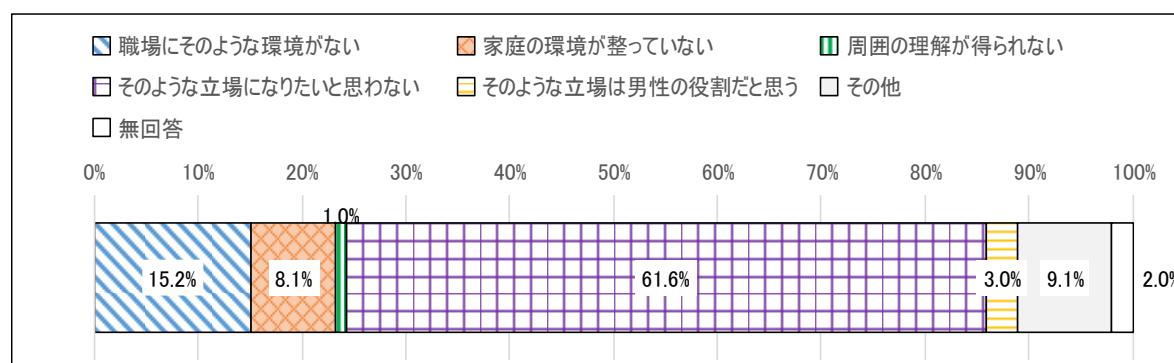


無回答

問20－1 問20で「3 そう思わない」または「4 そう思うが、なれない」と答えた方のみにお聞きます。
その主な理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

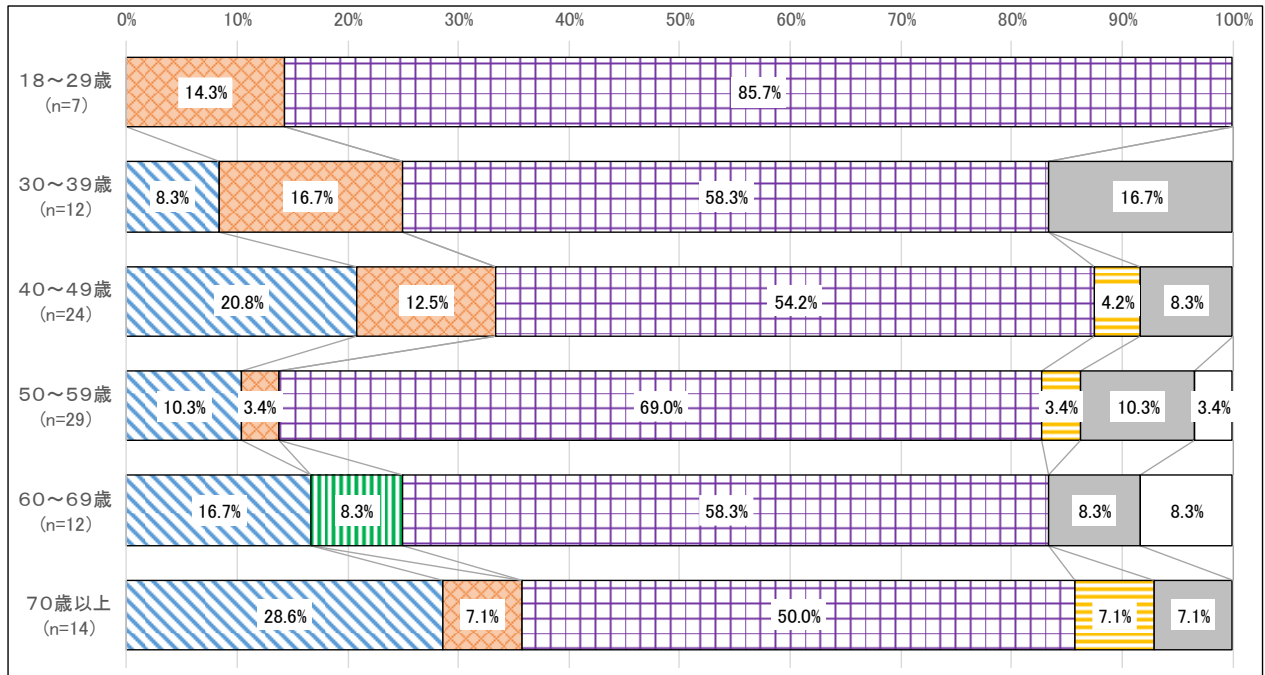
- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 職場にそのような環境がない | 4. そのような立場になりたいと思わない |
| 2. 家庭の環境が整っていない | 5. そのような立場は男性の役割だと思う |
| 3. 周囲の理解が得られない | 6. その他 |

管理職など組織の意思決定に加わる立場への意向がない・なれない理由については、「そのような立場になりたいと思わない」が最も割合が高く 61.6%、次いで「職場にそのような環境がない」が 15.2%となっています。



(n=99)

■年代別



< 凡例 >

- 職場にそのような環境がない
- 家庭の環境が整っていない
- 周囲の理解が得られない
- そのような立場になりたいと思わない
- そのような立場は男性の役割だと思う
- その他
- 無回答

(7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

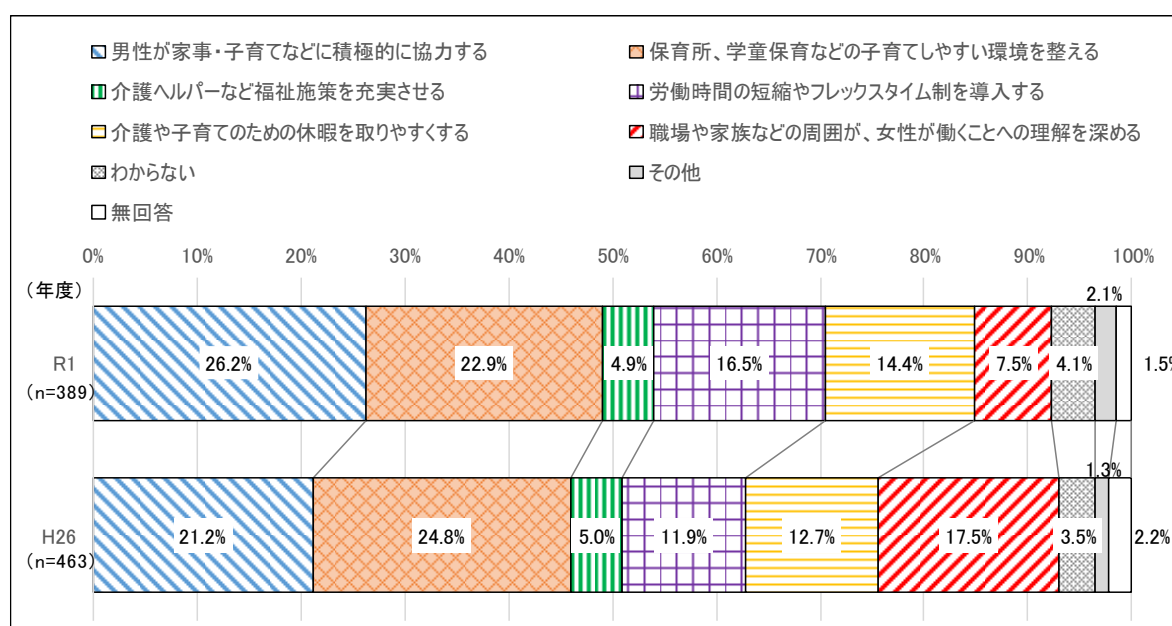
問21 あなたは男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが最も必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 男性が家事・子育てなどに積極的に協力する
2. 保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を整える
3. 介護ヘルパーなど福祉施策を充実させる
4. 労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する
5. 介護や子育てのための休暇を取りやすくする
6. 職場や家族などの周囲が、女性が働くことへの理解を深める
7. わからない
8. その他

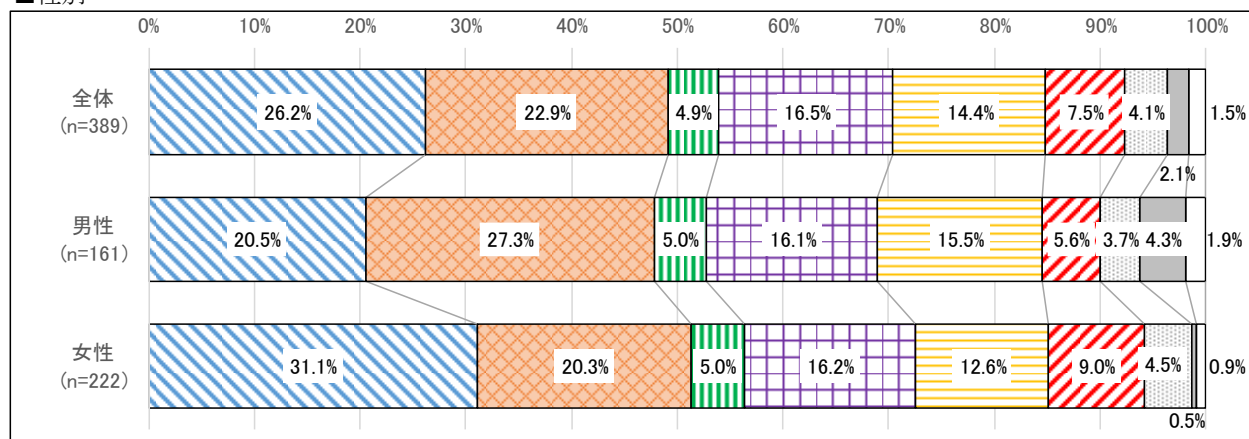
男女が共に仕事と家庭を両立するために必要なことについては、「男性が家事・子育てなどに積極的に協力する」が最も割合が高く 26.2%、次いで「保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を整える」が 22.9%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「男性が家事・子育てなどに積極的に協力する」及び「労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する」が増加しており、男性の家庭参加や職場での対応に対するニーズが高まっています。

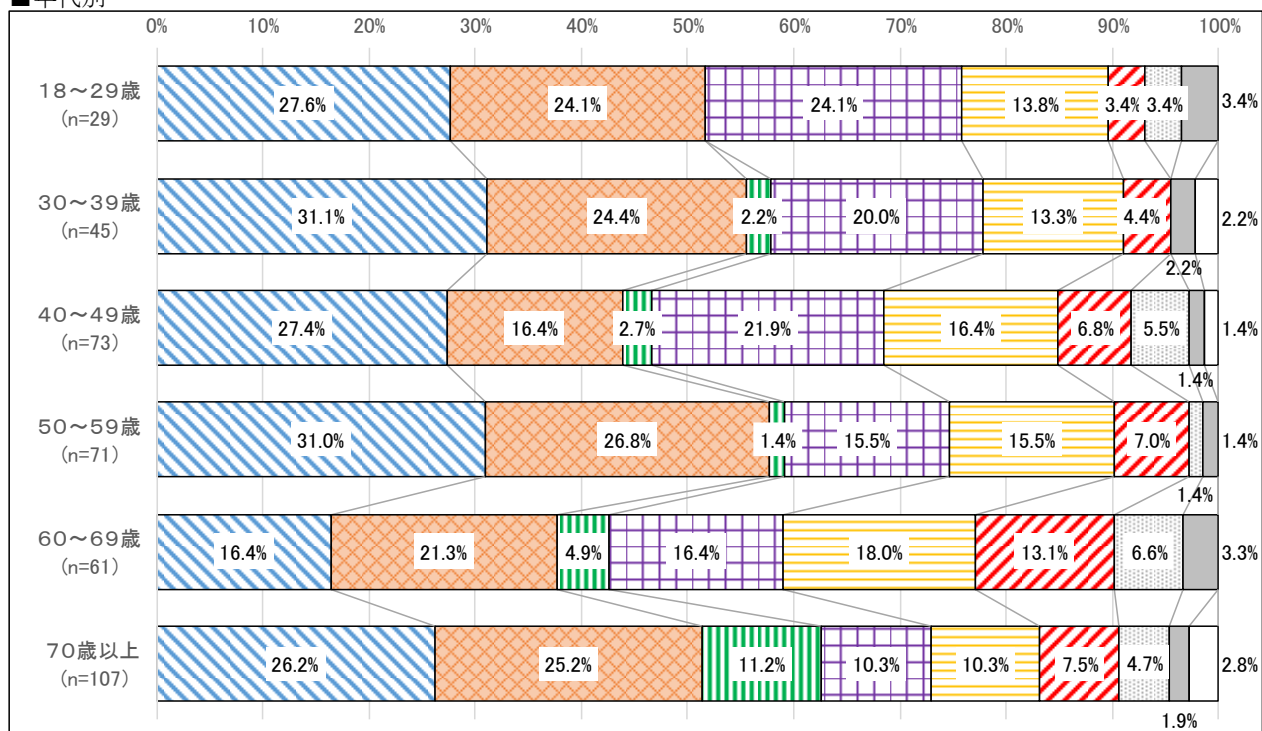
「男性が家事・子育てなどに積極的に協力する」の割合を性別で見ると、男性が 20.5%、女性が 31.1%であり、女性の割合が高くなっています。



■性別



■年代別



- 男性が家事・子育てなどに積極的に協力する
- 保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を整える
- 介護ヘルパーなど福祉施策を充実させる
- 労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する
- 介護や子育てのための休暇を取りやすくする
- 職場や家族などの周囲が、女性が働くことへの理解を深める
- わからない
- その他
- 無回答

(8) 社会参画について

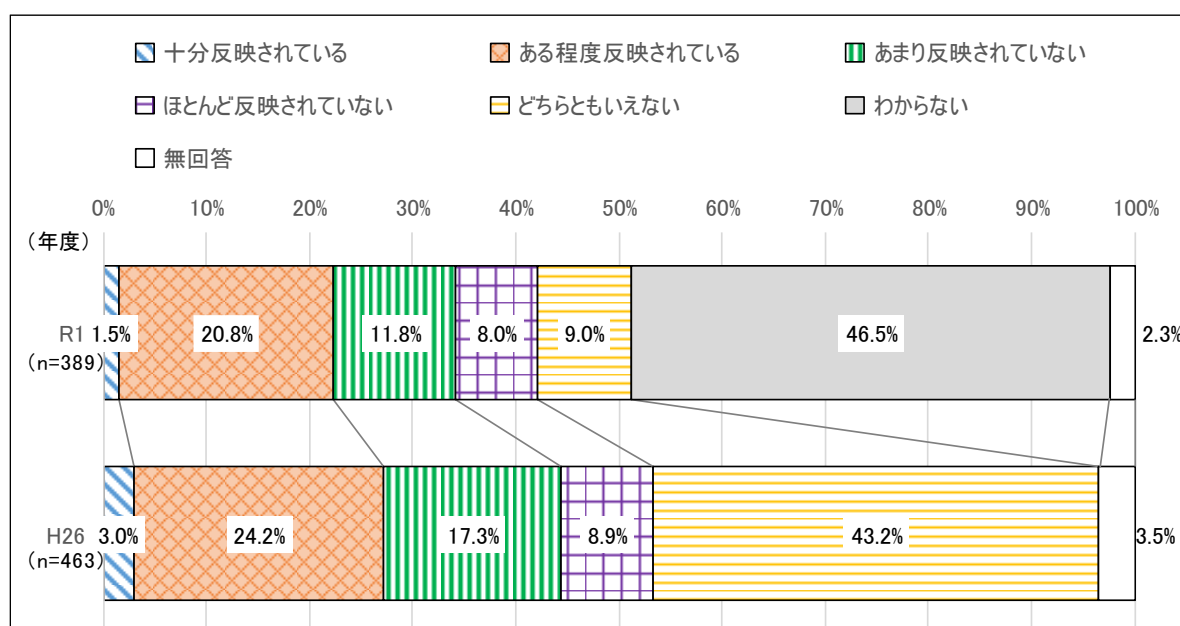
問22 あなたは市の施策について女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。次の中から、あてはるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 十分反映されている | 4. ほとんど反映されていない |
| 2. ある程度反映されている | 5. どちらともいえない |
| 3. あまり反映されていない | 6. わからない |

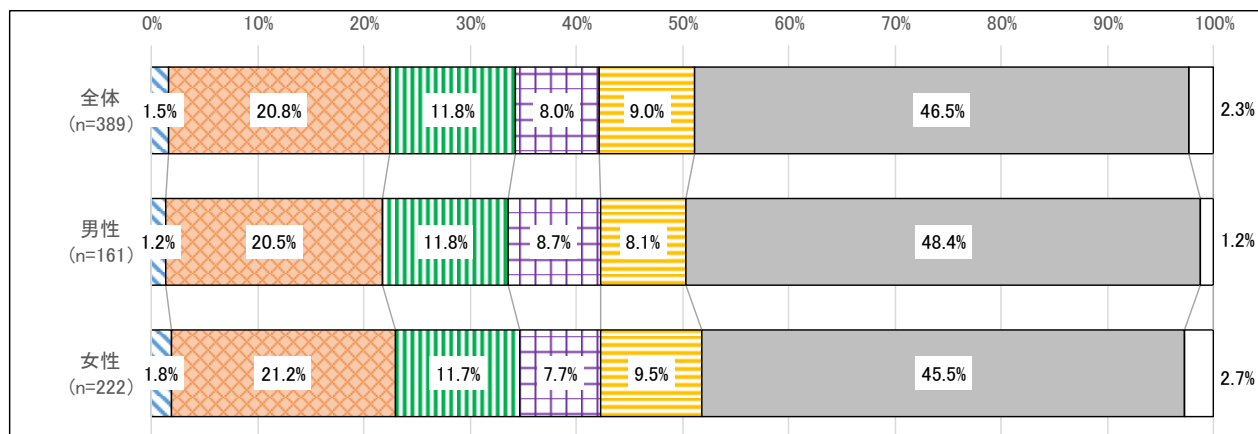
市の施策における女性の意見や考え方の反映については、「わからない」が最も割合が高く46.5%、「十分反映されている」「ある程度反映されている」を合わせた割合は22.3%、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」を合わせた値は19.8%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」が減少しています。

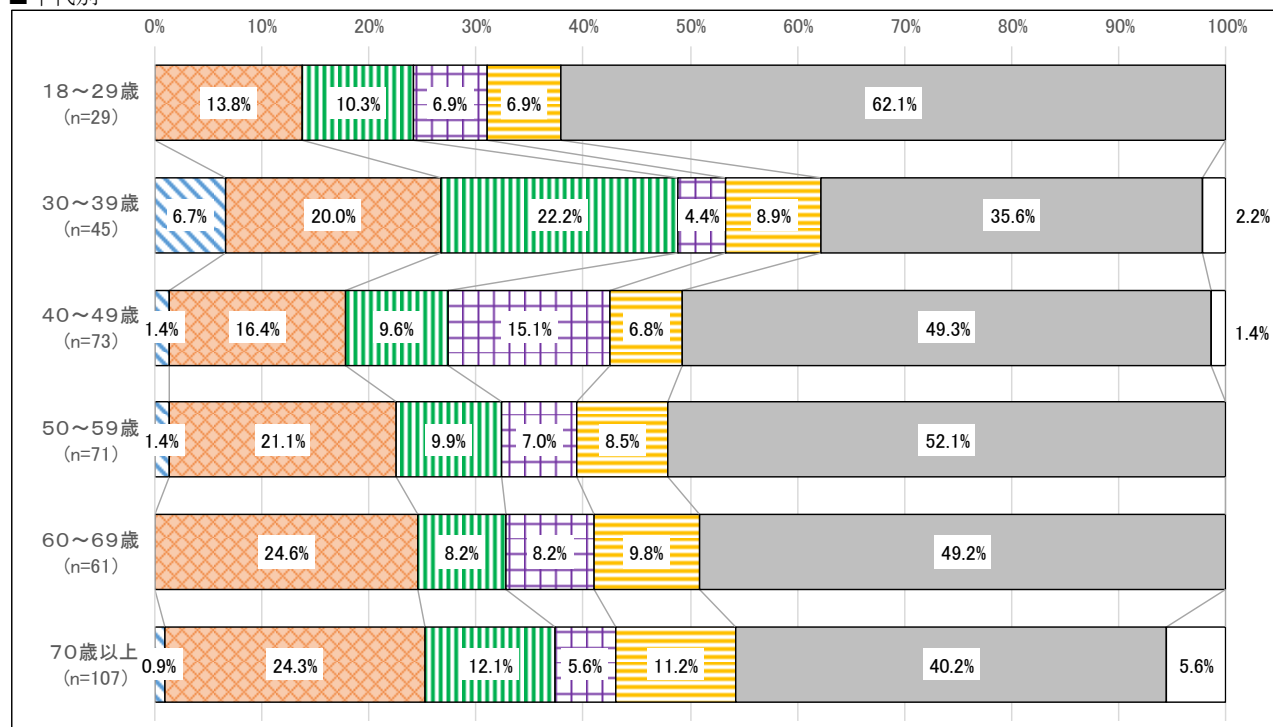
年代別では、30～39歳と50歳以上において、「十分反映されている」「ある程度反映されている」の割合が、「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合を上回っています。



■性別



■年代別



< 凡例 >

- 十分反映されている
- ある程度反映されている
- あまり反映されていない
- ほとんど反映されていない
- どちらともいえない
- わからない
- 無回答

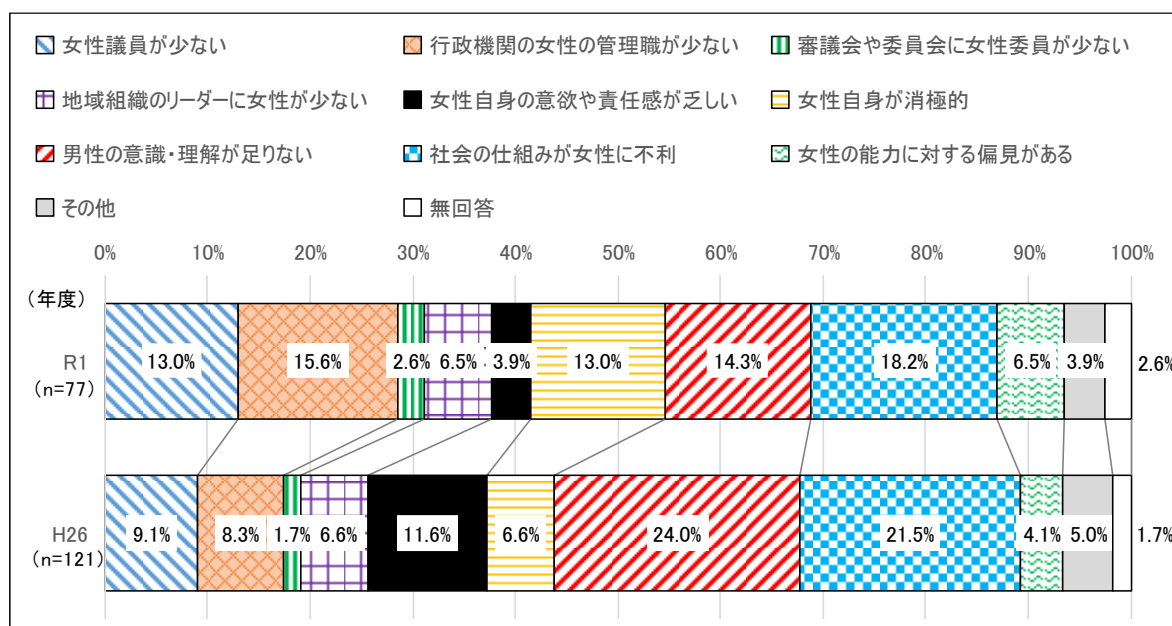
問22－1 問22で「3 あまり反映されていない」または「4 ほとんど反映されていない」と答えた方のみにお聞きます。そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 女性議員が少ない | 6. 女性自身が消極的 |
| 2. 行政機関の女性の管理職が少ない | 7. 男性の意識・理解が足りない |
| 3. 審議会や委員会に女性委員が少ない | 8. 社会の仕組みが女性に不利 |
| 4. 地域組織のリーダーに女性が少ない | 9. 女性の能力に対する偏見がある |
| 5. 女性自身の意欲や責任感が乏しい | 10. その他 |

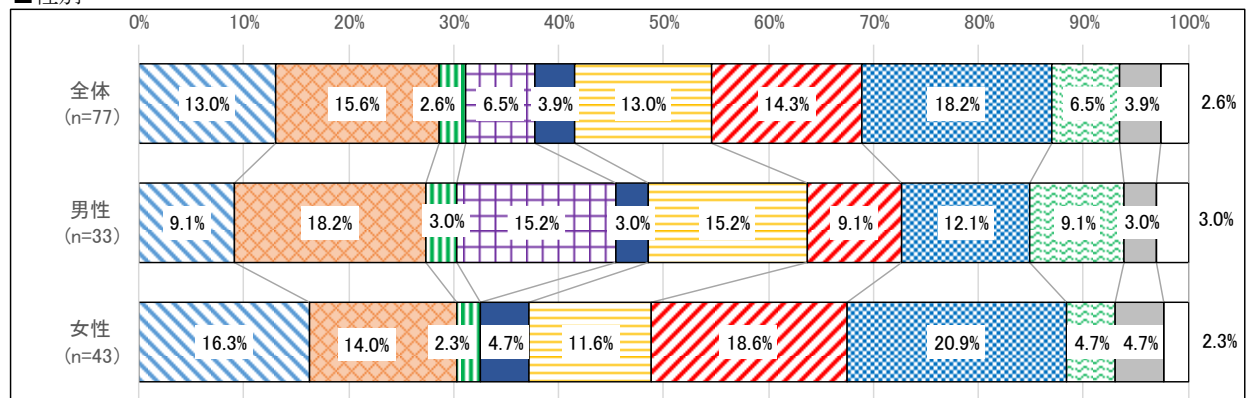
女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は、「社会の仕組みが女性に不利」が最も割合が高く 18.2%、次いで「行政機関の女性の管理職が少ない」が 15.6%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「女性議員が少ない」及び「行政機関の女性の管理職が少ない」、「女性自身が消極的」が増加し、「男性の意識・理解が足りない」、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」が減少しており、個人の意識改革が進んでいるものの、政策等の意志決定の立場に女性が少ないと捉えていると考えられます。

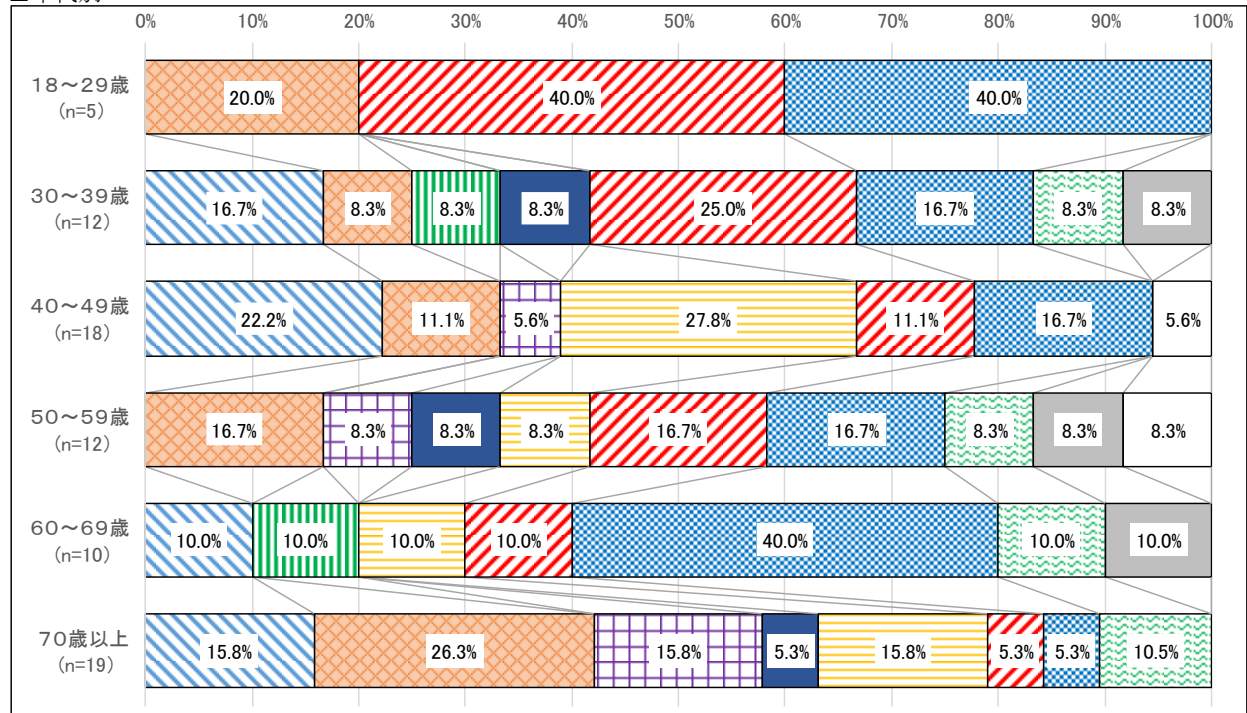
性別では、男性は「行政機関の女性の管理職が少ない」が 18.2%と最も高く、女性は「社会の仕組みが女性に不利」が 20.9%と最も高くなっています。



■性別



■年代別



< 凡例 >

- 女性議員が少ない
- 行政機関の女性の管理職が少ない
- 審議会や委員会に女性委員が少ない
- 地域組織のリーダーに女性が少ない
- 女性自身の意欲や責任感が乏しい
- 女性自身が消極的
- 男性の意識・理解が足りない
- 社会の仕組みが女性に不利
- 女性の能力に対する偏見がある
- その他
- 無回答

(9) DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問23 DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、「夫婦間や恋人などの親しい間柄での身体的・性的・精神的な暴力」をいいますが、あなたはこの言葉について知っていましたか。

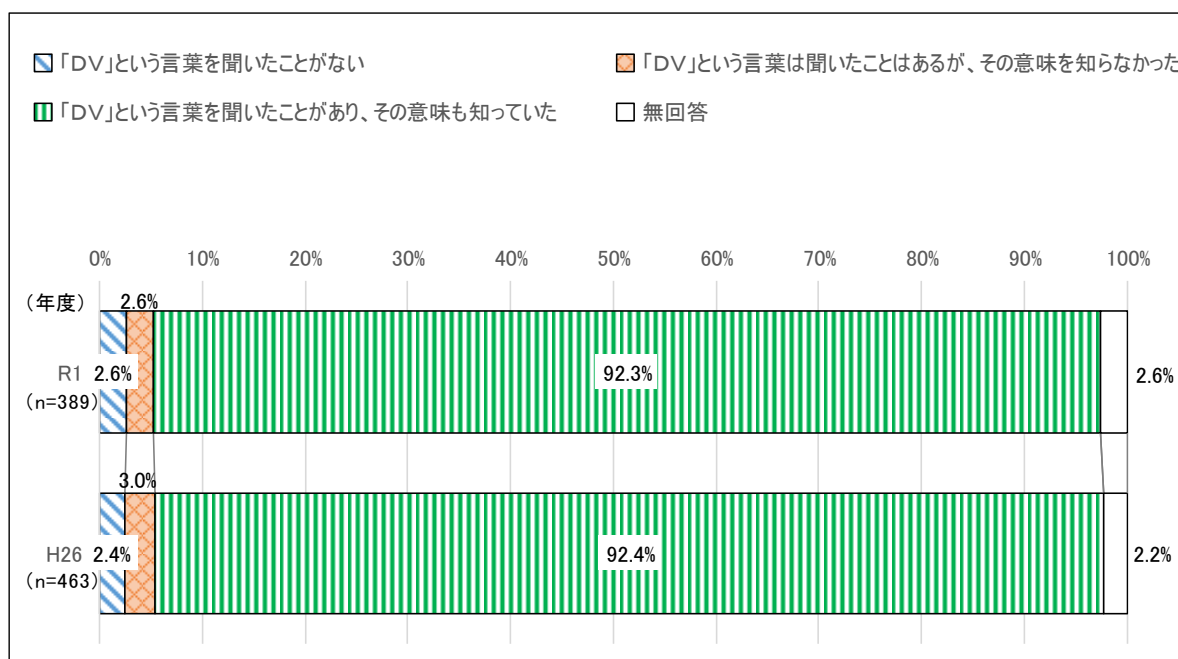
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 「DV」という言葉を聞いたことがない
2. 「DV」という言葉は聞いたことはあるが、その意味を知らなかった
3. 「DV」という言葉を聞いたことがあり、その意味も知っていた
4. その他

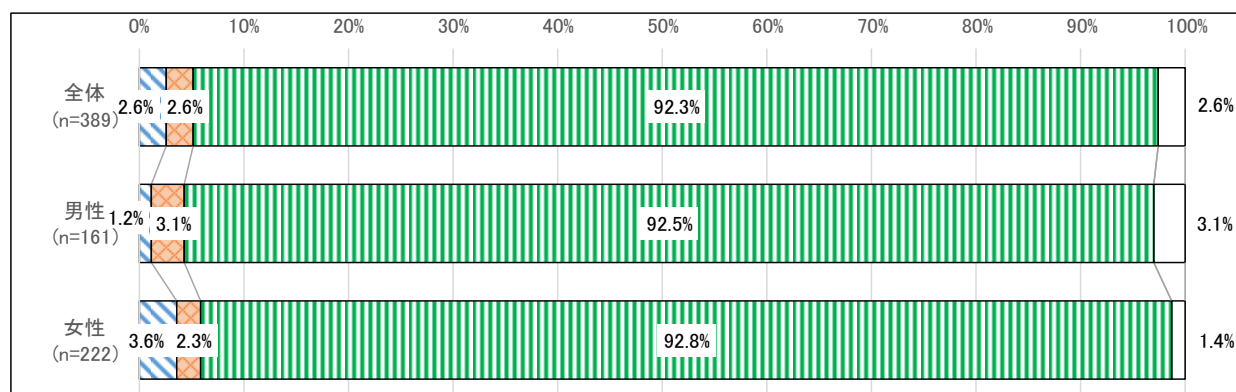
DV（ドメスティック・バイオレンス）の言葉の認識については、「「DV」という言葉を聞いたことがあり、その意味も知っていた」が最も割合が高く92.3%となっています。

平成26年度調査と比較すると、大きな差異はありません。

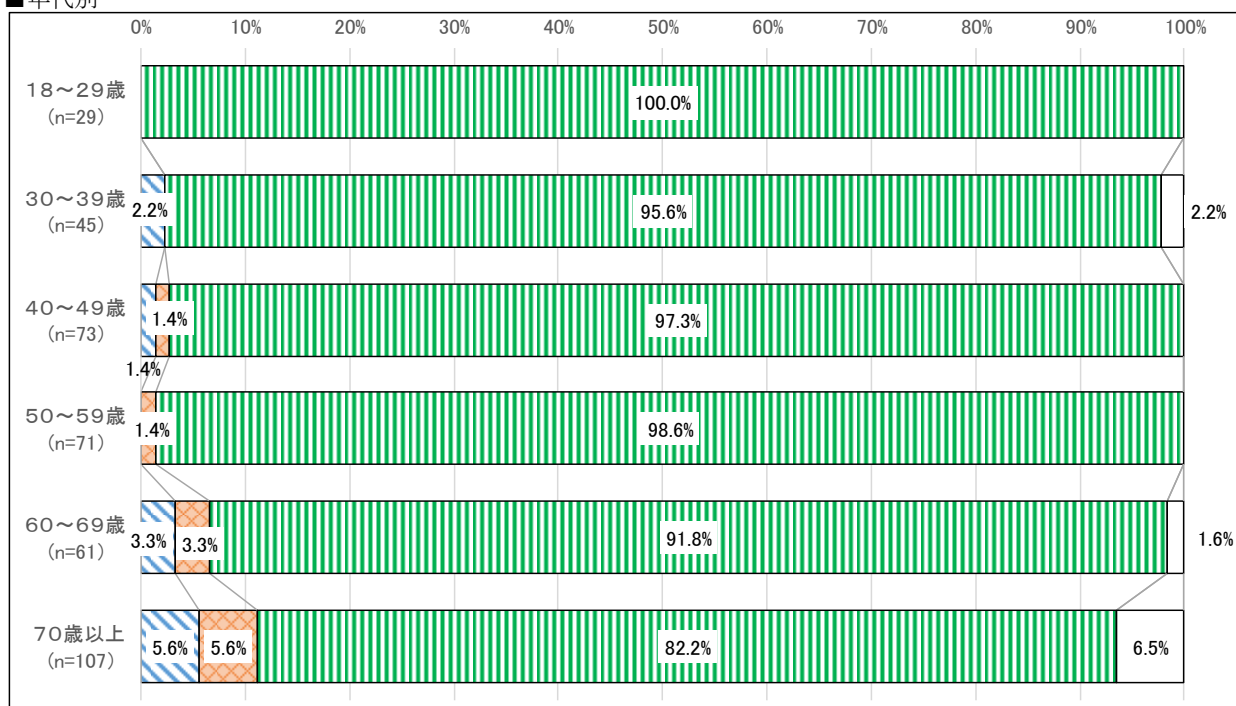
「「DV」という言葉を聞いたことがあり、その意味も知っていた」の割合を年代別で見ると、最も低い70歳以上でも82.2%となっています。



■性別



■年代別



< 凡例 >



「DV」という言葉を聞いたことがない



「DV」と言う言葉は聞いたことはあるが、その意味を知らなかった



「DV」という言葉を聞いたことがあり、その意味も知っていた



その他

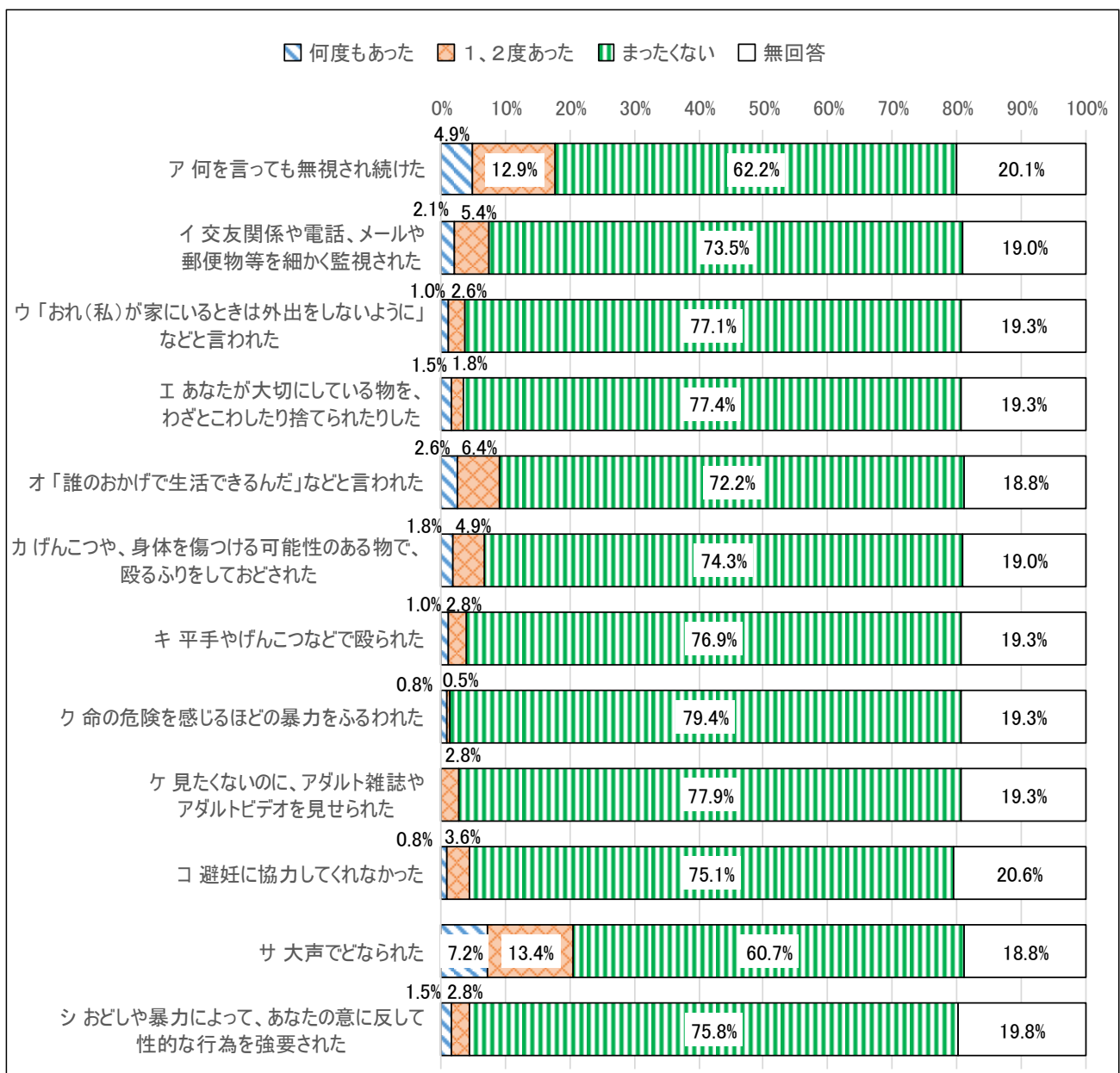


無回答

問24 パートナー（配偶者や恋人など）がいる、あるいは、いた方のみにお聞きします。あなたはこれまでに、パートナーから、次のようなことをされたことはありますか。次のア～シの各項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

パートナーからのDV（ドメスティック・バイオレンス）の有無について、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると「大声でどなられた」の割合が最も高く20.6%、次いで「何を言っても無視され続けた」が17.8%となっています。

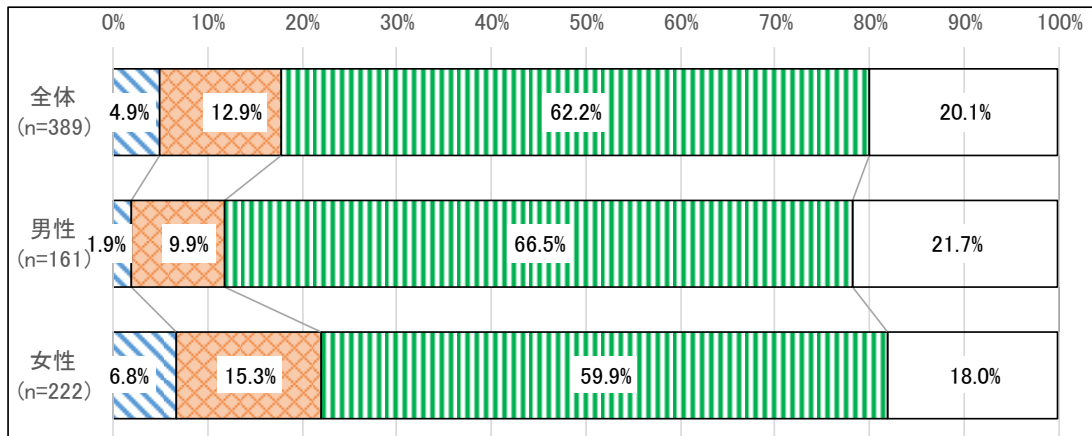
性別では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせると、男女ともに「大声でどなられた」の割合が最も高くなっています。



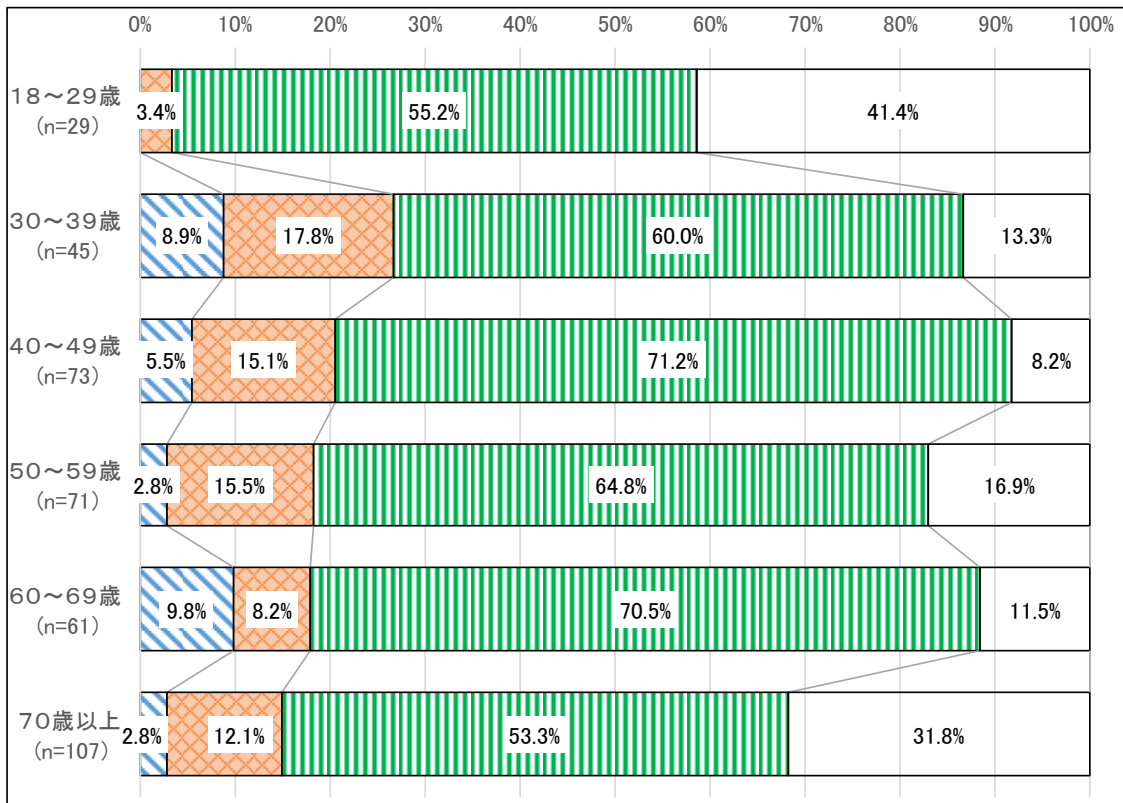
(n=389)

■ア 何を言っても無視され続けた

■性別



■年代別



< 凡例 >

何度もあった

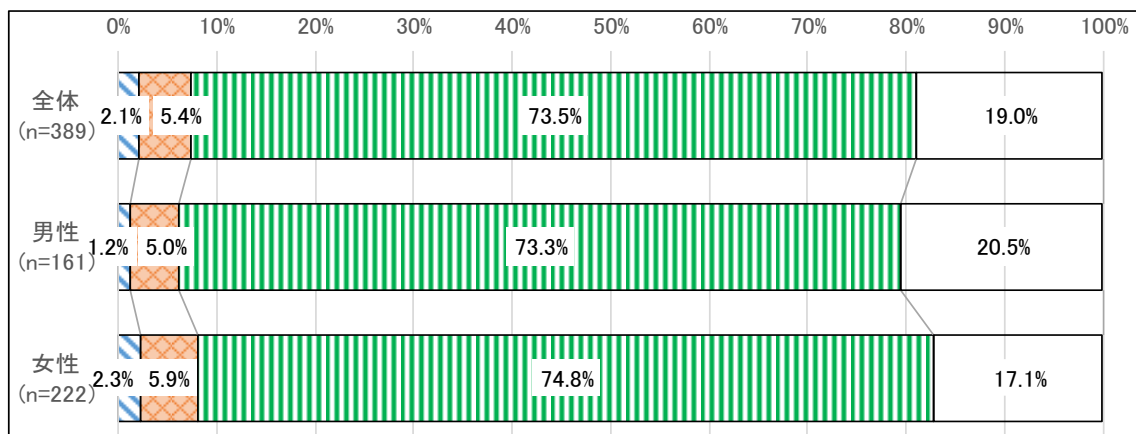
1、2度あった

まったくない

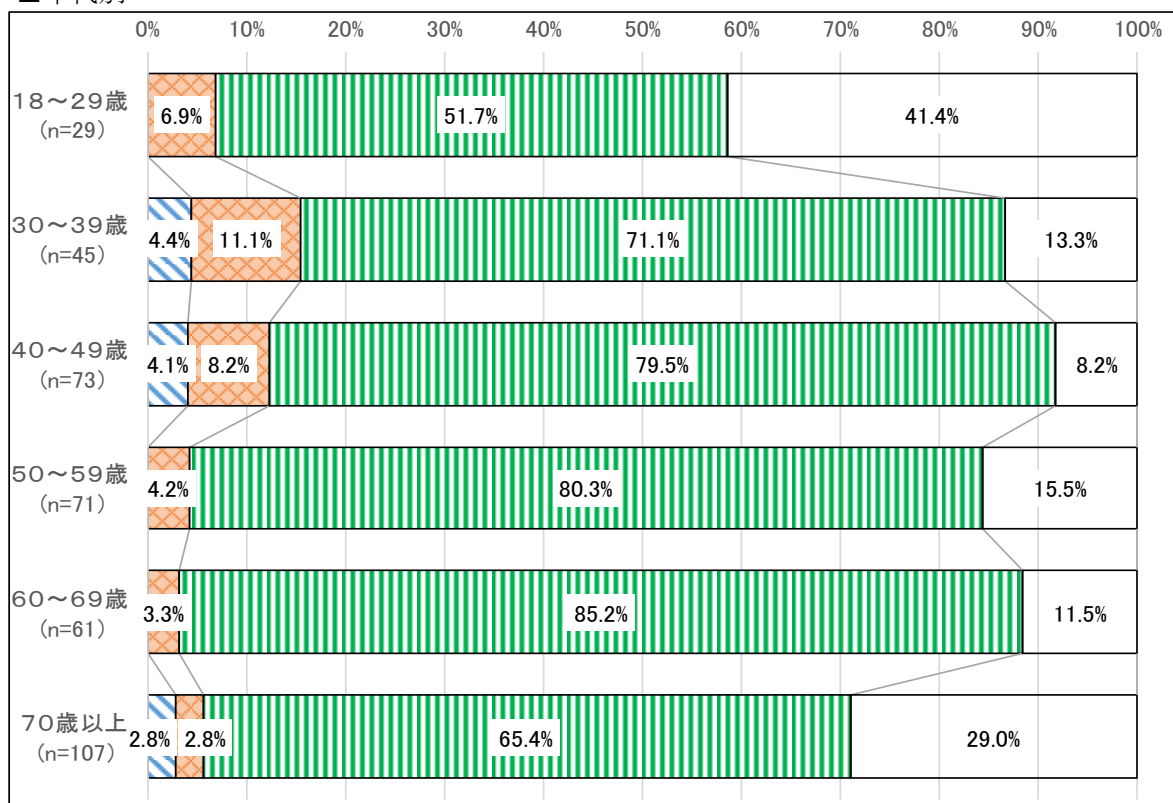
無回答

■イ 交友関係や電話、メールや郵便物等を細かく監視された

■性別



■年代別



< 凡例 >

何度もあった

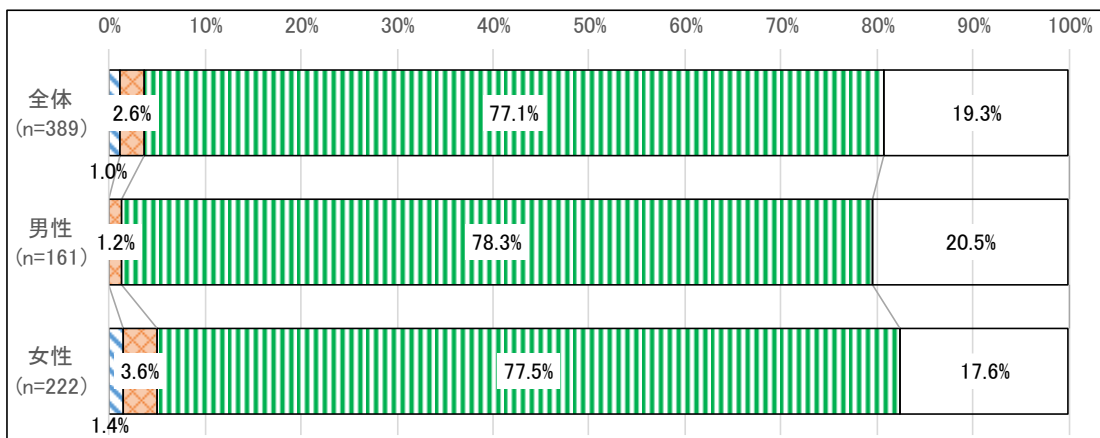
1、2度あった

まったくない

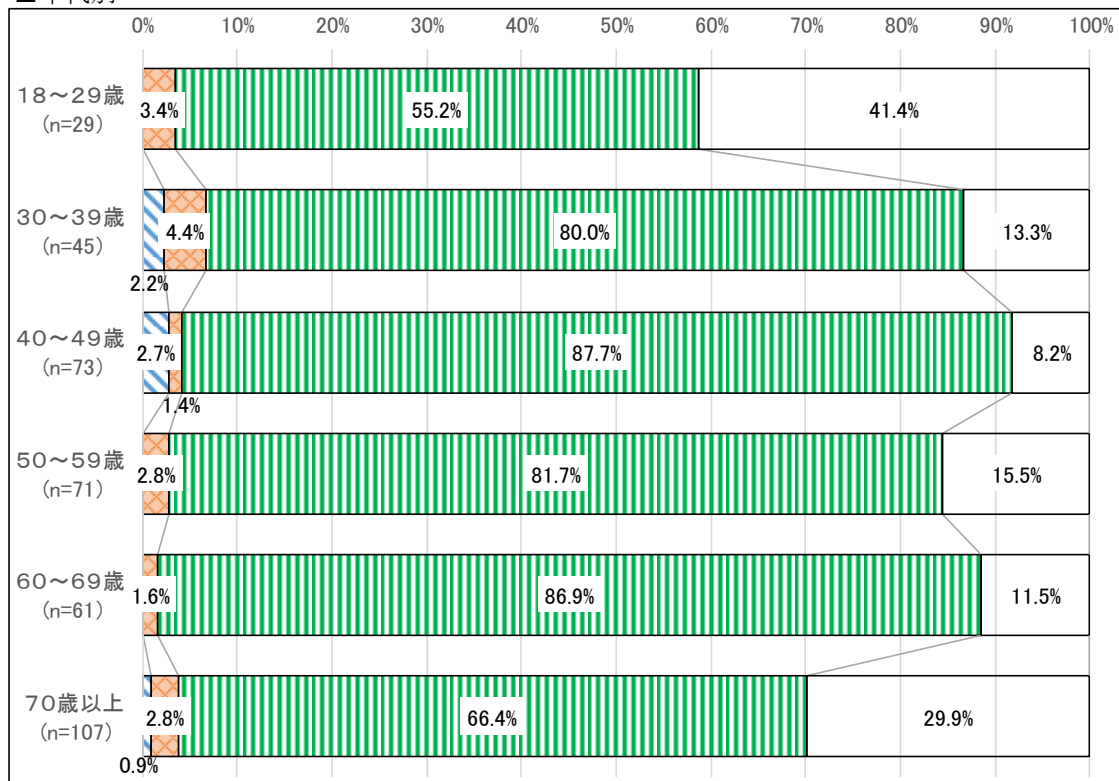
無回答

■ウ 「おれ（私）が家にいるときは外出をしないように」 などと言われた

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

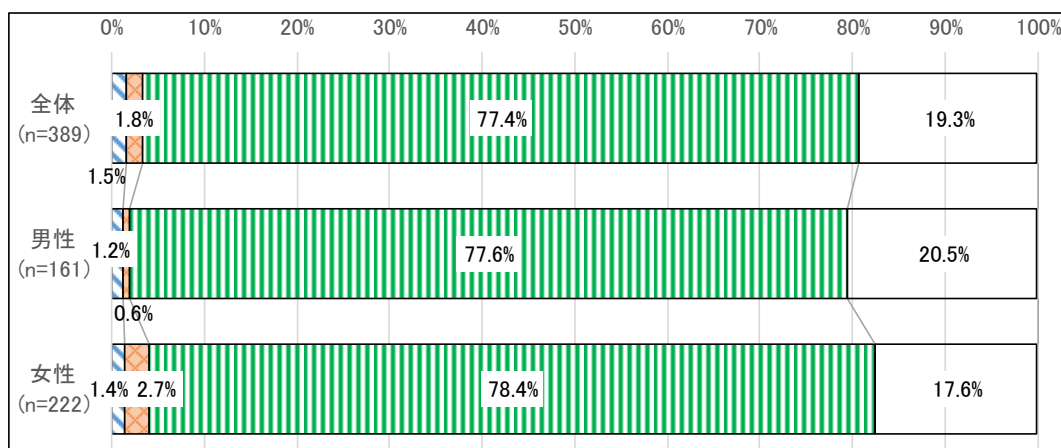
 1、2度あった

 まったくない

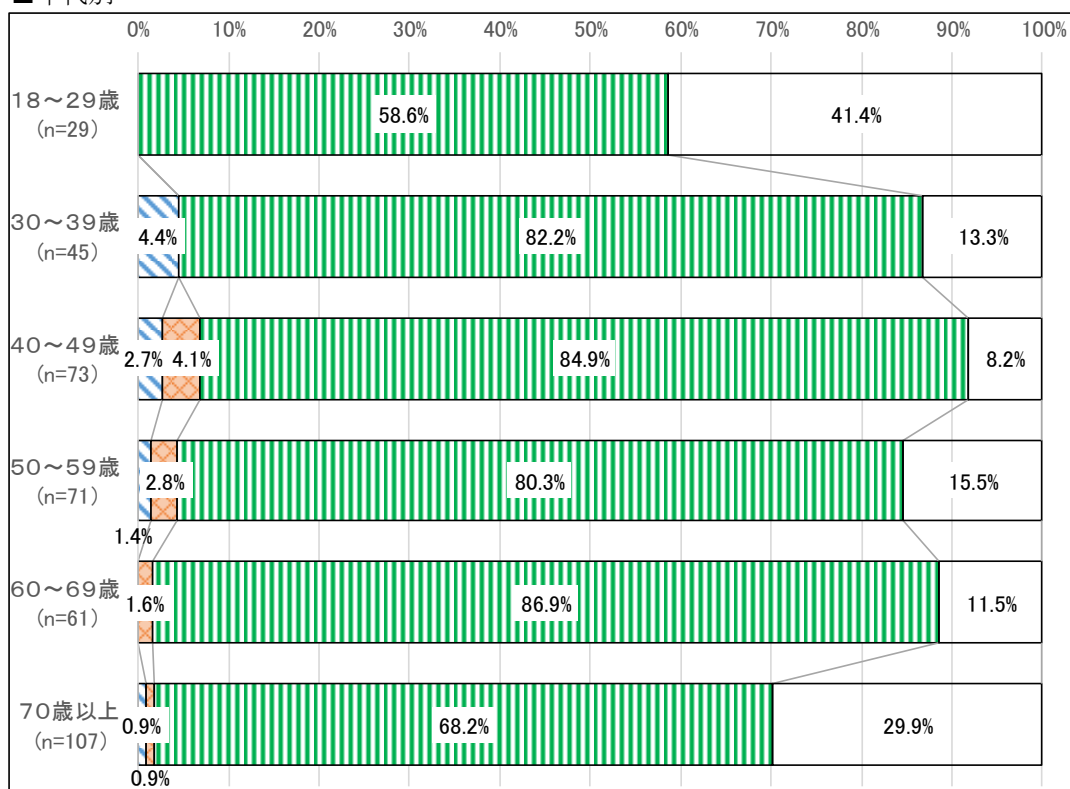
 無回答

■エ あなたが大切にしている物を、わざとこわしたり捨てられたりした

■性別



■年代別



< 凡例 >

何度もあった

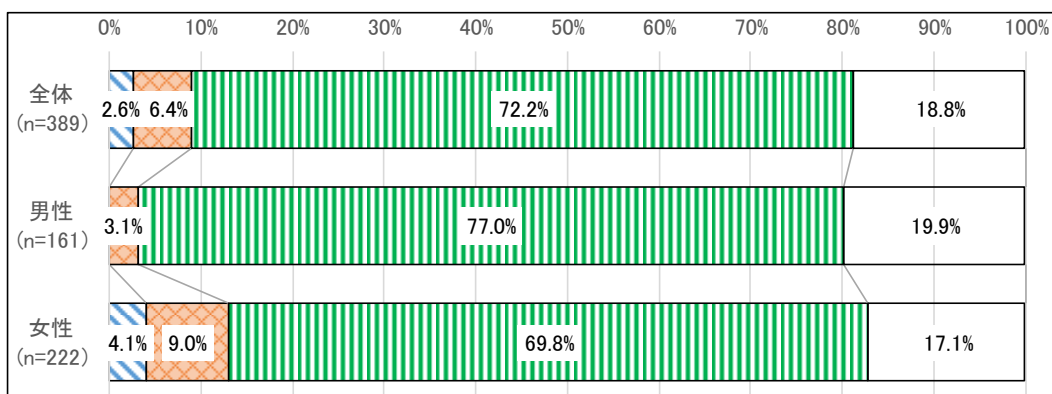
1、2度あった

まったくない

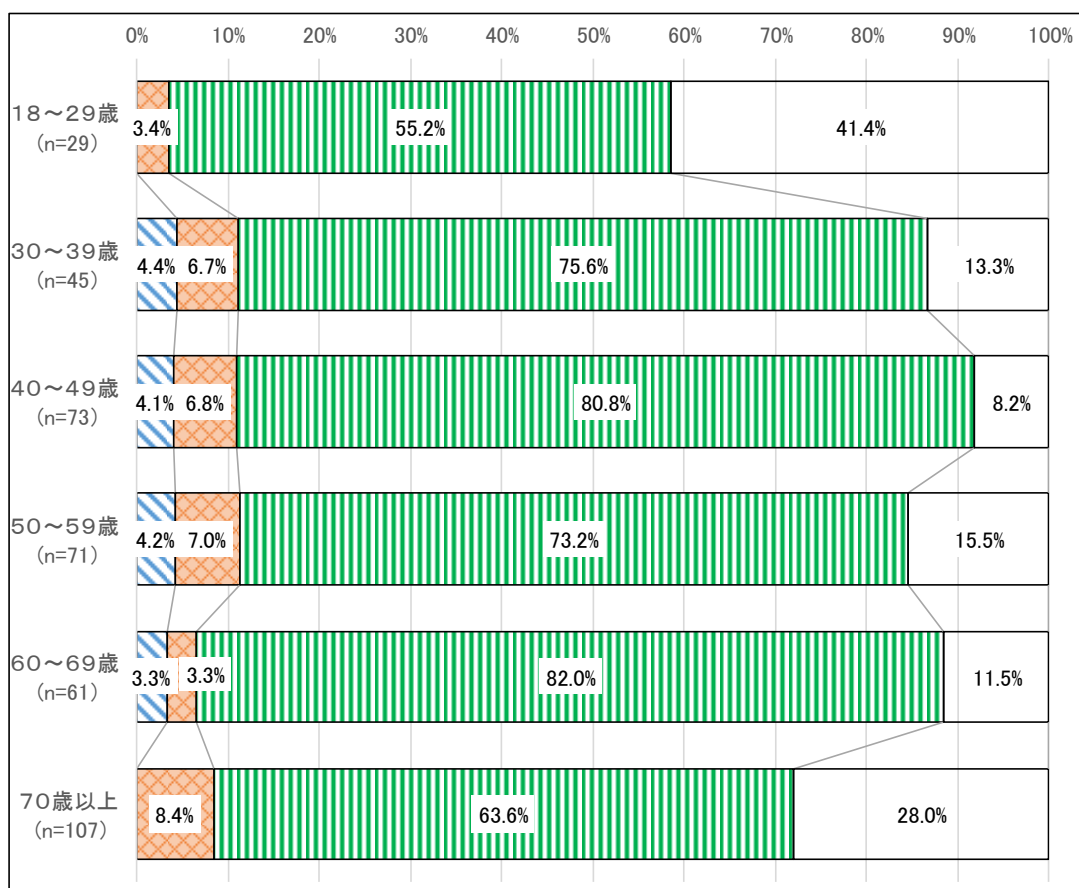
無回答

■オ 「誰のおかげで生活できるだなどと言われた

■性別



■年代別



< 凡例 >

何度もあった

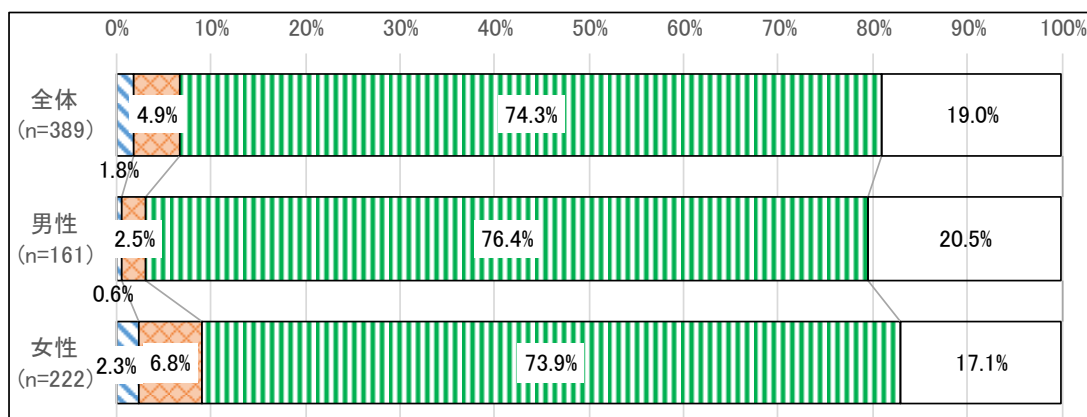
1、2度あった

まったくない

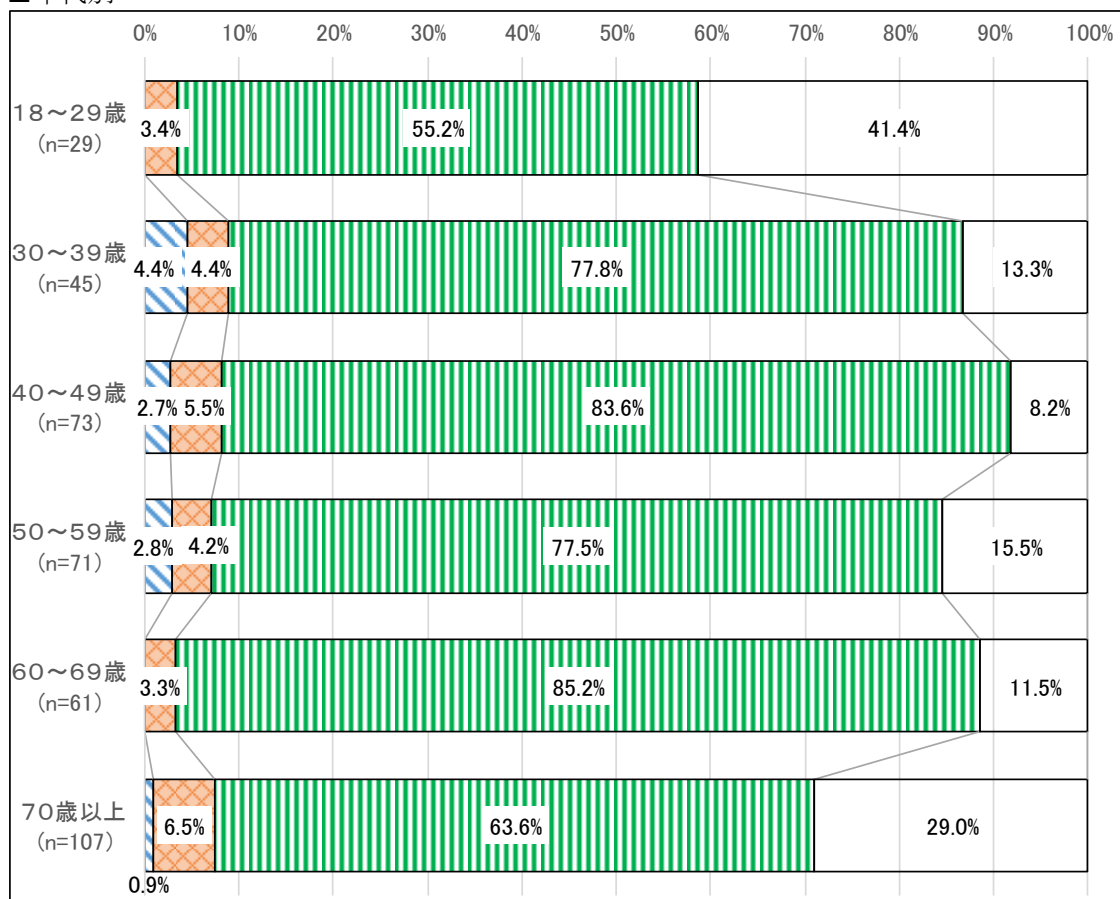
無回答

■カ げんこつや、身体を傷つける可能性のある物で、殴るふりをしておどされた

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

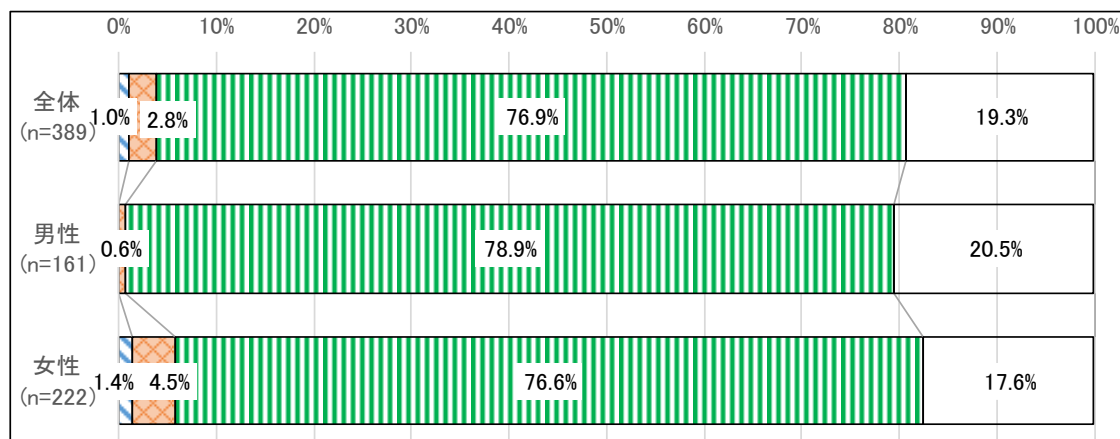
 1、2度あった

 まったくない

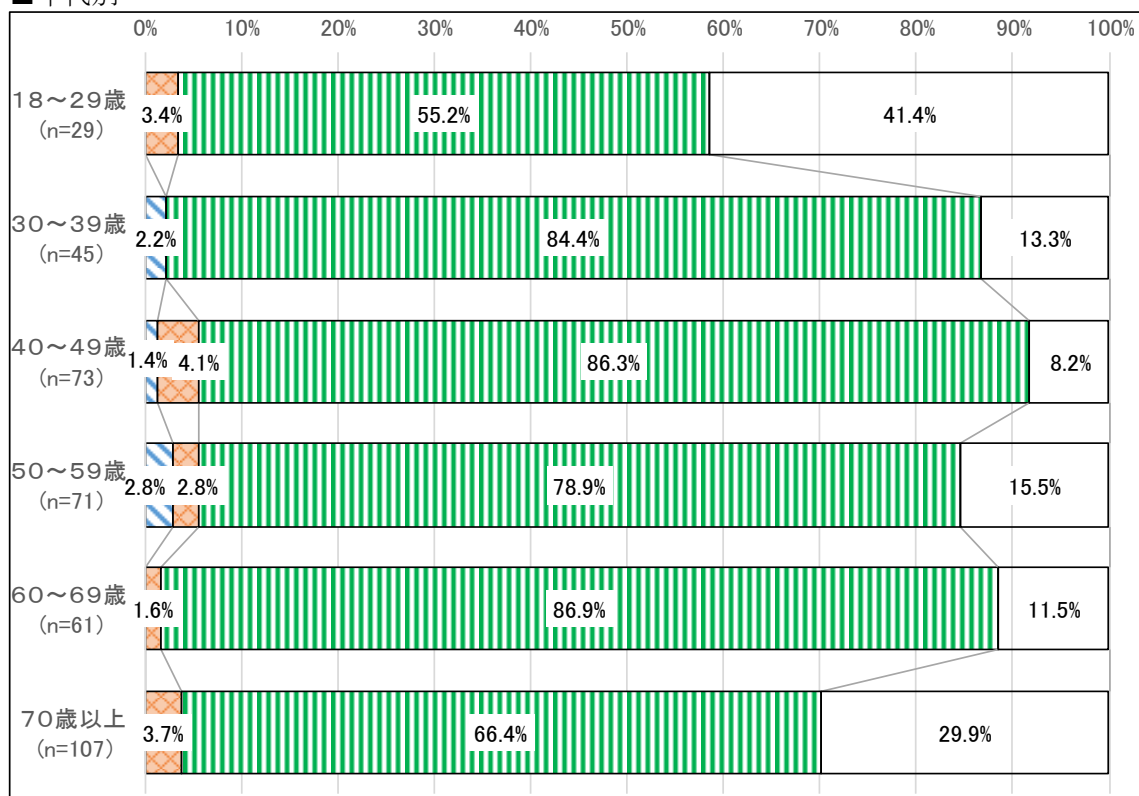
 無回答

■キ 平手やげんこつなどで殴られた

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

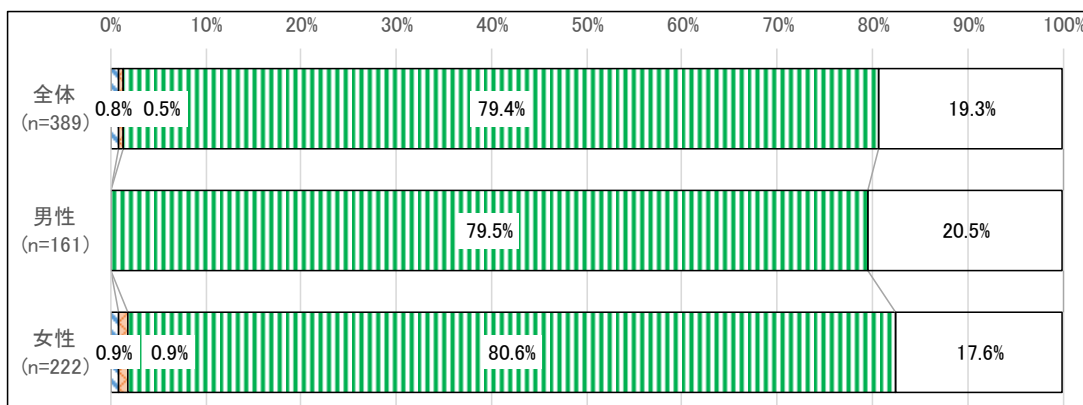
 1、2度あった

 まったくない

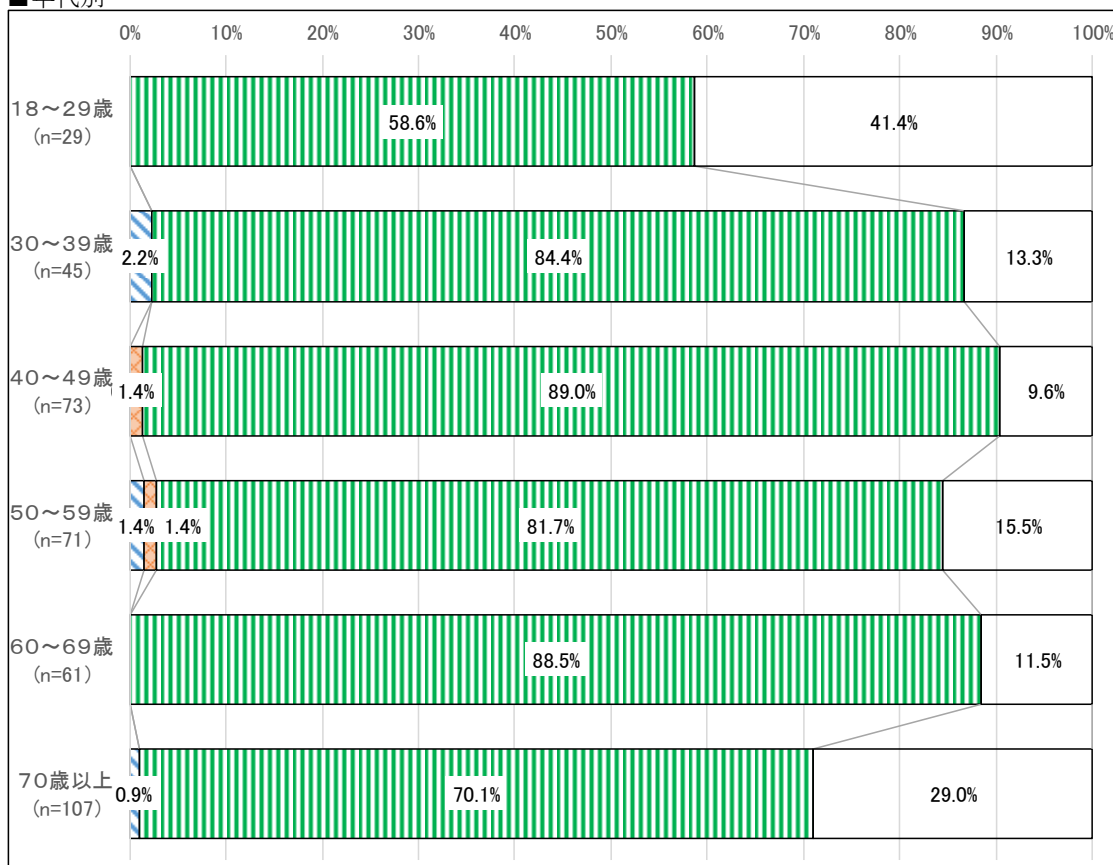
 無回答

■ク 命の危険を感じるほどの暴力をふるわれた

■性別



■年代別



< 凡例 >

何度もあった

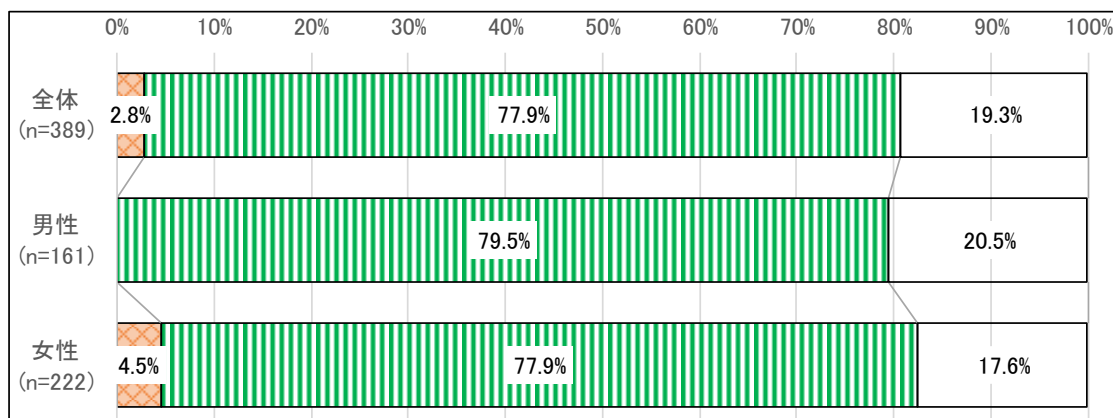
1、2度あった

まったくない

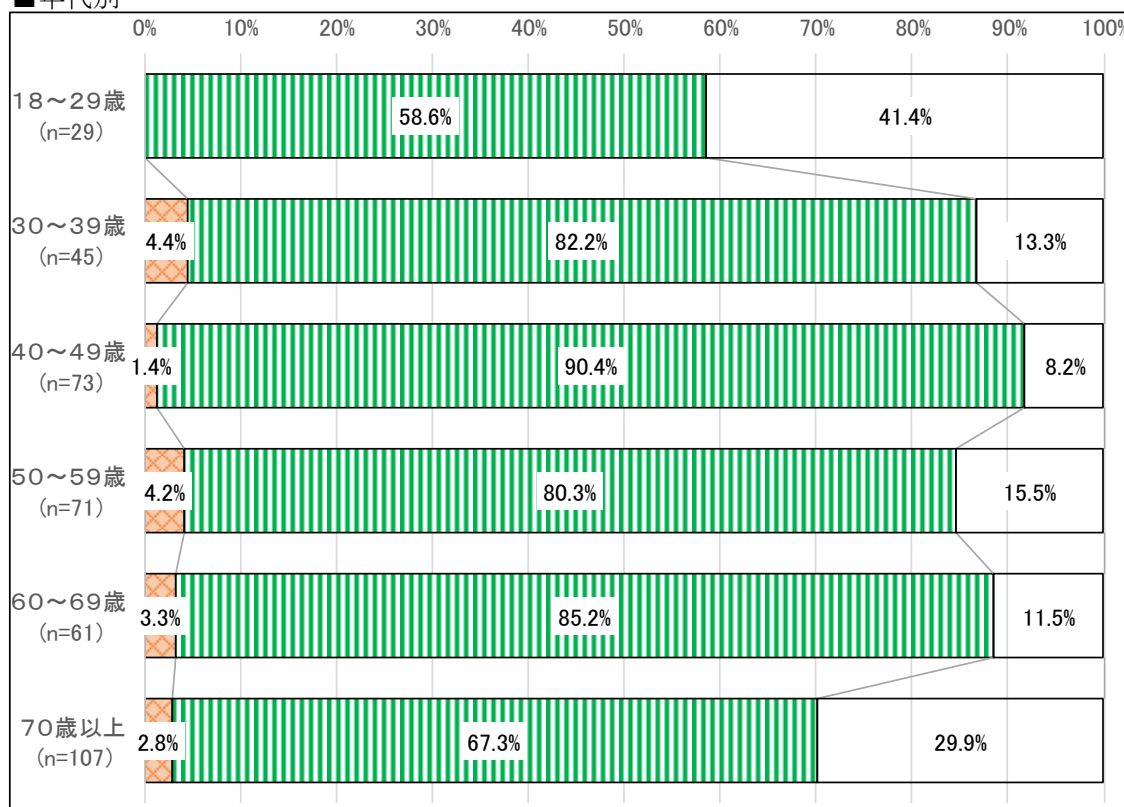
無回答

■ ケ 見たくないのに、アダルト雑誌やアダルトビデオを見せられた

■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

 何度もあった

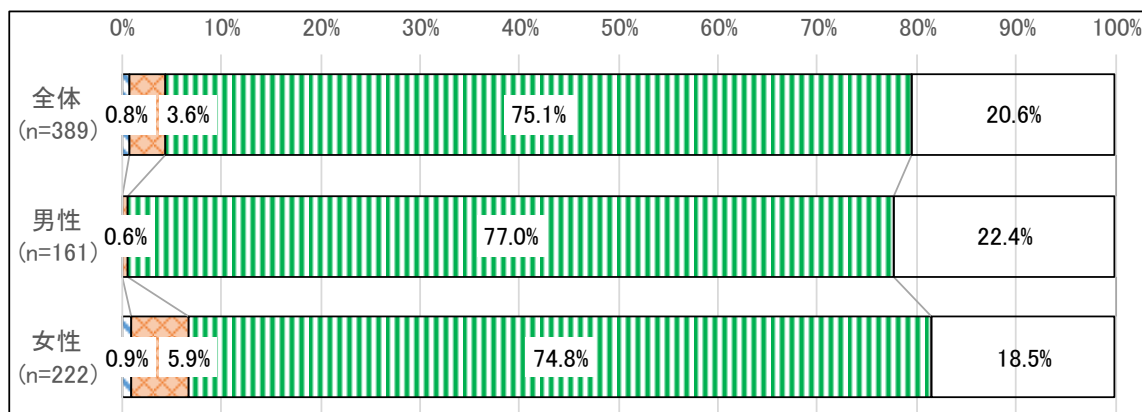
 1、2度あった

 まったくない

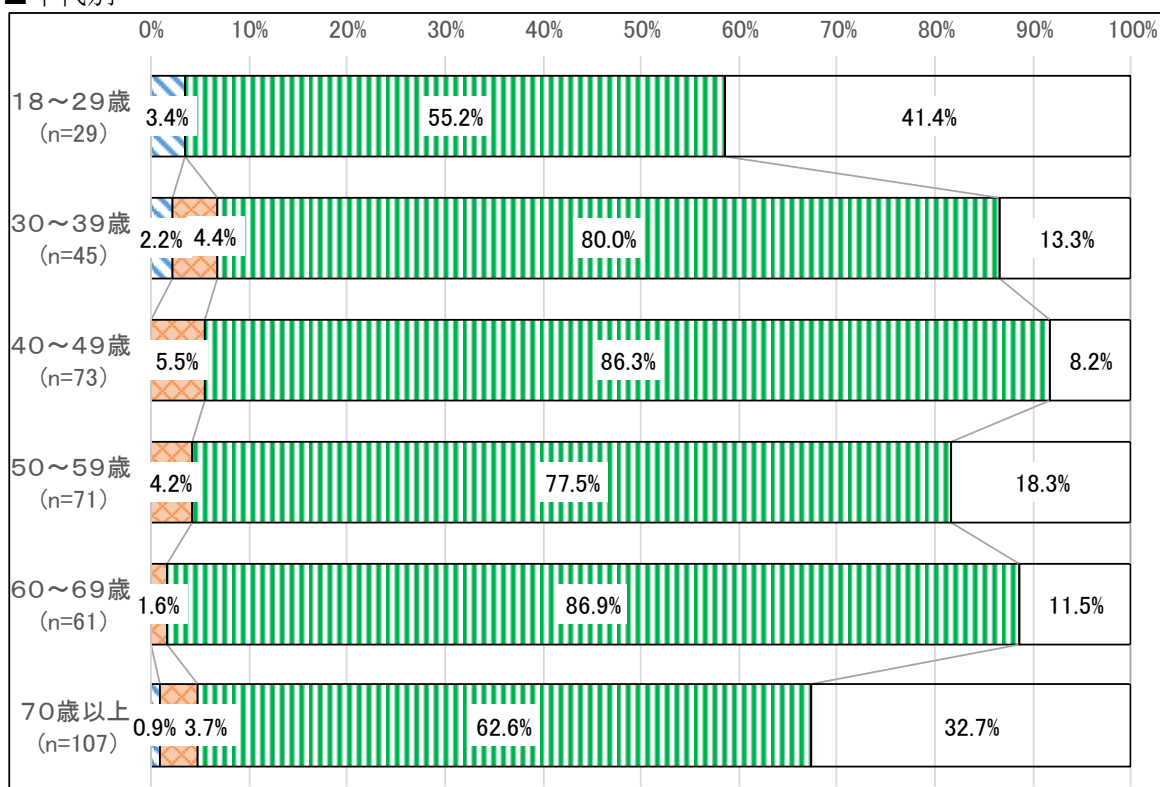
 無回答

■コ 避妊に協力してくれなかった

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

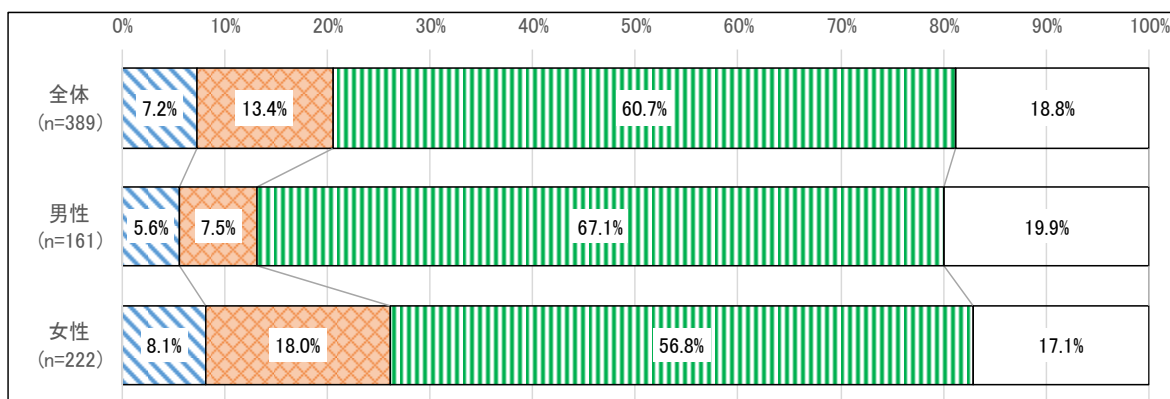
 1、2度あった

 まったくない

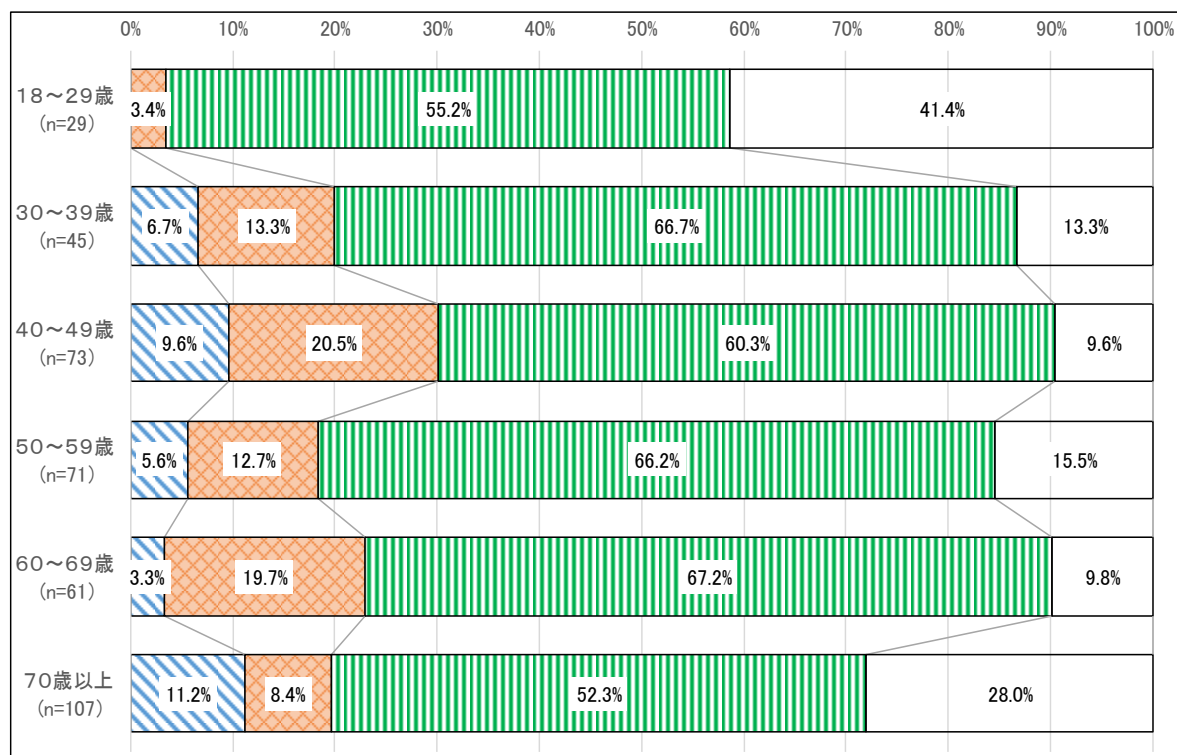
 無回答

■サ 大声でどなられた

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

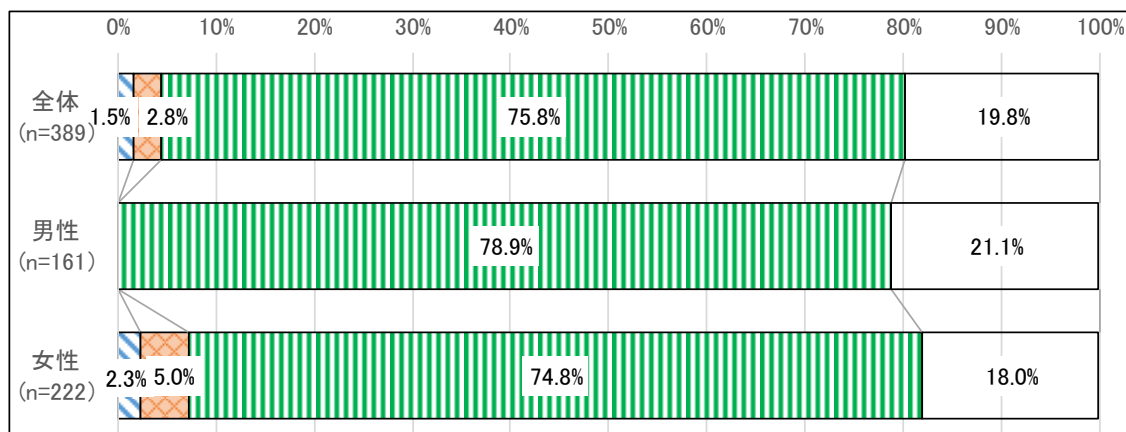
 1、2度あった

 まったくない

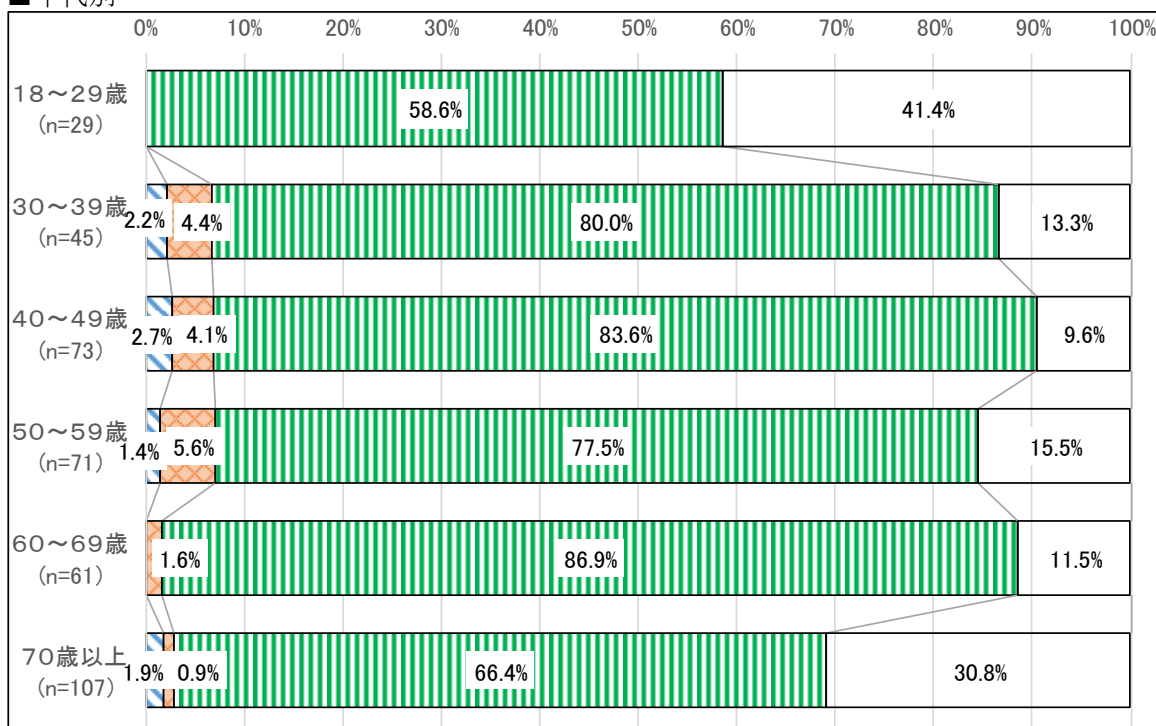
 無回答

■シ おどしや暴力によって、あなたの意に反して性的な行為を強要された

■性別



■年代別



< 凡例 >

 何度もあった

 1、2度あった

 まったくない

 無回答

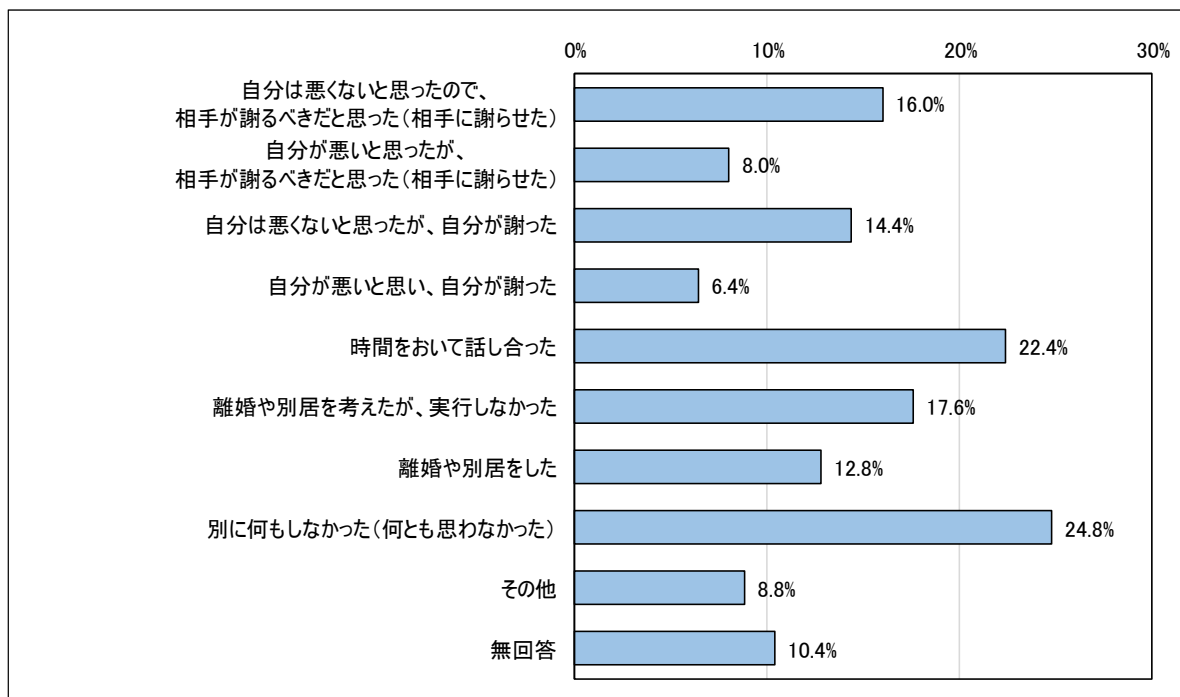
問24-1-ア 問24で「何度もあった」または「1、2度あった」と答えた方のみにお聞きします。

そのような行動をされた後、あなたはどうしましたか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自分は悪くないと思ったので、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
2. 自分が悪いと思ったが、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
3. 自分は悪くないと思ったが、自分が謝った
4. 自分が悪いと思い、自分が謝った
5. 時間をおいて話し合った
6. 離婚や別居を考えたが、実行しなかった
7. 離婚や別居をした
8. 別に何もしなかった(何とも思わなかった)
9. その他

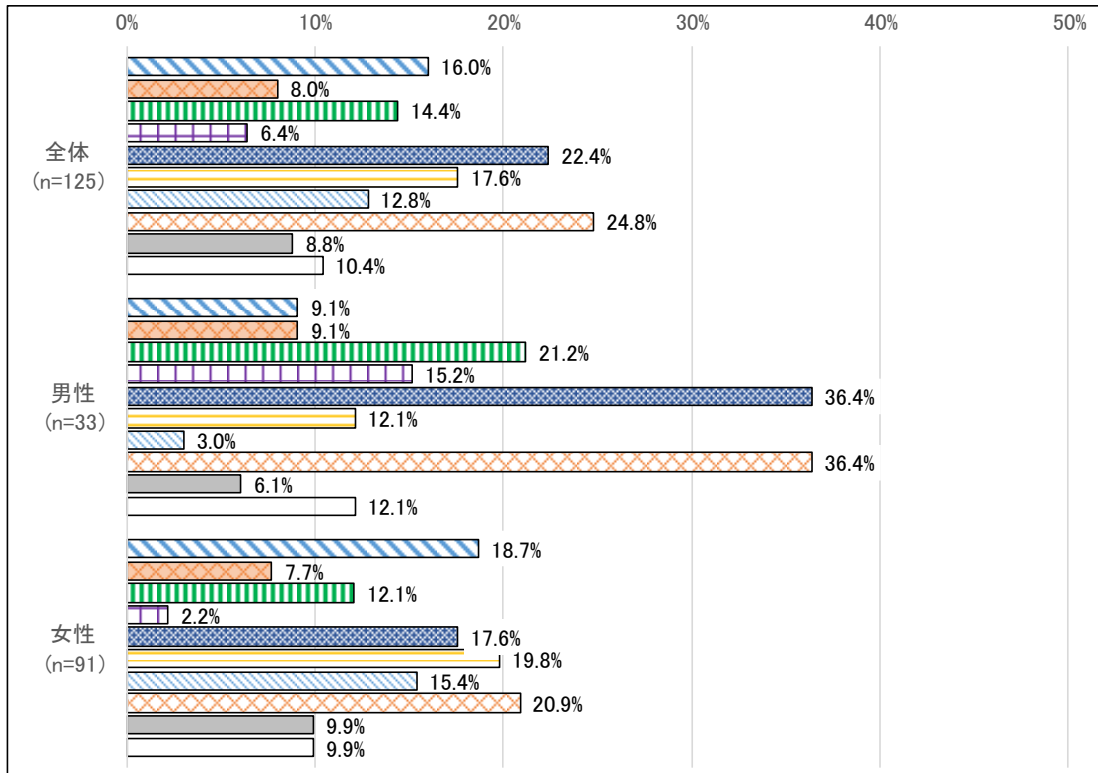
DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する行為を受けた後の行動として、「別に何もしなかった（何とも思わなかった）」が最も割合が高く 24.8%、次いで「時間をおいて話し合った」が 22.4%になっています。

性別で見ると、女性は「別に何もしなかった（何とも思わなかった）」が最も高く 20.9%となっており、男性は「別に何もしなかった（何とも思わなかった）」及び「時間をおいて話し合った」が 36.4%と高くなっています。



(n=125)

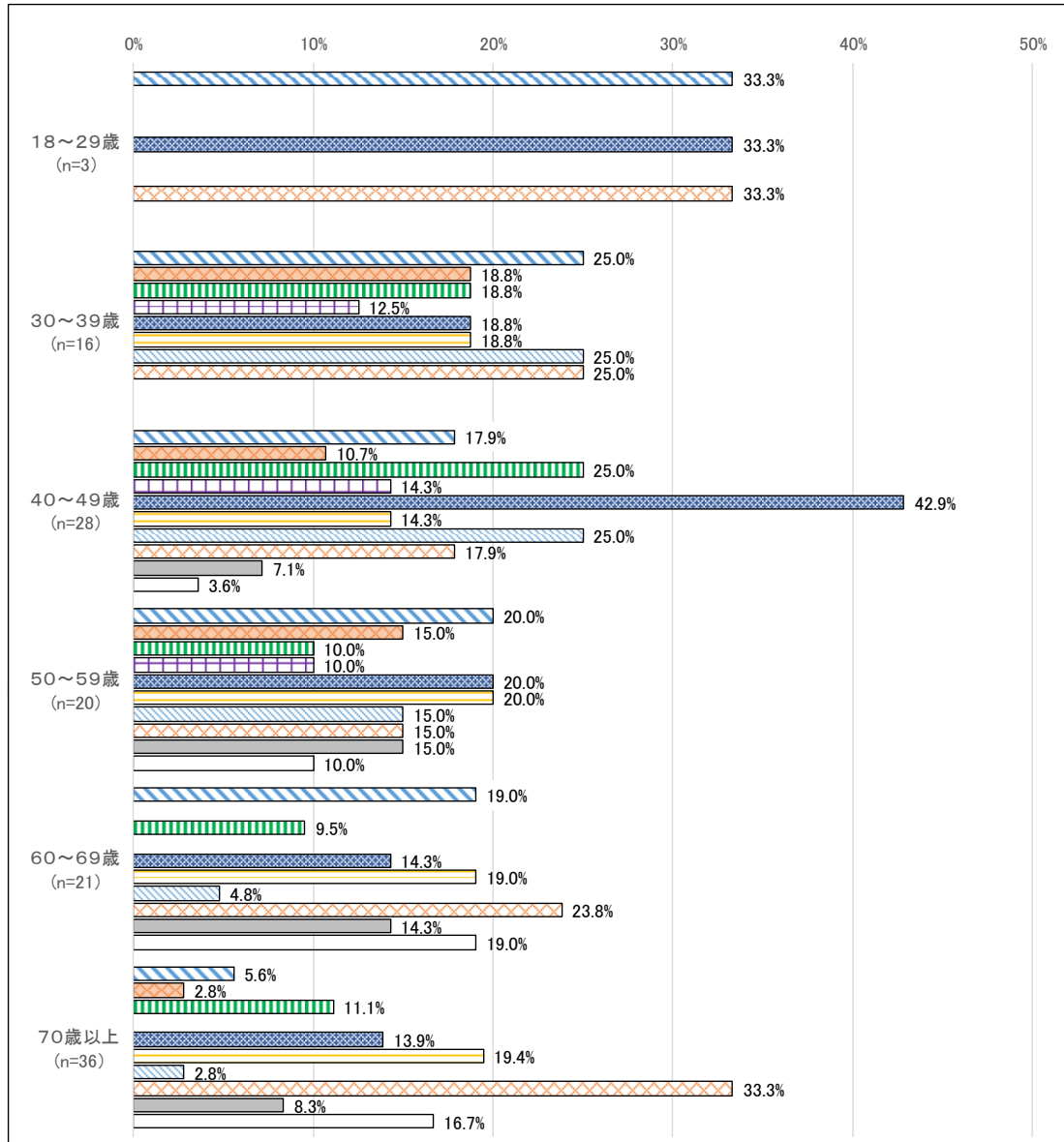
■性別



< 凡例 >

-  自分には悪くないと思ったので、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
-  自分が悪いと思ったが、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
-  自分には悪くないと思ったが、自分が謝った
-  自分が悪いと思い、自分が謝った
-  時間を置いて話し合った
-  離婚や別居を考えたが、実行しなかった
-  離婚や別居をした
-  別に何もしなかった(何とも思わなかった)
-  その他
-  無回答

■年代別



< 凡例 >

-  自分は悪くないと思ったので、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
-  自分が悪いと思ったが、相手が謝るべきだと思った(相手に謝らせた)
-  自分は悪くないと思ったが、自分が謝った
-  自分が悪いと思い、自分が謝った
-  時間を置いて話し合った
-  離婚や別居を考えたが、実行しなかった
-  離婚や別居をした
-  別に何もしなかった(何とも思わなかった)
-  その他
-  無回答

問24-1-イ あなたはこれまでにパートナーから受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

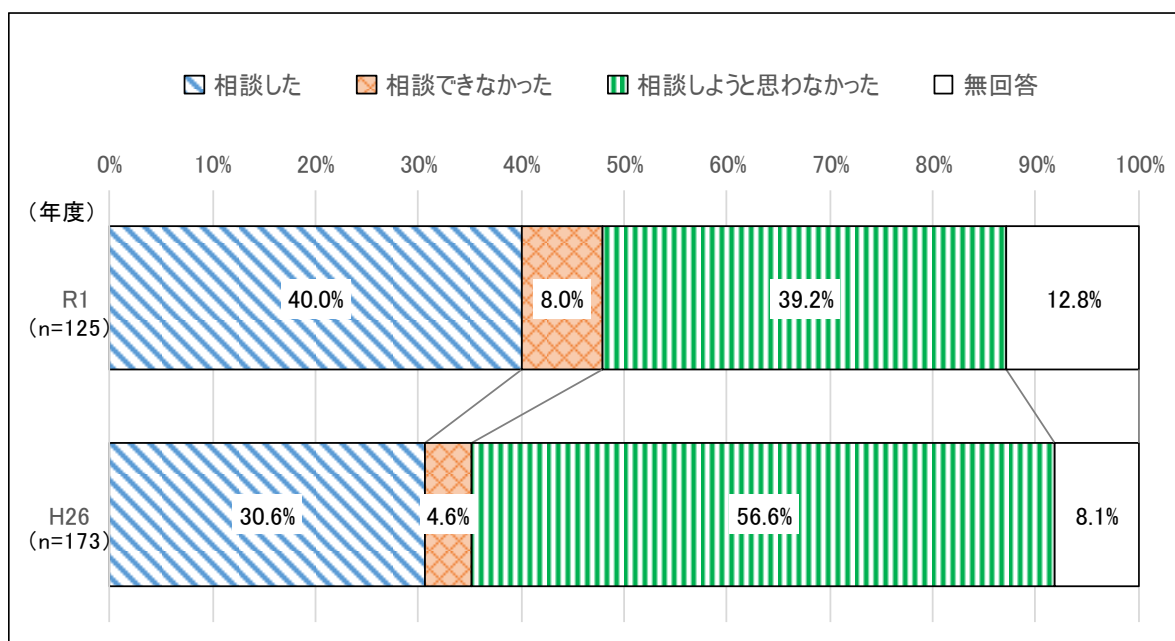
(相談の有無)

1. 相談した
2. 相談できなかった
3. 相談しようと思わなかった

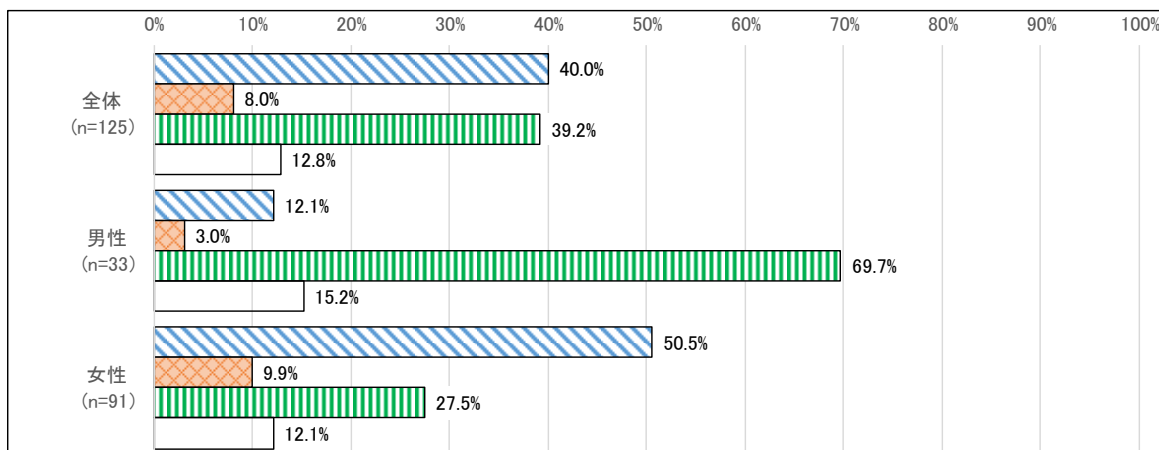
パートナーから受けた行為についての相談の有無については、「相談した」が最も割合が高く40.0%、次いで「相談しようと思わなかった」が39.2%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「相談した」割合が増加し、「相談しようと思わなかった」が減少しています。

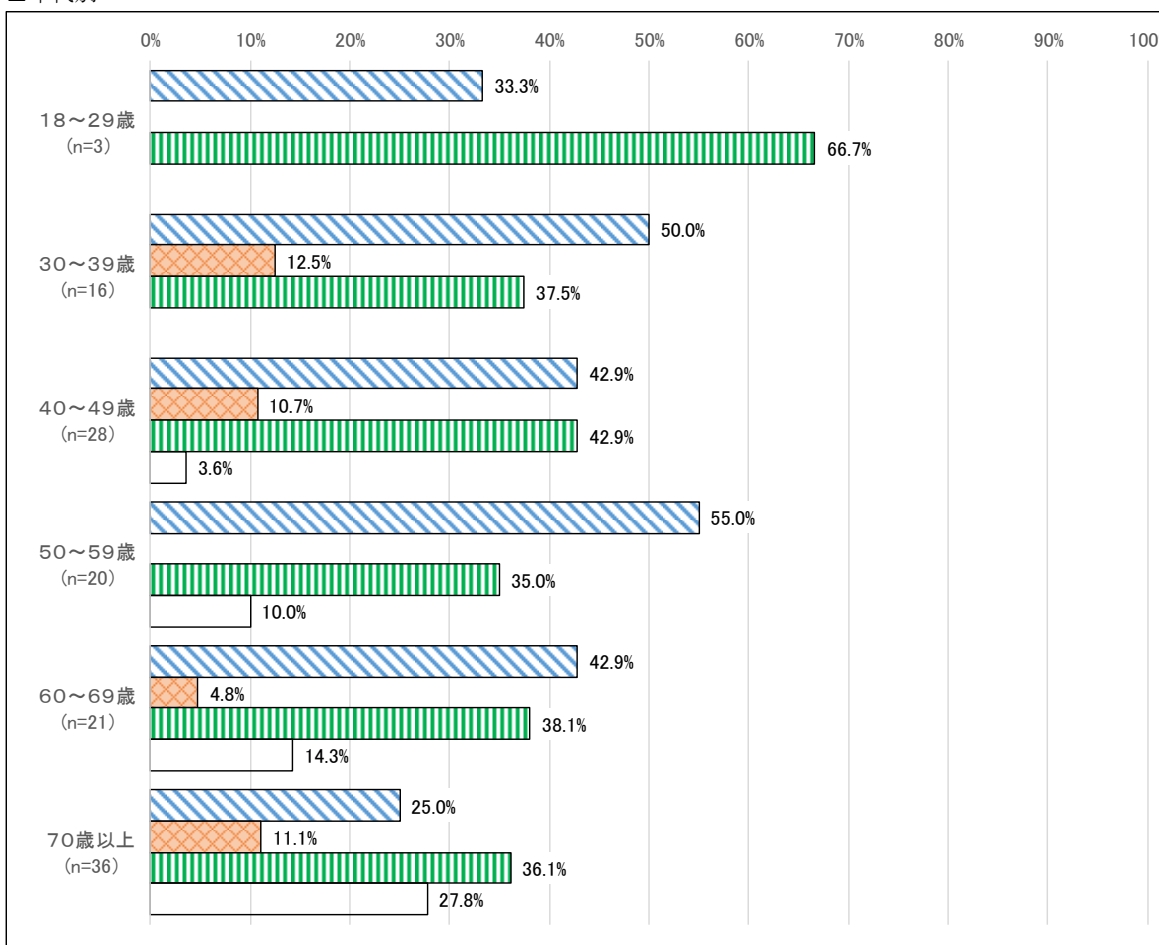
「相談した」の割合を性別で見ると、男性が12.1%、女性は50.5%となっています。また、「相談しようと思わなかった」の割合を性別で見ると、男性が69.7%、女性は27.5%となっており、男女で差があります。



■性別



■年代別



<凡例>

-  相談した
-  相談できなかった
-  相談しようと思わなかった
-  無回答

問24-1-イ あなたはこれまでにパートナーから受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

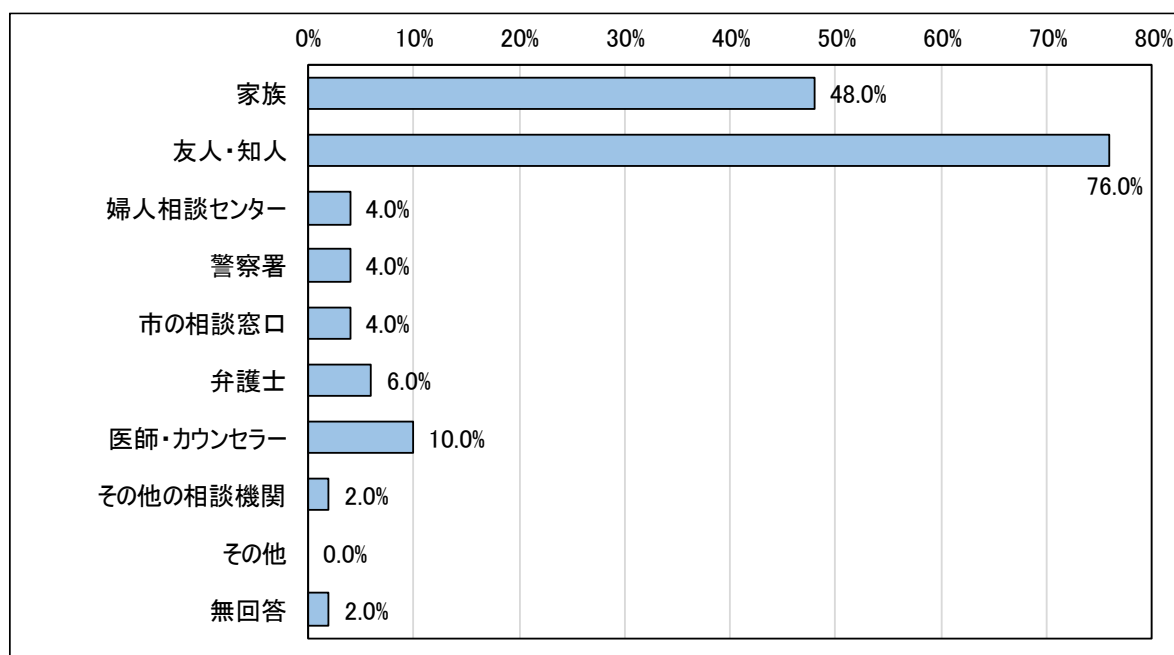
(相談相手)

1. 相談した →

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 家族 | 6. 弁護士 |
| 2. 友人・知人 | 7. 医師・カウンセラー |
| 3. 婦人相談センター | 8. その他の相談機関 |
| 4. 警察署 | 9. その他 |
| 5. 市の相談窓口 | |

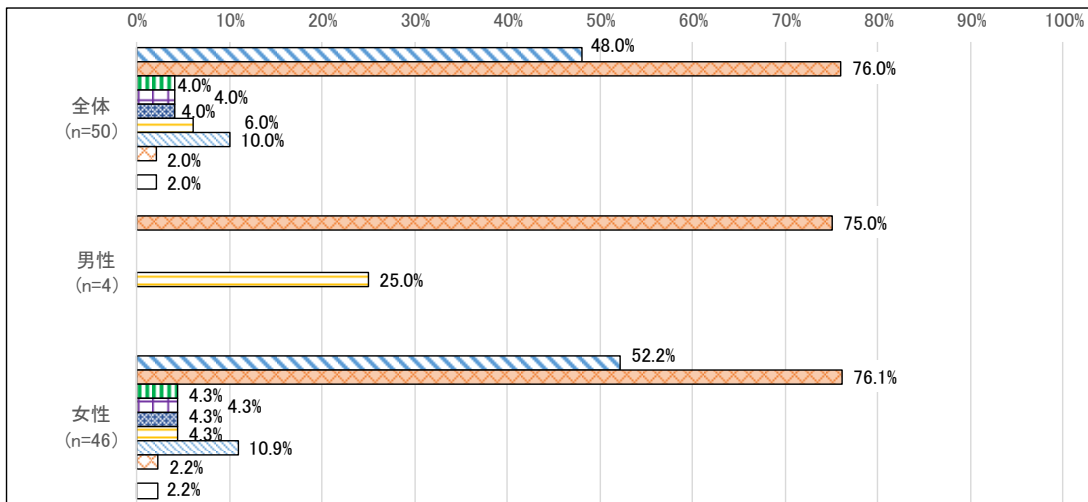
パートナーから受けた行為に関する相談相手については、「友人・知人」が最も割合が高く76.0%、次いで「家族」が48.0%となっています。

性別で見ると、男女ともに「友人・知人」が最も高くなっています。

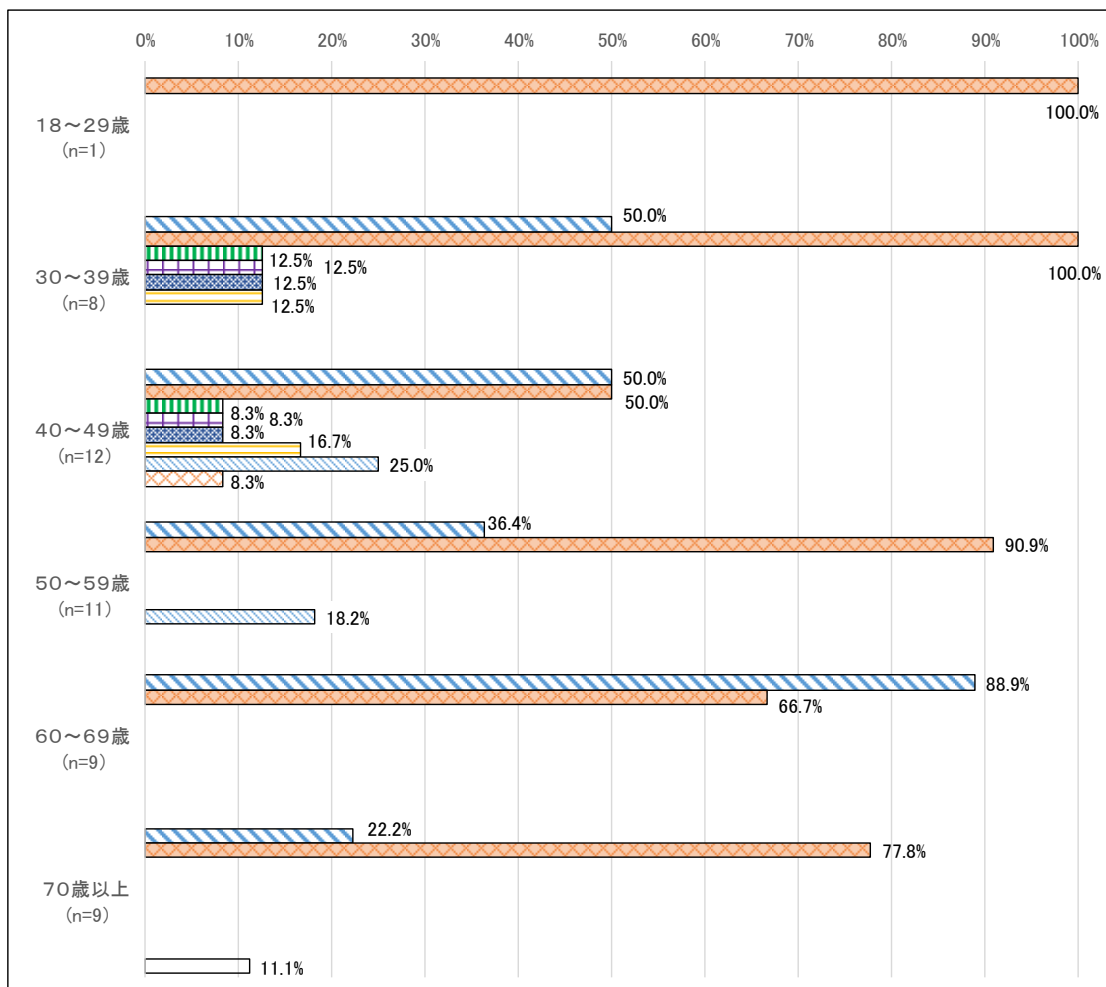


(n=50)

■性別



■年代別



<凡例>

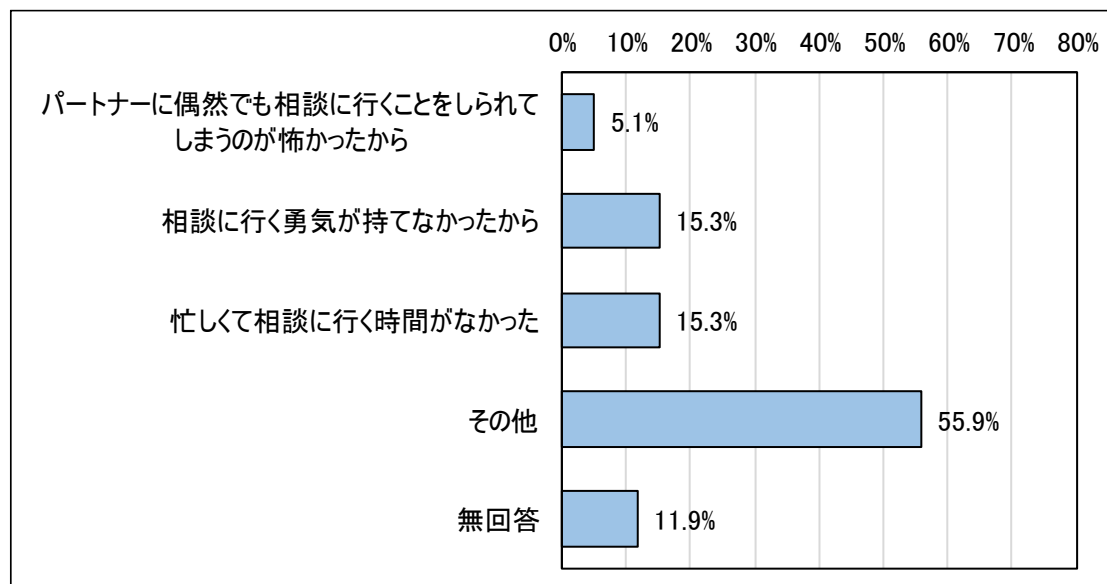


問24-1-ウ 問24-1-イで「2 相談できなかった」または「3 相談しようと思わなかった」と回答した方のみにお聞きします。相談できなかった理由はなんですか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

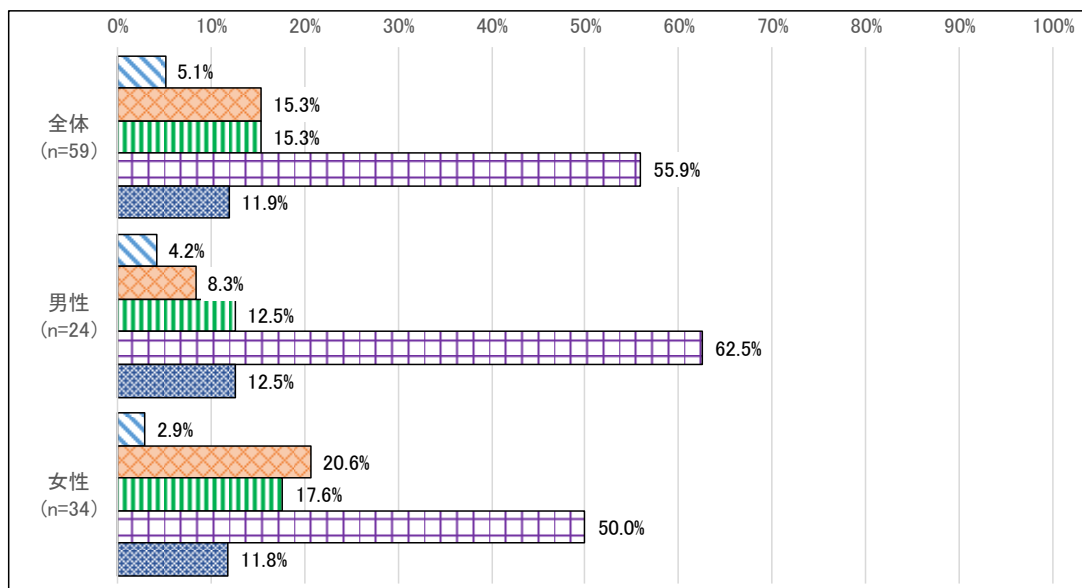
1. パートナーに偶然でも相談に行くことをしられてしまうのが怖かったから
2. 相談に行く勇気が持てなかったから
3. 忙しくて相談に行く時間がなかった
4. その他

相談していない理由については、「その他」が最も割合が高く 55.9%となっており、「他人に相談するほどのことではない」などが挙げられています。

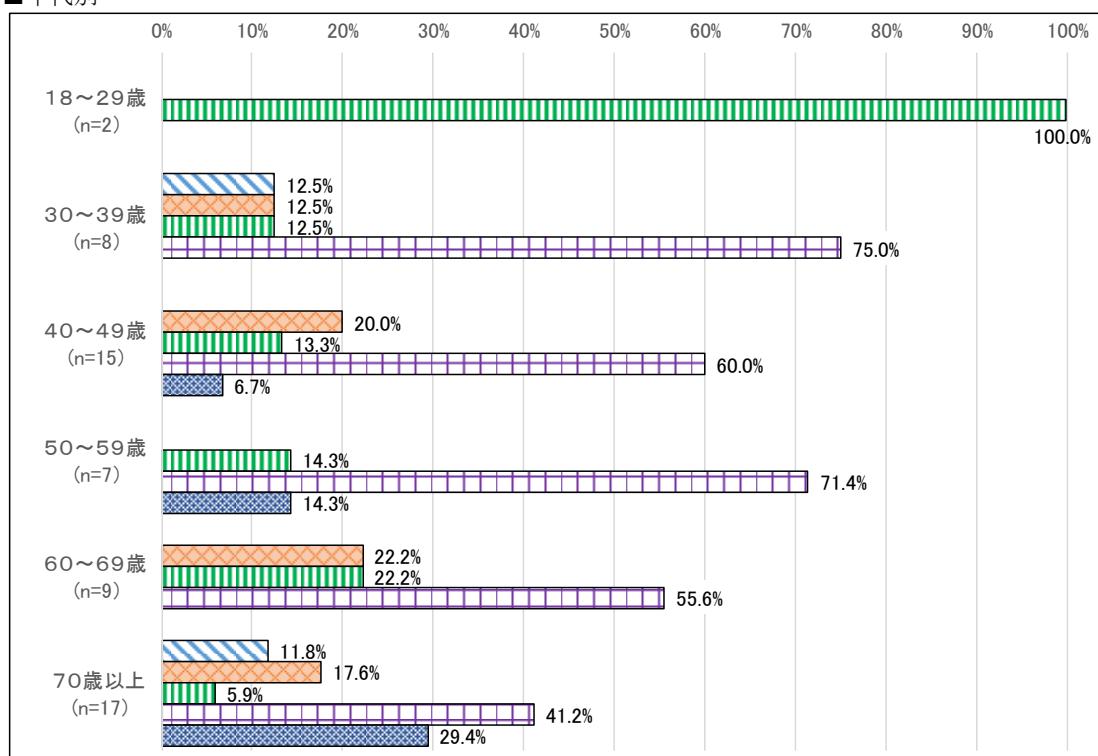


(n=59)

■性別



■年代別



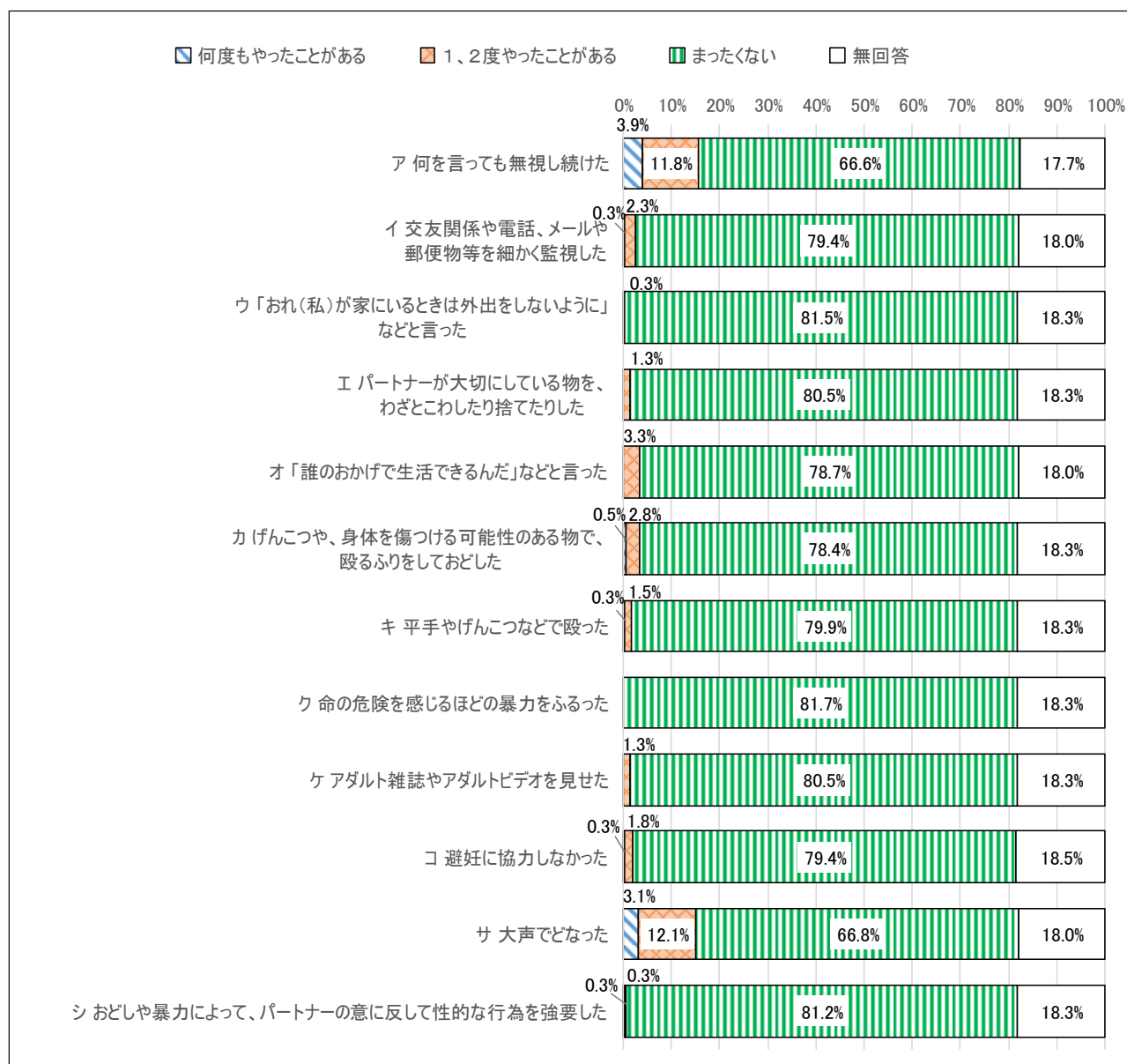
< 凡例 >

-  パートナーに偶然でも相談に行くことを知られてしまうのが怖かったから
-  相談に行く勇気が持てなかったから
-  忙しくて相談に行く時間がなかった
-  その他
-  無回答

問25 あなたはこれまでに、パートナー(配偶者や恋人など)に、次のようなことをしたことはありますか。次のア～シの各項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

パートナーへのDV（ドメスティック・バイオレンス）の有無について、「何度もやったことがある」「1、2度やったことがある」を合わせると「何を言っても無視し続けた」が最も割合が高く15.7%、次いで「大声でどなった」が15.2%となっています。

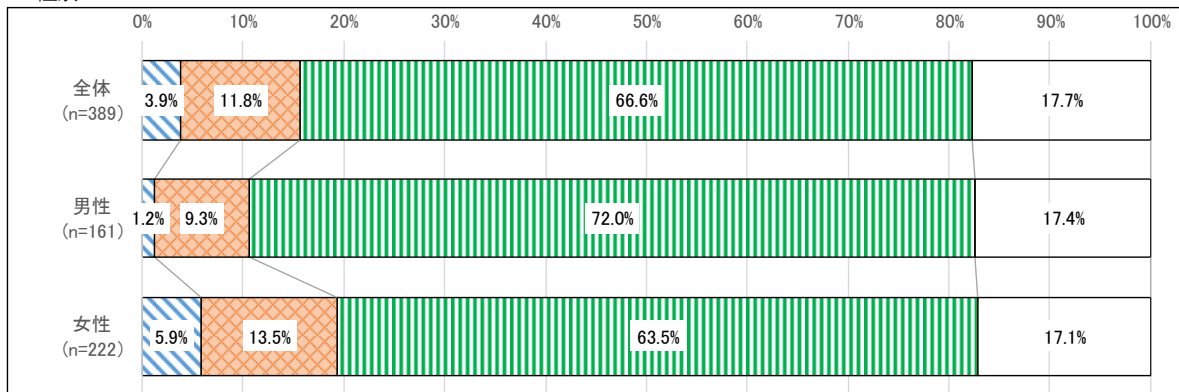
性別で見ると、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせて、男性は「大声でどなった」の割合が19.3%と最も高く、女性は「何を言っても無視し続けた」が19.4%と最も高くなっています。



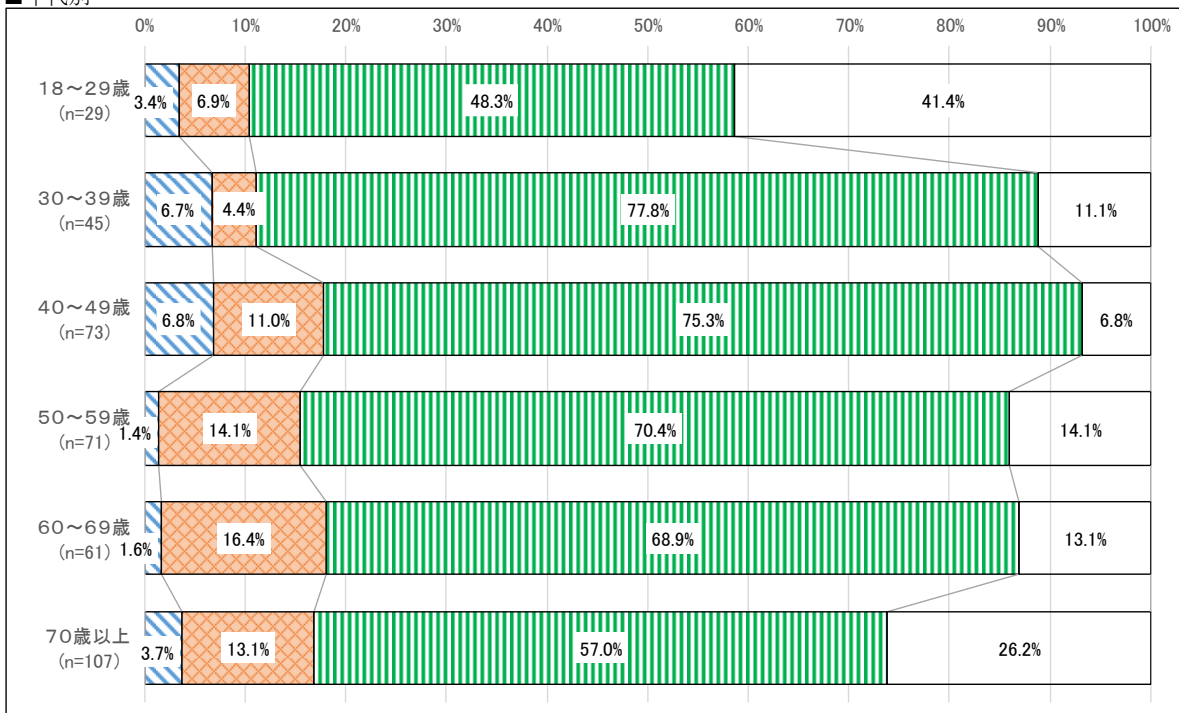
(n=389)

■ア 何を言っても無視し続けた

■性別



■年代別



< 凡例 >



何度もやったことがある



1、2度やったことがある



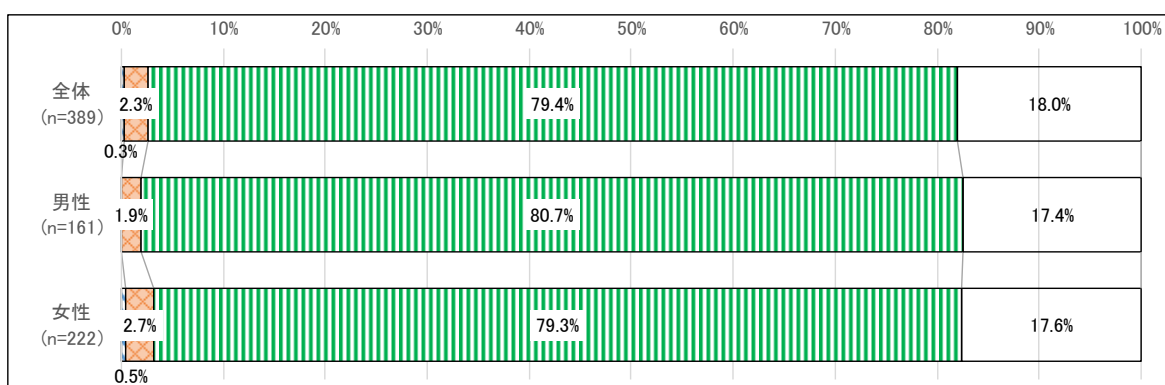
まったくない



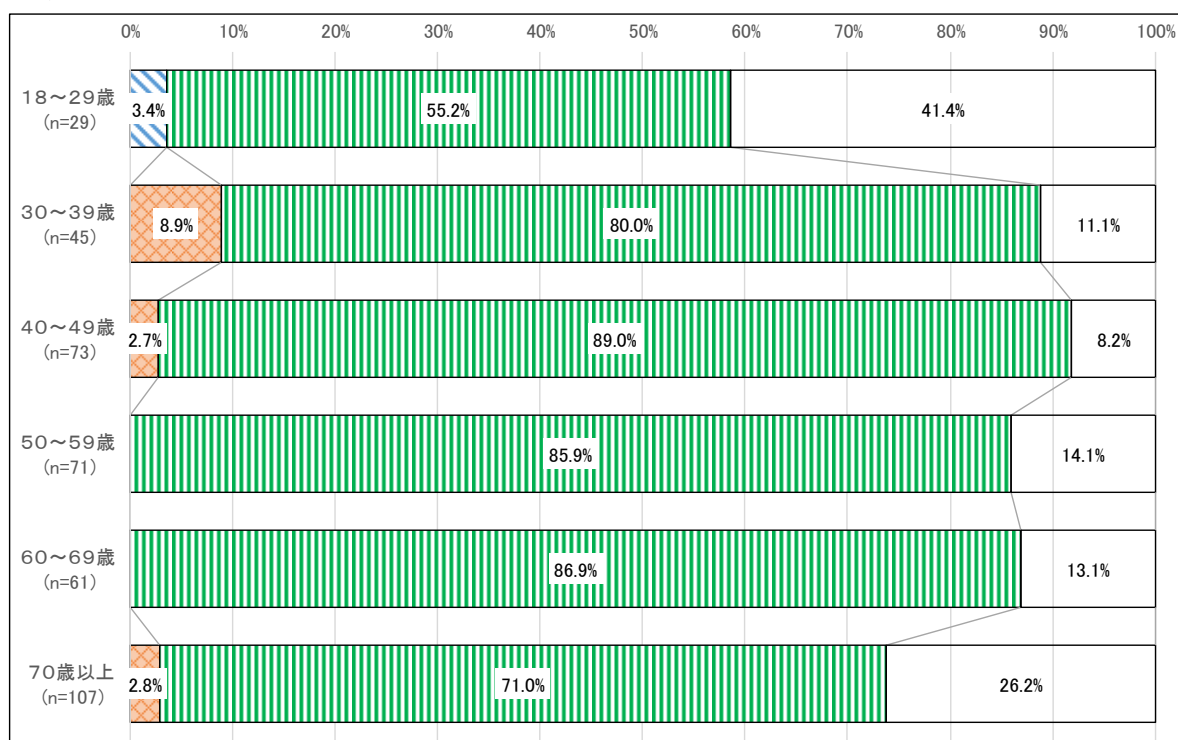
無回答

■イ 交友関係や電話、メールや郵便物等を細かく監視した

■性別



■年代別

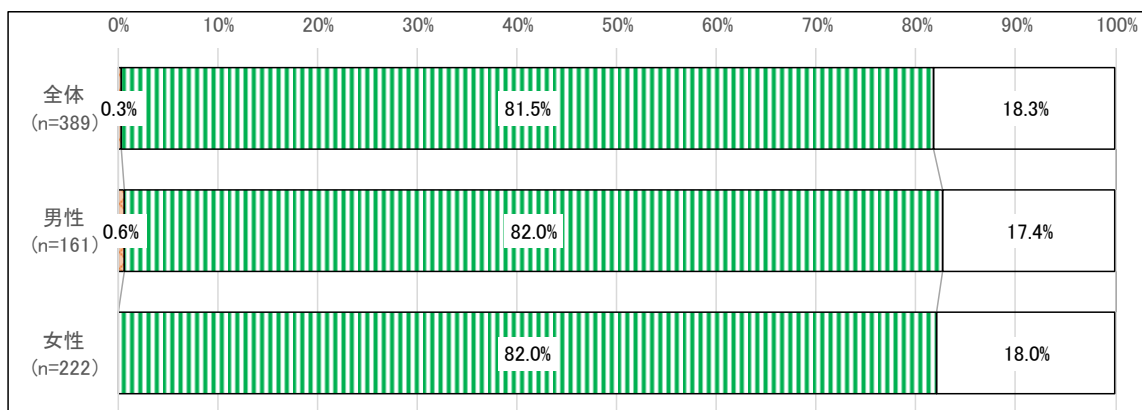


< 凡例 >

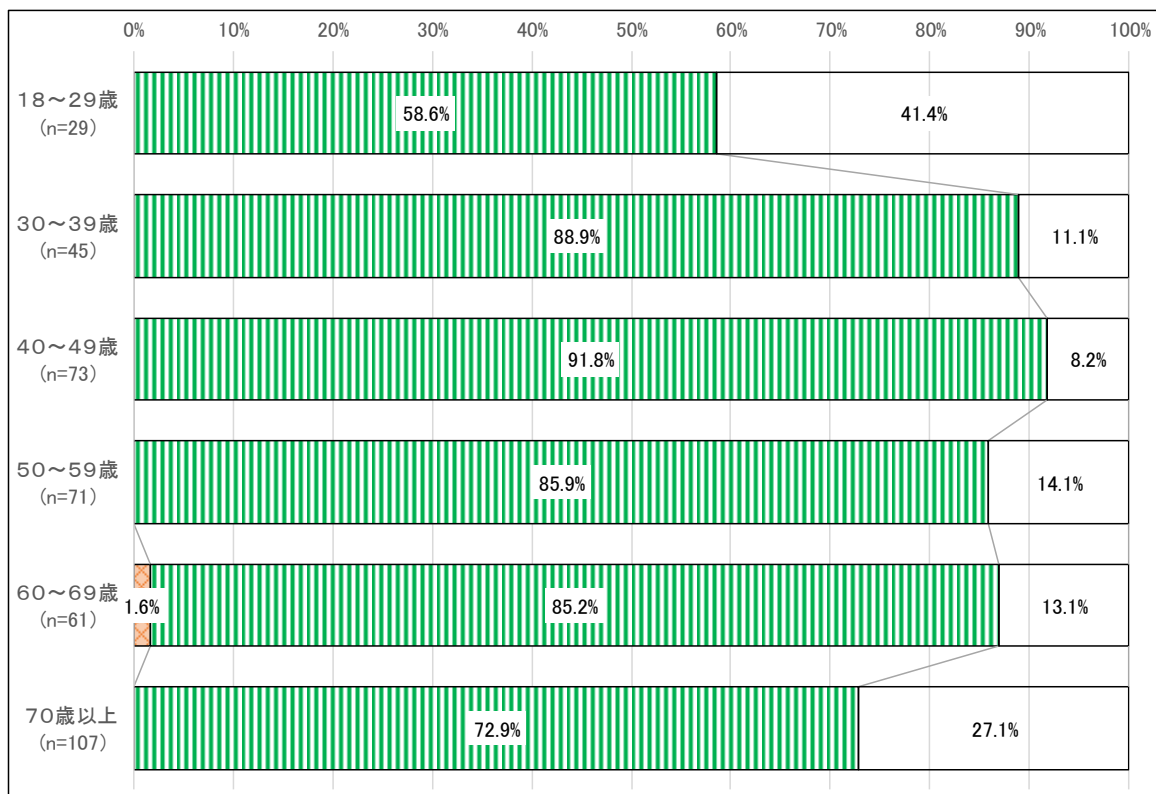
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■ウ 「おれ（私）が家にいるときは外出をしないように」 などと言った

■性別



■年代別

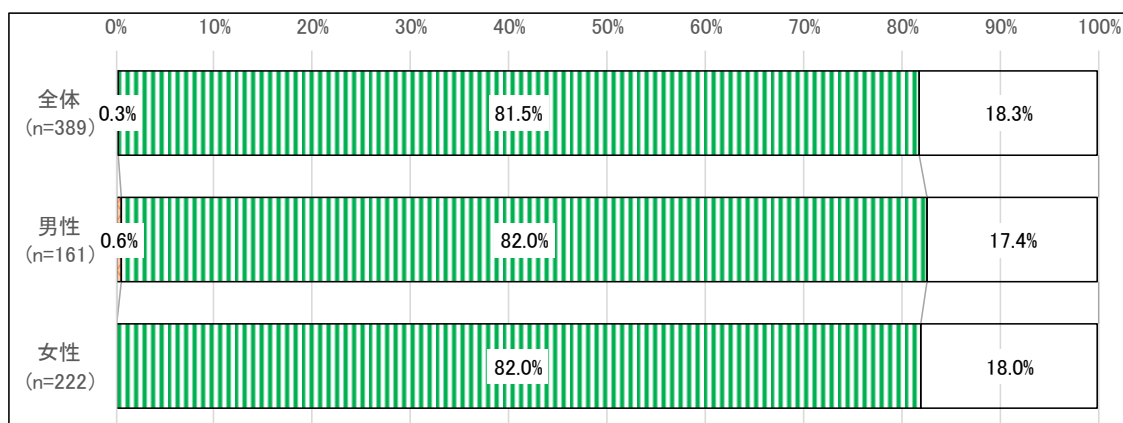


< 凡例 >

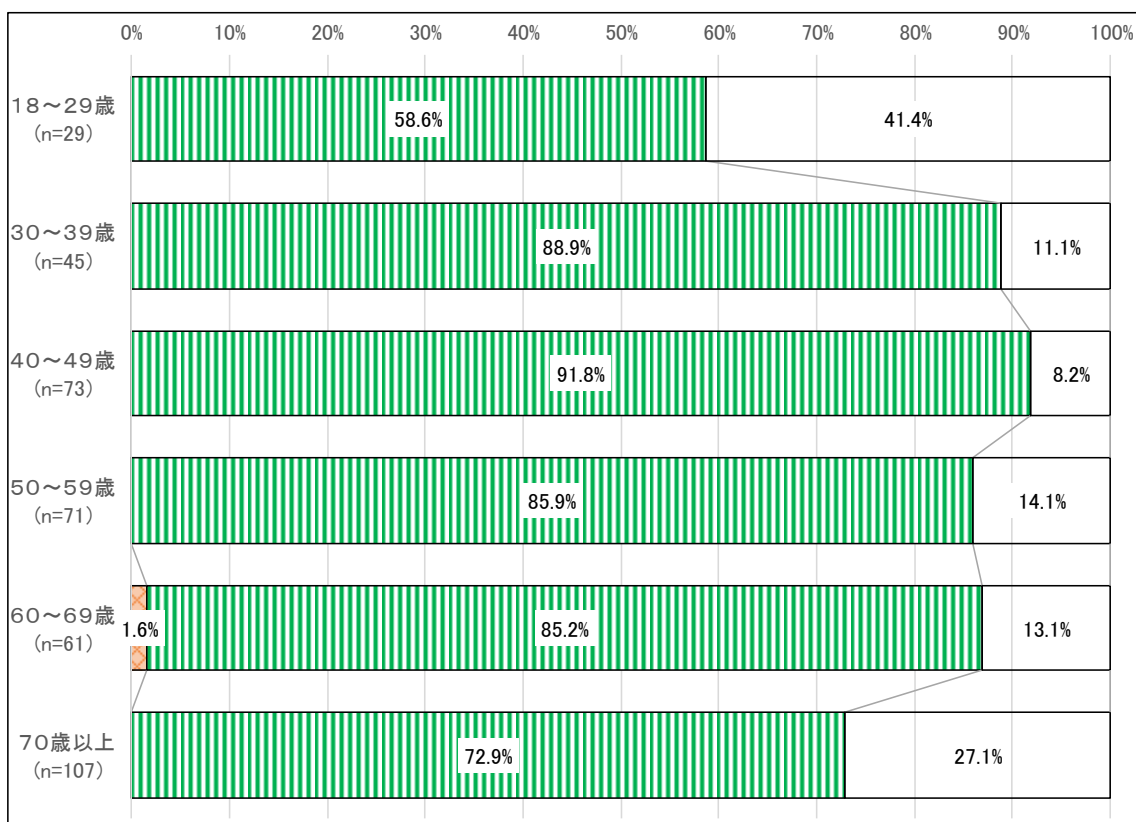
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■エ パートナーが大切にしている物を、わざとこわしたり捨てたりした

■性別



■年代別

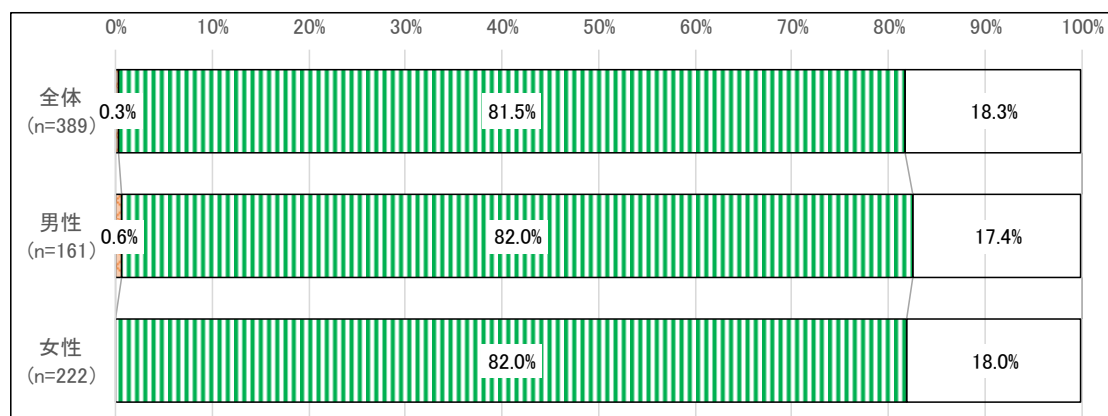


< 凡例 >

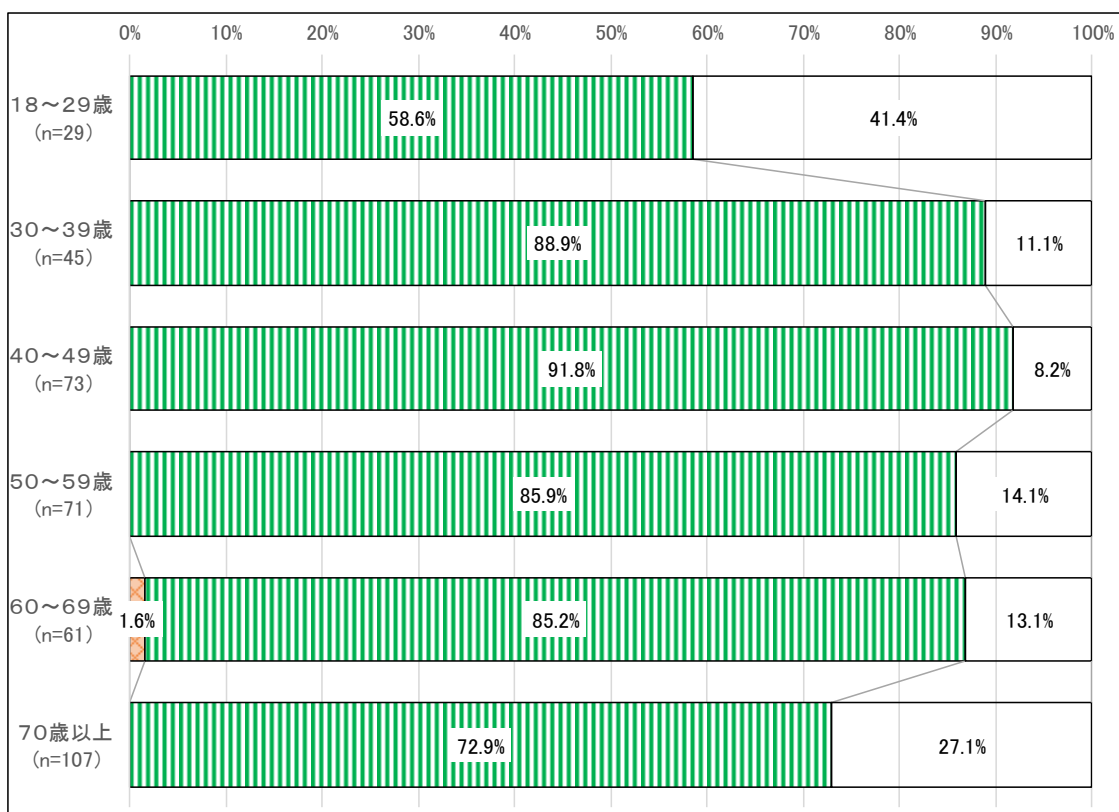
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■オ 「誰のおかげで生活できるんだ」などと言った

■性別



■年代別

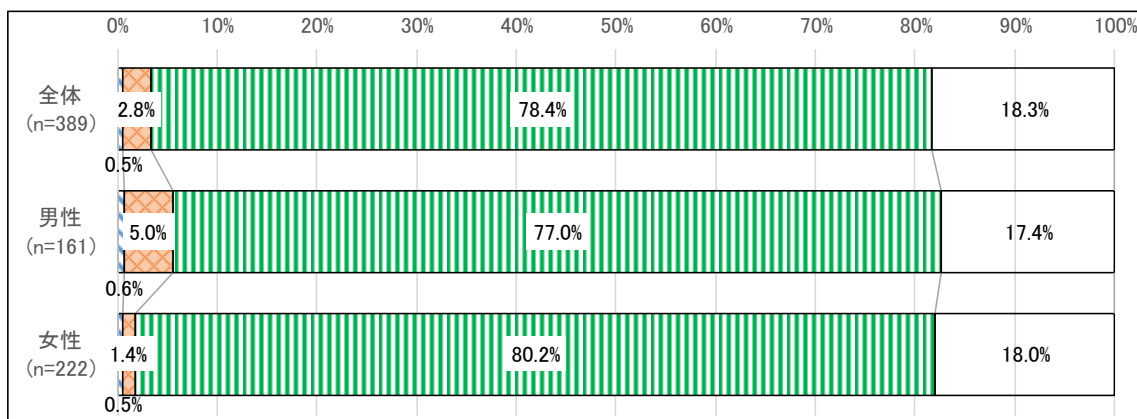


< 凡例 >

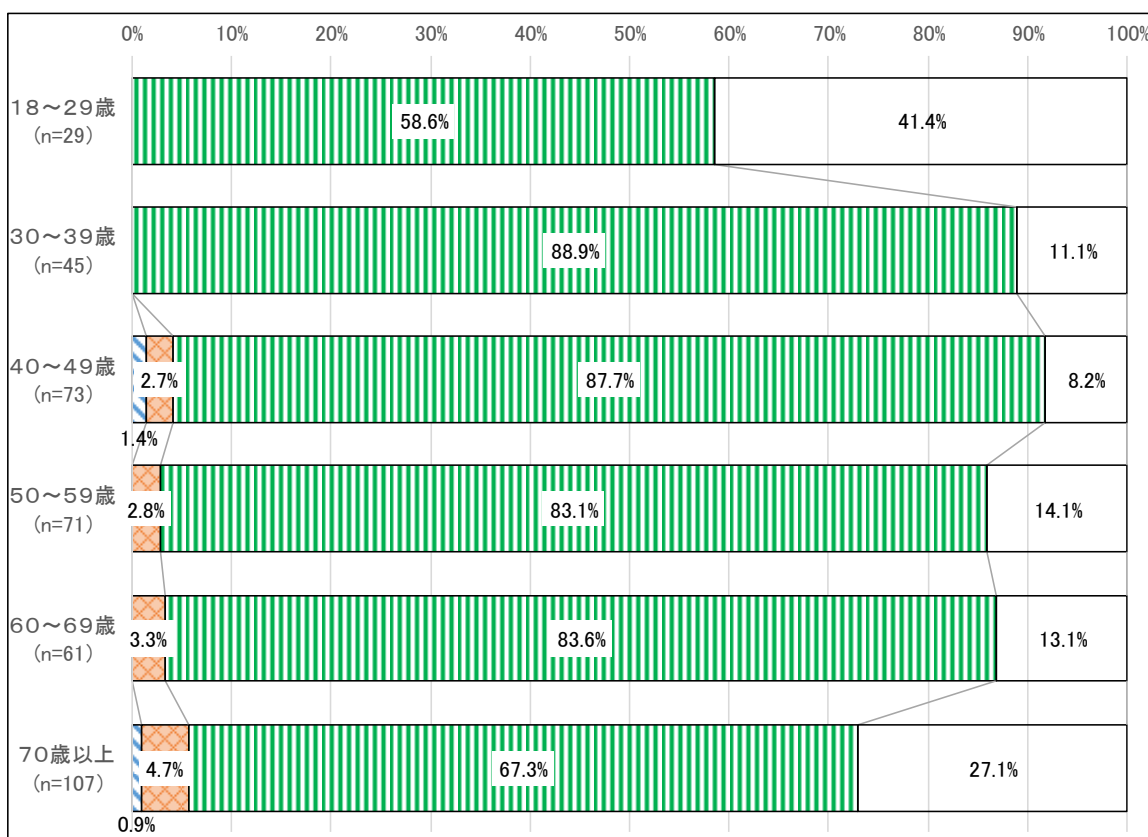
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■カ げんこつや、身体を傷つける可能性のある物で、殴るふりをしておどした

■性別



■年代別

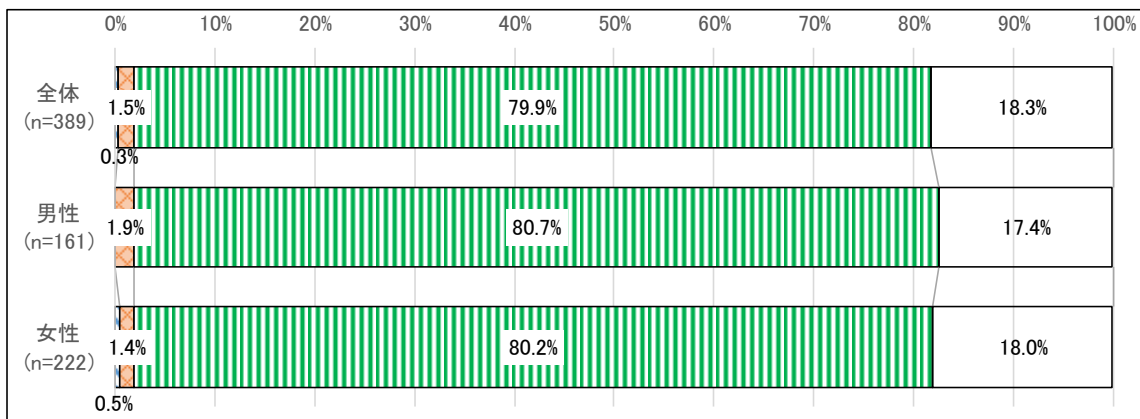


< 凡例 >

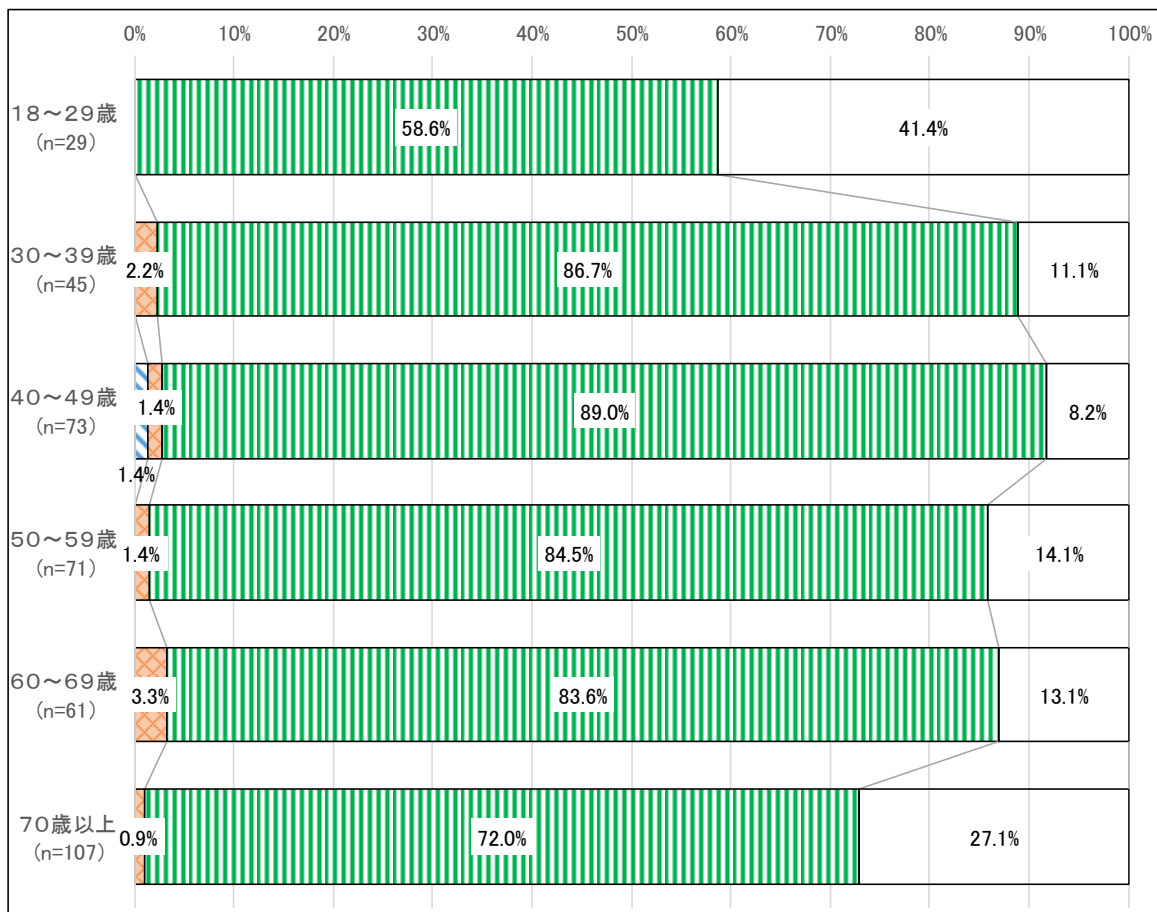
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■キ 平手やげんこつなどで殴った

■性別



■年代別

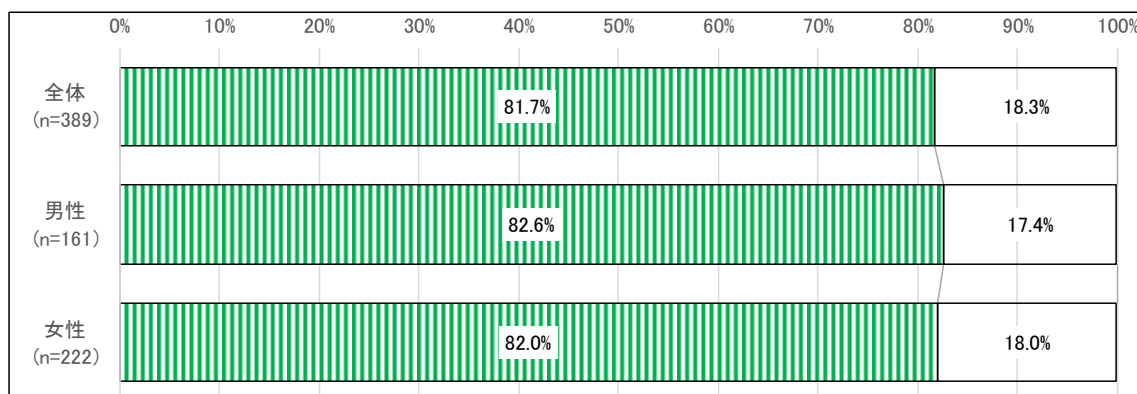


< 凡例 >

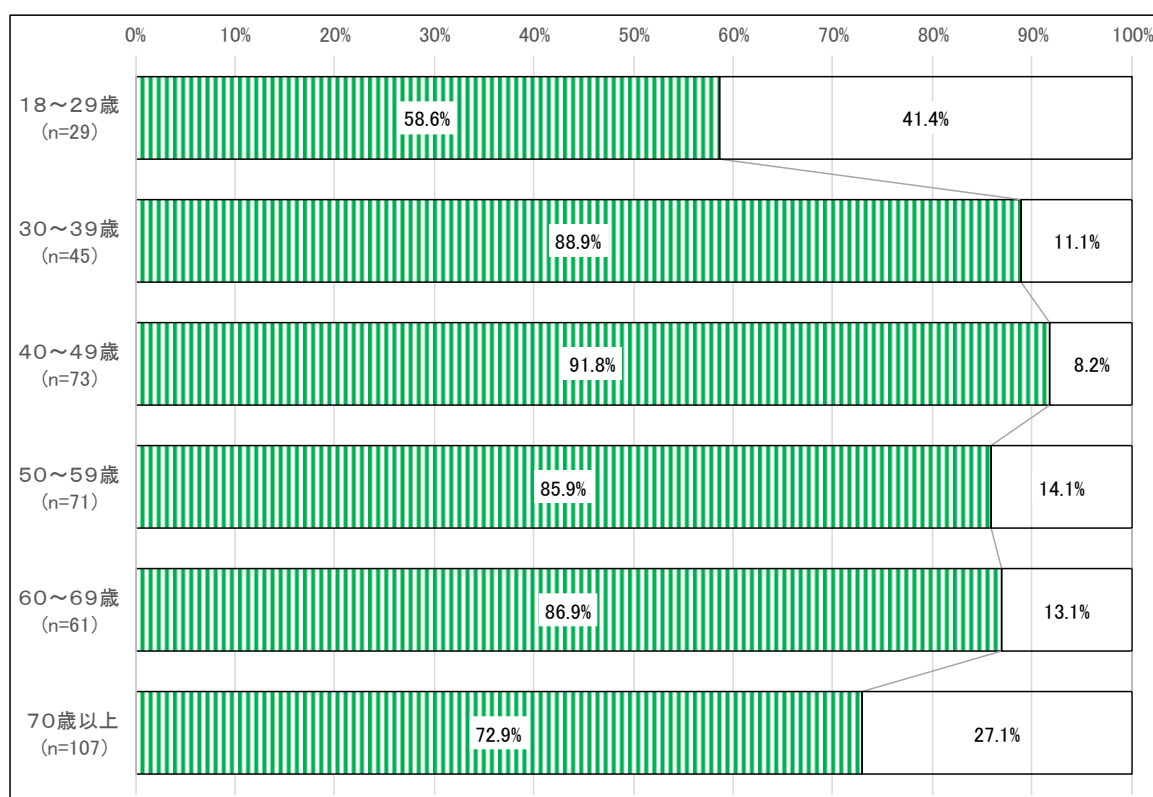
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■ク 命の危険を感じるほどの暴力をふるった

■性別



■年代別

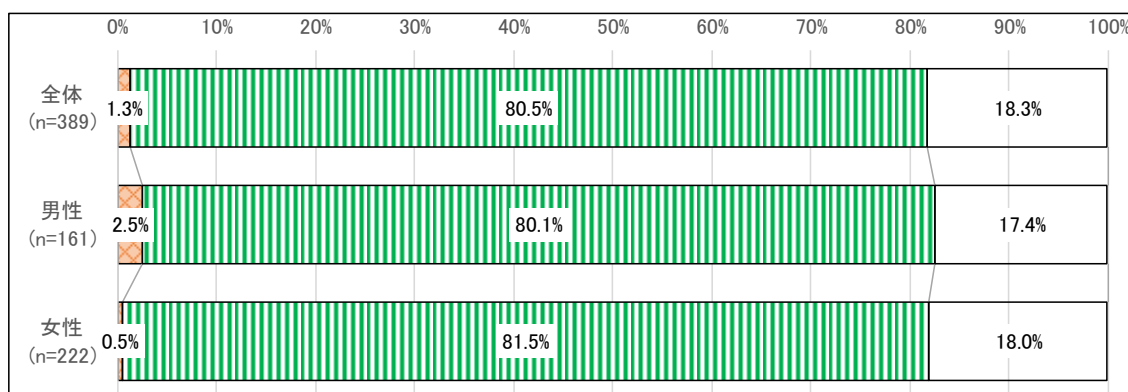


< 凡例 >

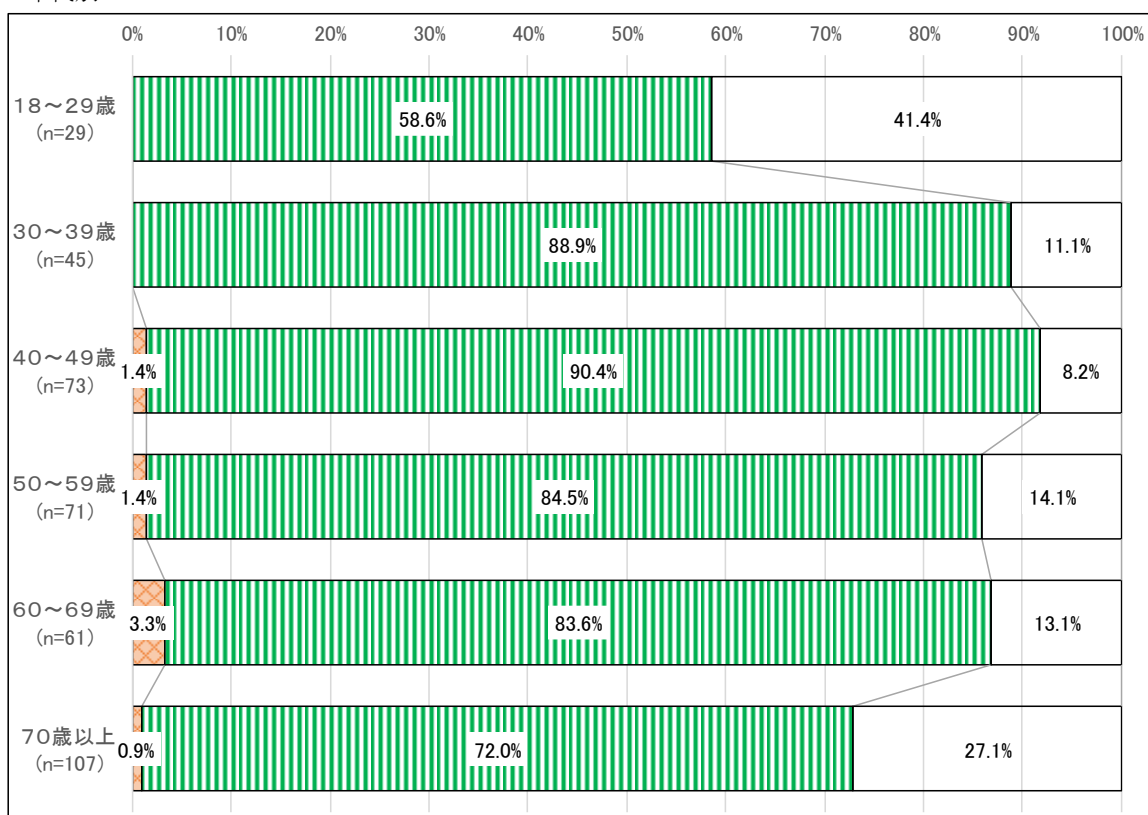
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■ケ アダルト雑誌やアダルトビデオを見せた

■性別



■年代別

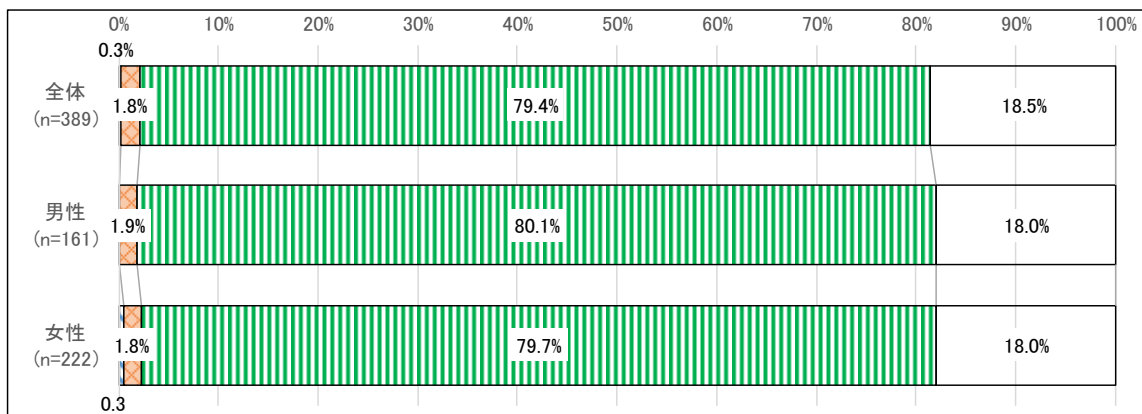


< 凡例 >

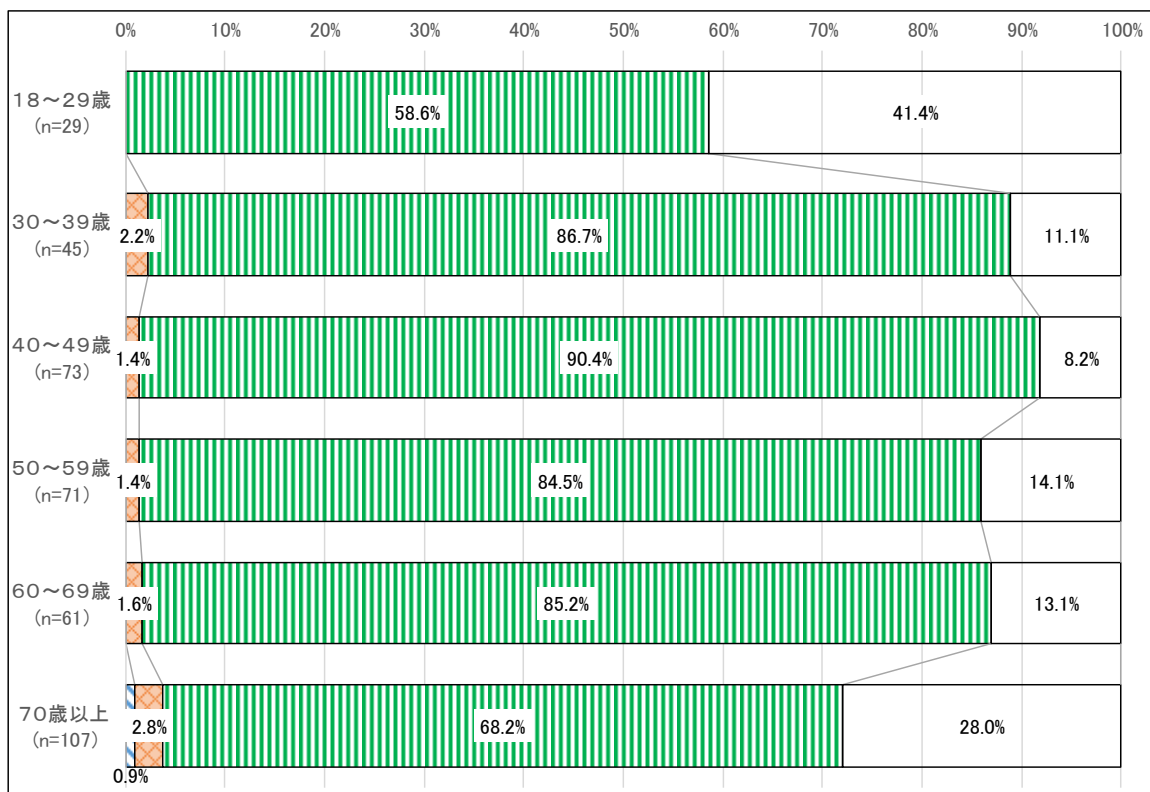
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■コ 避妊に協力しなかった

■性別



■年代別

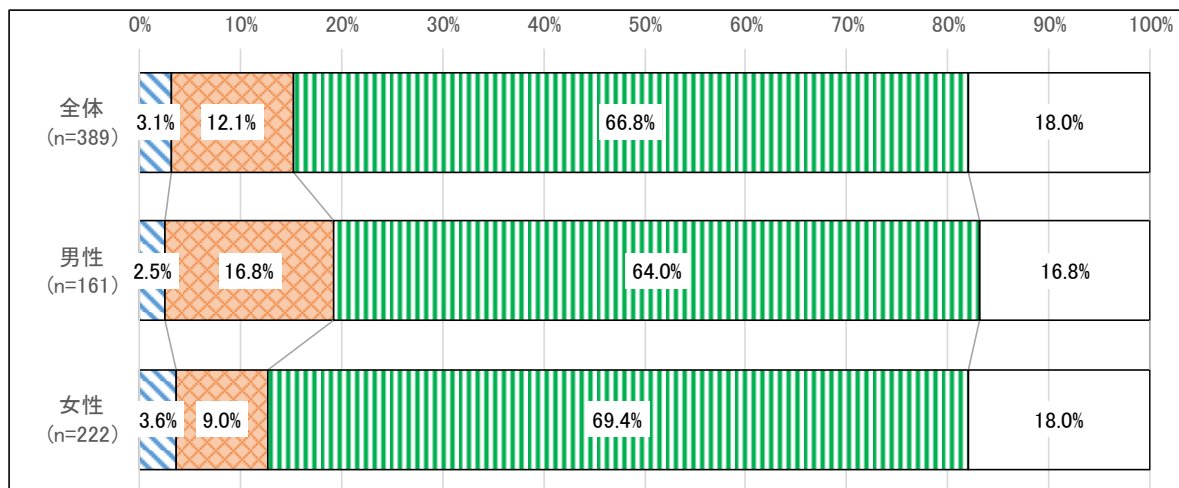


< 凡例 >

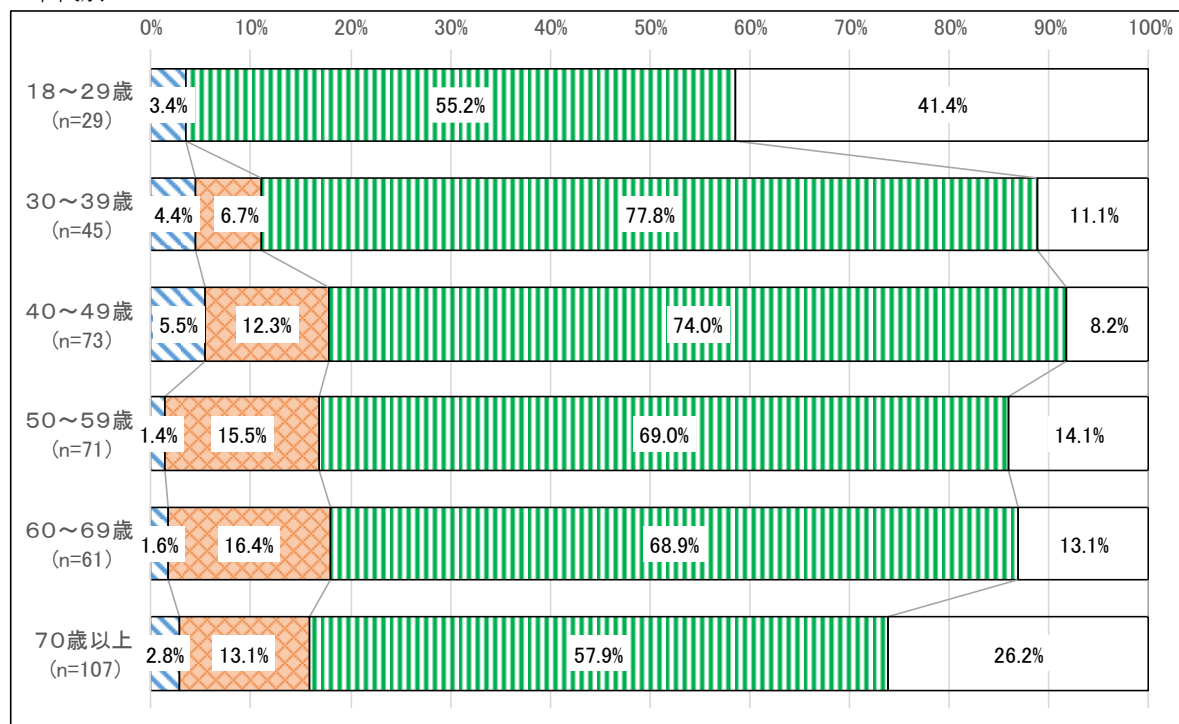
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■サ 大声でどなった

■性別



■年代別

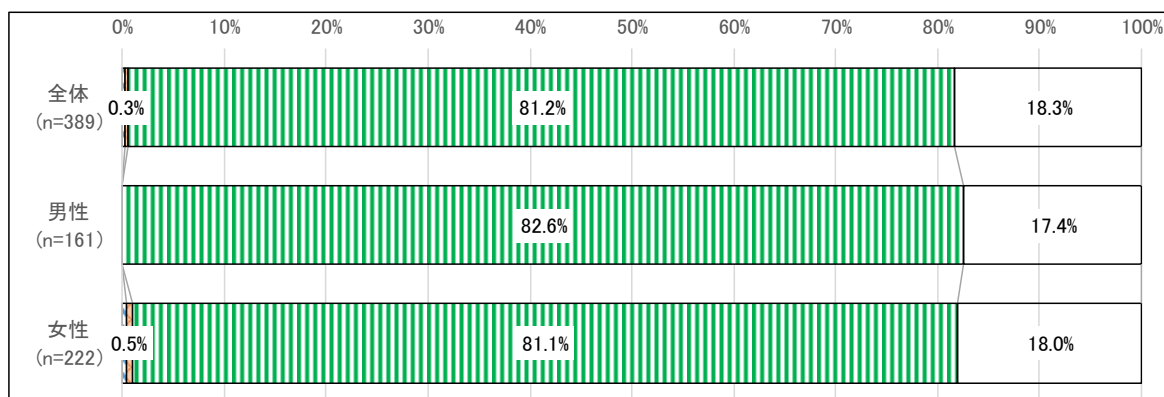


< 凡例 >

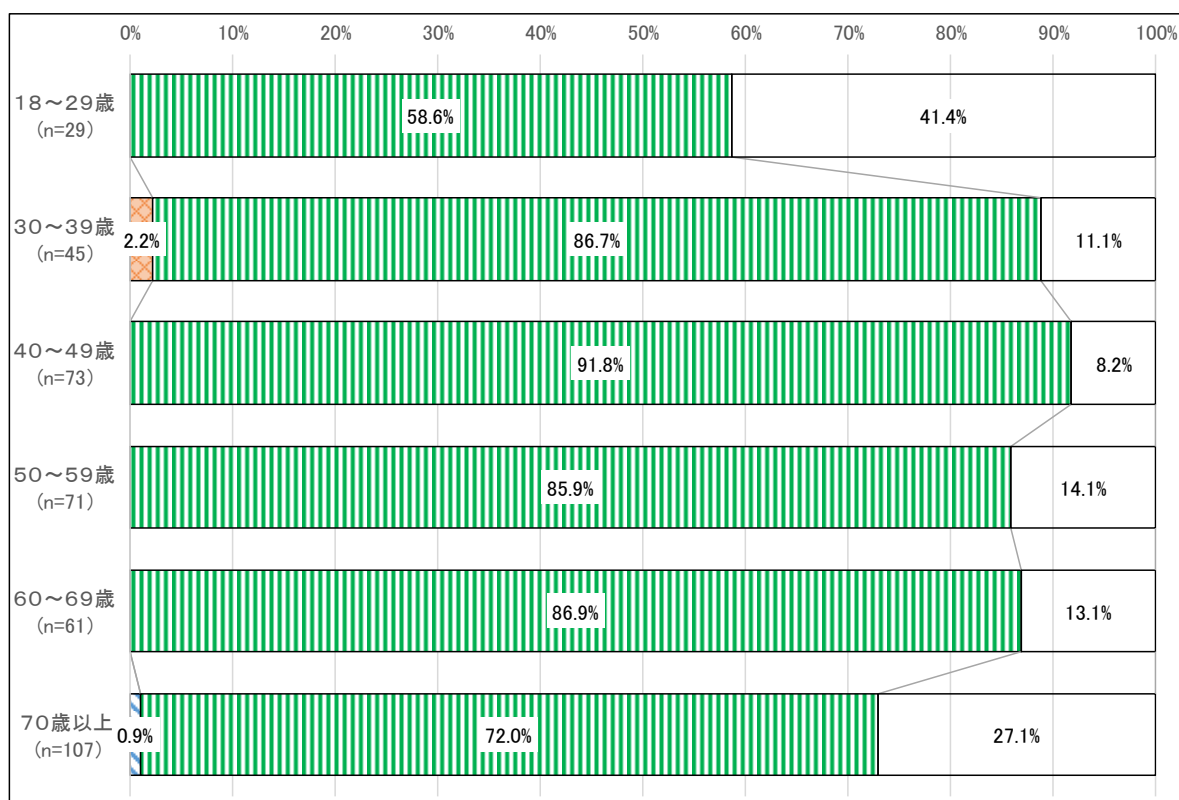
-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

■シ おどしや暴力によって、パートナーの意に反して性的な行為を強要した

■性別



■年代別



< 凡例 >

-  何度もやったことがある
-  1、2度やったことがある
-  まったくない
-  無回答

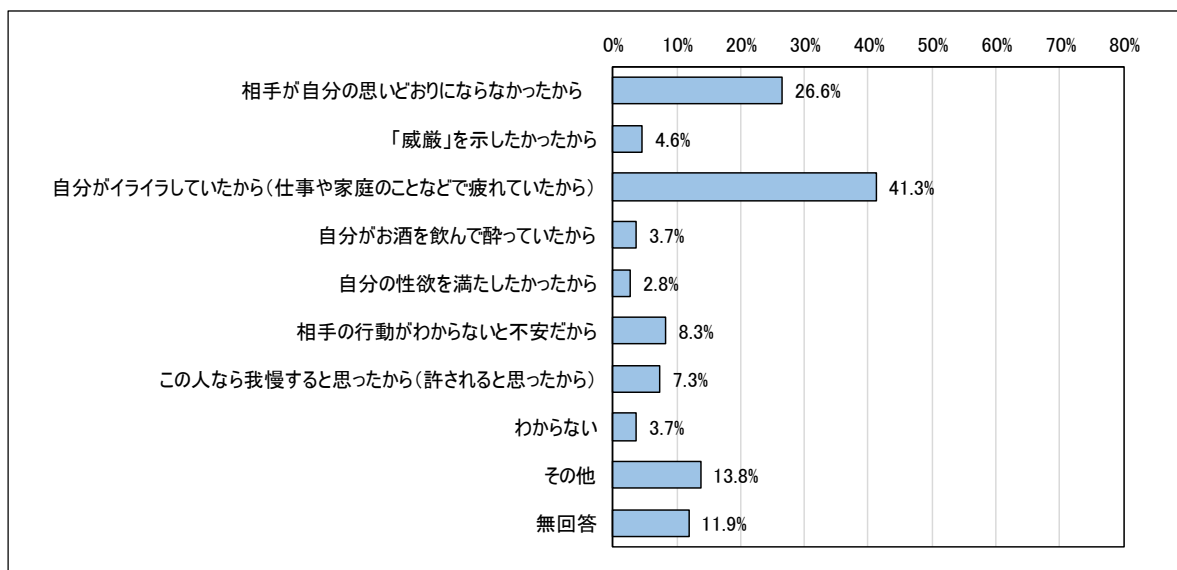
問25－１－ア 問25で「何度もやったことがある」または「1、2度やったことがある」と答えた方のみにお聞きします。

そのような行為をしたのはどうしてですか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 相手が自分の思いどおりにならなかったから
2. 「威厳」を示したかったから
3. 自分がイライラしていたから（仕事や家庭のことなどで疲れていたから）
4. 自分がお酒を飲んで酔っていたから
5. 自分の性欲を満たしたかったから
6. 相手の行動がわからないと不安だから
7. この人なら我慢すると思ったから（許されると思った）
8. わからない
9. その他

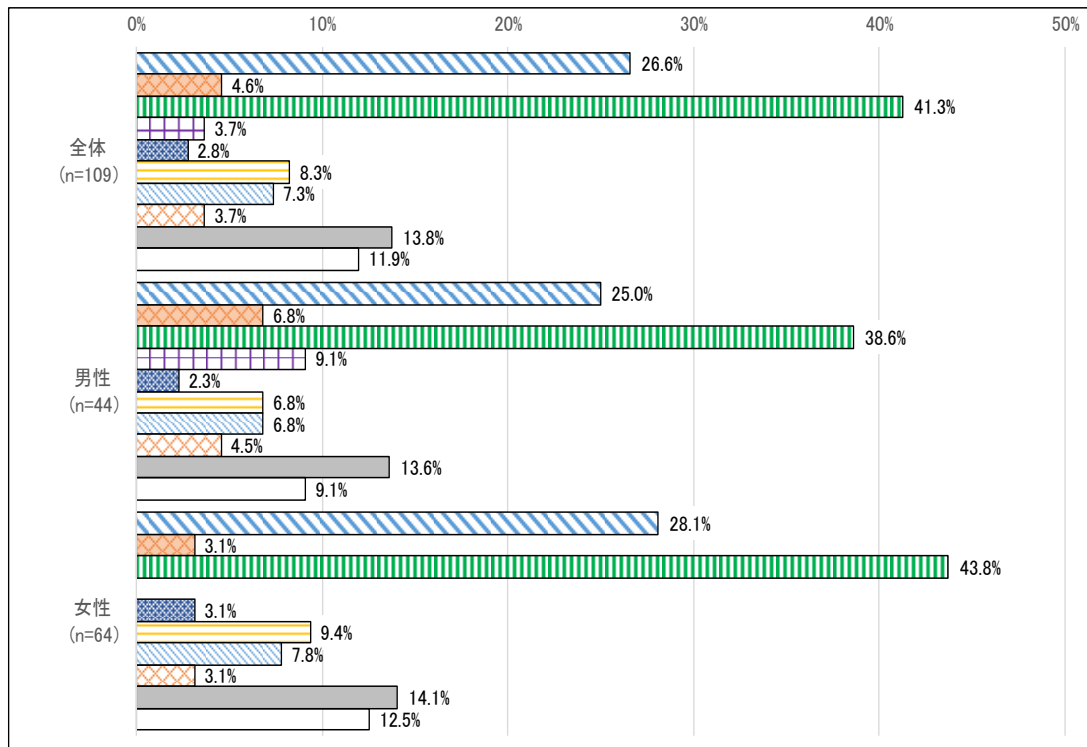
DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する行為をした理由については、「自分がイライラしていたから（仕事や家庭のことなどで疲れていたから）」が最も割合が高く 41.3%、次いで「相手が自分の思いどおりにならなかったから」が 26.6%となっています。

「自分がイライラしていたから（仕事や家庭のことなどで疲れていたから）」の割合を性別で見ると、男性が 38.6%、女性が 43.8%となっており、女性の割合が高い傾向にあります。



(n=109)

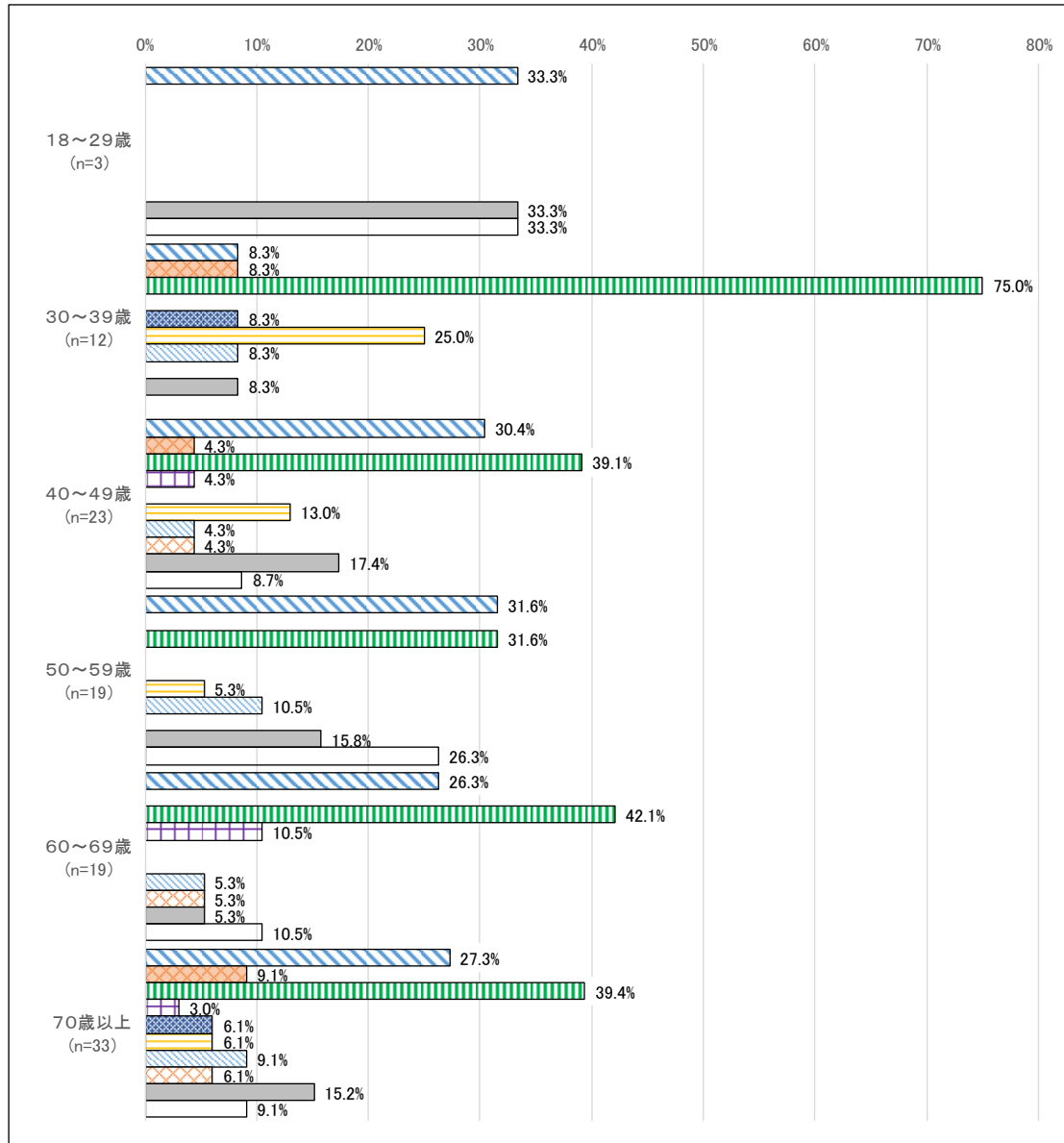
■性別



< 凡例 >

- 相手が自分の思いどおりにならなかったから
- 「威厳」を示したかったから
- 自分がイライラしていたから(仕事や家庭のことなどで疲れていたから)
- 自分がお酒を飲んで酔っていたから
- 自分の性欲を満たしたかったから
- 相手の行動がわからないと不安だから
- この人なら我慢すると思ったから(許されると思ったから)
- わからない
- その他
- 無回答

■年代別



< 凡例 >

- 相手が自分の思いどおりにならなかったから
- 「威厳」を示したかったから
- 自分がイライラしていたから(仕事や家庭のことなどで疲れていたから)
- 自分がお酒を飲んで酔っていたから
- 自分の性欲を満たしたかったから
- 相手の行動がわからないと不安だから
- この人なら我慢すると思ったから(許されると思ったから)
- わからない
- その他
- 無回答

問25-1-イ あなたはこれまでに、パートナーに行った行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

(相談の有無)

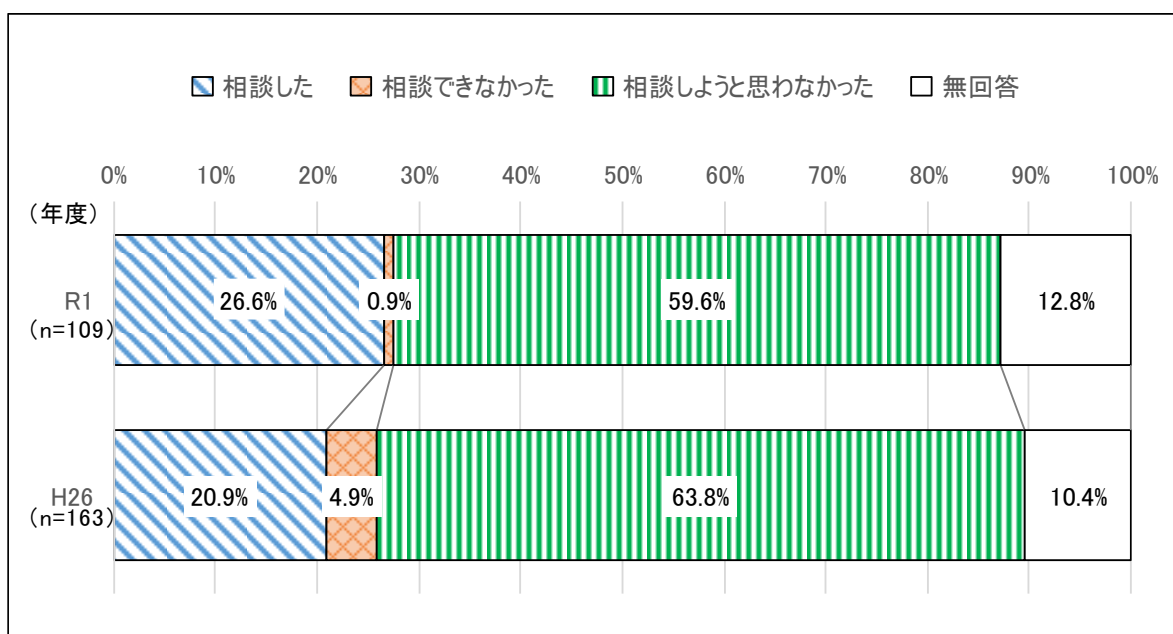
1. 相談した →

- 1. 相談した
- 2. 相談できなかった
- 3. 相談しようと思わなかった

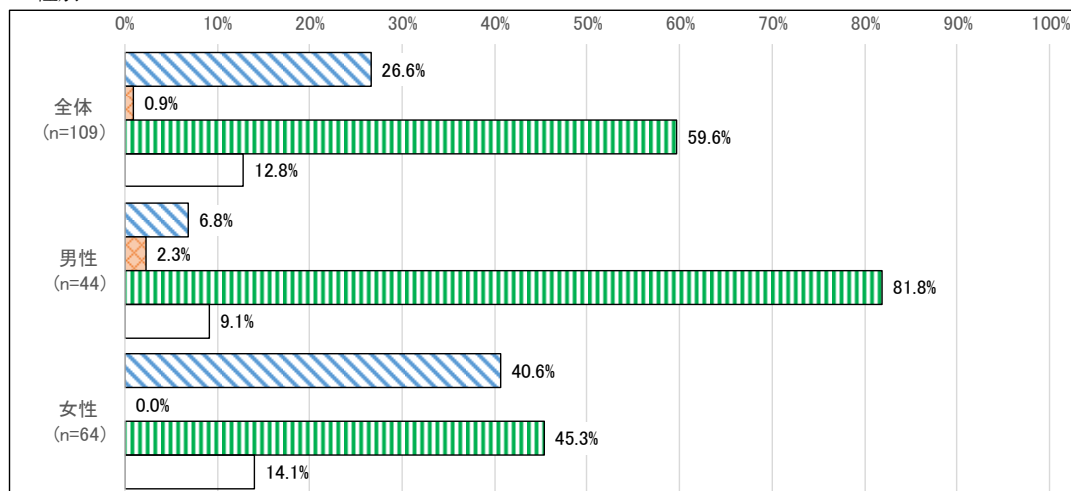
パートナーへの行為についての相談の有無については、「相談しようと思わなかった」が最も割合が高く 59.6%、次いで「相談した」が 26.6%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「相談した」割合は高くなっています。

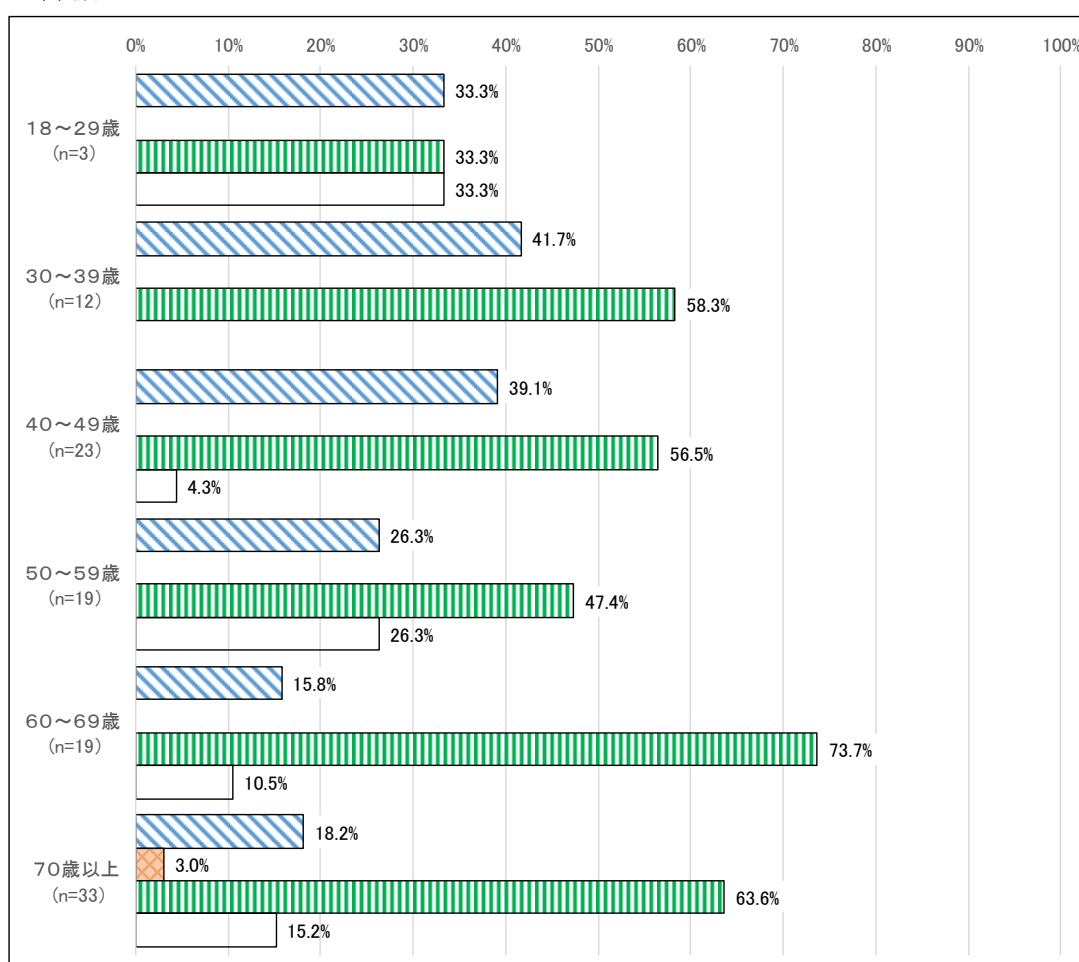
「相談した」の割合を性別で見ると、男性が 6.8%、女性は 40.6%となっています。また、「相談しようと思わなかった」の割合を性別で見ると、男性が 81.8%、女性は 45.3%となっており、男女で差があります。



■性別



■年代別



< 凡例 >



相談した



相談できなかった



相談しようと思わなかった



無回答

問25-1-イ あなたはこれまでに、パートナーに行った行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

(相談相手)

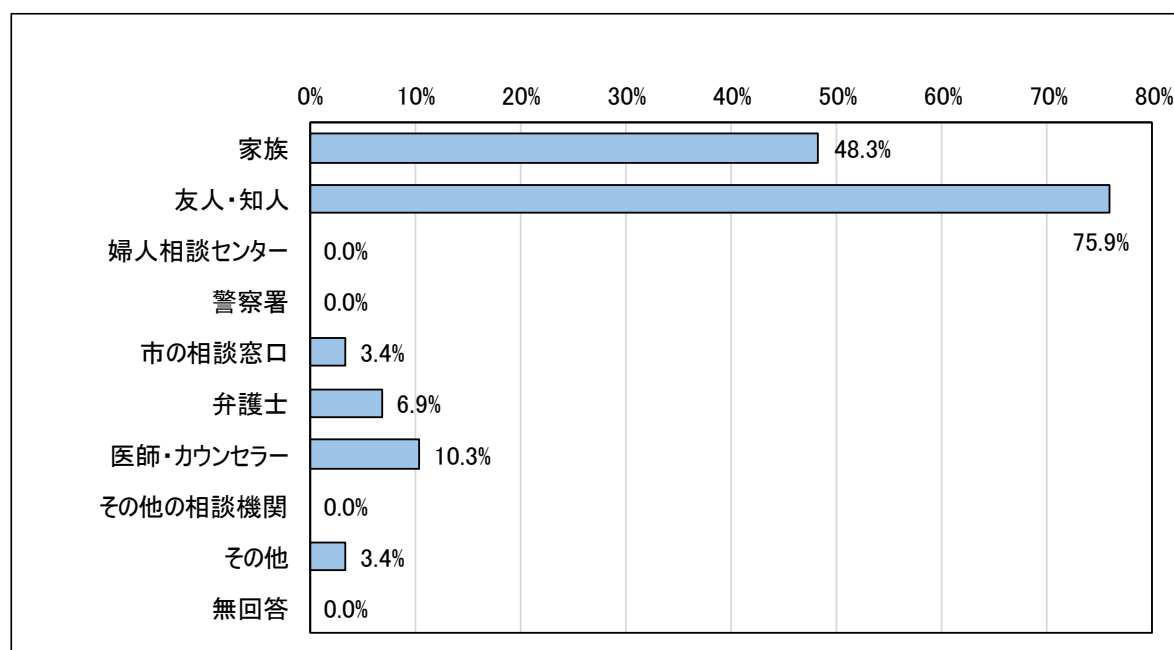
1. 相談した →

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 家族 | 6. 弁護士 |
| 2. 友人・知人 | 7. 医師・カウンセラー |
| 3. 婦人相談センター | 8. その他の相談機関 |
| 4. 警察署 | 9. その他 |
| 5. 市の相談窓口 | |

パートナーへの行為に関する相談相手については、「友人・知人」が最も割合が高く 75.9%となっています。

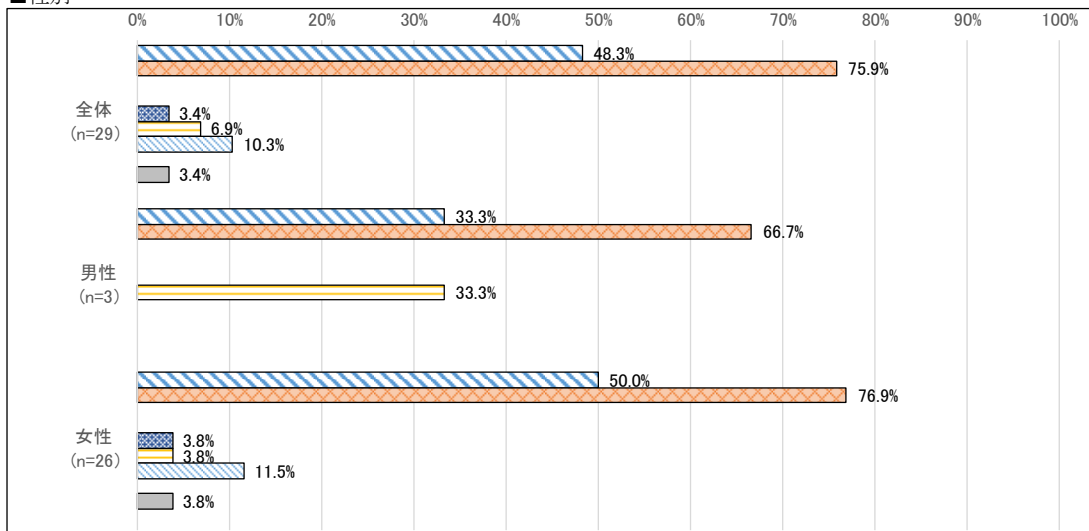
性別で見ると、男女ともに「友人・知人」が最も高くなっています。

※回答者数は29名であり、基数が不足しているため参考扱いとする。

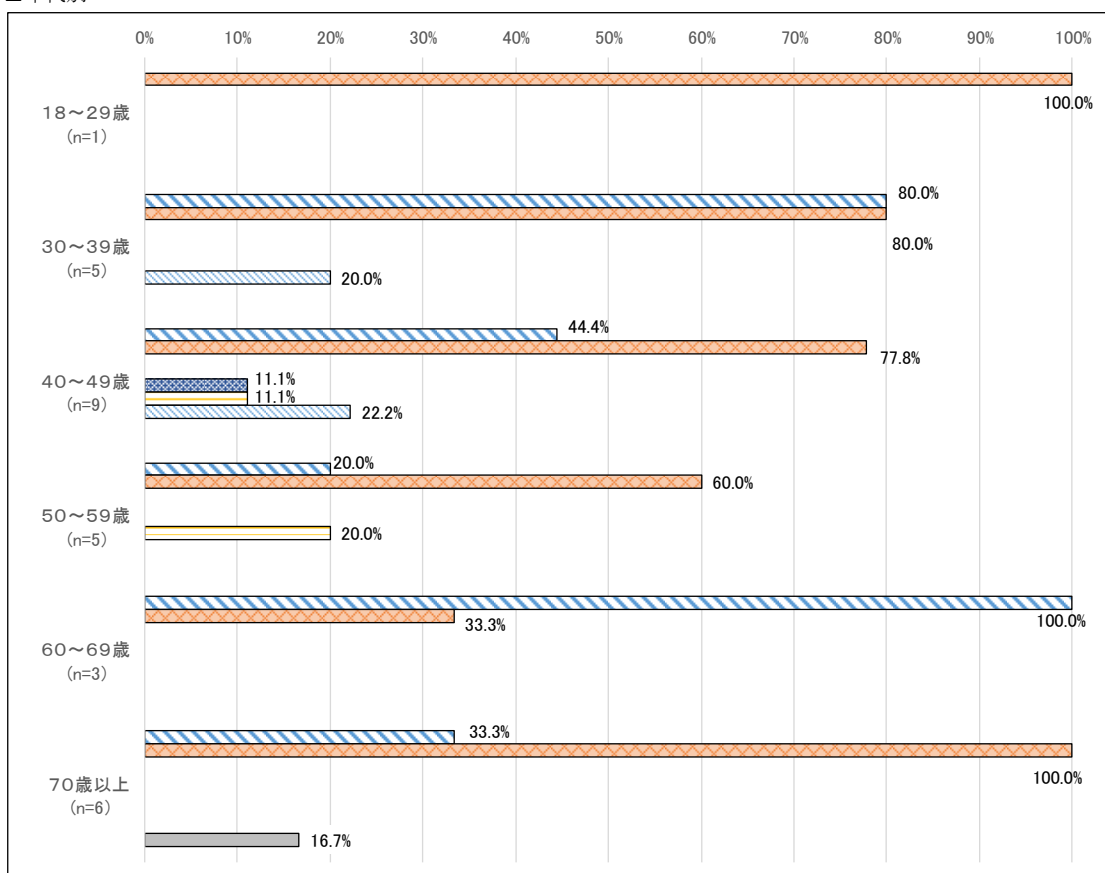


(n=29)

■性別



■年代別



< 凡例 >



問26 「志木市配偶者暴力相談支援センター」をご存じですか。また、どのようにして知りましたか。
次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

(認知状況)

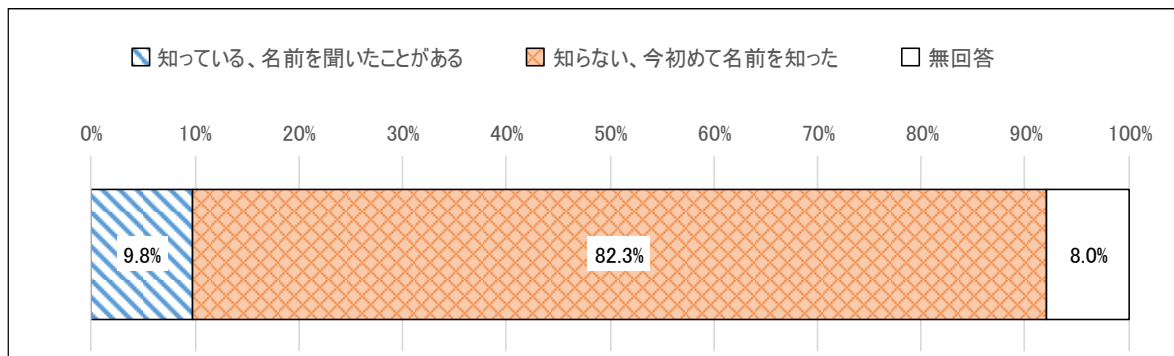
1. 知っている、名前を聞いたことがある
2. 知らない、今初めて名前を知った

(認知経路)

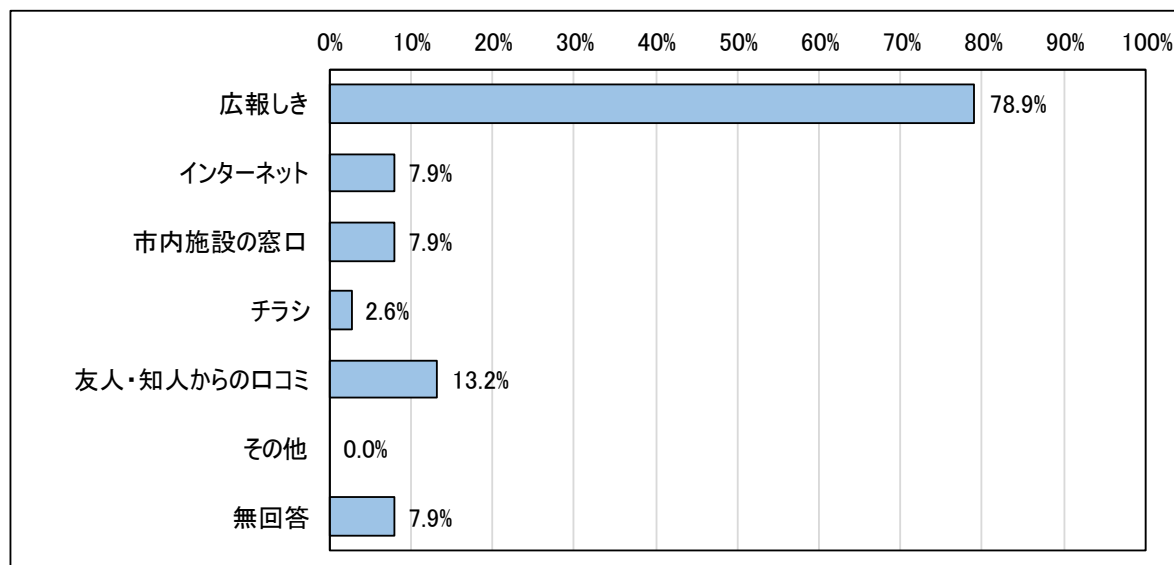
- | | |
|------------|----------------|
| 1. 広報しき | 4. チラシ |
| 2. インターネット | 5. 友人・知人からの口コミ |
| 3. 市内施設の窓口 | 6. その他 |

「志木市配偶者暴力相談支援センター」の認識については、「知らない、今初めて名前を知った」が最も割合が高く 82.3%となっています。

「志木市配偶者暴力相談支援センター」の認知経路については、「広報しき」が最も割合が高く 78.9%となっています。

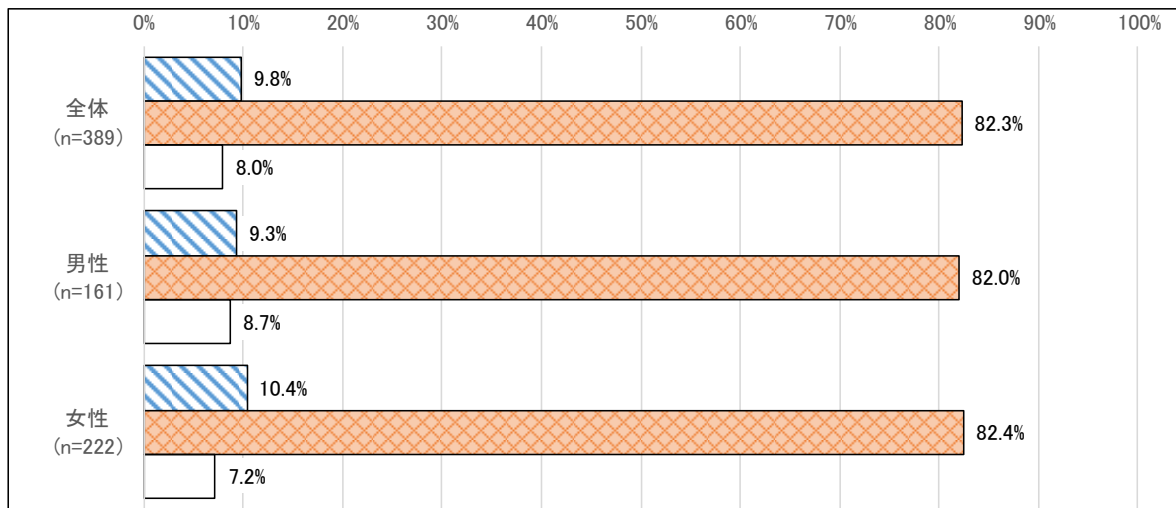


(n=389)

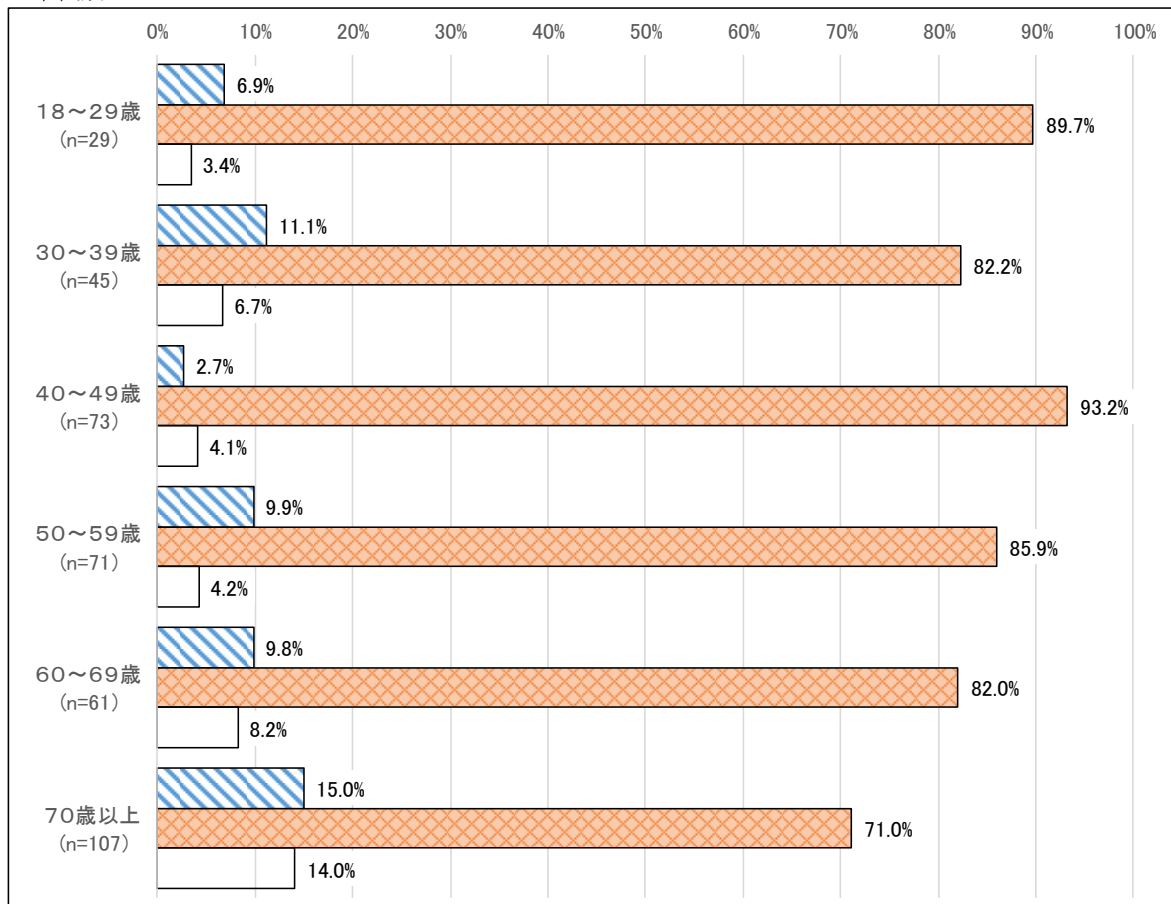


(n=38)

■性別



■年代別



< 凡例 >

 知っている、名前を聞いたことがある

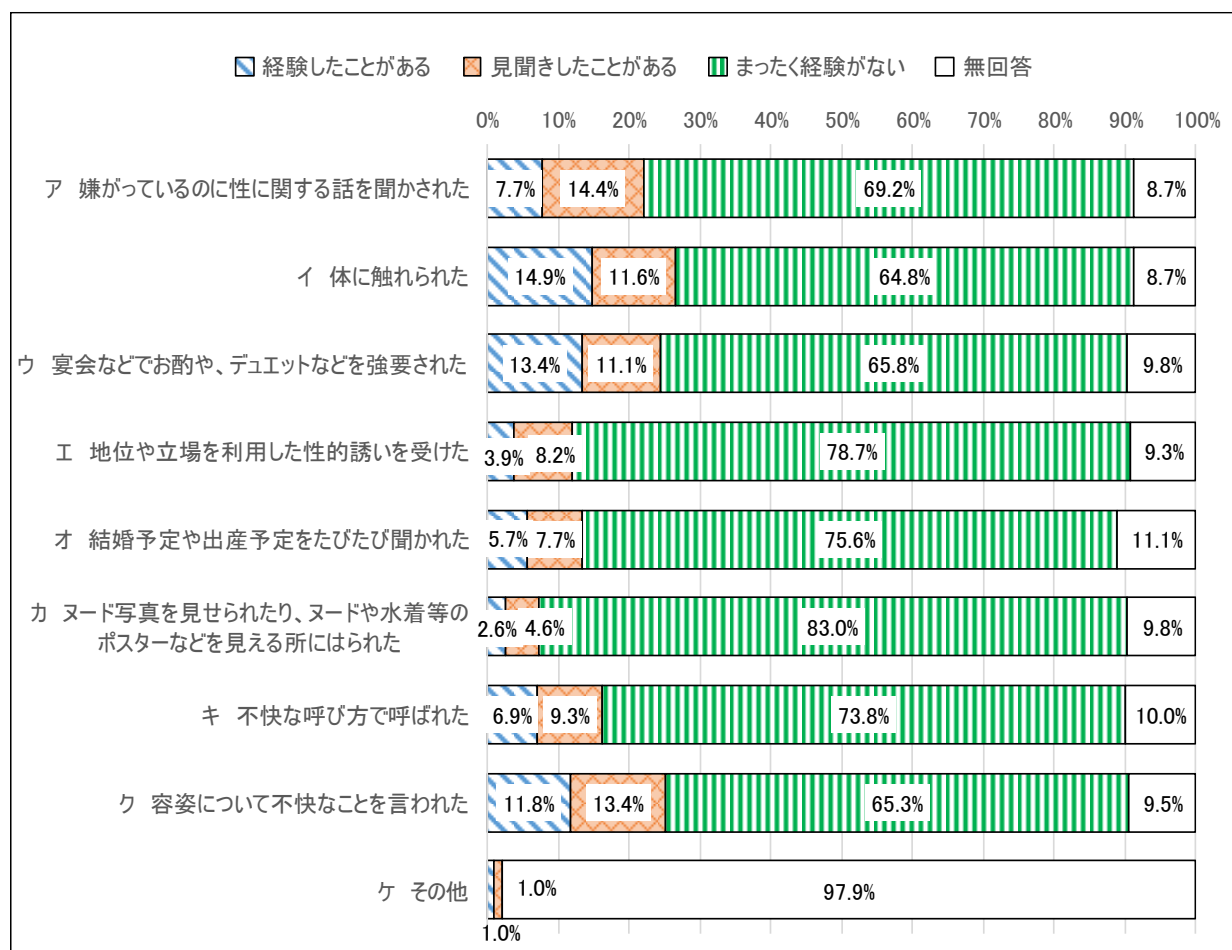
 知らない、今初めて名前を知った

 無回答

(10) セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について

問27 あなたはこれまでに、職場や学校などでセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)を受けたり、見聞きしたことがありますか。次のア～ケの各項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

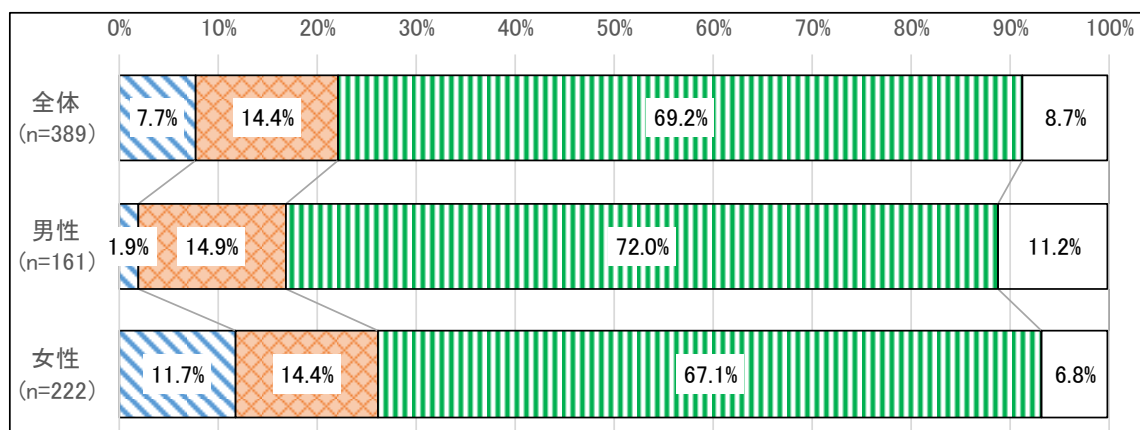
職場や学校などでのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について、「経験したことがある」は、「体に触れられた」が最も割合が高く 14.9%、次いで「宴会などでお酌や、デュエットなどを強要された」が 13.4%となっています。



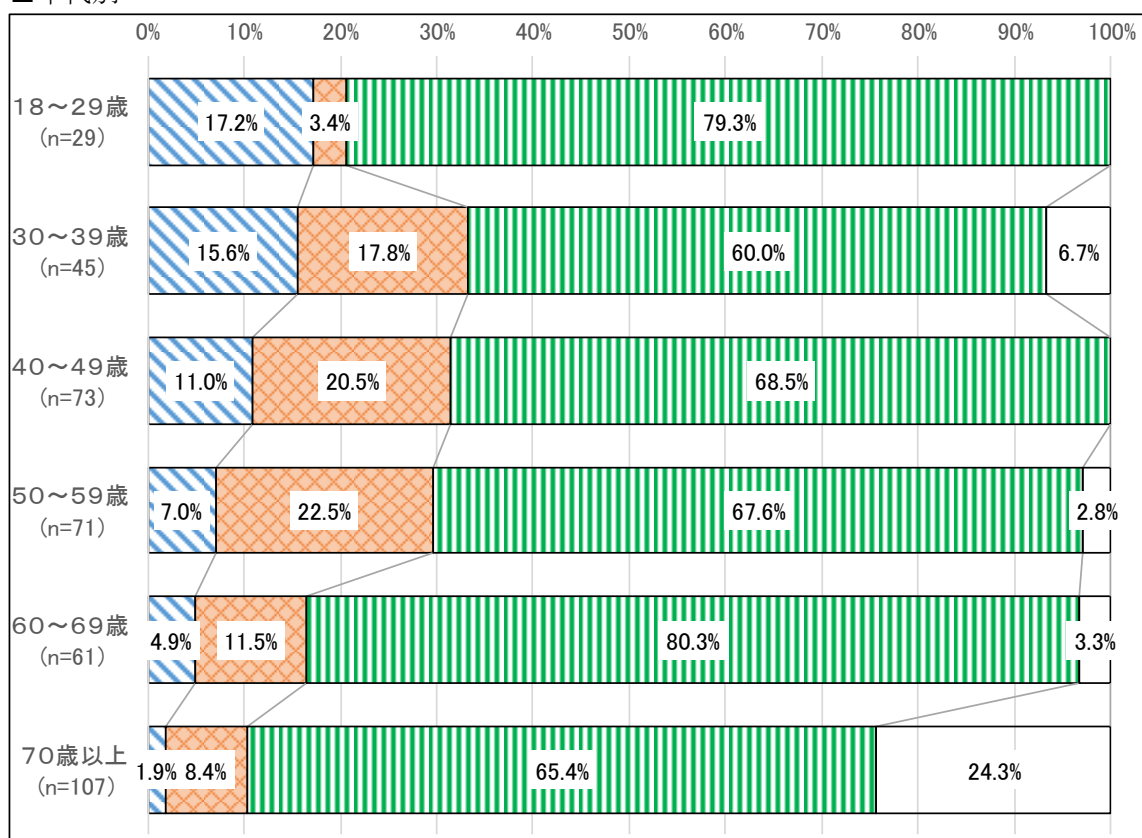
(n=389)

ア 嫌がっているのに性に関する話を聞かされた

■ 性別



■ 年代別

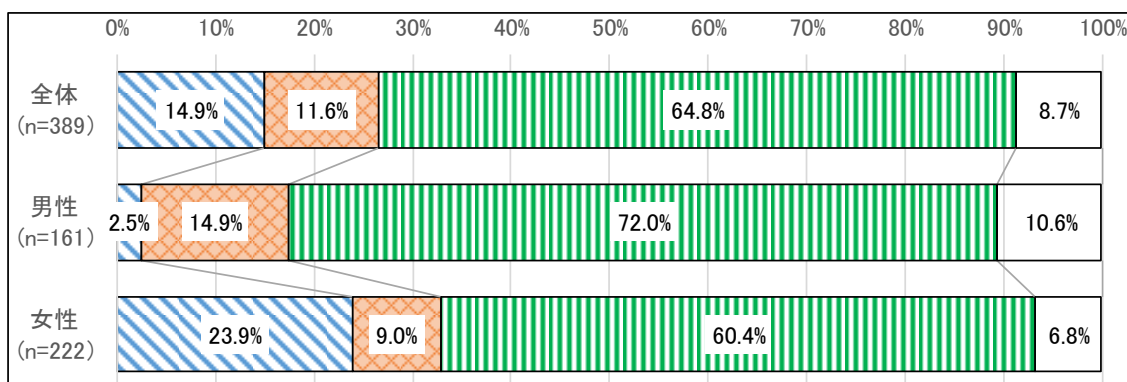


< 凡例 >

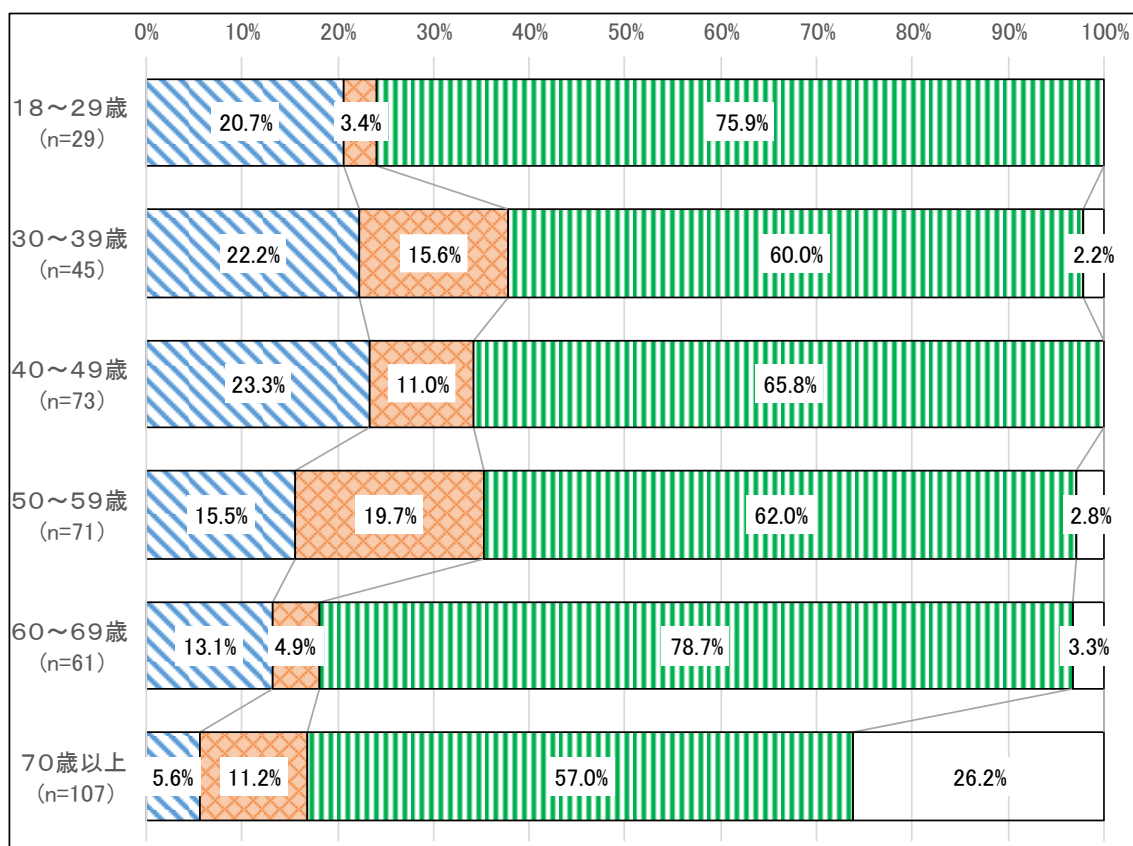
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

イ 体に触れられた

■ 性別



■ 年代別

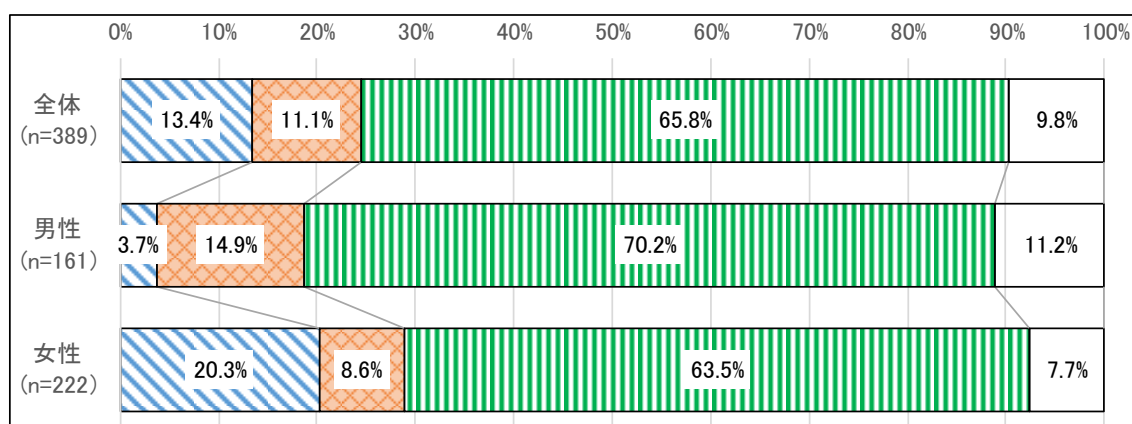


< 凡例 >

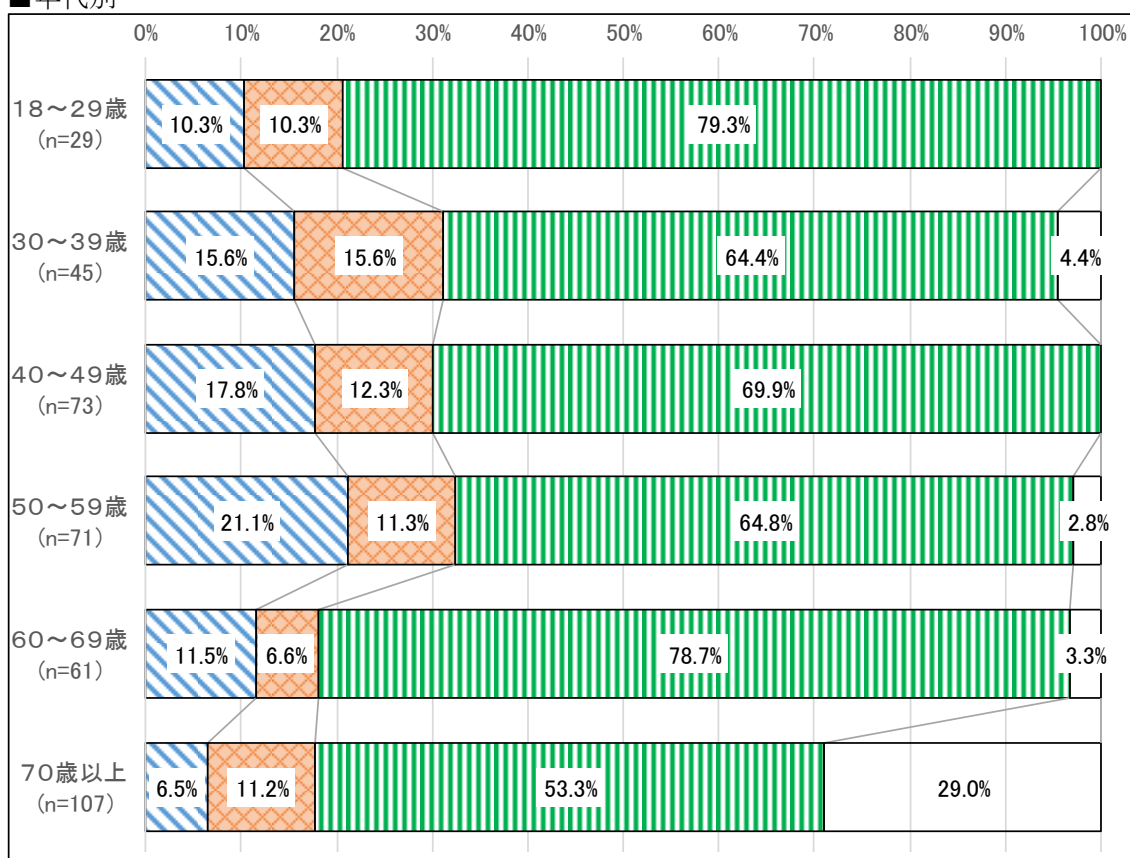
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

ウ 宴会などでお酌やデュエットなどを強要された

■性別



■年代別

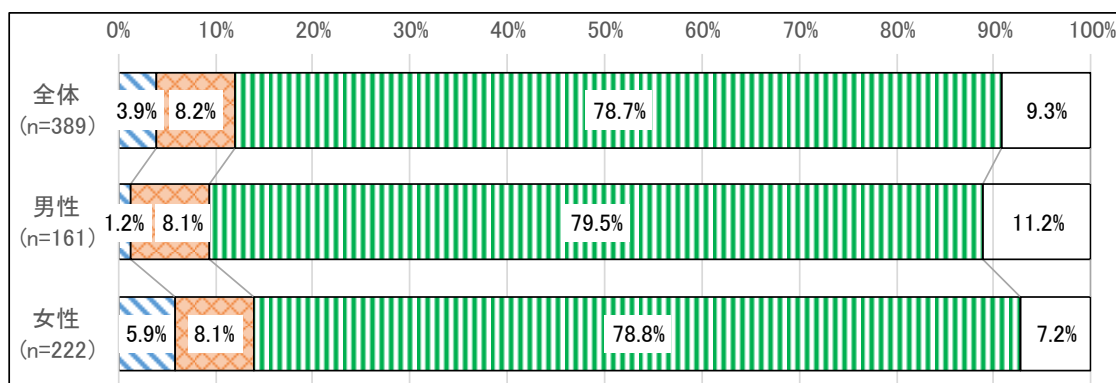


< 凡例 >

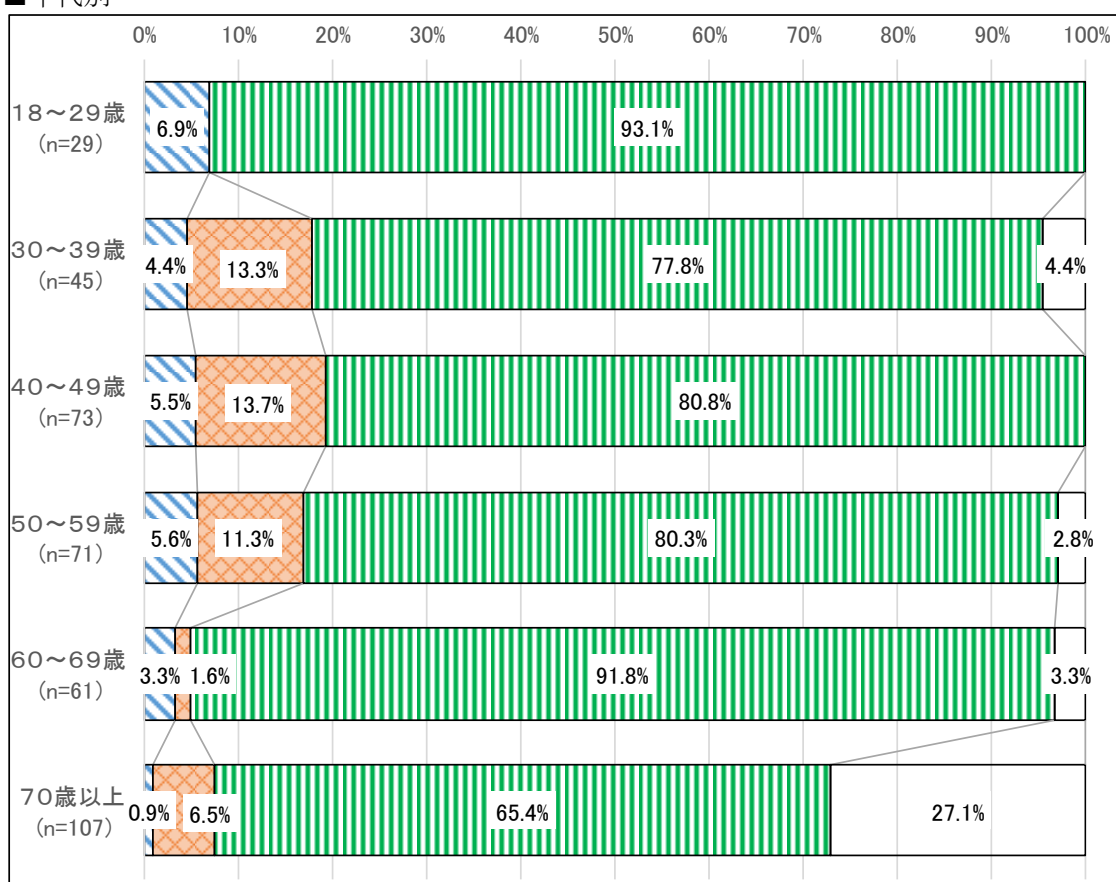
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

エ 地位や立場を利用した性的誘いを受けた

■性別



■年代別

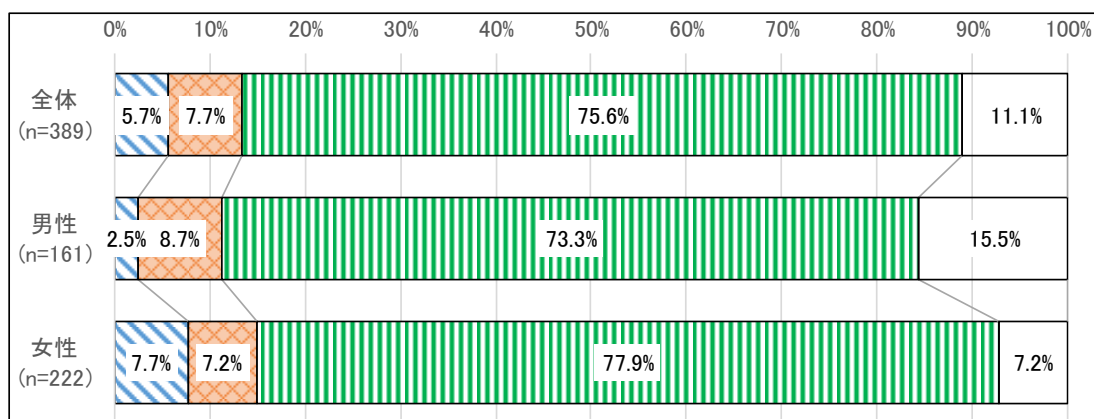


< 凡例 >

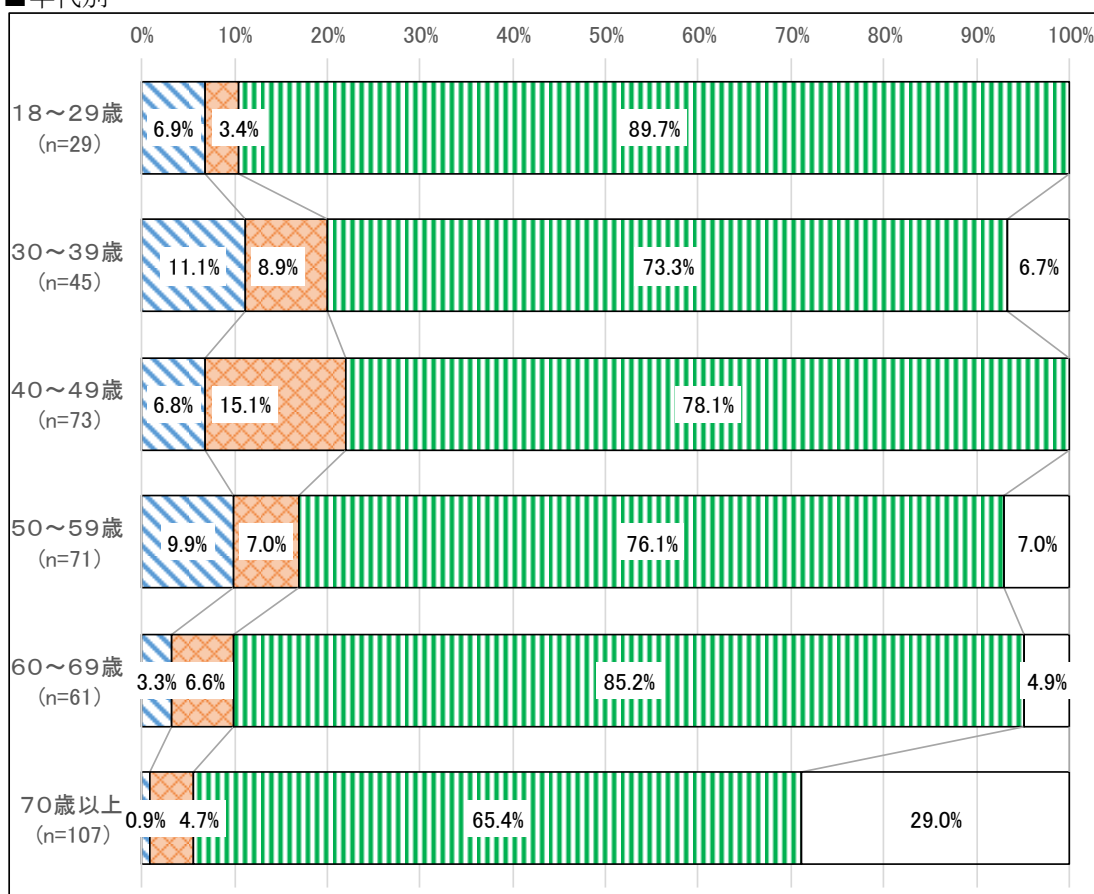
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

オ 結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた

■性別



■年代別

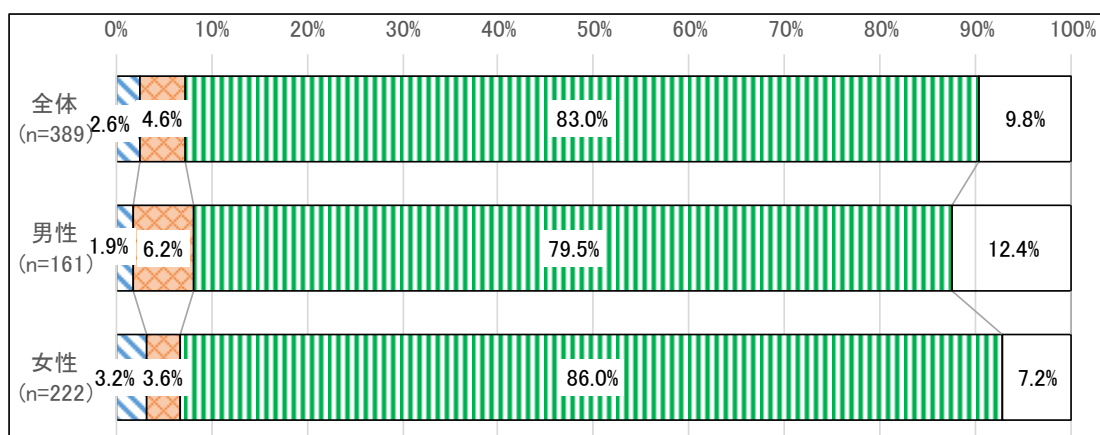


< 凡例 >

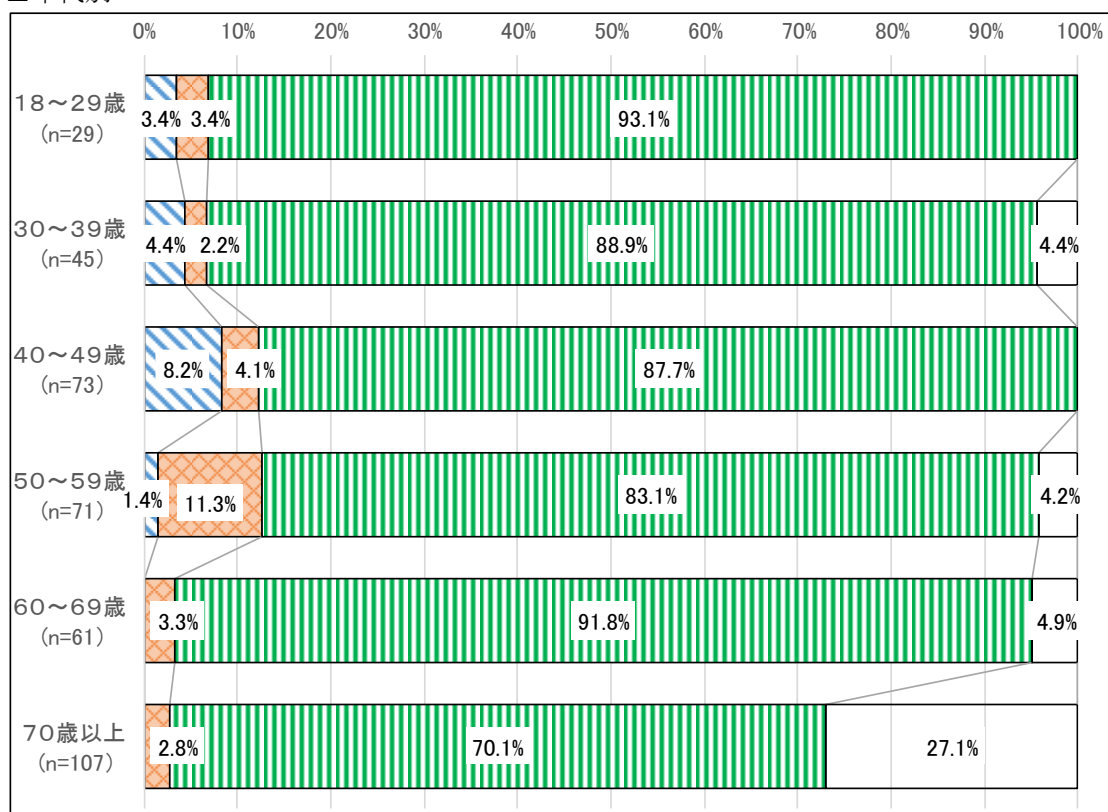
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

カ ノード写真を見せたり、ノードや水着のポスターなどを見える所にはられた

■性別



■年代別

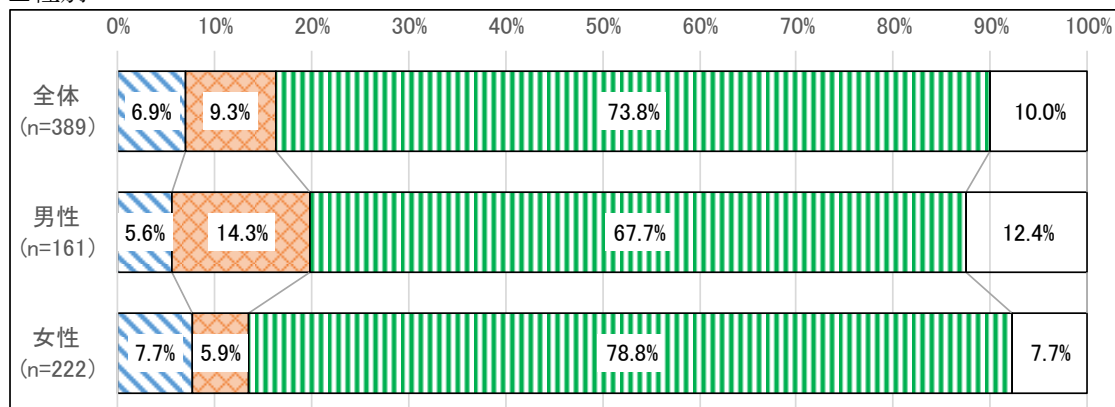


< 凡例 >

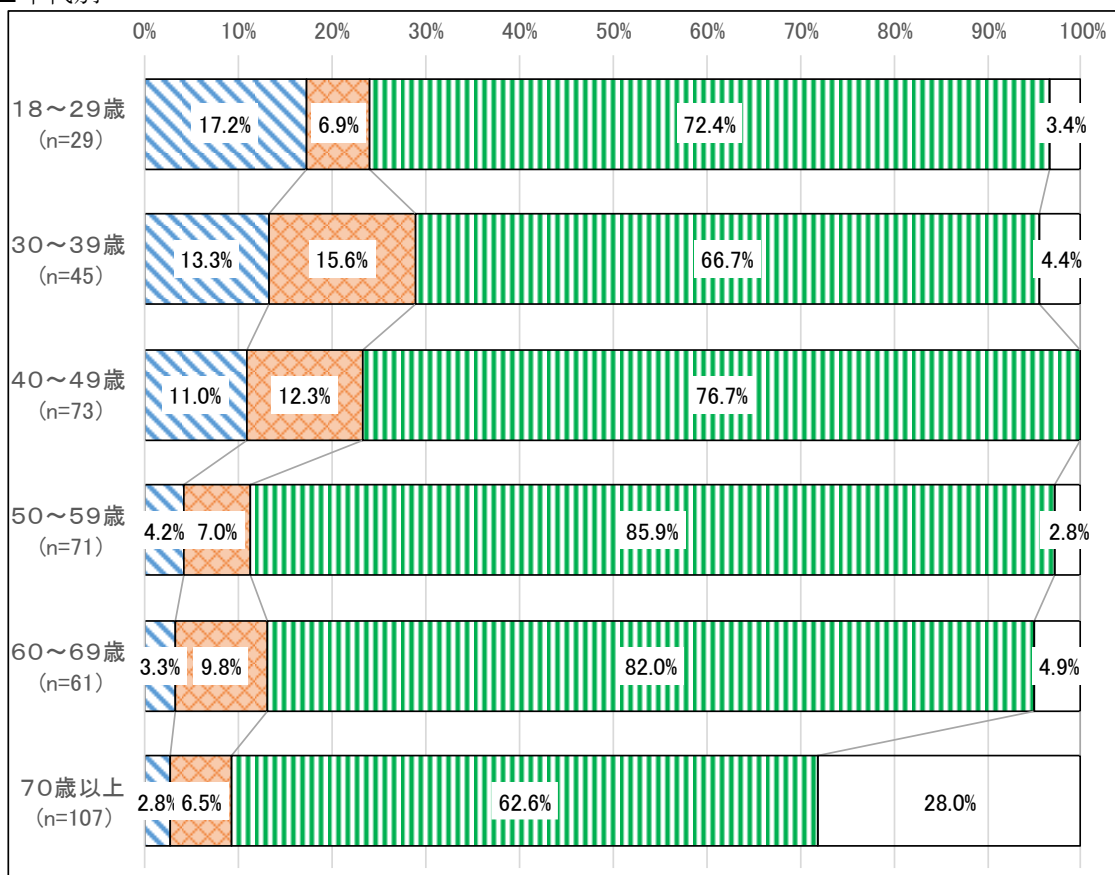
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

キ 不快な呼び方で呼ばれた

■性別



■年代別

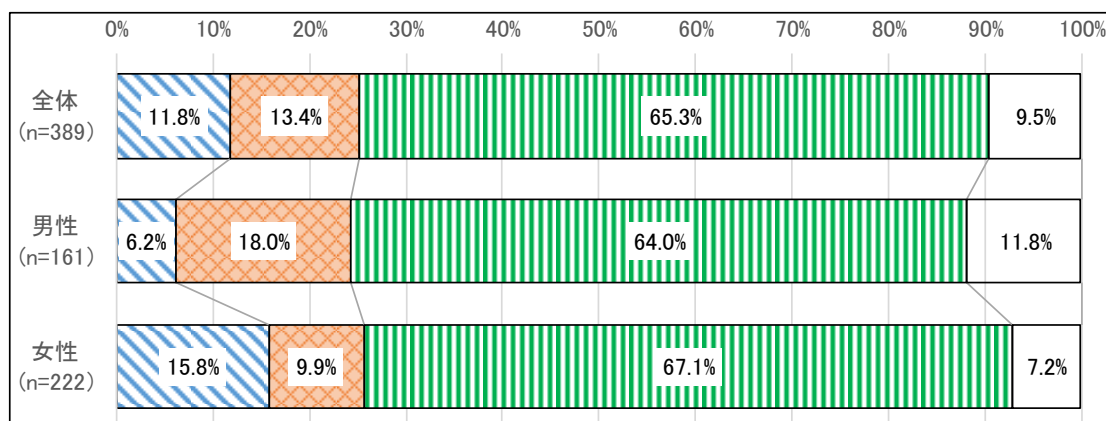


< 凡例 >

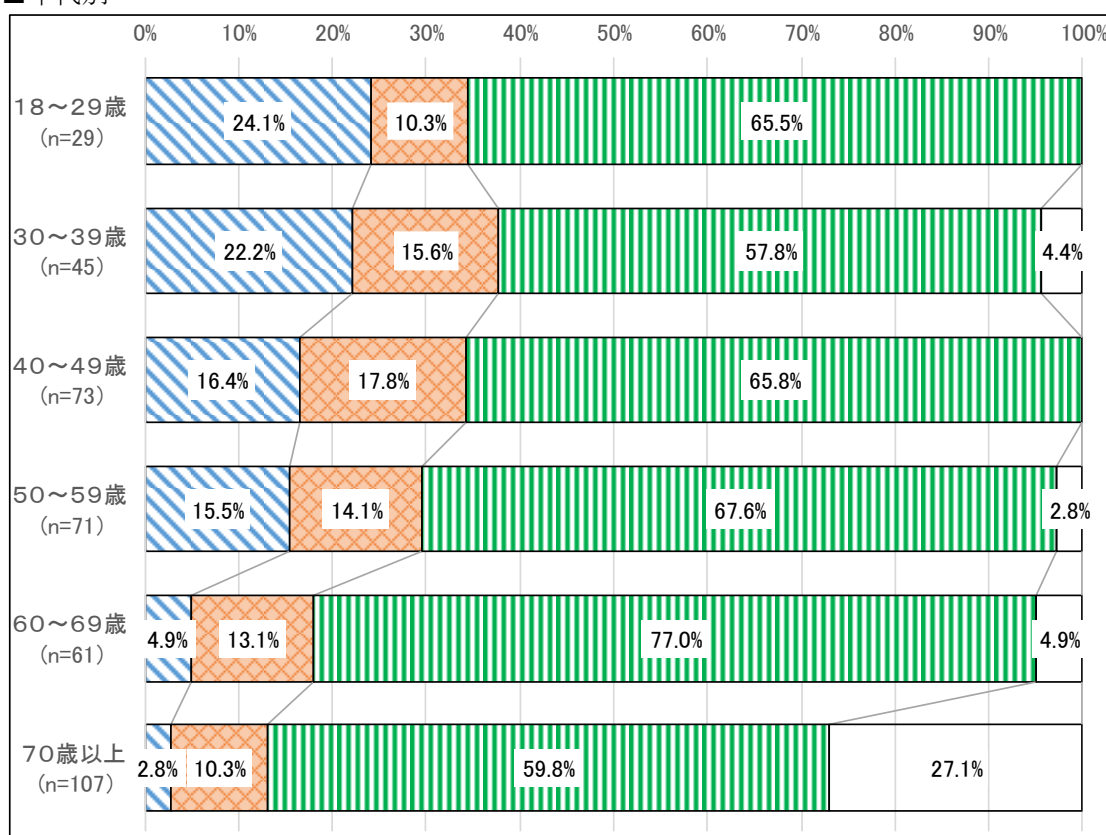
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

ク 容姿について不快なことを言われた

■ 性別



■ 年代別

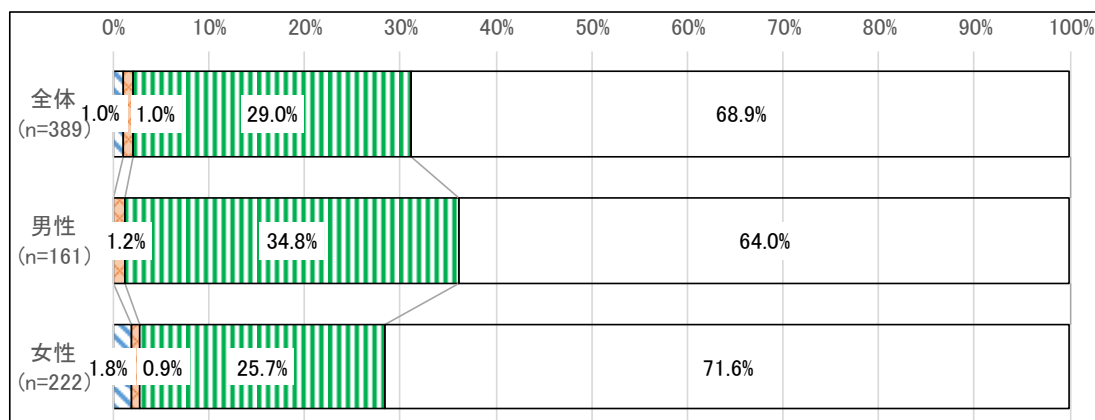


< 凡例 >

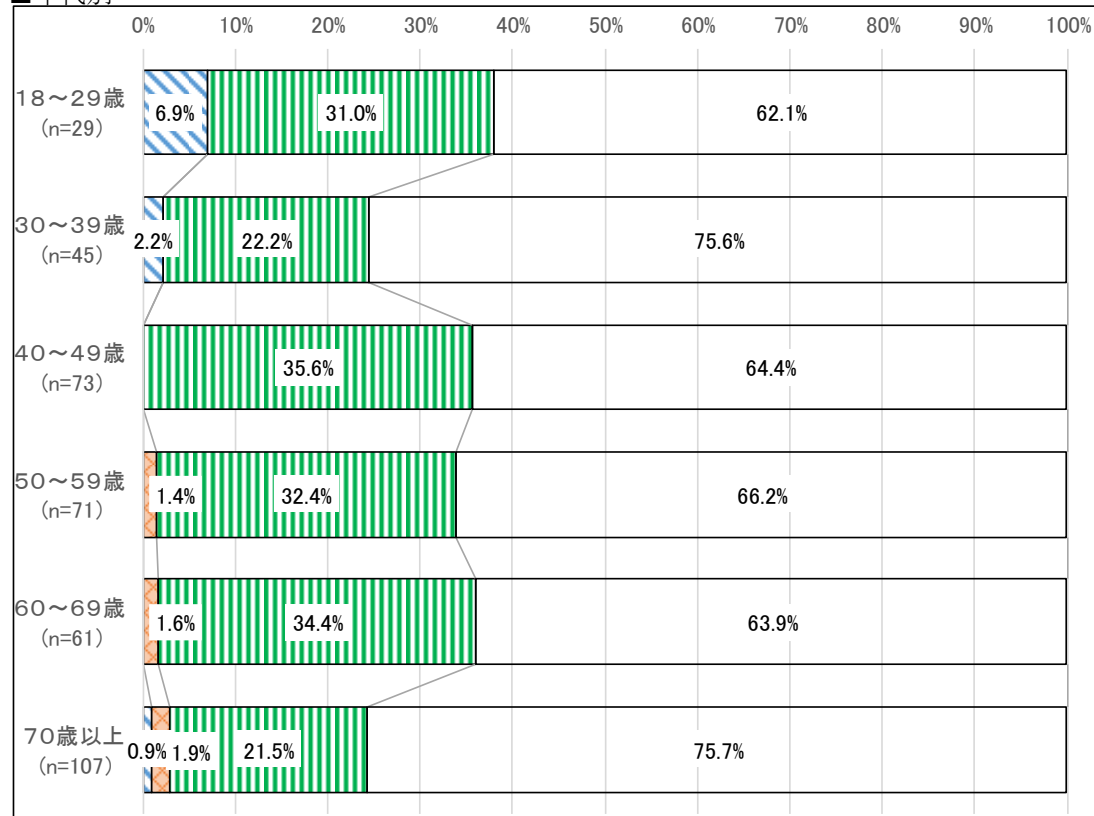
-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

ケ その他

■性別



■年代別



< 凡例 >

-  経験したことがある
-  見聞きしたことがある
-  まったく経験がない
-  無回答

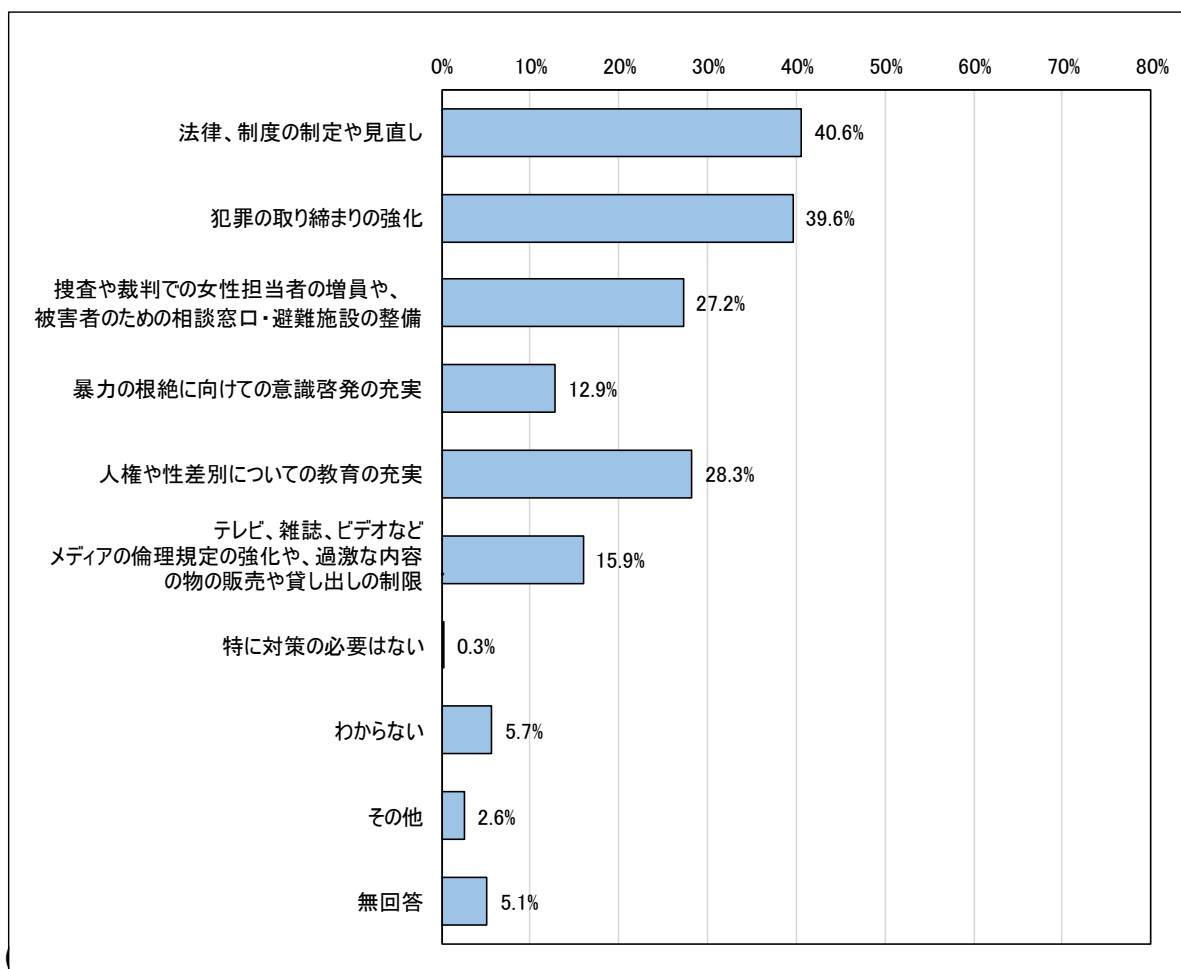
(1 1) 人権について

問28 性犯罪やDV(ドメスティック・バイオレンス)、セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)など、人権を無視した行為をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から、すぐに講じてほしいと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

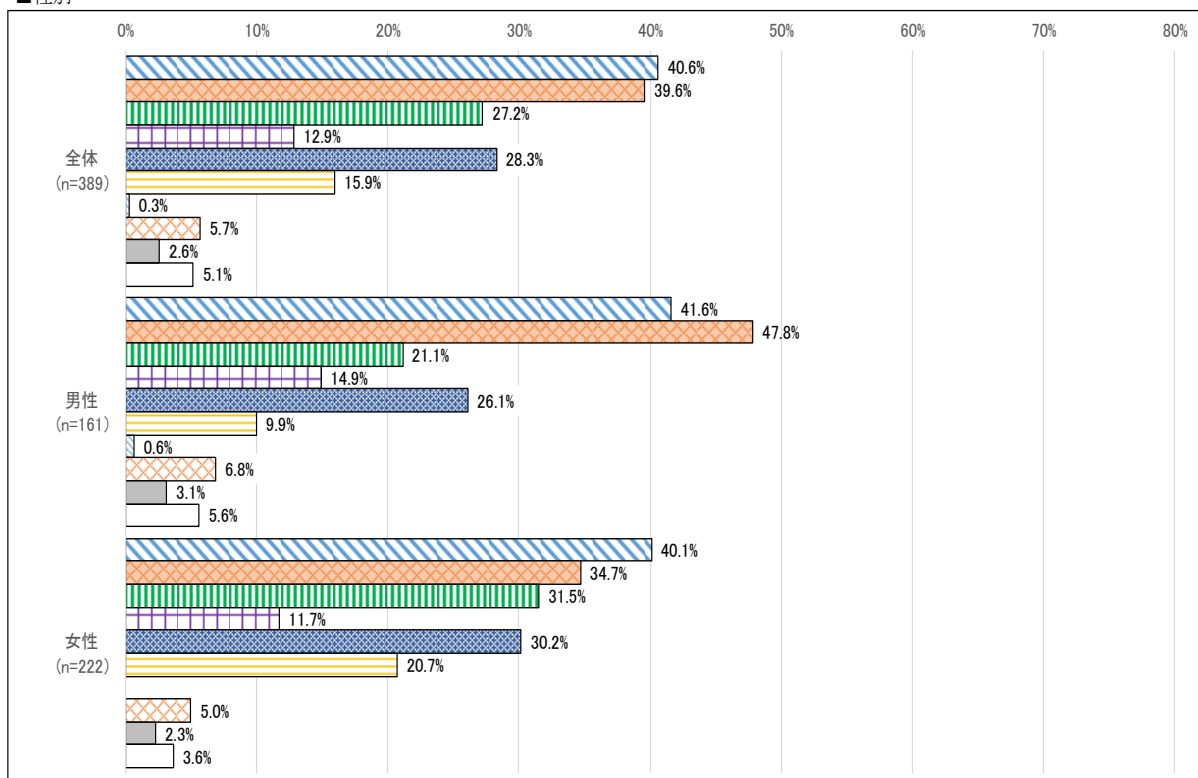
1. 法律、制度の制定や見直し
2. 犯罪の取り締まりの強化
3. 捜査や裁判での女性担当者の増員や、被害者のための相談窓口・避難施設の整備
4. 暴力の根絶に向けての意識啓発の充実
5. 人権や性差別についての教育の充実
6. テレビ、雑誌、ビデオなどメディアの倫理規定の強化や、過激な内容の物の販売や貸し出しの制限
7. 特に対策の必要はない
8. わからない
9. その他

性犯罪やDV等の行為をなくすために必要なことについては、「法律、制度の制定や見直し」が最も割合が高く 40.6%、次いで「犯罪の取り締まりの強化」が 39.6%となっています。

性別では、男性は「犯罪の取り締まりの強化」が 47.8%と最も高く、女性は「法律、制度の制定や見直し」が 40.1%と最も高くなっており、男女で差があります。



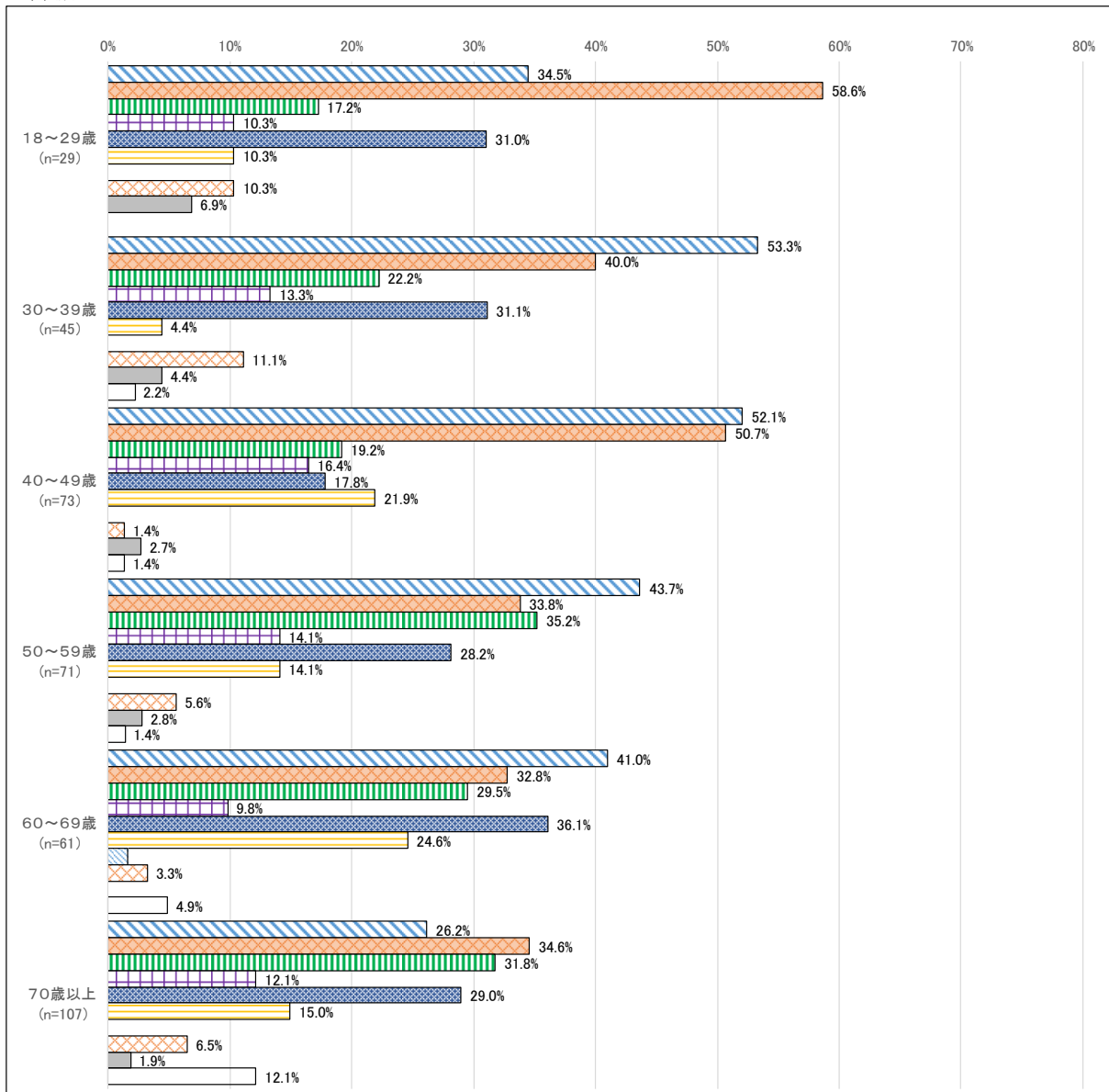
■性別



< 凡例 >

-  法律、制度の制定や見直し
-  犯罪の取り締まりの強化
-  捜査や裁判での女性担当者の増員や、被害者のための相談窓口・避難施設の整備
-  暴力の根絶に向けての意識啓発の充実
-  人権や性差別についての教育の充実
-  テレビ、雑誌、ビデオなどメディアの倫理規定の強化や、過激な内容の物の販売や貸し出しの制限
-  特に対策の必要はない
-  わからない
-  その他
-  無回答

■年代別



< 凡例 >

- 法律、制度の制定や見直し
- 犯罪の取り締まりの強化
- 捜査や裁判での女性担当者の増員や、被害者のための相談窓口・避難施設の整備
- 暴力の根絶に向けての意識啓発の充実
- 人権や性差別についての教育の充実
- テレビ、雑誌、ビデオなどメディアの倫理規定の強化や、過激な内容の物の販売や貸し出しの制限
- 特に対策の必要はない
- わからない
- その他
- 無回答

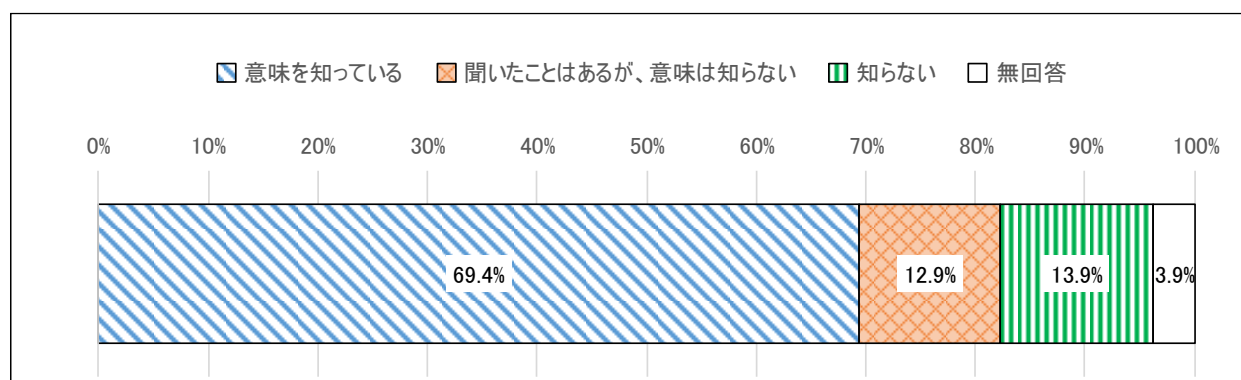
問29 あなたは「セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)」という言葉を知っていますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

1. 意味を知っている
2. 聞いたことはあるが、意味は知らない
3. 知らない

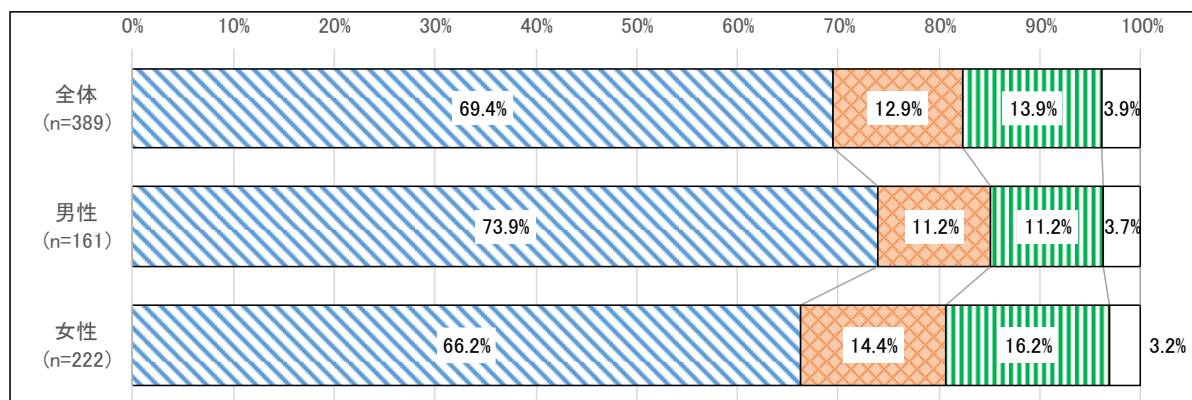
「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」という言葉の認識については、「意味を知っている」が最も割合が高く 69.4%となっています。

「意味を知っている」の割合を年代別で見ると、30～39 歳の 84.4%が最も高く、70 歳以上の 60.7%が最も低くなっています。

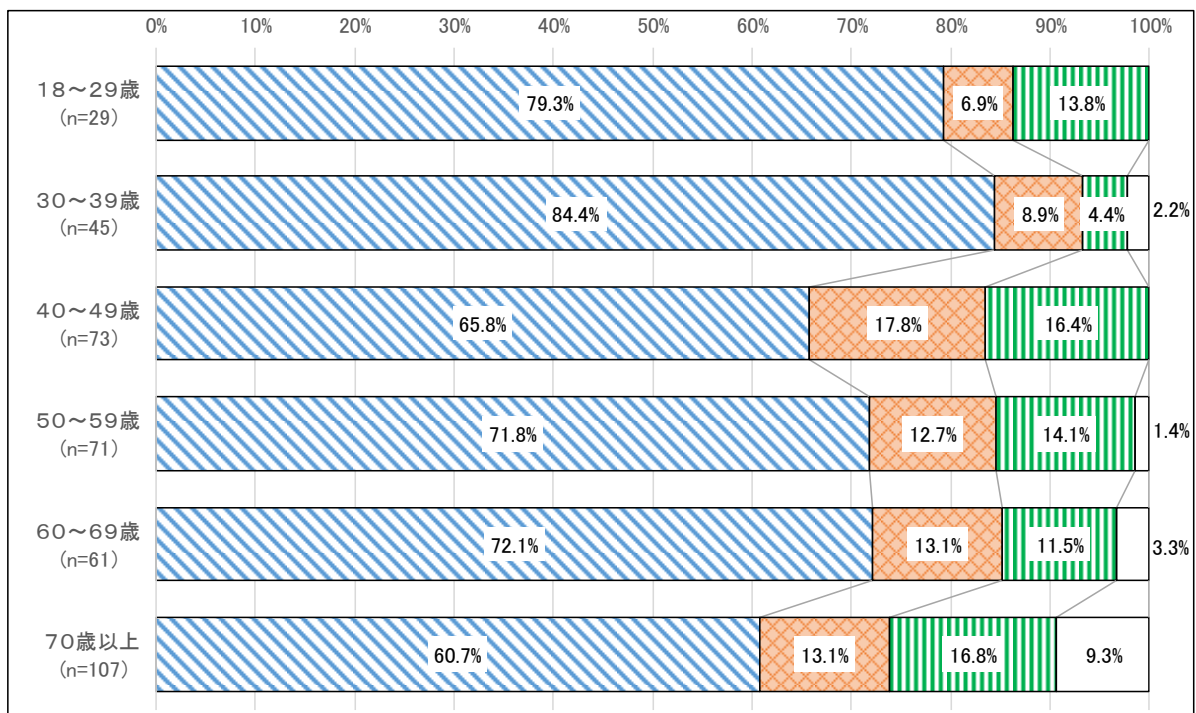


(n=389)

■性別



■年代別



< 凡例 >



意味を知っている



聞いたことはあるが、意味は知らない



知らない

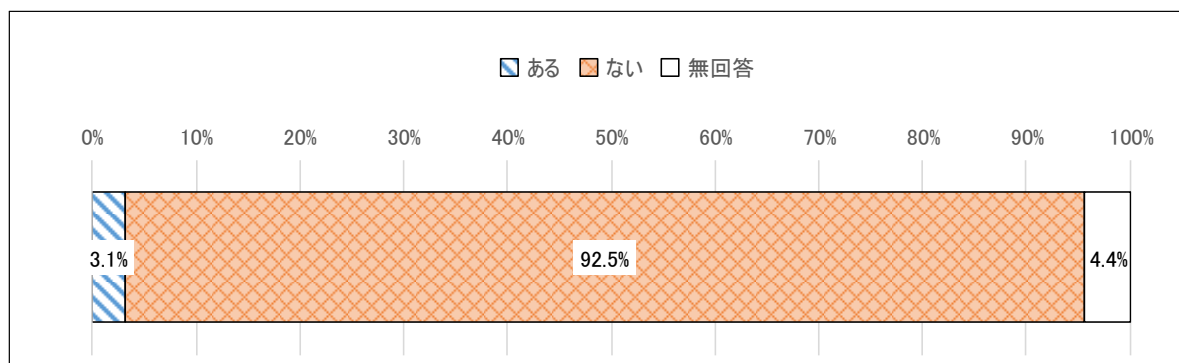


無回答

問30 あなたは今までに自分の性別や恋愛対象などについて悩んだことがありますか。

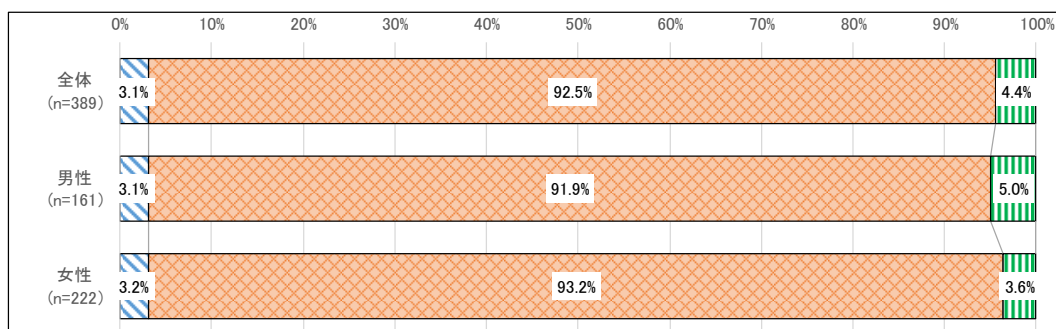
1. ある
2. ない

自分の性別や恋愛対象などについて悩んだ経験については、「ある」が3.1%となっています。

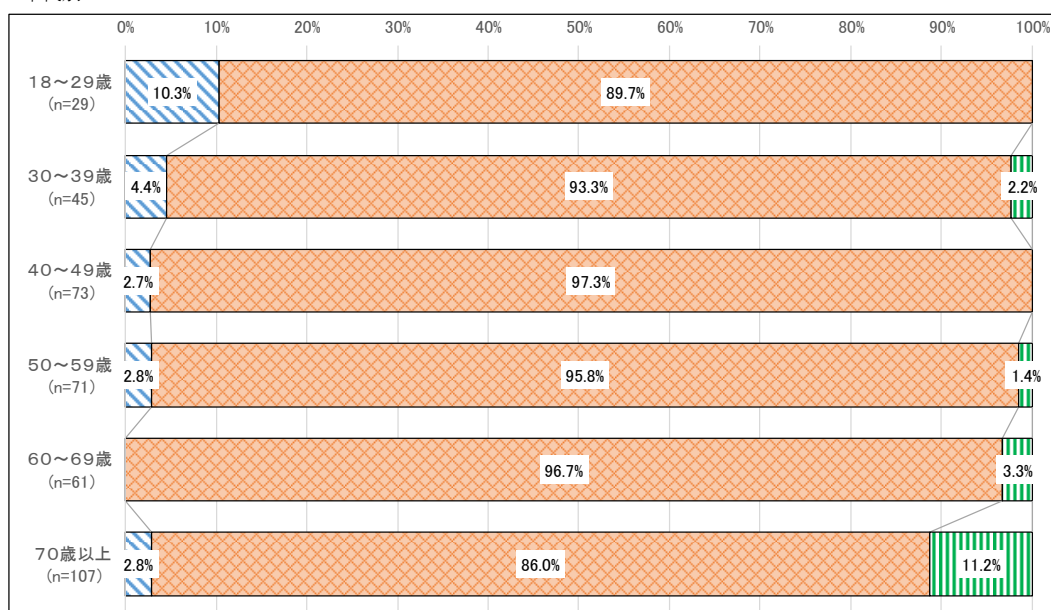


(n=389)

■性別



■年代別



<凡例>

-  ある
-  ない
-  無回答

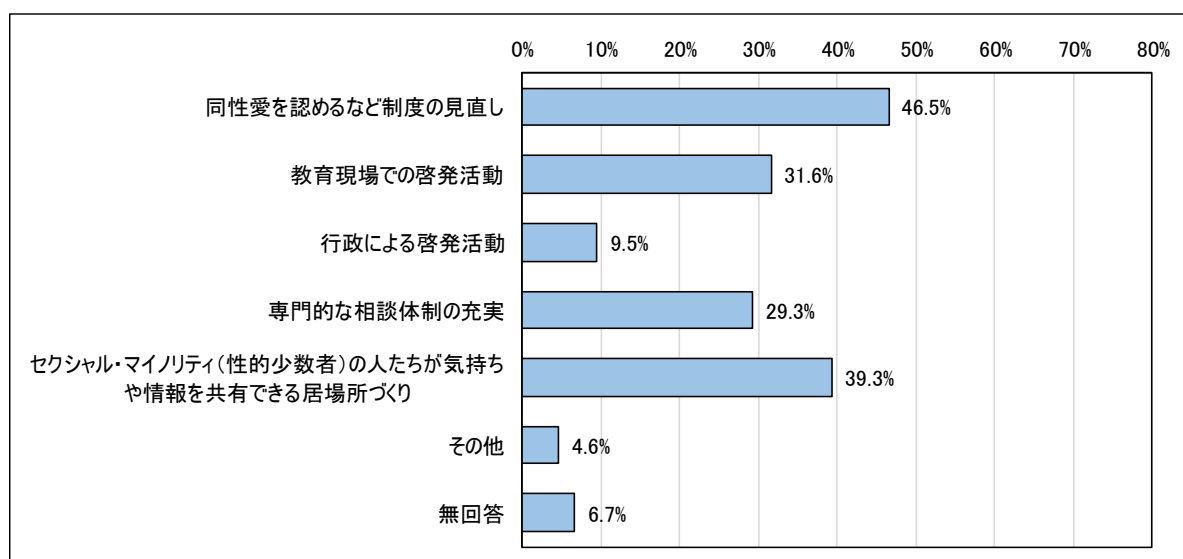
問31 あなたは「セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)」の人たちが暮らしやすい社会を目指すために、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

1. 同性愛を認めるなど制度の見直し
2. 教育現場での啓発活動
3. 行政による啓発活動
4. 専門的な相談体制の充実
5. セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の人たちが気持ちや情報を共有できる居場所づくり
6. その他

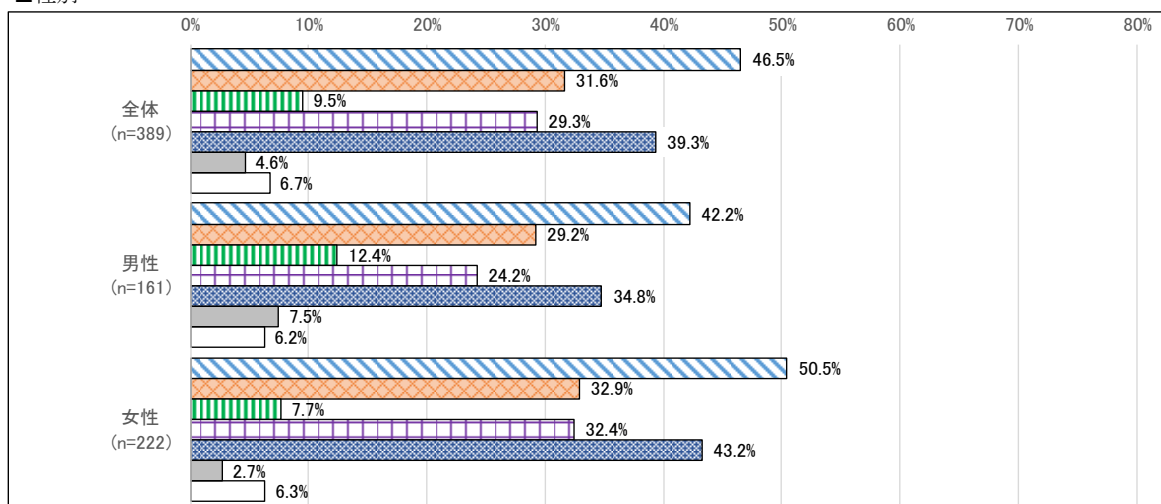
「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」の人たちが暮らしやすい社会を目指すために必要なことについては、「同性愛を認めるなど制度の見直し」が最も割合が高く 46.5%、次いで「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の人たちが気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が 39.3%となっています。

「同性愛を認めるなど制度の見直し」の割合を年代別で見ると、年代が低くなるにつれて、割合が高い傾向にあります。

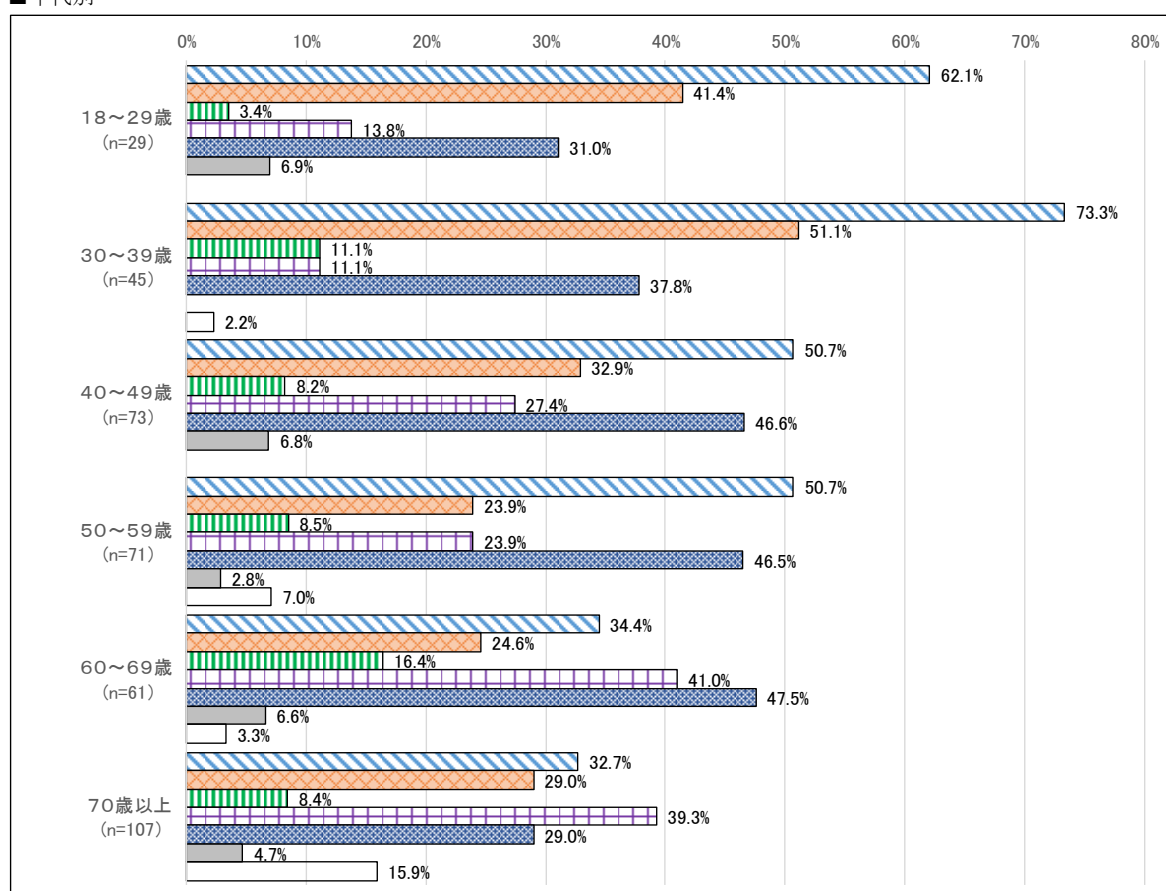


(n=389)

■性別



■年代別



<凡例>

- 同性愛を認めるなど制度の見直し
- 教育現場での啓発活動
- 行政による啓発活動
- 専門的な相談体制の充実
- セクシャル・マイノリティの人たちが気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- その他
- 無回答

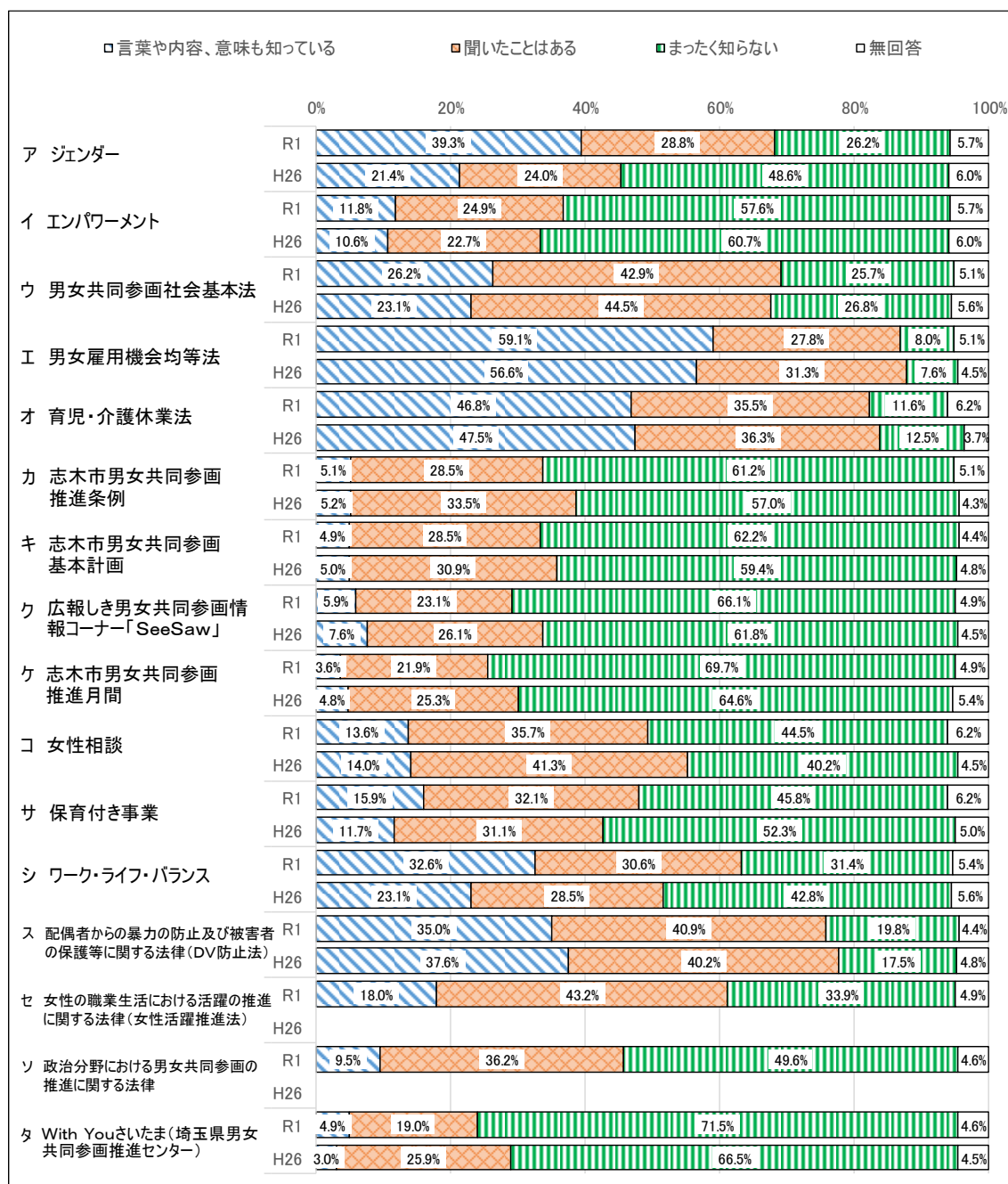
(12) 男女共同参画社会実現のための施策について

問32 あなたは次にあげる言葉について、知っていますか。次のア～タの各項目ごとにあてはまるものを1ずつ選んで○をつけてください。

男女共同参画に関する言葉の認識について、「言葉や内容、意味も知っている」では、「男女雇用機会均等法」が最も割合が高く 59.1%、次いで「育児・介護休業法」が 46.8%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「ジェンダー」及び「ワーク・ライフ・バランス」の認知割合が特に増加しています。

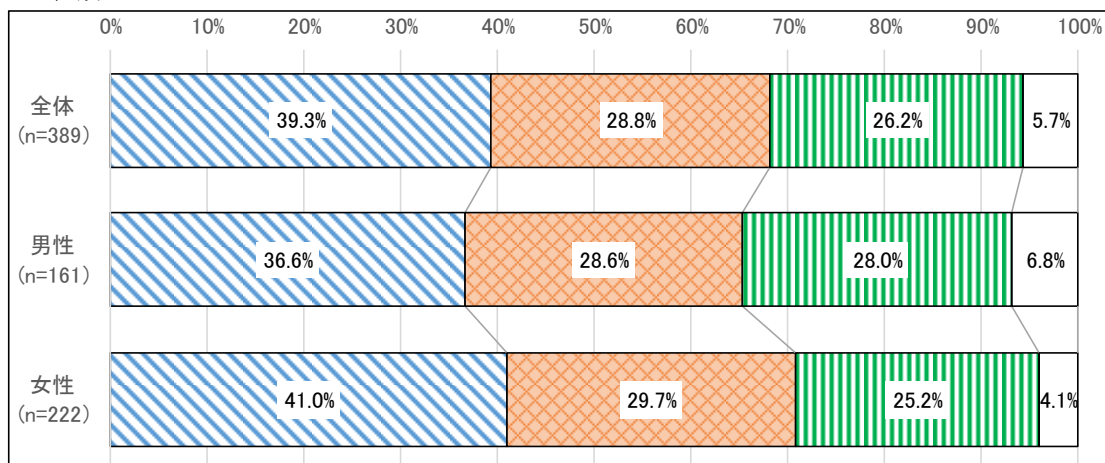
「ジェンダー」について、「言葉や内容、意味も知っている」の割合を年代別に見ると、30～39 歳が 64.4%と最も高く、70 歳以上が 20.6%と最も低くなっており、年齢があがるにつれて低下する傾向にあります。



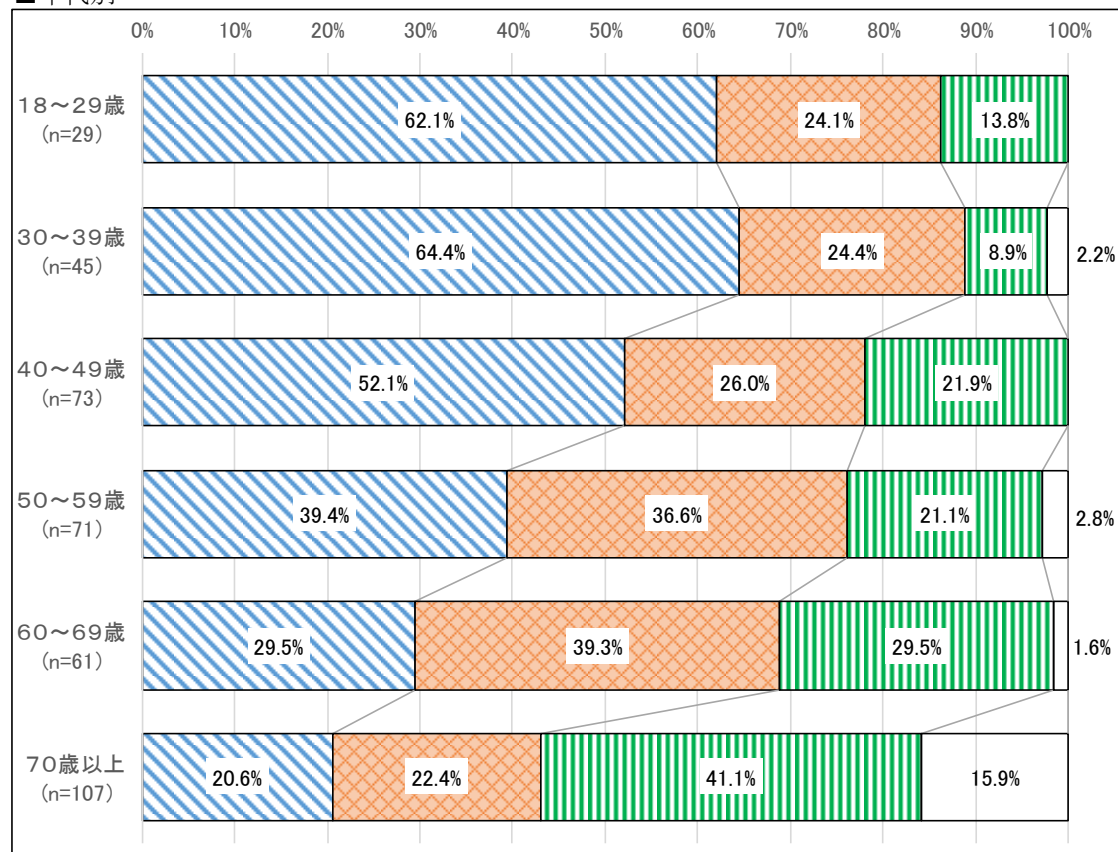
(令和元年度 n=389、平成 26 年度調査 n=463)

■ア ジェンダー

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

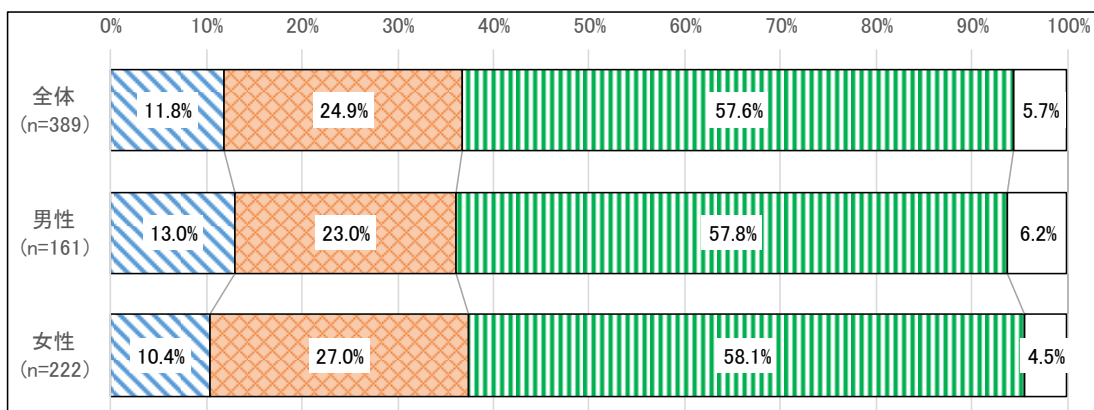
聞いたことはある

まったく知らない

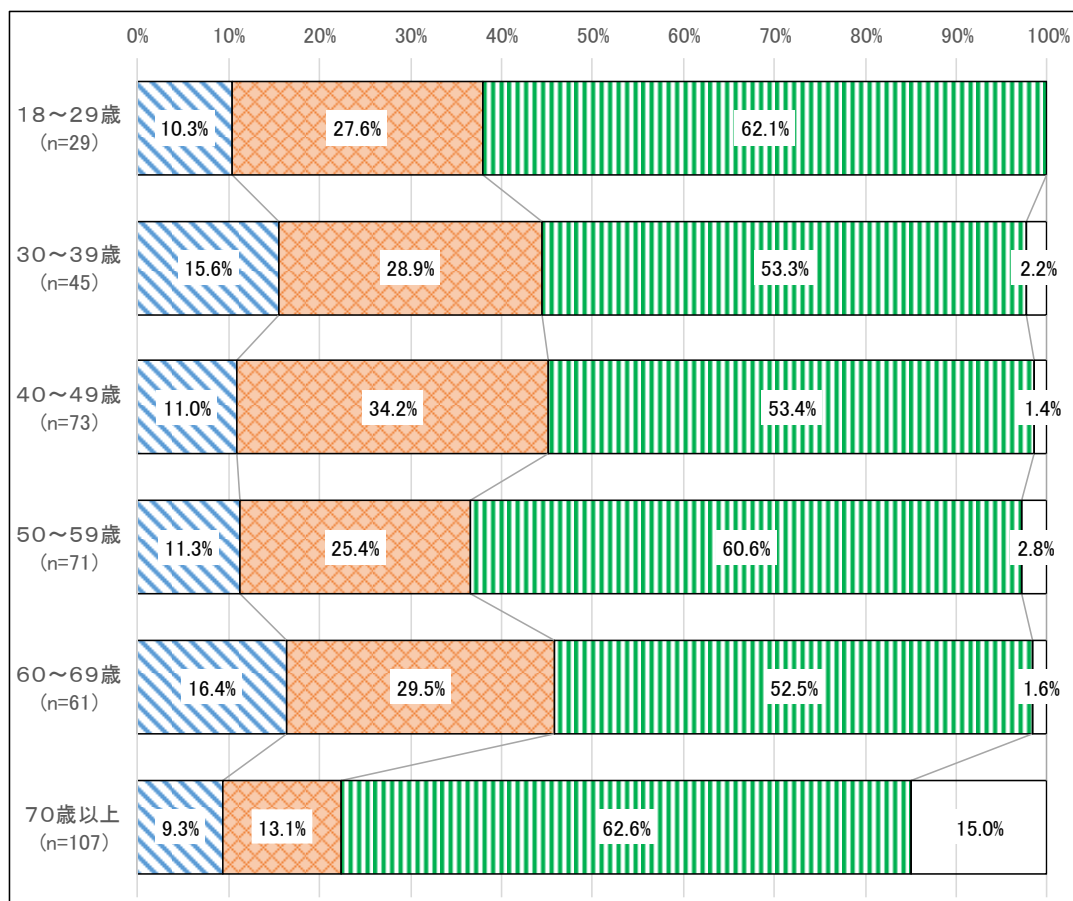
無回答

■イ エンパワメント

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

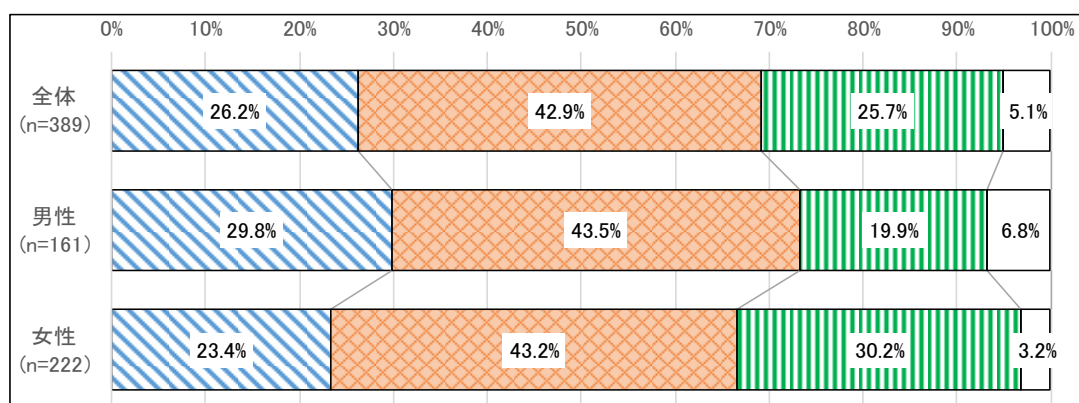
聞いたことはある

まったく知らない

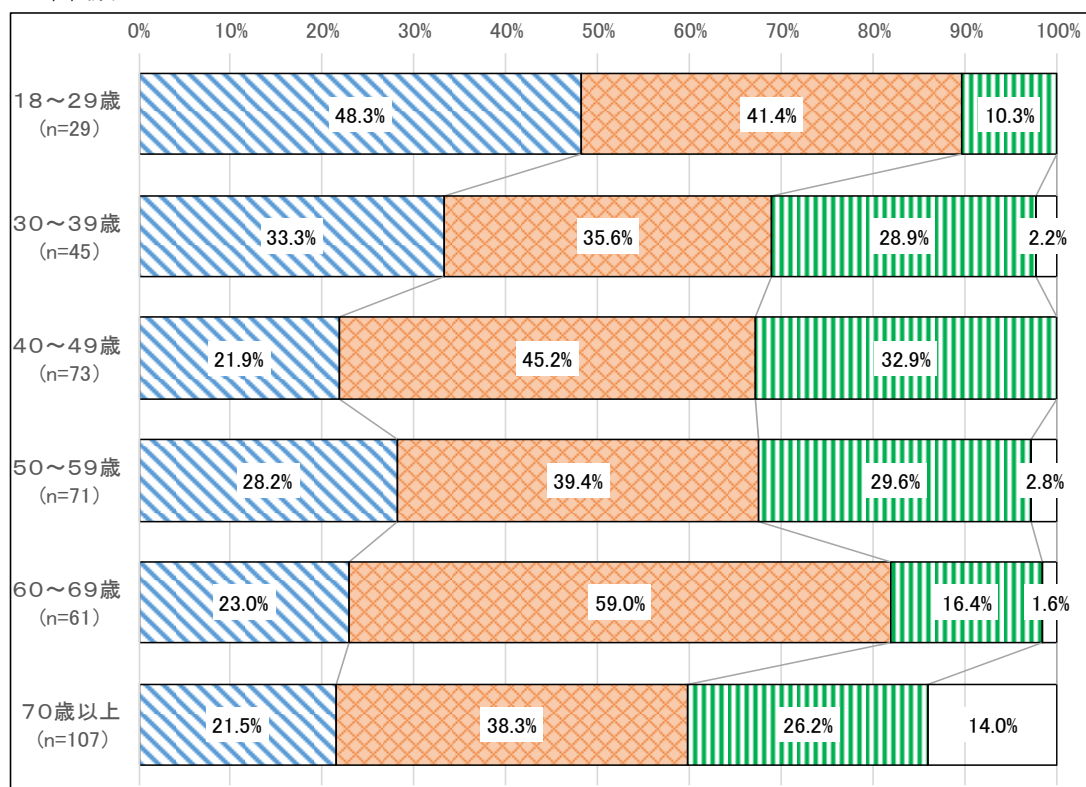
無回答

■ウ 男女共同参画社会基本法

■性別



■年代別

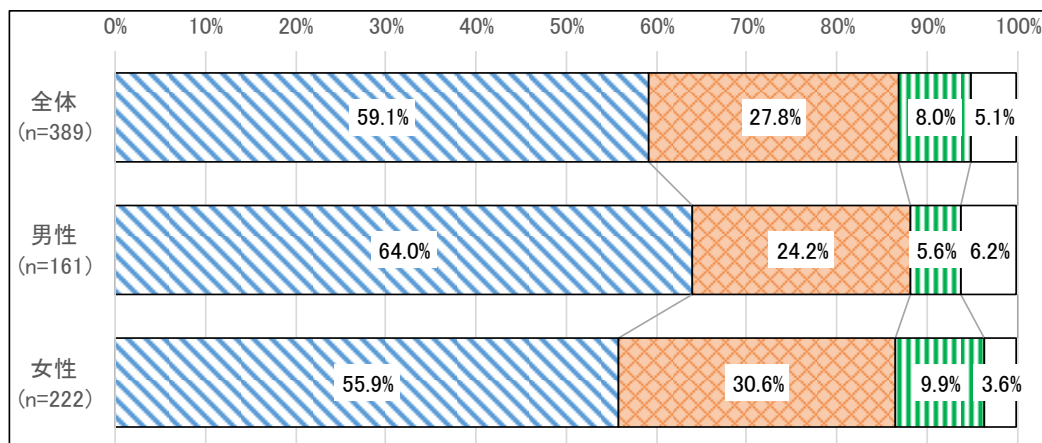


< 凡例 >

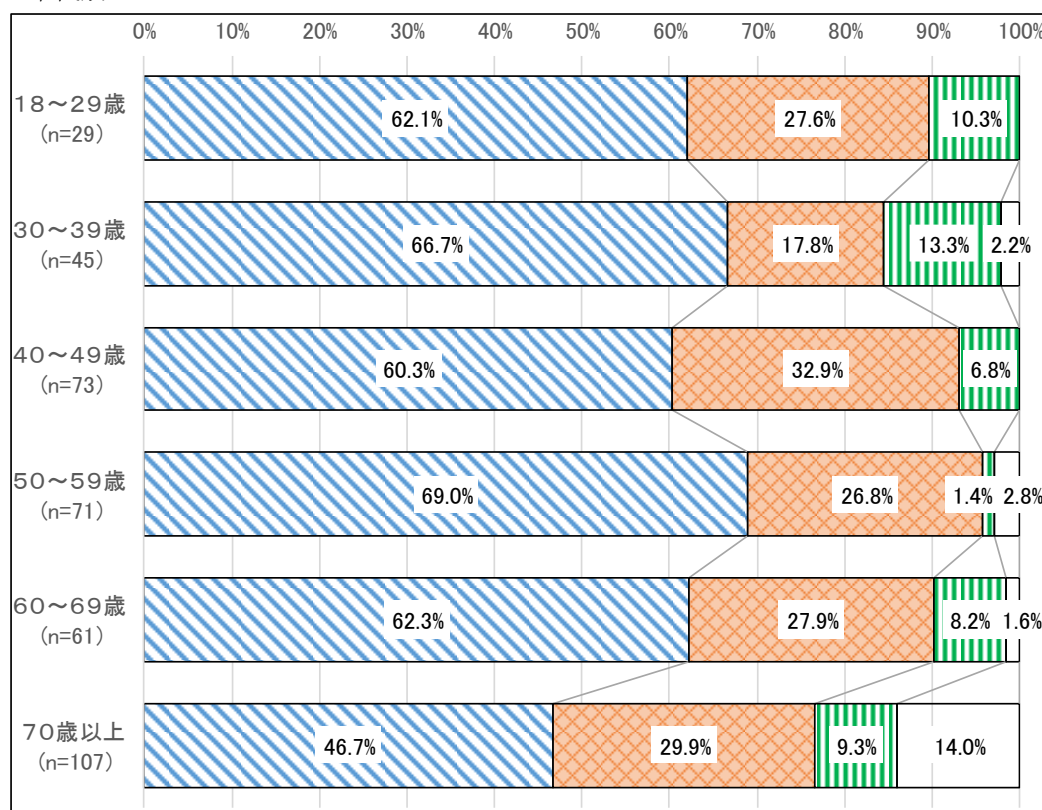
-  言葉や内容、意味も知っている
-  聞いたことはある
-  まったく知らない
-  無回答

■工 男女雇用機会均等法

■性別



■年代別



< 凡例 >

 言葉や内容、意味も知っている

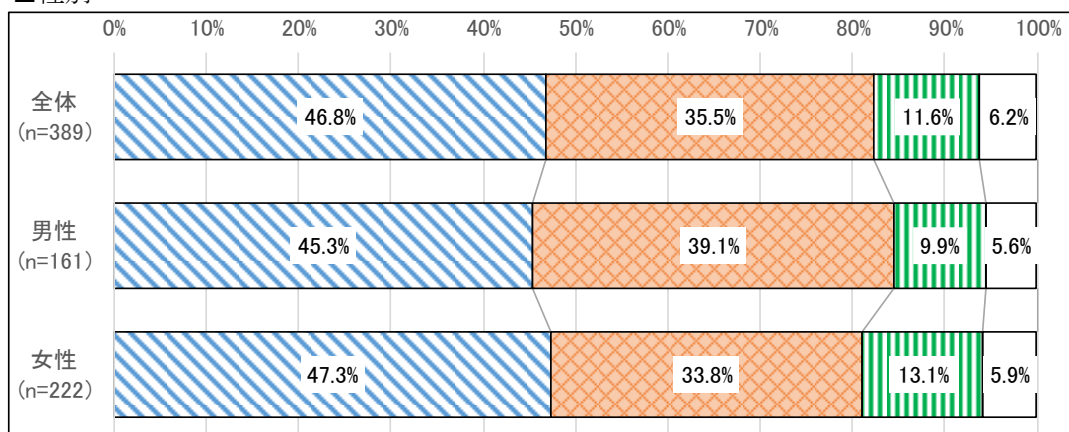
 聞いたことはある

 まったく知らない

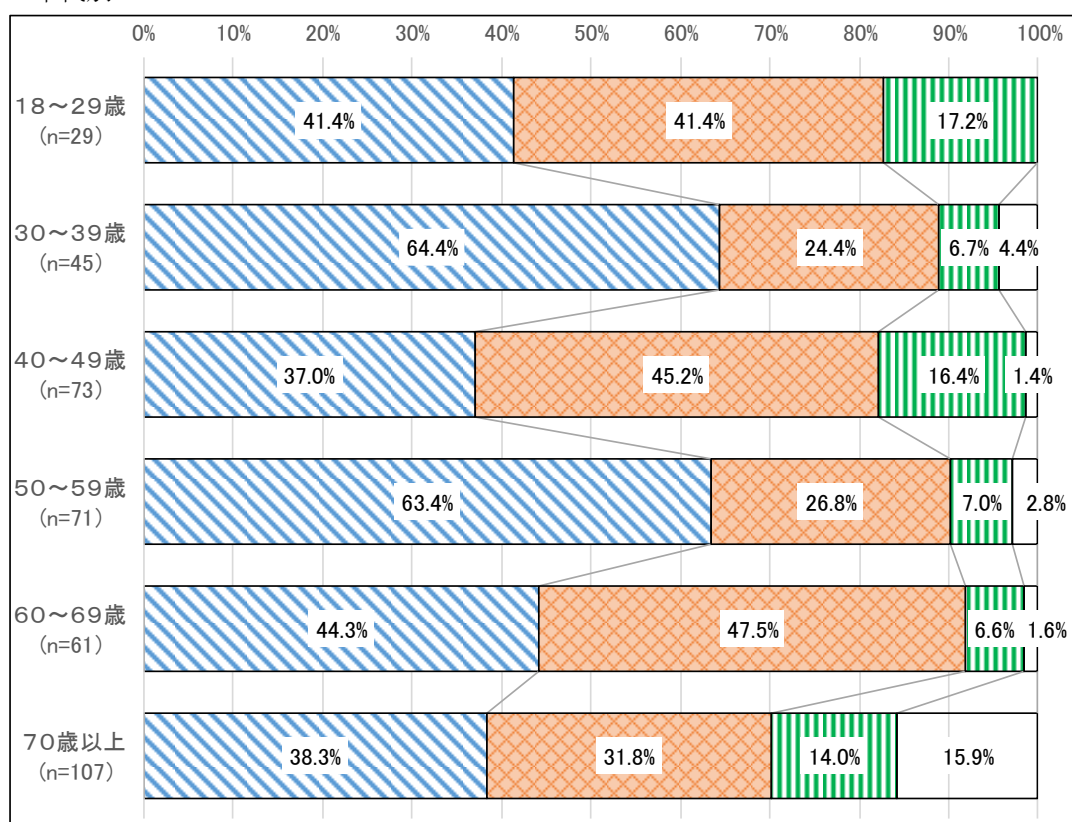
 無回答

■才 育児・介護休業法

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

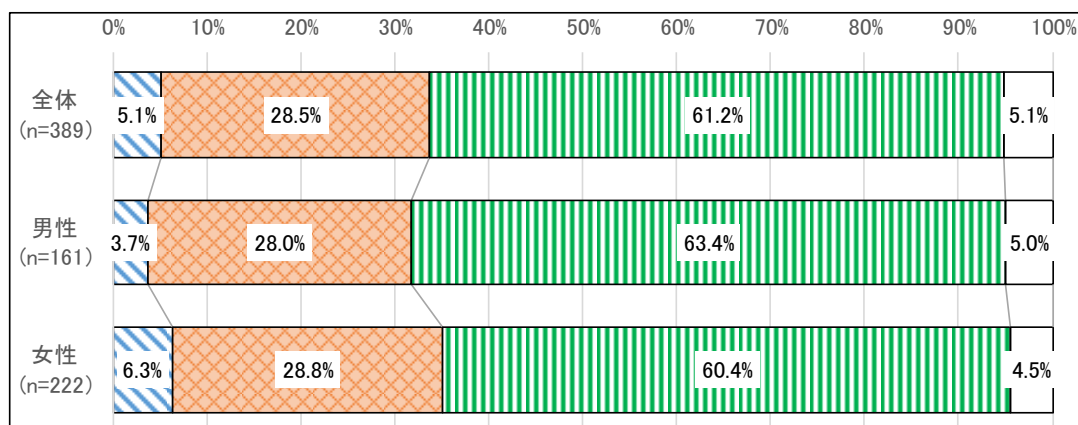
聞いたことはある

まったく知らない

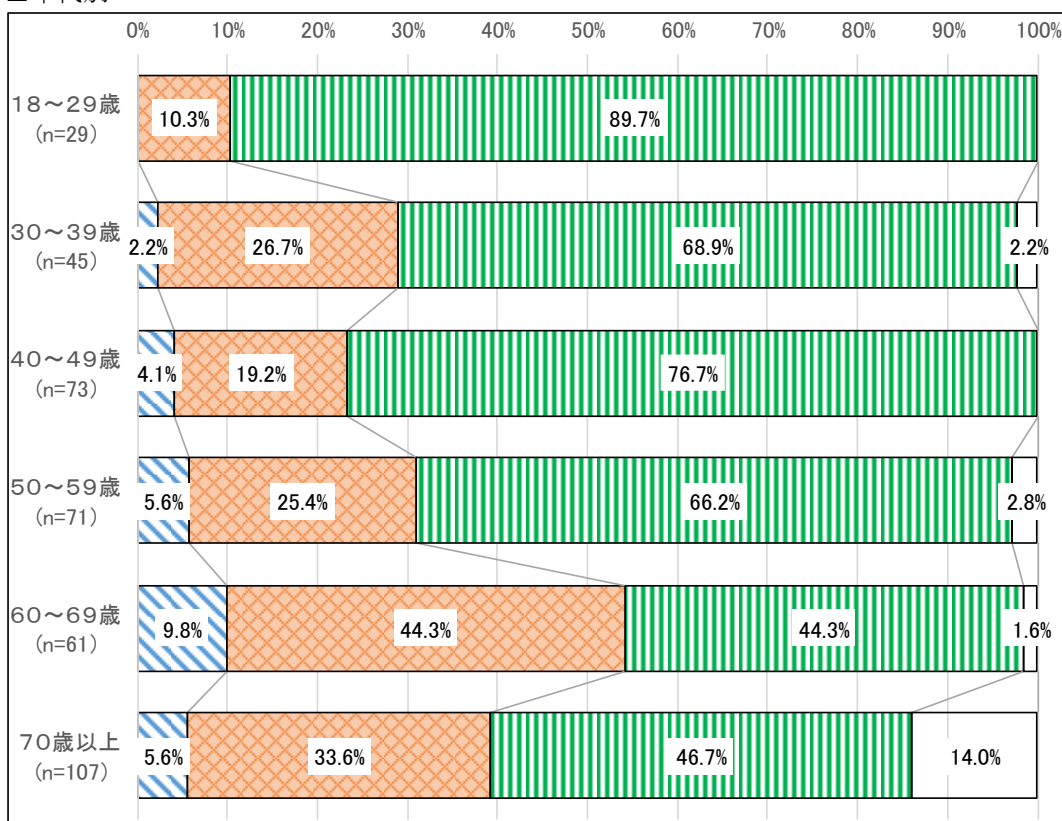
無回答

■力 志木市男女共同参画推進条例

■性別



■年代別

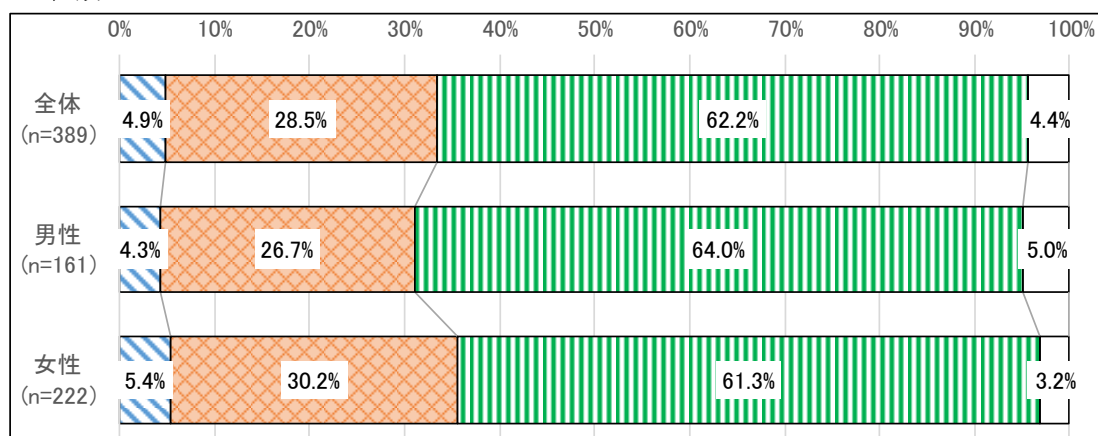


< 凡例 >

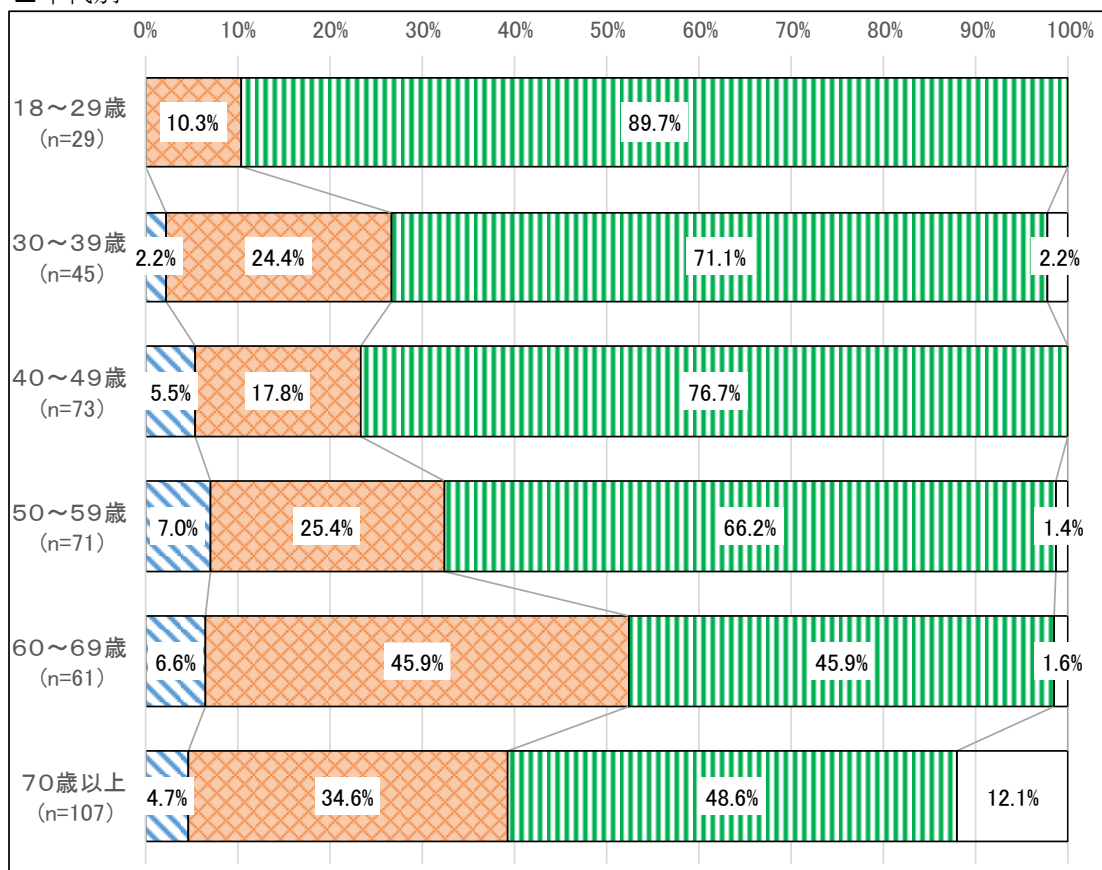
-  言葉や内容、意味も知っている
-  聞いたことはある
-  まったく知らない
-  無回答

■キ 志木市男女共同参画基本計画

■性別



■年代別

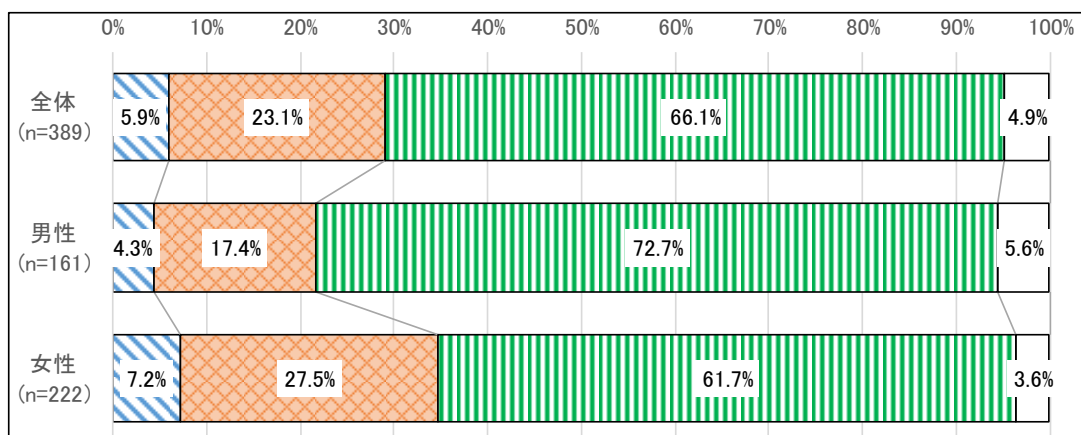


< 凡例 >

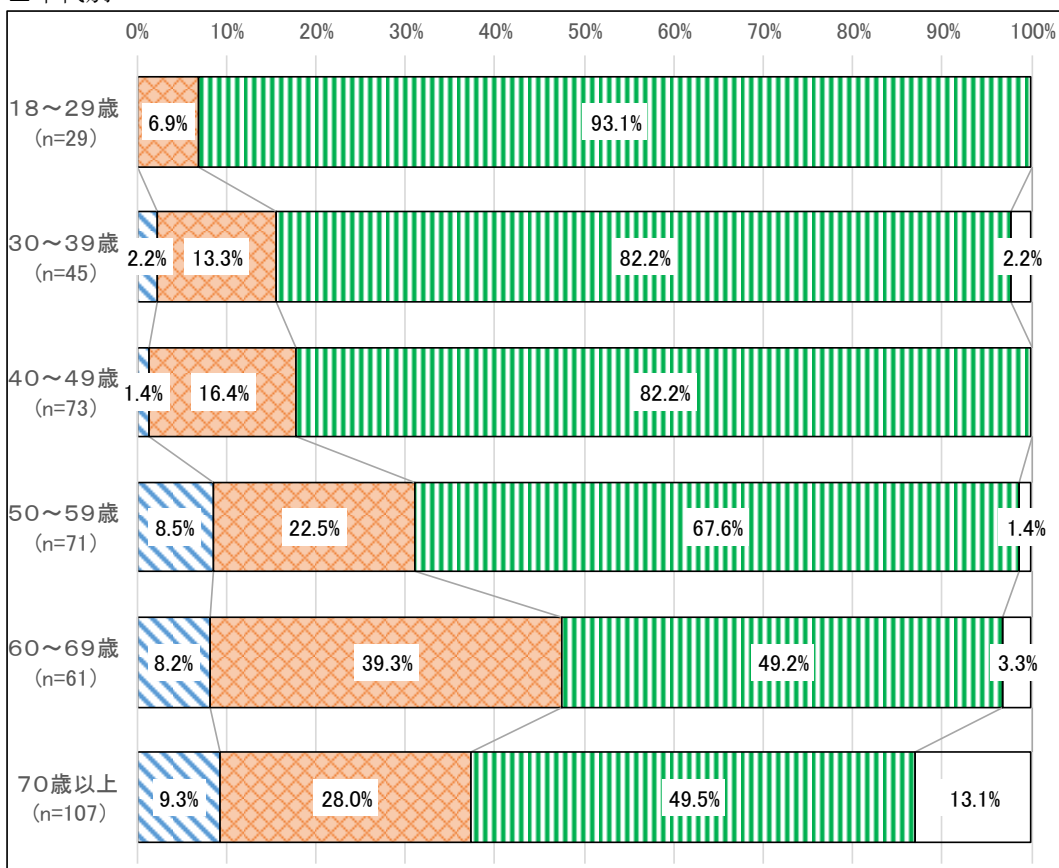
-  言葉や内容、意味も知っている
-  聞いたことはある
-  まったく知らない
-  無回答

■ク 広報しき男女共同参画情報コーナー「SeeSaw」

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

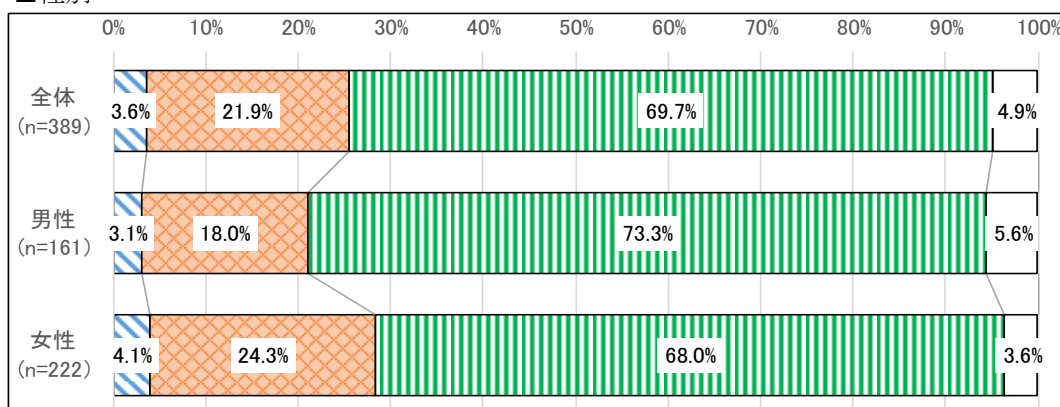
聞いたことはある

まったく知らない

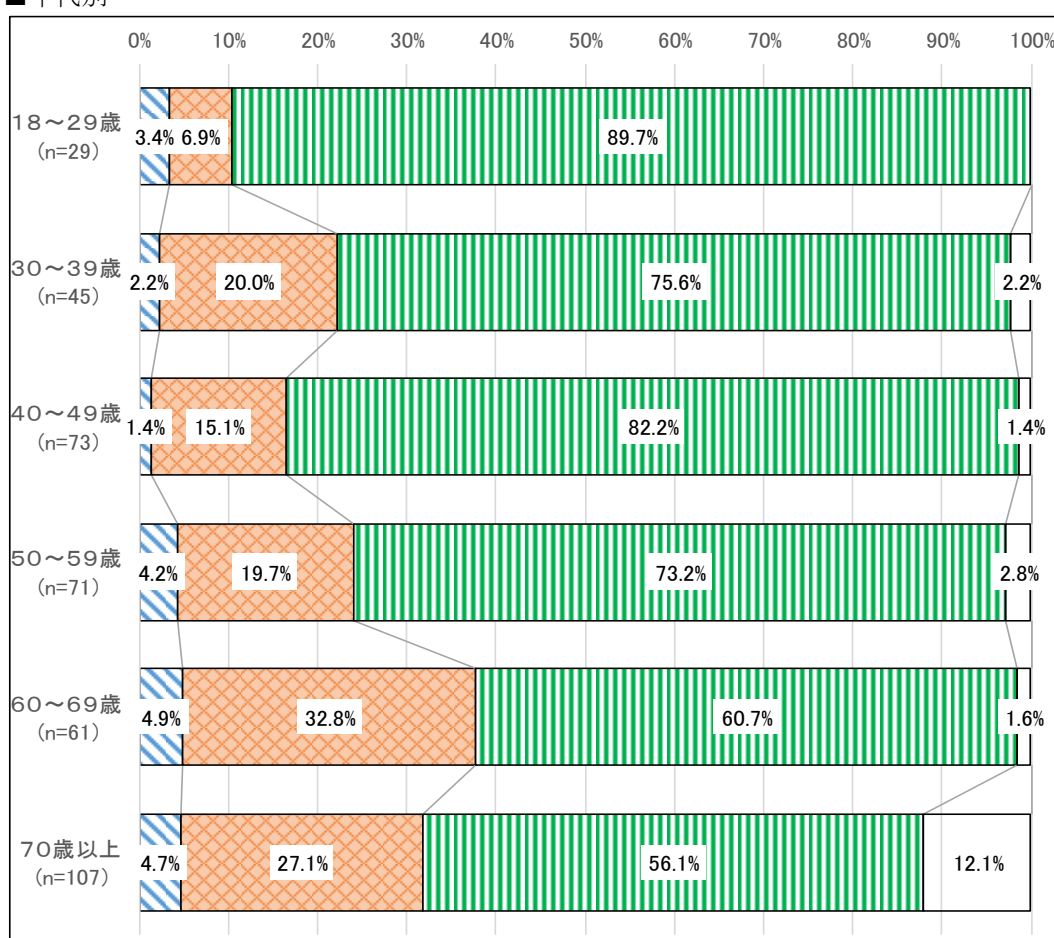
無回答

■ケ 志木市男女共同参画推進月間

■性別



■年代別

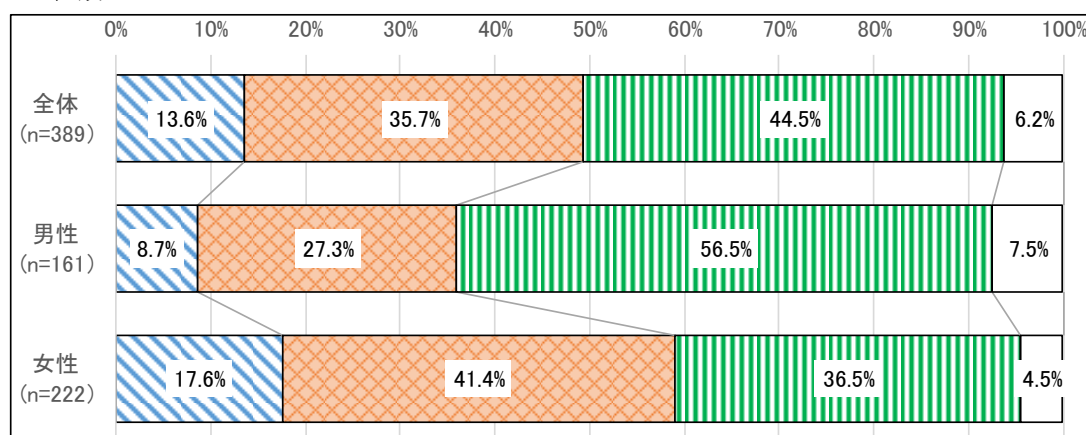


< 凡例 >

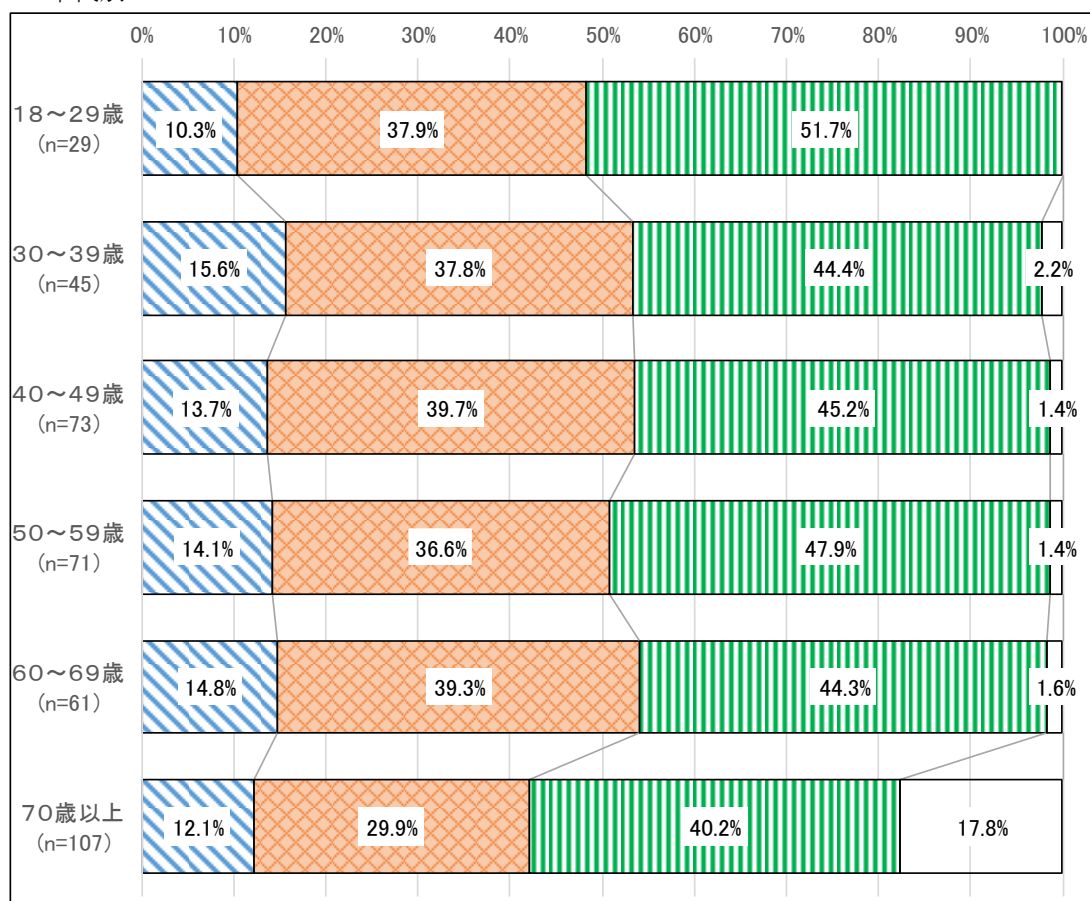
-  言葉や内容、意味も知っている
-  聞いたことはある
-  まったく知らない
-  無回答

■□ 女性相談

■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

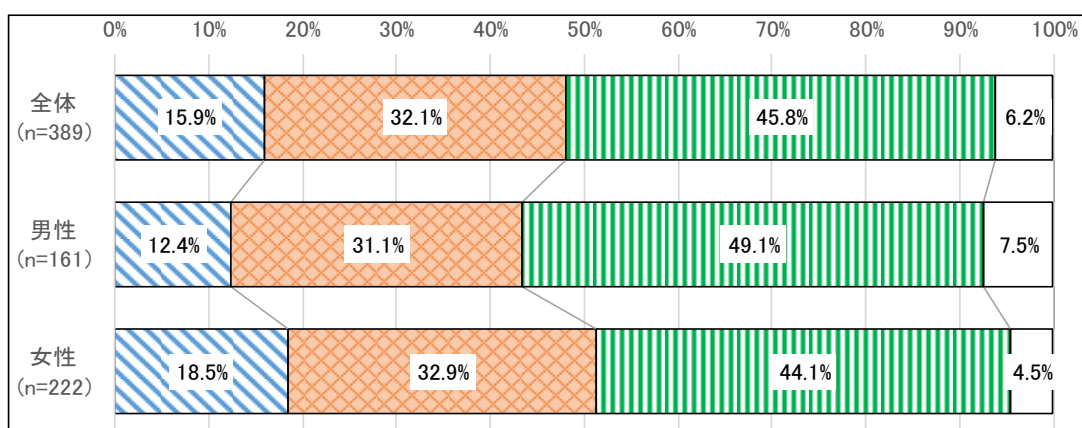
聞いたことはある

まったく知らない

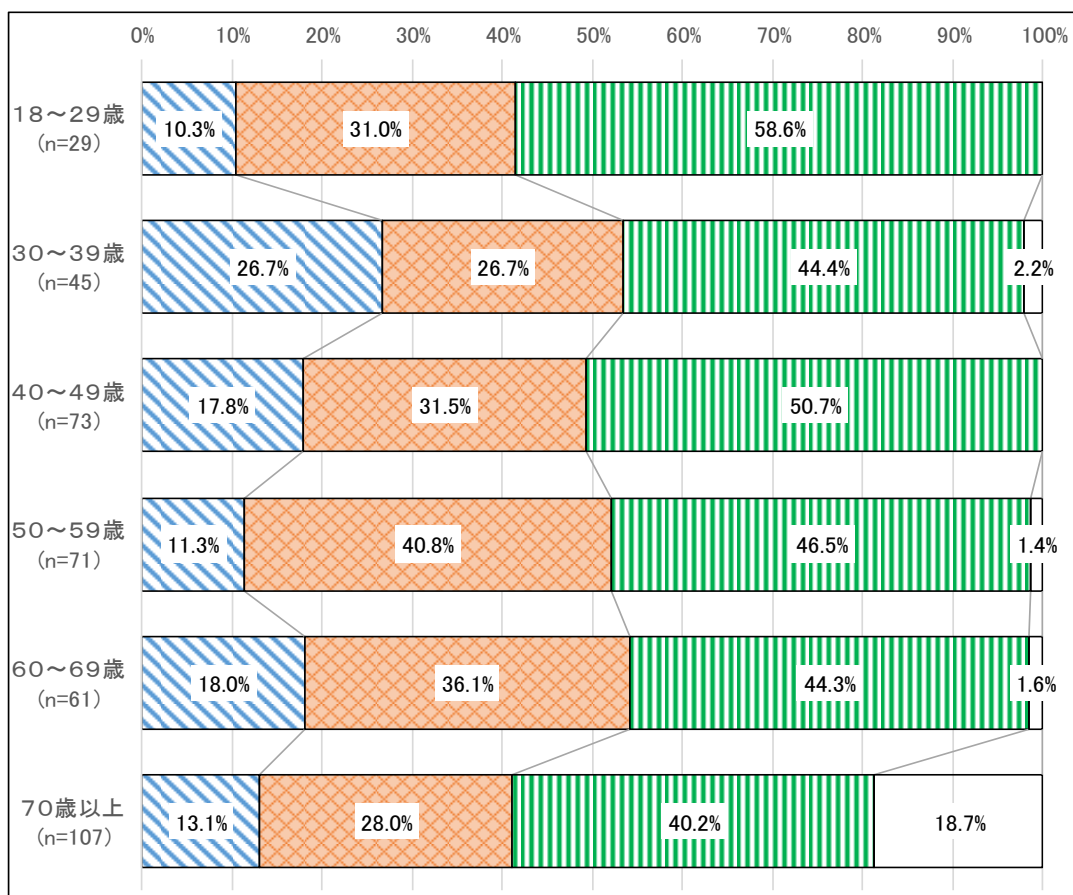
無回答

■サ 保育付き事業*平成 26 年度調査時は、「保育スタッフ事業」

■性別



■年代別



< 凡例 >

 言葉や内容、意味も知っている

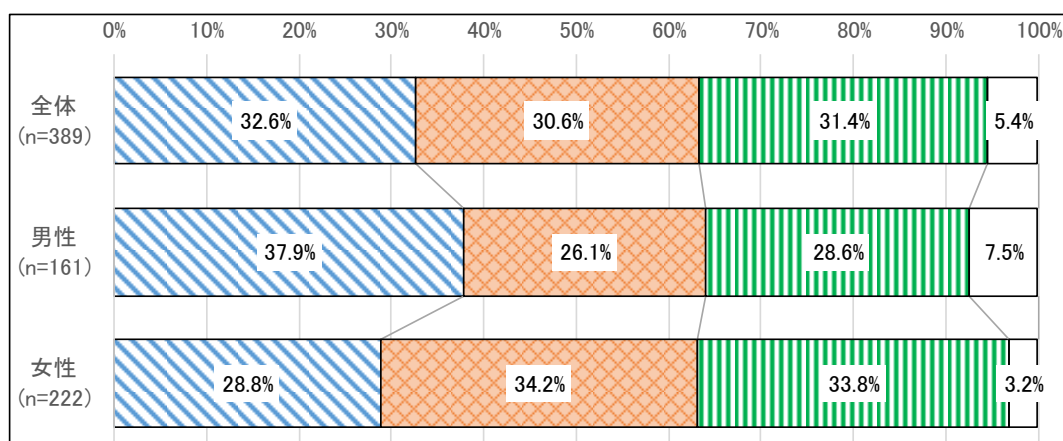
 聞いたことはある

 まったく知らない

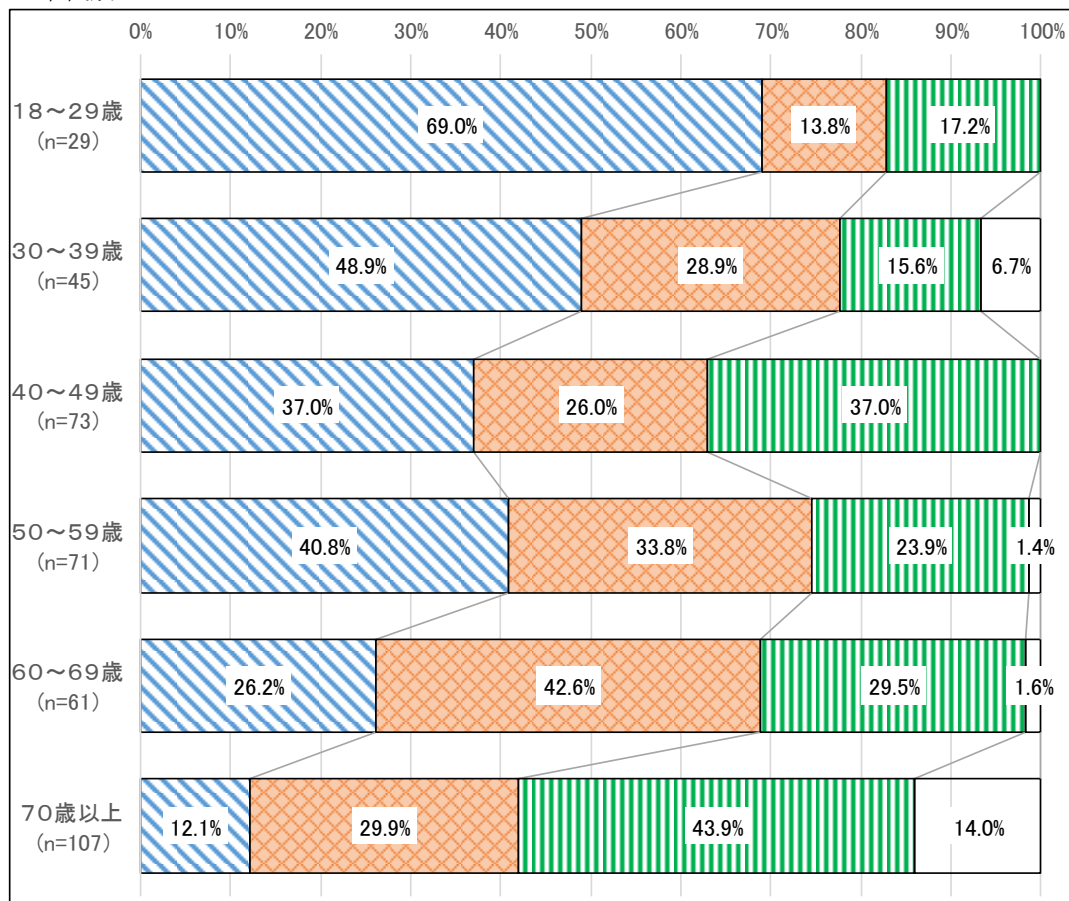
 無回答

■ シ ワーク・ライフ・バランス

■ 性別



■ 年代別



< 凡例 >

 言葉や内容、意味も知っている

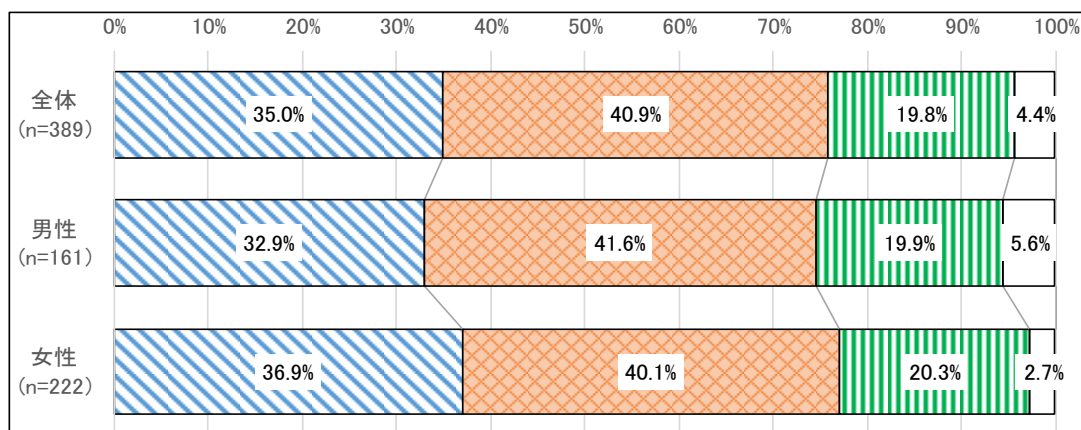
 聞いたことはある

 まったく知らない

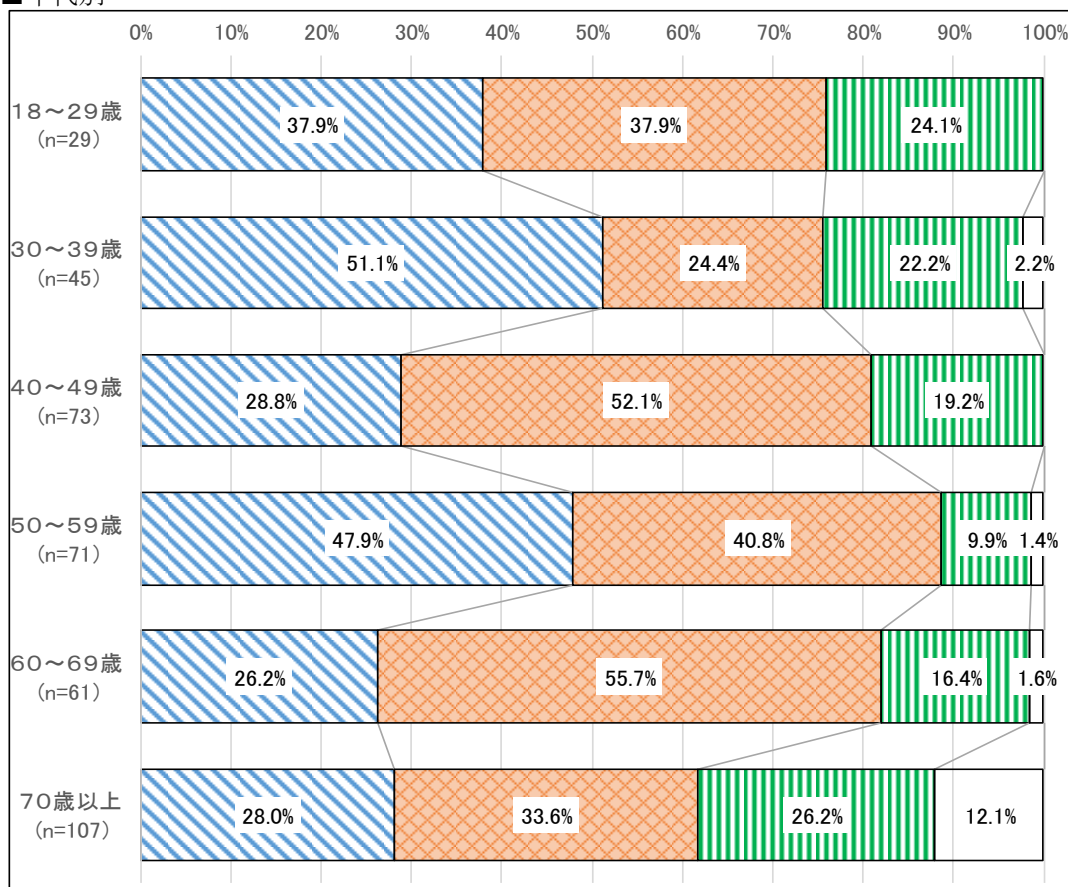
 無回答

■ス 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

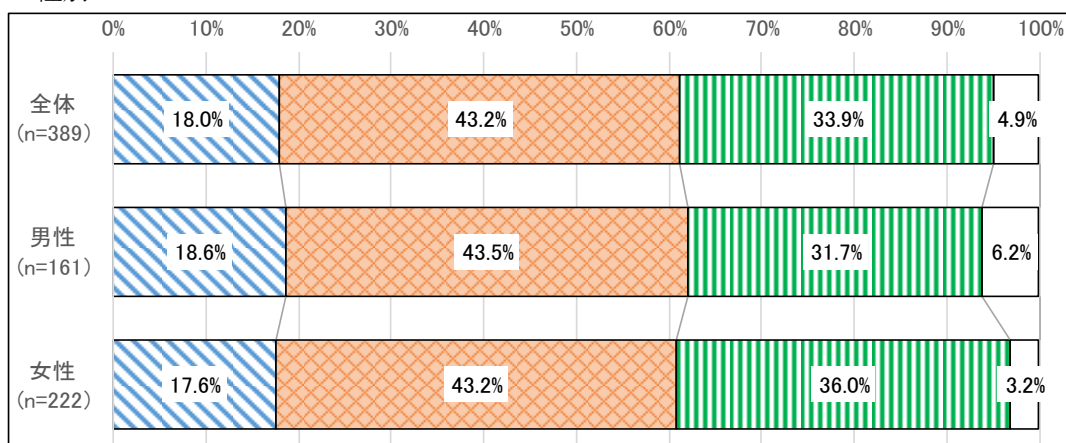
聞いたことはある

まったく知らない

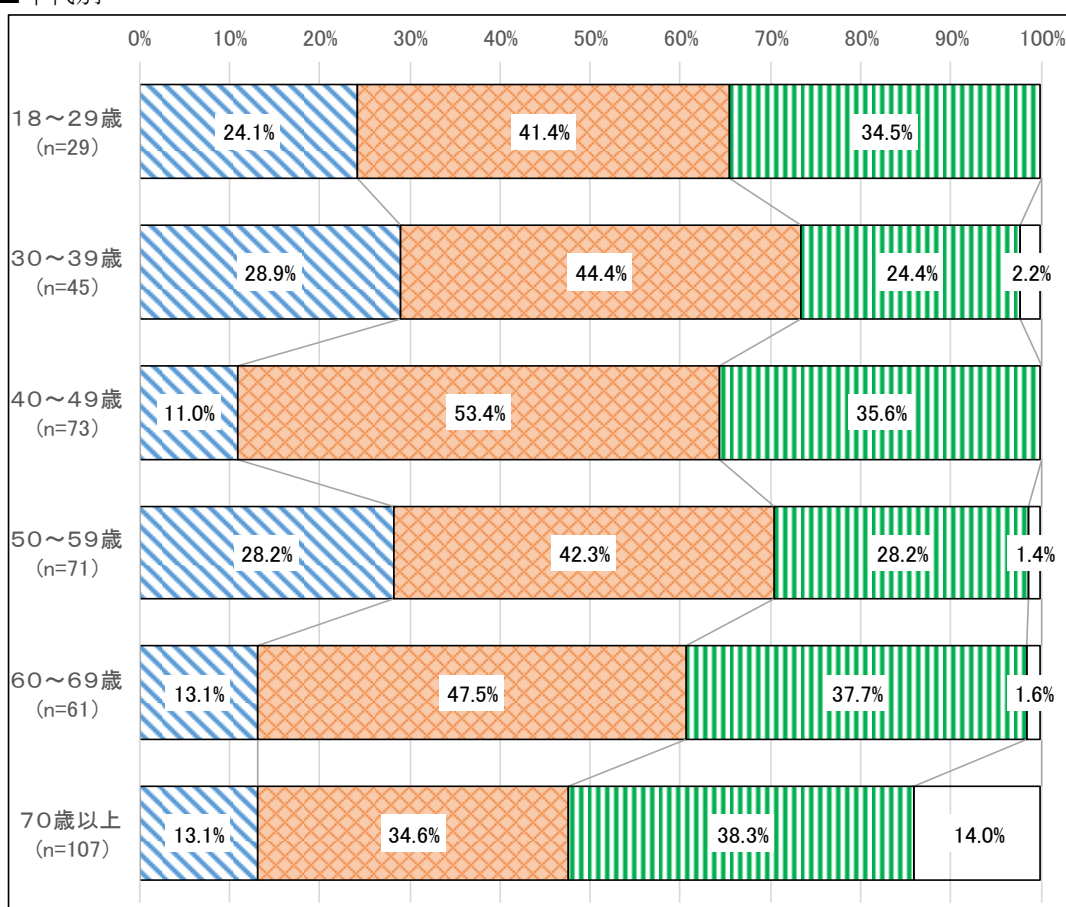
無回答

■セ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)*平成 26 年度調査時は選択肢なし

■性別



■年代別



< 凡例 >

言葉や内容、意味も知っている

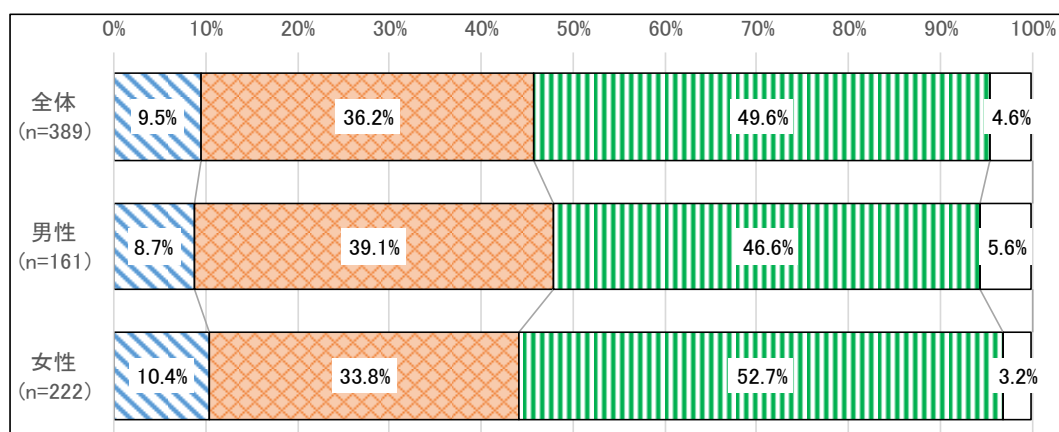
聞いたことはある

まったく知らない

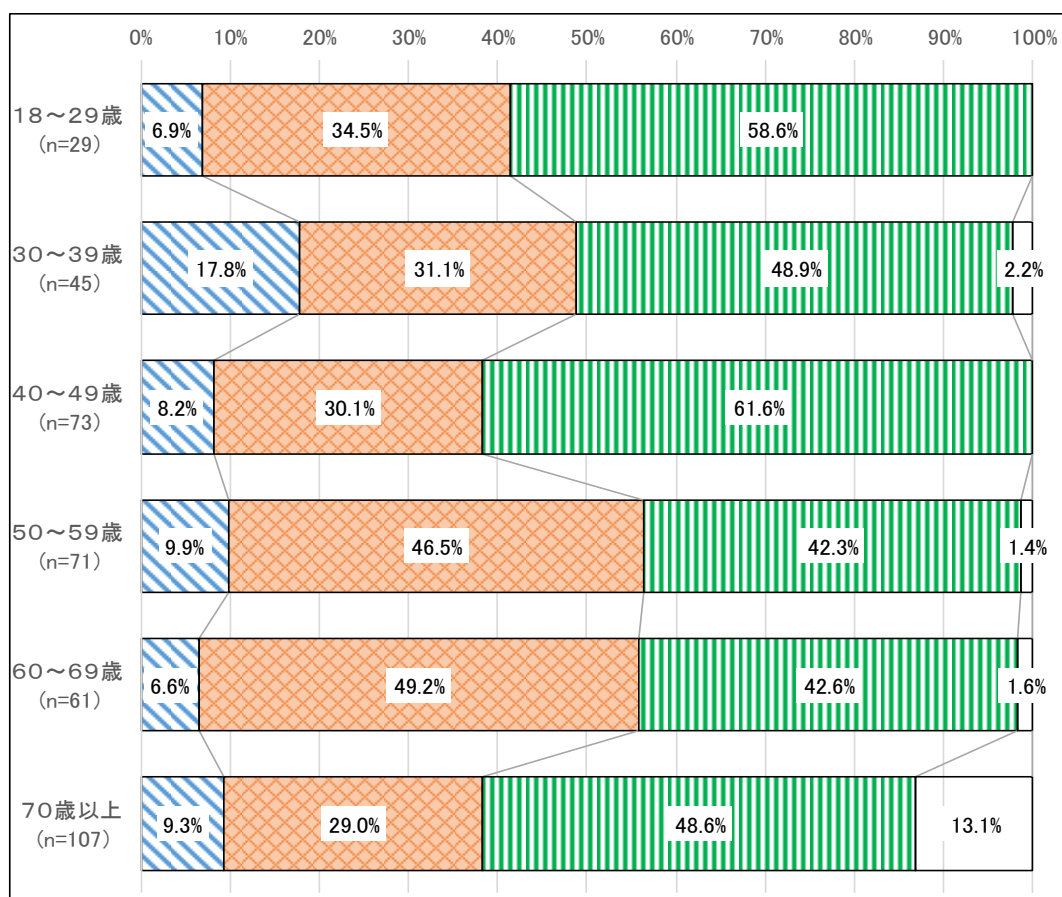
無回答

■ソ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律*平成 26 年度調査時は選択肢なし

■性別



■年代別



< 凡例 >

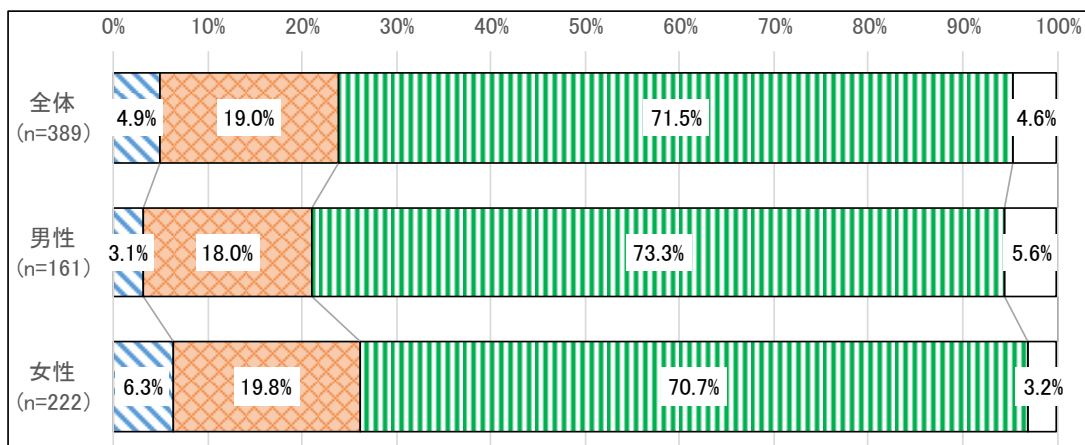
 言葉や内容、意味も知っている

 聞いたことはある

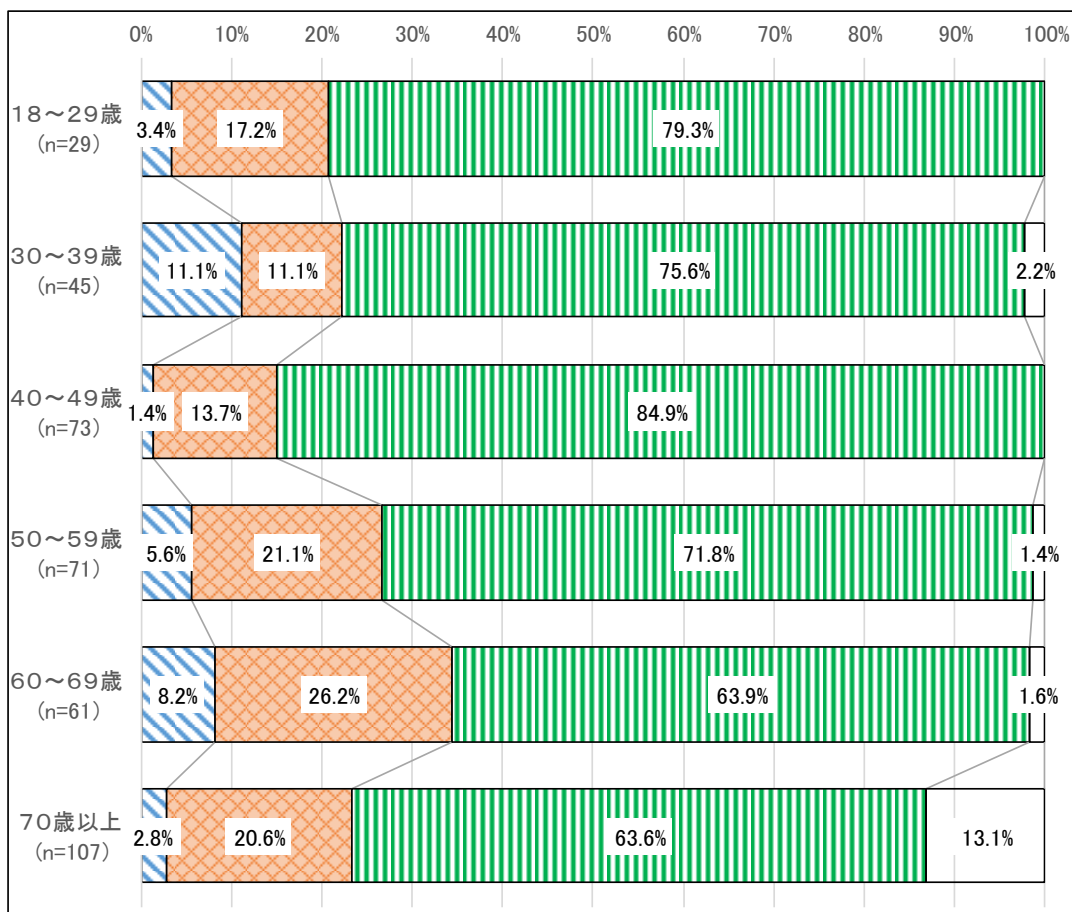
 まったく知らない

 無回答

■性別



■年代別



< 凡例 >

 言葉や内容、意味も知っている

 聞いたことはある

 まったく知らない

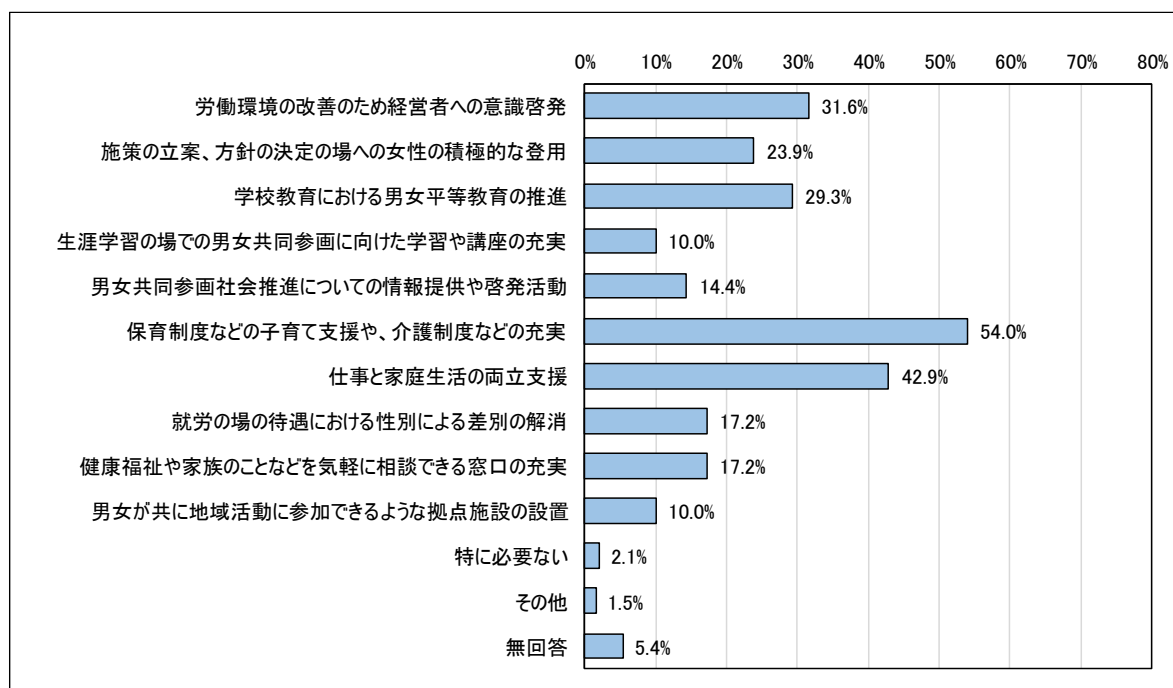
 無回答

問33 あなたは男女が共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会の実現」を目指すために、今後、志木市ではどのようなことに力を入れていけばいいと思いますか。次の中から、優先的に行った方がよいと思うものを3つまで選んで○をつけてください。

1. 労働環境の改善のため経営者への意識啓発
2. 施策の立案、方針の決定の場への女性の積極的な登用
3. 学校教育における男女平等教育の推進
4. 生涯学習の場での男女共同参画に向けた学習や講座の充実
5. 男女共同参画社会推進についての情報提供や啓発活動
6. 保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実
7. 仕事と家庭生活の両立支援
8. 就労の場の待遇における性別による差別の解消
9. 健康福祉や家族のことなどを気軽に相談できる窓口の充実
10. 男女が共に地域活動に参加できるような拠点施設の設置
11. 特に必要ない
12. その他

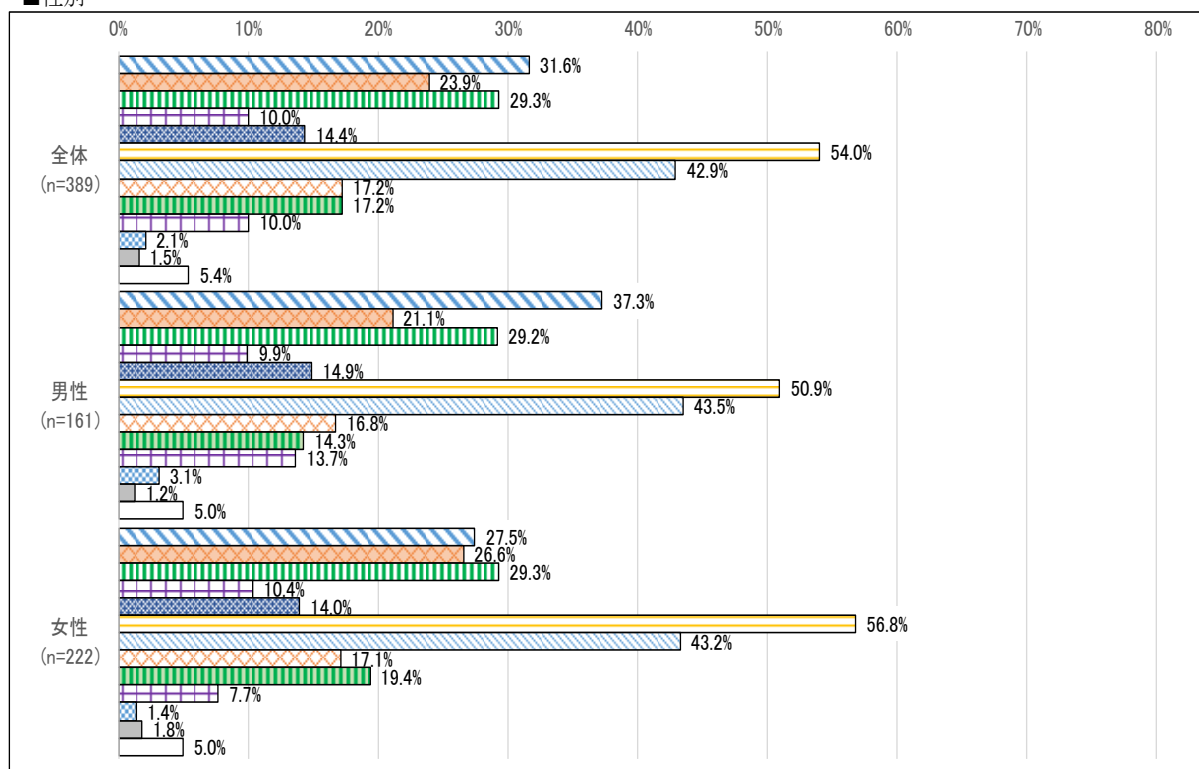
「男女共同参画社会の実現」を目指すための施策については、「保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実」が 54.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立支援」が 42.9%となっています。

「保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実」の割合を性別で見ると、男性が 50.9%、女性が 56.8%であり、女性の割合が高くなっています。



(n=389)

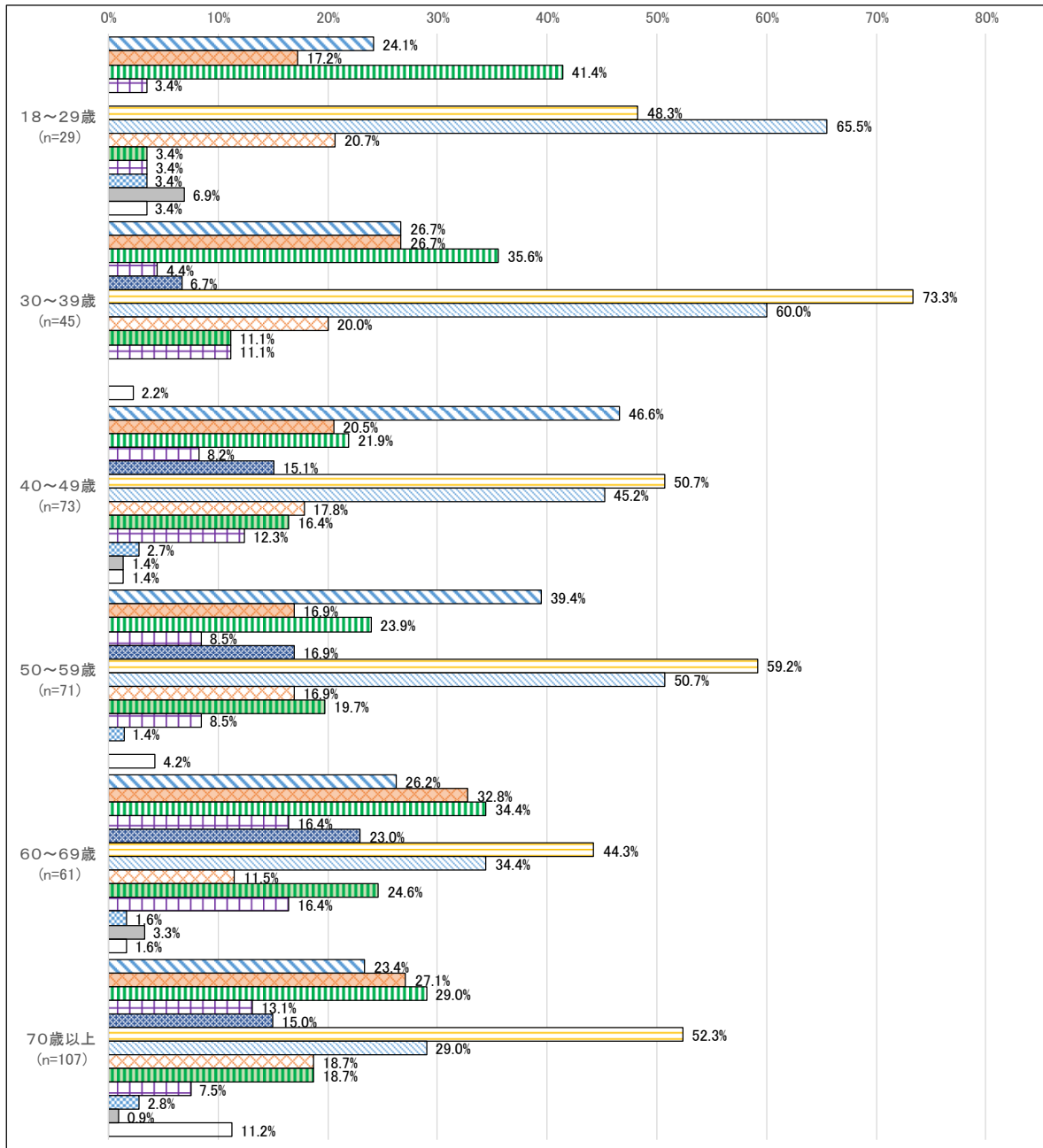
■性別



< 凡例 >

- 労働環境の改善のため経営者への意識啓発
- 施策の立案、方針の決定の場への女性の積極的な登用
- 学校教育における男女平等教育の推進
- 生涯学習の場での男女共同参画に向けた学習や講座の充実
- 男女共同参画社会推進についての情報提供や啓発活動
- 保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実
- 仕事と家庭生活の両立支援
- 就労の場の待遇における性別による差別の解消
- 健康福祉や家族のことなどを気軽に相談できる窓口の充実
- 男女が共に地域活動に参加できるような拠点施設の設置
- 特に必要ない
- その他
- 無回答

■年代別



< 凡例 >

- 労働環境の改善のため経営者への意識啓発
- 施策の立案、方針の決定の場合への女性の積極的な登用
- 学校教育における男女平等教育の推進
- 生涯学習の場での男女共同参画に向けた学習や講座の充実
- 男女共同参画社会推進についての情報提供や啓発活動
- 保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実
- 仕事と家庭生活の両立支援
- 就労の場の待遇における性別による差別の解消
- 健康福祉や家族のことなどを気軽に相談できる窓口の充実
- 男女が共に地域活動に参加できるような拠点施設の設置
- 特に必要ない
- その他
- 無回答

最後に、市の男女共同参画推進について、日頃感じていることなどがありましたら自由にお書きください。

<子どもをとりまく環境について>

- ・放課後や学校がない日に、子どもたちの行き場や居場所がなく心配である。学童保育は人数が多すぎて、子ども全員に対応できないため、一人で家に居る子どもが多い。両親が共働きをしないと生活できない社会では、子どもにしわ寄せが行ってしまう。子どもを放置しないような仕組みを考えていく必要があると思う。
- ・保育園や学童保育の充実(時間延長)、中小企業経営者への意識啓発は、自治体として取り組むことができ、かつ効果的な施策であると思う。
- ・学童保育を含めた保育施設の充実や育休制度をとりやすい環境、場所・人員・環境を含めた保育の質の向上、時短勤務に対する職場の理解が重要である。
- ・孤立して育児をしている人、双子や三つ子の育児をしている人への支援を手厚くしてほしい。子どもと高齢者が一緒に遊び、学ぶことができる場ができると良い。孤立している方が楽しめるようになると良い。

<女性の社会進出と家事、育児について>

- ・現在、2歳の子どもがいるが、保育園に入ることができず、今後、働き続けることに不安がある。
- ・女性が働きやすいように、もっと保育園を増やすなどの対策をとってほしい。
- ・女性が男性と同様に働けるように、学童保育も保育園と同じく早期に開園してほしい。女性が子どもを生んで仕事をやめると、女性の意見や考えが社会に反映されにくくなると思う。志木市だけでも、「小一の壁」がなくなるように、市としても努力してほしい。
- ・女性が働きやすいように、0～2歳児を預かってもらえる保育施設や学童保育の充実をしてほしい。保育園が足りないため、小規模保育施設を卒園後、幼稚園へ行って預かり保育を利用している人もいる。今回の保育園の無償化は、預かり保育にも対応しているが、1日410円となっており、実質半額(市内の預かり保育料は1日800～1000円)にとどまっているため、0円になる保育園の人と比べると平等ではない。
- ・海外では、子どものときから教育されていても、男女平等の意識がまだ不足している雰囲気があるが、社会進出においては、海外(西欧)は日本と比べて、目を見張るものがある。女性の社会進出を阻むものを除くべきだと思う。女性の働く環境(職場復帰)、男性の環境(子育て、介護)等に対する若い人達の意識は高い。若い人は、子育ては二人で行うという考えを持っているため、それを援助できる社会の仕組みが必要であると思う。
- ・各家庭でそれぞれ悩みがあると思う。核家族では誰かに頼ることができず、子どもの心身の問題や離れて暮らす老親のことなどの家族の問題を、女性がほとんど一人で担っている。この問題を解決しないままに、女性が外で働くことは、女性の負担が増えるだけだと思う。

<女性の社会進出について>

- ・市の施策の立案や方針の決定の場に女性を積極的に登用してほしいと思う。しかし、そのような場に登用される女性は、男性より男性的な考えの方が多く見受けられ、女性的な考えが反映されにくいと感じる。色々な立場の女性の意見を採用してほしいと思う。
- ・政治家や管理職への女性の進出は、海外に比べて遅れており、女性の地位も低く、現在も全く改善されていない。最近の医大受験での女性受験者の得点操作のニュースにも驚いている。新しい風を入れ、女性進出の門戸を今すぐに広げるべきだ。現在、医療従事者として働いているが、院長や部長クラスもやはり男性が就任しており、悲しいことである。
- ・施策の立案方針の決定への女性の積極的な登用をしてほしい。
- ・国会議員など議員の半分が女性になれば、男性にも女性も優しい国になると思う。
- ・男女共に「社会の対等な構成員として、自ら意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され～」の部分は難しいと思う。特に定年退職した男女、専業主婦だった人達の再雇用、社会貢献の参加は、まだまだ難しい現状があると思う。さらに、「専業主婦」の「業」は、「仕事・職業・生活の手助け」の意味をもつにもかかわらず、離職期間と見なされ、パートにすらなかなか就けないことが多いと聞く。このような状況の中で、女性の社会貢献を推奨しても意味をもたないし、女性が苦勞し、傷つくだけだと思う。
- ・女性の中にも「働きたい女性」、「働きたくない女性」がいるため、支援が難しいと感じた。また、職場における男女比も重要であると感じている。
- ・日本は、まだまだ、女性の社会進出が厳しい国であると思う。雇用機会均等が言われているが、古くからの封建制度に由来する問題が根強く残っている。全てが平等になるには、時間がかかると思う。国の歴史が古いため、新しいものを取り入れる考え方が、中々浸透しないのが現実である。

<性差別について>

- ・30年前の話だが、パートをしていた女性が同じ仕事内容なのに男性の時間給が違うことを知り抗議した。男性の時給が異なるのは、「男性は重い物を持つことがあるからだ」との理由であったが、女性達も重たい物を持つから同額にしてほしいと抗議した。声を上げた女性を尊敬した。現在も個人の声は軽く扱われていると思う。70 数年間、男女の不平等に対して、同情、憂い、憤慨してきたが、時折「女のくせに、男のくせに」と、気持ちのどこかで思ってしまう自分が情けない。
- ・男女の性別で差をつけることは間違っているが、なんでも男性と女性を同一にすることにも違和感がある。それぞれの人間の能力が正當に評価され、活躍できる社会が良い。家庭内でも、時間的、能力的に適した人が世帯主、子どもの実質的な教育者になれば良く、必ず女性が家事に専念する必要はない。
- ・「男性にできること・できないこと」、「女性にできること・できないこと」がある。お互いがその部分を認め合い、尊敬し合って日々生活していくことが望まれる。どちらが欠けても、この世は成り立たないため、認め合うべきである。
- ・男尊女卑を推奨するわけではないが、男性にしかできないことや、女性の方が向いていることなどは多々あると思う。お互いが認めあえるように、子どもの頃から教育すれば、大きな問題にならないのではないかな。

<DV、人権の侵害について>

- ・DVやセクハラ等を人権無視の項目としてあげていたが、DVやセクハラだけが人権無視ではない。分かりやすい代表的な例としてあげたのだと思うが、他にも色々なかたちで、夫婦間、パートナー間の人権侵害があるということを、行政とりわけ身近である市政が、理解、把握してほしい。DVやセクハラ以外で悩んでいる身としては、不安かつ不快に感じた。
- ・DVや児童虐待を扱う部署間の連絡を密にしてほしい。被害者の自立支援に生活保護を活用してほしい。
- ・家族の暴力や貧困に悩む若年女性の支援に力を入れてほしい。
- ・性暴力の被害者への支援を行ってほしい。
- ・人間には表と裏がある。災害ボランティア、赤い羽根、足長おじさんなど、人のために涙したり、他人の成功に歓喜する一方、セクハラやパワハラなど、殴る、蹴る等の行為を平気でする人もいる。ハラスメントをなくすためには、米国のような弁護士社会をつくることが望まれる。市・町の問題だけでなく、家庭・友人なども弁護士を通して解決していく。弁護士が入ることで問題が文書化され、隠蔽されずに公になる。市・県・国が目指すことは、問題を文書に残すことである。市民が弁護士と多く話せる場をつくることも必要である。男女共にパワハラやセクハラなどは、時間をかけて、弁護士のもとで解決することを市が援助してほしい。

<男女共同参画推進関係のその他意見>

- ・生涯学習の場での男女共同参画に向けた学習や講座の充実を望む。
- ・市の男女共同参画推進担当が、市の他部署が推進している男女共同参画に対して積極的に推進を働きかけ、他の部署との横断的連携を発揮できるように位置付けることが必要であると思う。
- ・家庭で夫と妻が、どれだけ自分達の本当の幸せを、一緒に考えることができるかどうかだと思う。
- ・学校での男女平等教育に力を入れるべきであると思う。
- ・学校教育現場において、男性と女性を一番差別しているのは周囲の大人、教師であると感じる。生徒に「男性らしさ」「女性らしさ」を知らず知らずのうちに押しつけていると思う。男女平等を考える上では、年配の方に呼びかけることが得策だと思う。
- ・志木市が自ら発信できる男女共同参画推進を、独自のプランであっても、考え進めて行くことが大切だと思う。今後、益々、推進の強化を図り、取組の先進的な市として、存在価値を高めていただきたい。
- ・20年前に男女共同参画推進委員会を立ち上げられたのをうっすらと覚えている。男女平等が認められる時代になった。地道な努力の賜物であると思う。これからも益々の努力の上、一番住みやすい、思いやりのある志木市でいてほしい。

＜その他施策の要望や意見＞

- ・各イベントの開催にあたっては、高齢者に配慮し、交通サービス、コミュニティバスの巡回の充実等を望む。また、高齢者等の運転技術の低下、自動車運転免許証の自主返納、健康づくりやスポーツ等の活動への参加促進も踏まえ、コミュニティバスの運行の充実が求められる。その際、コミュニティバスは、チケット制とし、自治体等で運賃を折半してほしい。さらに、大手スーパー等との提携により、コンビニエンスストア的な日用品、飲食料品、生鮮食料品を取扱う移動バスの推奨等をしてほしい。
- ・介護施設や保育施設を誘致し、そこで働く人々の賃金をあげてほしい。
- ・若い人にはお金がない。若い人の所得を増やすよう企業へ促してほしい。
- ・日本の政治は進め方が古すぎると思う。政治もよい部分、悪い部分があり、改善が必要であると思う。また、施策などを打ち出した場合も、皆様の税金で行っているため、効果検証等を行い、改善すべき点は改善するべきであると考え。企業の経営者は責任をとるのに、世の中がうまくまわっていないことに対して、政治家が責任をとらないことはおかしいと思う。
- ・男女共に、生まれてから死ぬまで、社会人として社会に参加している。社会は全員の力で成り立っているため、個人が何かをすること(参画)は当然である。行政側(社会)に何かをしてもらおうと希望するだけでなく、自分が行政に何ができるかを考えることが大切である。行政は、その立場で、保育所や介護施設、ブラック企業、教育現場を監視していただきたい。
- ・このアンケートが女性向けのものに見える時点でナンセンスである。女性と男性が平等になるようなものこそが男女共同参画推進ではないか。
- ・最近、子どもを、産みにくくなる年齢まで結婚しない人が増えている。
自分は、障がい者であり、障がい者同士のふれあう場所があれば、障がい者同士で結婚する人も増えると思う。
- ・他人には無関心になっている傾向にあると思う。他者と関わりづらい、面倒だと思える人が多いのかもしれない。

＜市政への関心、意識啓発や情報提供の要望や意見＞

- ・男女共同参画社会推進についての情報提供や啓発活動が大切である。
- ・市政の推進については、知らないことが多く、関心が薄く認識不足であった。市の方々には今まで以上に、色々な場を通して、情報提供や意識の高場などを図っていただきたい。
- ・志木市の男女共同参画の推進について考えたことや、市で何か活動をしていることを、全然知らなかった。現時点で興味や関心を抱いてない人にも周知させるよう、駅や行事等での目立った活動や、案内チラシがあると良い。日本全体の問題であるため、志木市がモデルケースになれば良いと思う。
- ・「自身が情報を集めることが少ない」という原因も大きいのかかもしれないが、男女共同参画について目にすることが少ない。人の行き交う駅や町中に目に留まるものが少しでも増えると良い。
- ・男女共同参画について、市からの情報発信ツールがあまりない。年に12回の市の広報などで見ることが出来る機会があると良いと思う。
- ・会社等では男女共同参画を意識していたが、志木市での取組はあまり把握していなかった。今回のアンケートの集計結果に興味がある。
- ・志木市の男女共同参画推進がどのように行われているのか、まったく情報が入ってこなくて分からなかった。
- ・今回のアンケートで志木市の活動などを知ることができた。
- ・男女共同参画推進に関して、市の行っていることをよく知らず、このアンケートで初めて知った。男女共同参画という点では、地域の婦人会はなくしてはどうか。
- ・男女共同参画に関して、市はどの程度のことを考えているのかわからない。
- ・「広報しき」などで男女共同参画推進など目にすることはあっても、具体的なことはほとんど知らなかった。一度講習などを受けてみたいと思う。

「志木市男女共同参画に関する市民意識調査」 ＜ご協力をお願い＞

市民の皆様には、日頃から市政の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

現在、志木市では、「志木市男女共同参画推進条例」及び「志木市男女共同参画基本計画」に基づき、男性も女性も性別にとらわれることなく、能力と個性を生かして共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会の実現」を目指し、さまざまな課題に取り組んでいるところです。

本調査は、令和2年度に策定する第6次の「志木市男女共同参画基本計画」の基礎資料とするため、市内にお住まいの18歳以上の方の中から1,000人（男性・女性各500人）を無作為に選び、調査票をお送りしております。

なお、回答は統計的に処理いたしますので、個人情報公表することや、収集した個人情報を調査の目的以外に使用することは一切ございません。率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

また、結果の公表につきましては、集計・分析の上、市ホームページ、企画部人権推進室などを通じてお知らせいたします。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。
令和元年10月

志木市長 香川 武文

☆ご記入にあたってのお願い

- 1 回答は、封筒の宛名のご本人様がお答えください。
- 2 回答は、あてはまる番号に○をつけていただく場合と、意見を記入していただく場合があります。なお、「その他」にお答えの場合は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 3 お答えには「1つ」「3つ」など質問ごとに回答数が示されていますので、あなたの考えに最も近いと思われる番号を指定された数の範囲内でお選びください。
- 4 質問によっては、回答していただく方が限られている場合がありますので、質問の注意書きをお読みいただきご記入ください。

ご記入いただきましたら、お手数ですが、記入もれがないかお確かめの上、同封の返信用封筒に入れて、10月31日（木）までにご返送ください（切手は不要です）。

なお、住所、氏名をお書きいただく必要はありません。

また、この調査の内容に関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

【調査の回答方法、内容についての問合せ先】

志木市 企画部 人権推進室

住 所 〒353-8501 志木市中宗岡1-1-1

TEL 048-473-1111（内線2217）

FAX 048-474-4384

Email jinken@city.shiki.lg.jp

ホームページ <http://www.city.shiki.lg.jp/>

I あなた自身のことについてお聞きします。
あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 問1 あなたの性別をお聞かせください。
 1 男性 2 女性 3 答えたくない 4 その他
- 問2 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。
 1 18～29歳 4 50～59歳
 2 30～39歳 5 60～69歳
 3 40～49歳 6 70歳以上
- 問3 あなたは志木市に何年間住んでいますか。
 1 3年未満 4 10年以上～20年未満
 2 3年以上～5年未満 5 20年以上
 3 5年以上～10年未満
- 問4 あなたの主な職業は次のどれにあたりますか。
 1 自由業・自営業・家業（農業・会社経営など）
 2 正社員・正職員で勤務している
 3 非正規採用で勤務している（臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である）
 4 アルバイト・パートなどで勤務している（常勤とは異なる勤務条件である）
 5 内職
 6 専業主婦・専業主夫 8 無職
 7 学生 9 その他（具体的に ）
- 問5 あなたは現在、結婚（事実婚も含む）していますか。
 1 未婚である 3 死別または離別している
 2 結婚している 4 その他（具体的に ）
- 問5-1 問5で「2 結婚している」と答えただけの方に伺います。
 あなたのパートナーの職業は次のどれにあたりますか。
 1 自由業・自営業・家業（農業・会社経営など）
 2 正社員・正職員で勤務している
 3 非正規採用で勤務している（臨時・派遣などであるが常勤とほぼ同様な勤務条件である）
 4 アルバイト・パートなどで勤務している（常勤とは異なる勤務条件である）
 5 内職
 6 専業主婦・専業主夫 8 無職
 7 学生 9 その他（具体的に ）
- 問6 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の構成は次のどれにあたりますか。
 1 一人だけで住んでいる（単身世帯）
 2 夫婦だけで住んでいる（一世帯世帯）
 3 夫婦と未婚の子どもと住んでいる（二世帯世帯）
 4 夫婦と結婚した子どもと住んでいる（二世帯世帯）
 5 親と子ども夫婦と孫と一緒に住んでいる（三世帯世帯）
 6 その他（具体的に ）
- 問7 あなたには子どもが何人いますか（同居、別居を問いません）。
 1 子どもはいない 4 3人 7 6人以上
 2 1人 5 4人
 3 2人 6 5人

問7-1 問7で2～7と答えた、子どもがいる方のみにお聞きします。
あなたの一番下の子どもは次のどれにあたりますか。

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 就学前の乳幼児 | 5 高校生以上の学生 |
| 2 小学生（1～3年生） | 6 学校を終えた子ども（既婚） |
| 3 小学生（4～6年生） | 7 学校を終えた子ども（未婚） |
| 4 中学生 | 8 その他（具体的に |

）

Ⅱ 男女平等観について

問8 あなたは次にあげるア～キの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
ア～キの各項目ごとに、1から6の中からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

	平等に なってい る	やや平等 になって いる	どちらと もいえな い	やや不平 等になっ ている	不平等 になっ ている	わからな い
ア 家庭の中では	1	2	3	4	5	6
イ 学校の中では	1	2	3	4	5	6
ウ 職場の中では	1	2	3	4	5	6
エ 政治の場では	1	2	3	4	5	6
オ 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
カ 社会通念や風潮では	1	2	3	4	5	6
キ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6

問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、あなたはと思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 どちらともいえない
- 4 わからない

問9-1 問9で「1 そう思う」と答えた方のみにお聞きします。
そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 先天的に男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
- 2 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児は女性の責任だから
- 3 子どもの頃からそのような教育をされているから
- 4 一般的に男性の方が収入が多いから
- 5 夫婦の役割をはっきり分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
- 6 社会全体にそのような風潮があるから
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

）

問9-2 問9で「2 そうは思わない」と答えた方のみにお聞きします。
そう思わない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 男女ともに仕事を持つのは当然だから
- 2 家事・育児は男女で協力してやるべきだから
- 3 仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから
- 4 妻が家庭にだけいると視野が狭くなるから
- 5 社会全体にそのような風潮があるから
- 6 夫婦で働いた方が収入が増えるから
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

)

Ⅲ 子育てや介護について

問10 子育てや介護は、女性が主に行っていることが多い現状ですが、あなたはこれについてどのように
思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 当然だと思う
- 2 現実にはやむをえないと思う
- 3 おかしいと思う
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に

)

問11 現在の法律では、男性も育児休業や介護休業を女性と同様に取得できることになっています。
あなたは男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 取得すべきだ
- 2 どちらかといえば取得した方がよい
- 3 どちらかといえば取得しない方がよい
- 4 取得すべきではない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に

)

問11-1 問11で「3 どちらかといえば取得しない方がよい」または「4 取得すべきではない」と
答えた方のみにお聞きします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを
2つまで選んで○をつけてください。

- 1 休業後現職に復帰しにくい
- 2 代替要員の確保が困難である
- 3 休業期間中無給あるいは減収となる
- 4 職場の人たちに迷惑をかける
- 5 仕事が忙しい
- 6 昇進・昇給の際に不利になる
- 7 子育てや介護はやはり女性の方が向いている
- 8 その他（具体的に

)

IV 家事について

問12 あなたはご家庭の家事や育児・介護をどの程度行っていますか。

ア～クの各項目ごとに、1から5の中からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

	いつも している	ときどき している	ほとんど しない	まったく しない	対象と なる人 はいない	
ア 掃除	1	2	3	4	/	
イ 洗濯	1	2	3	4		
ウ 買い物（日用品）	1	2	3	4		
エ 食事のしたく	1	2	3	4		
オ 食事の後片づけ（食器洗いなど）	1	2	3	4		
カ 子どもの教育	1	2	3	4	5	子どもはいない
キ 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	乳幼児はいない
ク 親族の介護	1	2	3	4	5	介護する人はいない

問13 男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのはどのような生き方ですか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 仕事だけに専念する生き方
- 2 仕事を優先する生き方
- 3 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
- 4 家庭や地域活動を優先する生き方
- 5 家庭や地域活動だけに専念する生き方
- 6 どちらともいえない
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

）

問13-1 女性の生き方として、あなたが望ましいと思うのはどのような生き方ですか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 仕事だけに専念する生き方
- 2 仕事を優先する生き方
- 3 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
- 4 家庭や地域活動を優先する生き方
- 5 家庭や地域活動だけに専念する生き方
- 6 どちらともいえない
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

）

問13-2 現在のあなた自身の生き方は、下記のどの項目に一番近いと思いますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 仕事だけに専念する生き方
- 2 仕事を優先する生き方
- 3 家庭や地域活動と仕事を両立させる生き方
- 4 家庭や地域活動を優先する生き方
- 5 家庭や地域活動だけに専念する生き方
- 6 どちらともいえない
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

）

問14 あなたは男性が家事、育児、介護や地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
- 2 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
- 3 育児・介護休業制度の一層の普及
- 4 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
- 5 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
- 6 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
- 7 労働時間の短縮
- 8 フレックス勤務や在宅勤務の普及
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に _____）

問14-1 あなたは女性が就業などの社会参画をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 学校等、教育の場での男女平等意識教育の充実
- 2 男女共同参画社会を目指した啓発活動・相談業務の充実
- 3 育児・介護休業制度の一層の普及
- 4 男性が家事参加をすることについて男性自身が抵抗感をなくすこと
- 5 女性が男性の家事参加について女性自身が抵抗感をなくすこと
- 6 仕事と家庭の両立ができる職場環境の整備
- 7 労働時間の短縮
- 8 フレックス勤務や在宅勤務の普及
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に _____）

V 子どもの教育について

問15 あなた自身が子育てをする場合、「男の子の育て方」と「女の子の育て方」を区別した方がいいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 男の子と女の子の育て方は区別するべきだ
- 2 男の子と女の子の育て方はやや区別するべきだ
- 3 男の子と女の子の育て方は区別するべきではない
- 4 どちらともいえない
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に _____）

VI 就業について

問16 あなたは女性が職業を持つことについてどのように思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい
- 2 結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめた方がよい
- 3 出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい
- 4 子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい
- 5 女性は一生仕事を持たない方がよい
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に

）

問17 あなたは現在、仕事に就いていますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 現在、働いている（常勤、パート、派遣、自営業等いずれも含む）
- 2 以前は働いていたが今は働いていない
- 3 今まで働いたことがない

問17-1 問17で「1 現在働いている」と答えた方のみにお聞きます。
あなたは今までに、仕事をやめたり中断したり、あるいは転職したことはありますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 ある
- 2 ない

問17-1-ア 問17-1で「1 ある」と答えた方のみにお聞きます。その主な理由は何ですか。
次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 結婚・出産のため（自分の意思） | 7 自分の転勤のため |
| 2 結婚・出産のため（会社の意思） | 8 パートナー（配偶者や恋人など）の転勤のため |
| 3 家事・育児との両立が難しかった | 9 自分の定年退職のため |
| 4 仕事が自分に合っていなかった | 10 自分の健康上の理由のため |
| 5 人間関係がうまくいかなかった | 11 家族の都合のため |
| 6 勤務先の都合のため | 12 その他 |
| | （具体的に |

）

問17-2 問17で「2 以前は働いていたが今は働いていない」または「3 今まで働いたことがない」と答えた方のみにお聞きます。あなたは今後どのような仕事や活動に従事したいと思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 正社員として働きたい | 6 学業につきたい |
| 2 パート・アルバイトとして働きたい | 7 NPOや地域活動に従事したい |
| 3 起業等、独立した仕事をしたい | 8 働くつもりはない |
| 4 内職など自宅で仕事をしたい | 9 わからない |
| 5 家業で働きたい | 10 その他 |
| | （具体的に |

）

問18 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して不平等なことがありますか（ありましたか）。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 就労経験はない | 9 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある |
| 2 同期・同年齢の社員で賃金に男女差がある | 10 有給休暇や育児・介護休業が取得しにくい |
| 3 男性に比べて女性の採用が少ない | 11 短時間勤務が認められない |
| 4 昇進、昇給に男女差がある | 12 教育・研修の内容・機会に男女に差がある |
| 5 女性が就けないポスト・職種がある | 13 その他（具体的に |
| 6 女性は補助的な仕事が多い | 14 不平等はない |
| 7 意思決定の場に女性が参加できない傾向がある | |
| 8 女性は、結婚や出産を機に退職しなければならぬ雰囲気がある | |

問19 あなたは結婚や出産などで退職した女性が、再就職しやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 再就職のための講座やセミナー、技能訓練の充実
- 2 再雇用制度などを改正、充実させる
- 3 求人情報の提供や女性が働ける新しい職場、職域の拡充
- 4 保育所、学童保育などの育児環境の充実
- 5 再就職することへの家族の理解と協力
- 6 パート・派遣等、非正規労働の労働条件の改善
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

問20 女性の方のみにお聞きします。該当しない方は、問21へお進みください。
あなたは職場において、管理職など組織の意思決定に加わる立場になりたいと思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1 すでになっている | 4 そう思うが、なれない |
| 2 そう思う | 5 わからない |
| 3 そう思わない | |

問20-1 問20で「3 そう思わない」または「4 そう思うが、なれない」と答えた方のみにお聞きします。
その主な理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 職場にそのような環境がない | 4 そのような立場になりたいと思わない |
| 2 家庭の環境が整っていない | 5 そのような立場は男性の役割だと思う |
| 3 周囲の理解が得られない | 6 その他（具体的に |
| | |

VII ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問21 あなたは男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが最も必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 男性が家事・子育てなどに積極的に協力する
- 2 保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を整える
- 3 介護ヘルパーなど福祉施策を充実させる
- 4 労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する
- 5 介護や子育てのための休暇を取りやすくする
- 6 職場や家族などの周囲が、女性が働くことへの理解を深める
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に

VIII 社会参画について

問22 あなたは市の施策について女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 十分反映されている | 4 ほとんど反映されていない |
| 2 ある程度反映されている | 5 どちらともいえない |
| 3 あまり反映されていない | 6 わからない |

問22-1 問22で「3 あまり反映されていない」または「4 ほとんど反映されていない」と答えた方のみにお聞きます。そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 女性議員が少ない | 6 女性自身が消極的 |
| 2 行政機関の女性の管理職が少ない | 7 男性の意識・理解が足りない |
| 3 審議会や委員会に女性委員が少ない | 8 社会の仕組みが女性に不利 |
| 4 地域組織のリーダーに女性が少ない | 9 女性の能力に対する偏見がある |
| 5 女性自身の意欲や責任感が乏しい | 10 その他
(具体的に) |

IX DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問23 DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、「夫婦間や恋人などの親しい間柄での身体的・性的・精神的な暴力」をいいますが、あなたはこの言葉について知っていましたか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 「DV」という言葉を聞いたことがない |) |
| 2 「DV」と言う言葉は聞いたことはあるが、その意味を知らなかった | |
| 3 「DV」という言葉を聞いたことがあり、その意味も知っていた | |
| 4 その他（具体的に | |

問24 パートナー（配偶者や恋人など）がいる、あるいは、いた方のみにお聞きます。
該当しない方は、問26へお進みください。
あなたはこれまでに、パートナーから、次のようなことをされたことはありますか。
次のア～シの各項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

	何度も あった	1、2度 あった	まった く ない
ア 何を言っても無視され続けた	1	2	3
イ 交友関係や電話、メールや郵便物等を細かく監視された	1	2	3
ウ 「おれ（私）が家にいるときは外出をしないように」などと言われた	1	2	3
エ あなたが大切にしている物を、わざとこわしたり捨てられたりした	1	2	3
オ 「誰のおかげで生活できるんだ」などと言われた	1	2	3
カ げんこつや、身体を傷つける可能性のある物で、殴るふりをしておどされた	1	2	3
キ 平手やげんこつなどで殴られた	1	2	3
ク 命の危険を感じるほどの暴力をふるわれた	1	2	3
ケ 見たくないのに、アダルト雑誌やアダルトビデオを見せられた	1	2	3
コ 避妊に協力してくれなかった	1	2	3
サ 大声でどなられた	1	2	3
シ おどしや暴力によって、あなたの意に反して性的な行為を強要された	1	2	3

問24で「何度もあった」または「1、2度あった」と答えた方のみにお聞きます。

問24-1-ア そのような行動をされた後、あなたはどうしましたか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 自分は悪くないと思ったので、相手が謝るべきだと思った（相手に謝らせた）
- 2 自分が悪いと思ったが、相手が謝るべきだと思った（相手に謝らせた）
- 3 自分は悪くないと思ったが、自分が謝った
- 4 自分が悪いと思い、自分が謝った
- 5 時間をおいて話し合った
- 6 離婚や別居を考えたが、実行しなかった
- 7 離婚や別居をした
- 8 別に何もしなかった（何とも思わなかった）
- 9 その他（具体的に

）

問24-1-イ あなたはこれまでにパートナーから受けた行為を誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|----------------|---|------------|-------------|
| 1 相談した | → | 1 家族 | 6 弁護士 |
| 2 相談できなかった | | 2 友人・知人 | 7 医師・カウンセラー |
| 3 相談しようと思わなかった | | 3 婦人相談センター | 8 その他の相談機関 |
| | | 4 警察署 | 9 その他 |
| | | 5 市の相談窓口 | （具体的に |

）

問24-1-ウ 問24-1-イで「2 相談できなかった」または「3 相談しようと思わなかった」と回答した方のみにお聞きます。相談できなかった理由はなんですか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 パートナーに偶然でも相談に行くことをしられてしまうのが怖かったから
- 2 相談に行く勇気が持てなかったから
- 3 忙しくて相談に行く時間がなかった
- 4 その他（具体的に

）

問25 あなたはこれまでに、パートナー（配偶者や恋人など）に、次のようなことをしたことはありますか。

次のア～シの各項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

	何度も やった ことが ある	1、2度 やったこ とがある	まったく ない
ア 何を言っても無視し続けた	1	2	3
イ 交友関係や電話、メールや郵便物等を細かく監視した	1	2	3
ウ 「おれ（私）が家にいるときは外出をしないように」などと言った	1	2	3
エ パートナーが大切にしている物を、わざとこわしたり捨てたりした	1	2	3
オ 「誰のおかげで生活できるんだ」などと言った	1	2	3
カ げんこつや、身体を傷つける可能性のある物で、殴るふりをしておどした	1	2	3
キ 平手やげんこつなどで殴った	1	2	3
ク 命の危険を感じるほどの暴力をふるった	1	2	3
ケ アダルト雑誌やアダルトビデオを見せた	1	2	3
コ 避妊に協力しなかった	1	2	3
サ 大声でどなった	1	2	3
シ おどしや暴力によって、パートナーの意に反して性的な行為を強要した	1	2	3

問25で「何度もやったことがある」または「1、2度やったことがある」と答えた方のみにお聞きます。

問25-1-ア そのような行為をしたのはどうしてですか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相手が自分の思いどおりにならなかったから
- 2 「威厳」を示したかったから
- 3 自分がイライラしていたから（仕事や家庭のことなどで疲れていたから）
- 4 自分がお酒を飲んで酔っていたから
- 5 自分の性欲を満たしたかったから
- 6 相手の行動がわからないと不安だから
- 7 この人なら我慢すると思ったから（許されると思ったから）
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に

問25-1-イ あなたはこれまでに、パートナーに行った行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。また、相談した方は誰に相談をしましたか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|----------------|---|------------|-------------|
| 1 相談した | → | 1 家族 | 6 弁護士 |
| 2 相談できなかった | | 2 友人・知人 | 7 医師・カウンセラー |
| 3 相談しようと思わなかった | | 3 婦人相談センター | 8 その他の相談機関 |
| | | 4 警察署 | 9 その他 |
| | | 5 市の相談窓口 | （具体的に |

問26 「志木市配偶者暴力相談支援センター※」をご存じですか。また、どのようにして知りましたか。

次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|---------------------|---|-----------|---------------|
| 1 知っている、名前を聞いたことがある | → | 1 広報しき | 4 チラシ |
| 2 知らない、今初めて名前を知った | | 2 インターネット | 5 友人・知人からの口コミ |
| | | 3 市内施設の窓口 | 6 その他 |
| | | | （具体的に |

※ 「志木市配偶者暴力相談支援センター」はパートナーからの暴力の被害者支援に役立つ情報の提供・相談を行っています。

X セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について

問27 あなたはこれまでに、職場や学校などでセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたり、見聞きしたことがありますか。

次のア～ケの各項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

	経験したことがある	見聞きしたことがある	まったく経験がない
ア 嫌がっているのに性に関する話を聞かされた	1	2	3
イ 体に触れられた	1	2	3
ウ 宴会などでお酌や、デュエットなどを強要された	1	2	3
エ 地位や立場を利用した性的誘いを受けた	1	2	3
オ 結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた	1	2	3
カ ノード写真を見せられたり、ノードや水着等のポスターなどを見える所にはられた	1	2	3
キ 不快な呼び方で呼ばれた	1	2	3
ク 容姿について不快なことを言われた	1	2	3
ケ その他〔 〕	1	2	3

XI 人権について

問28 性犯罪やDV（ドメスティック・バイオレンス）、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）など、人権を無視した行為をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。

次の中から、すぐに講じてほしいと思うものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 法律、制度の制定や見直し
- 2 犯罪の取り締まりの強化
- 3 捜査や裁判での女性担当者の増員や、被害者のための相談窓口・避難施設の整備
- 4 暴力の根絶に向けての意識啓発の充実
- 5 人権や性差別についての教育の充実
- 6 テレビ、雑誌、ビデオなどメディアの倫理規定の強化や、過激な内容の物の販売や貸し出しの制限
- 7 特に対策の必要はない
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に ）

問29 あなたは「セクシャル・マイノリティ（性的少数者）※」という言葉を知っていますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 意味を知っている
- 2 聞いたことはあるが、意味は知らない
- 3 知らない

※ セクシャル・マイノリティ（性的少数者）とは、身体の性と自分が認識する性が一致しない人や、恋愛感情などの性的な意識が同性または両性に向かう人などのことを言います。

1 ある 2 ない

次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- 1 同性愛を認めるなど制度の見直し
- 2 教育現場での啓発活動
- 3 行政による啓発活動
- 4 専門的な相談体制の充実
- 5 セクシャル・マイノリティ（性的少数者）の人たちが
気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- 6 その他
（具体的に ）

問32 あなたは次あげる言葉について、知っていますか。
次のア～タの各項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

	言葉や 内容、 意味も 知って いる	聞いたこ とはある	まったく 知らない
ア ジェンダー	1	2	3
イ エンパワーメント	1	2	3
ウ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
エ 男女雇用機会均等法	1	2	3
オ 育児・介護休業法	1	2	3
カ 志木市男女共同参画推進条例	1	2	3
キ 志木市男女共同参画基本計画	1	2	3
ク 広報しき男女共同参画情報コーナー「SeeSaw」	1	2	3
ケ 志木市男女共同参画推進月間	1	2	3
コ 女性相談	1	2	3
サ 保育付き事業	1	2	3
シ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
ス 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
セ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3
ソ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
タ With Youさいたま（埼玉県男女共同参画推進センター）	1	2	3

問33 あなたは男女が共にいきいきと暮らせる「男女共同参画社会の実現」を目指すために、今後、志木市ではどのようなことに力を入れていけばいいと思いますか。
次の中から、優先的に行った方がよいと思うものを3つまで選んで○をつけてください。

- 1 労働環境の改善のため経営者への意識啓発
- 2 施策の立案、方針の決定の場への女性の積極的な登用
- 3 学校教育における男女平等教育の推進
- 4 生涯学習の場での男女共同参画に向けた学習や講座の充実
- 5 男女共同参画社会推進についての情報提供や啓発活動
- 6 保育制度などの子育て支援や、介護制度などの充実
- 7 仕事と家庭生活の両立支援
- 8 就労の場の待遇における性別による差別の解消
- 9 健康福祉や家族のことなどを気軽に相談できる窓口の充実
- 10 男女が共に地域活動に参加できるような拠点施設の設置
- 11 特に必要ない
- 12 その他（具体的に ）

最後に、市の男女共同参画推進について、日頃感じていることなどがありましたら自由にお書きください。

質問は以上で終了です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
10月31日（木）までにご返送ください（切手は不要です）。

令和元年度志木市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

発 行 令和2年3月
志木市企画部人権推進室

〒353-8501
埼玉県志木市中宗岡 1 - 1 - 1
TEL 048-473-1111（代表）

この冊子は、再生紙を使用しています。

